YAO TOKUSHUKAI GENERAL HOSPITAL

病院年報

2023年



医療法人徳洲会

八尾徳洲会総合病院

Yao Tokushukai General Hospital

目次 Contents

理念・基本方針・患者様の権利	1
ご挨拶	2
概要・沿革	3
教育認定施設の指定状況・指定医療機関・高度医療機器設備	4
許可施設基準	5
八尾徳洲会総合病院 組織図	6
八尾徳洲会総合病院 委員会構成図	7
患者統計	8
1.外来	
1）外来患者統計	10
2）科別・月別外来患者数	10
3）1日平均外来患者数	11
4）1日平均外来新患者数	11
2.入院	
1）入院患者統計	12
2）科別・月別1日平均入院患者数	12
3）病棟別・月別1日平均入院患者数	12
3.救急	
1）月別救急搬送件数	13
2）救急搬送人数 年齢別・性別分布	14
3）救急搬送件数分布	15
病歴統計	16
1）科別退院患者数	18
2）死亡退院患者統計	19
3）疾病分類＜大分類＞科別	20
4）疾病分類＜中分類＞	21
診療部	24
内科	26
循環器内科（カテーテル部門）	33
消化器内科	34
呼吸器内科	36
腫瘍内科	37
血管透析科（腎不全対策・関連診療科）	39
腎臓内科	43
糖尿病・代謝内科	44
脳神経内科	46
膠原病リウマチ内科	47
小児科	48
放射線科（診療部）	50
救急科	51
集中治療科	54
外科	58
整形外科	60
脳神経外科	64
心臓血管外科・心臓血管センター	66
形成外科・美容外科	69
呼吸器外科	71
小児外科	72
歯科・歯科口腔外科	75
泌尿器科	78
眼科	79
麻酔科	81
肝臓センター	83
皮膚科	88
婦人科	89
耳鼻咽喉科	90
病理診断科	91
副診療部	94
薬剤部	96
放射線科	99
臨床検査科	101
リハビリテーション科	104
（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・心臓リハビリテーション）	
臨床心理科	110
臨床工学科	112
栄養科	122
治験センター	125
医療福祉相談室（MSW 医療ソーシャルワーカー）	126
病診連携室	130
健診センター	142
情報システム管理室	144
保育室	146
がん相談支援センター	148
医療安全管理部	151
感染制御部	155
臨床腫瘍センター	159
看護部	162
4階東　5階西	164
5階東　6階西　6階東	165
7階西　7階東　8階西	166
8階東　ＩＣＵ	167
ＨＣＵ　外来・ＥＲ	168
手術室　透析室	169
退院調整チーム　入退院支援	170
保健指導	171
委員会	178
呼吸ケアチーム（RST）	180
褥瘡対策委員会	181
研修管理委員会	182
栄養サポートチーム（NST）	186
緩和ケアチーム	188
がん緩和支援委員会	190
地域医療支援病院運営委員会	192
関連施設	194
八尾徳洲会介護センター	196
よろこび訪問看護介護センター	200
よろこび訪問看護ステーション	201
介護老人保健施設 八尾徳洲苑	204
特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷	213
学術業績	218
学会発表	220
学術論文	225

Yao
Tokushukai
General Hospital

理　　念

1. 生命を安心して預けられる病院
2. 健康と生活を守る病院

基本方針

1.『年中無休・24 時間オープン』で救急医療を提供します。
2. 患者様からの贈り物は一切受け取りません。
3. 医療技術・診療態度の向上に絶えず努力します。

患者様の権利

当院は次の項目について患者様の権利を尊重した医療を提供しています。

1. いつでも安全で良質な医療を受ける事が出来ます。
2. 医療についての説明を受け、医療行為を選択する権利があります。
3. 継続して一貫した医療を受ける事が出来ます。
4. プライバシーが守られ、個人の尊厳が保たれています。
5. 医療の情報について常に提供を受け健康教育や講演を受ける事が出来ます。
6. 生活の質と環境に配慮した医療の提供を受ける事が出来ます。

ご　挨　拶

八尾徳洲会総合病院　院長　原田　博雅

いつも当院の診療にご支援いただき深く感謝申し上げます。
この度、2023年八尾徳洲会総合病院年報を発刊することができました。
2023年度も、新型コロナウイルス感染症の対応に追われる年となり、本感染症を優先事項として病院を運営せざるを得ない状態でした。新型コロナウイルス感染症拡大に対し、2020年、2021年、2022年、2023年まで発熱外来を運用、軽症中等症のみならず、重症者も積極的に対応し、保健所や他の医療機関との連携しながら対応してきました。
入院患者様が八尾及び周辺地域でも多く、一般入院や救急の患者様も断らざるを得ない状況が発生し、多大な影響を地域医療に対して与えることになりました。
当院では考えられる限りの、コロナ対策を実施し、通常診療が行えるよう日々努めて参りました。
手術関連についても、コロナ対応のため陰圧の手術室を活用し手術を行って参りました。
新型コロナ感染症によるパンデミックをようやく落ち着き、日常が戻ってきました。
病院にとっても大変な試練でした。災害や感染のパンデミックにも負けない医療を提供し続ける、日常生活を守ることの重要さも痛感しました。
また、新型コロナに対応するワクチン接種も引き続き、積極的に行いました。
2023年6月29日～2023年6月30日に公益財団法人　日本医療機能評価を受審いたしました。（機能種別版評価項目3rdG：Ver.3.0）認定基準を受けました。
さらに、2023年12月2日JCIという病院の評価を行う米国の団体の認定の更新を行うことができました。3年目の更新時期となる2023年11月27日～2023年12月1日までの5日間で受審しました。
2023年8月7日には新館増築・本館改修に向けて地鎮祭を行いました。新館は同院の敷地を拡張して建設、3階たてで、本館と渡り廊下でつつなぐ計画となっています。
2024年3月には八尾徳洲苑とサービス付高齢者住宅を併設した新しい施設の工事がすすんでいます。より一層の医療安全と医療の質の向上、職員の教育環境の充実を計り、多くの患者様にご支援いただける病院を目指して、努力していきます。

Yao Tokushukai General Hospital

概要

創　　立	1978年7月1日
病 院 長	原田　博雅
職 員 数	1,047名（2024年1月現在）
診療科目	診療科目　内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、肝臓内科、糖尿病・代謝内科、緩和ケア内科、腫瘍内科、内分泌内科、脳神経内科、心療内科、精神科、リウマチ科、血管透析内科、腎臓内科、皮膚科、小児科、救急科、放射線科、外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、肝臓外科、乳腺外科、小児外科、形成外科、美容外科、泌尿器科、眼科、麻酔科、歯科・歯科口腔外科、耳鼻咽喉科、婦人科、リハビリテーション科、病理診断科
関連施設	介護老人保健施設　八尾徳洲苑 八尾徳洲苑介護センター よろこび訪問看護ステーション よろこび訪問看護介護センター 八尾徳洲会介護センター（居宅介護支援事業所） 特別養護老人ホーム　久宝寺愛の郷 八尾市地域包括支援センター　久宝寺愛の郷
1日平均外来患者数	882名（2023年度）
1日平均入院患者数	385名（2023年度）

沿革

1978年 7 月	開院　許可病床250床
1979年 7 月	三基準取得　看護・給食・寝具
1980年10月	西館増築　許可病床数　350床
1986年 4 月	東館・西館改修　許可病床数　335床
1989年 9 月	新館増築　許可病床　415床
1992年 9 月	基準看護　特Ⅰ類取得
1994年 7 月	基準看護　特Ⅱ類取得
1994年 9 月	総合病院許可　心臓血管外科開設
1995年 7 月	新看護2.5：1（A）　10：1看護補助の承認
1995年 9 月	デイケア開設
1996年 5 月	病院管理棟増築
1996年11月	よろこび訪問看護ステーション開設
1998年 2 月	日帰り手術センター開設
1998年 3 月	歯科・歯科口腔外科開設
1998年 4 月	ER（救急総合診療部）開設　臨床研修指定病院指定
1998年12月	老人保健施設　八尾徳洲苑（100床）開設
2000年 4 月	よろこび訪問看護介護センター開設
2000年 4 月	八尾徳洲会介護センター開設
2001年 4 月	病児保育（八尾市委託）
2001年12月	ICU施設取得（6床）
2002年 4 月	心臓疾患リハビリテーション施設開設
2003年 1 月	日本医療機能評価機構取得
2003年 3 月	睡眠障害センター開設
2003年10月	2：1看護取得 電子カルテ導入
2004年 3 月	駐車場増設
2004年 4 月	医療安全管理部設置
2004年 6 月	亜急性病床開設（12床）
2005年 3 月	新病院土地の取得
2006年 6 月	DPC導入
2006年 6 月	健診センター開設
2006年11月	治験センター開設
2007年 6 月	プライバシーマーク制度（JISQ.15001.1999）取得
2007年 6 月	新病院建設開始
2007年12月	日本医療機能評価機構Ver.5受審
2008年 1 月	日本医療機能評価機構Ver.5取得
2009年 1 月	高規格救急車導入
2009年 8 月	新病院移転
2009年11月	エンゼル保育室新病院内移転
2010年 3 月	HCU施設基準取得（4：1）
2010年 4 月	大阪府がん診療拠点病院認可
2011年 4 月	大動脈センター・美容外科開設
2011年 8 月	肝臓センター開設
2011年 9 月	一般7：1入院基本料取得
2011年10月	小児科開設
2012年11月	放射線治療開始
2012年11月	日本医療機能評価機構Ver.6受審
2013年 1 月	日本医療機能評価機構Ver.6取得
2013年 9 月	卒後臨床研修評価機構認定
2014年 9 月	特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷開設
2015年 5 月	創傷ケアセンター開設
2017年 4 月	八尾市地域包括支援センター　久宝寺愛の郷開設
2018年 1 月	日本医療機能評価機構3rdG.Ver1.1受審
2018年 2 月	日本医療機能評価機構3rdG.Ver1.1取得（認定4回目）
2020年11月	JCI認証取得
2022年 1 月	特定集中治療室管理料1取得
2022年 2 月	手術支援ロボット導入（ダヴィンチ）
2022年 4 月	DPC特定病院群指定
2023年 4 月	地域医療支援病院
2023年 6 月	日本医療機能評価機構3rdG.Ver3.0受審
2023年10月	日本医療機能評価機構3rdG.Ver3.0取得（認定5回目）
2023年 8 月	新館増築・本館改修地鎮祭
2023年12月	JCI認証取得（2回目）

教育認定施設の指定状況

教育認定施設の指定状況
厚生労働省基幹型臨床研修病院
日本内科学会認定医制度教育病院
日本呼吸器学会認定施設
日本呼吸療法医学会専門医研修施設
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医関連施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設
IMPELLA補助循環用ポンプカテーテル実施施設
日本消化器病学会認定医制度研修施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本神経学会認定准教育施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本高血圧学会研修施設Ⅰ
日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラム研修施設
日本病院総合診療医学会認定施設
日本透析医学会専門医制度教育関連施設
日本肝臓学会認定関連施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本外科学会専門医制度修練施設
日本消化器外科学会専門医制度専門医修練施設
日本呼吸器外科学会専門研修連携施設
日本小児外科学会教育関連施設
日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
日本乳癌学会関連施設認定
日本乳癌オンコプラススティックサージャリー学会インプラント実施施設認定
日本がん治療認定医機構認定研修施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
日本脈管学会認定研修指定施設
日本成人心臓血管外科手術データベース機構認定施設
日本ステントグラフト実施基準管理員会　腹部・胸部ステントグラフト実施施設
浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会　浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本集中治療医学会専門医研修施設
日本整形外科学会認定医制度研修施設
日本手外科学会研修施設
日本脳神経外科学会専門医認定制度研修プログラム研修施設
日本脳卒中学会認定研修教育施設
日本形成外科学会認定施設
日本眼科学会専門医制度認定研修施設
日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関(画像診断・IVR・核医学)
日本インターベンショナルラジオロギー学会専門医修練認定施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医認定施設
日本病理学会研修認定施設
日本臨床細胞学会教育研修施設
日本臨床栄養代謝学会認定教育施設
日本静脈経腸栄養学会　NST 稼働施設
日本栄養療法推進協議会認定　NST 稼働施設
日本静脈経腸栄養学会　NST 専門療法士実地修練認定教育施設
日本医療薬学会教育研修施設
日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設

指定医療機関

日本医療機能評価機構認定病院
臨床研修指定病院
保険医療機関
救急告示病院
結核指定医療機関
被爆者一般疾病医療機関
母体保護法指定医療機関
生活保護法指定医療機関
労災保険指定医療機関
公害医療機関
指定自立支援医療機関
身体障害者福祉法指定医
大阪府肝炎専門医療機関
大阪府がん診療拠点病院
大阪府地域医療支援病院
DPC対象病院

高度医療機器設備

MRI（磁気共鳴画像装置）
320列CT
DSA（デジタルサブトラクション血管撮影装置）
CAG（心血管撮影装置）
RI（核医学診断装置）
ESWL（体外衝撃波結石破砕装置）
各種内視鏡機器装置
マイクロサージャリー（顕微鏡下手術）
放射線治療装置（リニアック）
医療用ナビゲーションシステム
光干渉式眼軸長測定装置
光干渉断層計（OCT）
ハイブリッド手術室対応多軸透視・撮影装置
ダヴィンチ（手術支援ロボット）
マゾールX（脊椎手術支援ロボット）

許可施設基準

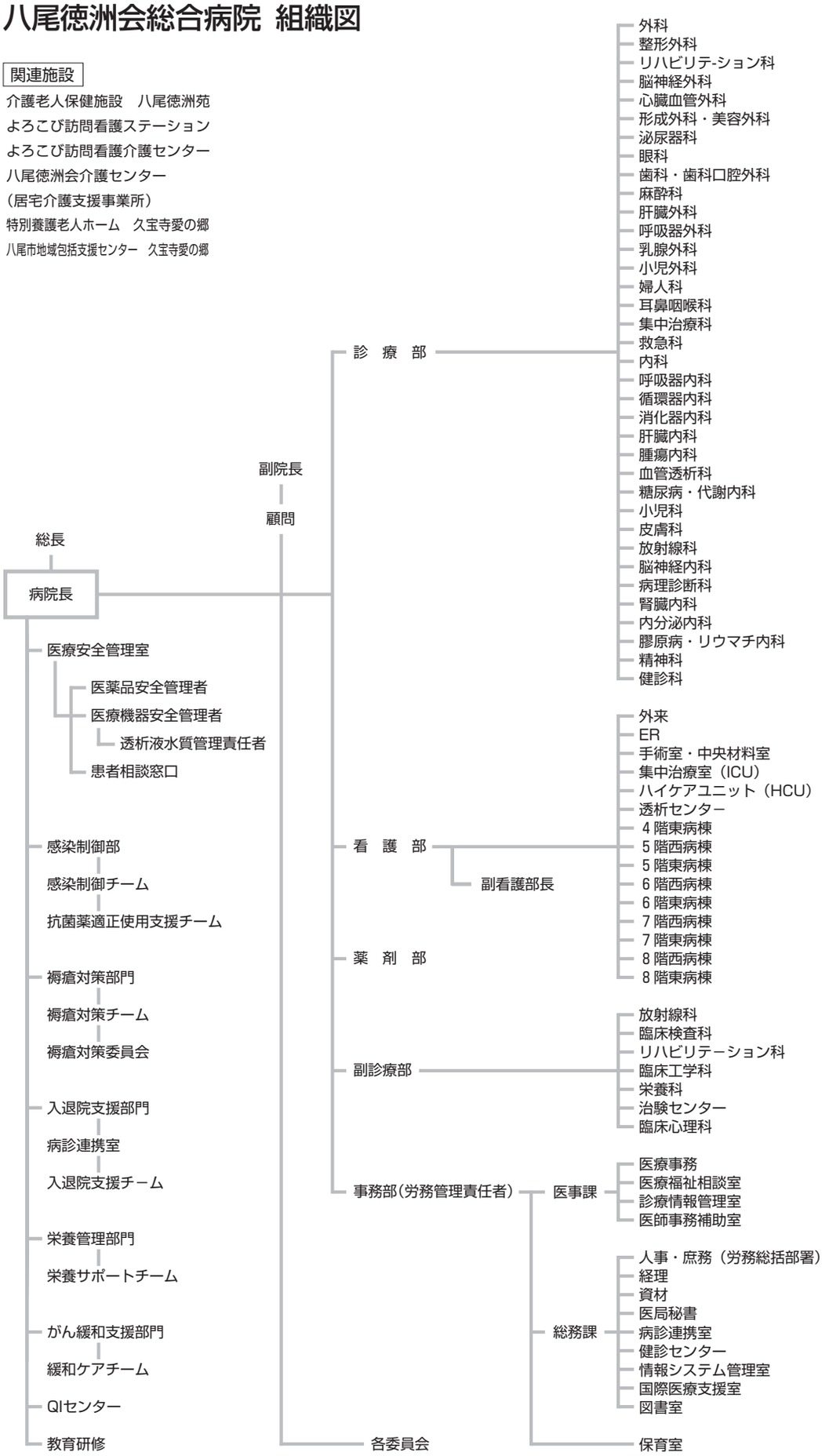
入院時食事療養(I)
地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科外来診療環境体制加算
歯科診療特別対応連携加算
一般病棟入院基本料(7対1)
臨床研修病院入院診療加算
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算1
医師事務作業補助体制加算(15対1)
急性期看護補助体制加算
療養環境加算
重傷者等療養環境特別加算
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算1
感染防止対策加算1
感染防止対策地域連携加算
入退院支援加算
救急搬送患者地域連携紹介加算
救急搬送患者地域連携受入加算
呼吸ケアチーム加算
病棟薬剤業務実施加算
データ提出加算2
特定集中治療室管理料1
ハイケアユニット入院医療管理料1
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料イ・ロ・ハ
糖尿病透析予防指導管理料
院内トリアージ実施料
夜間休日救急搬送医学管理料
救急搬送看護体制加算1
ニコチン依存症管理料
開放型病院共同指導料
地域連携診療計画管理料
がん治療連携計画策定料
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料1
歯科治療総合医療管理料
在宅患者訪問看護・指導料3
同一建物居住者訪問看護・指導料3
検体検査管理加算(Ⅳ)
埋込型心電図検査
時間内歩行試験
ヘッドアップティルト試験
神経学的検査
コンタクトレンズ検査料1
小児食物アレルギー負荷検査
センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る)
画像診断管理加算1
CT撮影及びMRI撮影
冠動脈CT撮影加算
心臓MRI撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
悪性腫瘍病理組織標本加算
外来化学療法加算1
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料(I)
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
運動器リハビリテーション料(I)
呼吸器リハビリテーション料(I)
がん患者リハビリテーション料
認知療法・認知行動療法
歯科口腔リハビリテーション料2
処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
透析液水質確保加算2
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2
経皮的冠動脈形成術
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
経皮的冠動脈ステント留置術
心臓ペースメーカー指導管理料及び遠隔モニタリング加算
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
大動脈バルーンパイピング法(IABP法)
経皮的大動脈遮断術
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
ダメージコントロール手術
腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術
腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
腹腔鏡下肝切除術
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む)に掲げる手術
手術の休日加算1及び深夜加算1
輸血管理料I
輸血適正使用加算
人工肛門・人工膀胱増設術前処置加算
麻酔管理料(I)
放射線治療専任加算
高エネルギー放射線治療
1回線量増加加算
クラウンブリッジ維持管理料
後発医薬品使用体制加算1
精神疾患診療体制加算
認知症ケア加算2
地域医療体制確保加算
せん妄ハイリスク患者ケア加算
病理診断管理加算2/口腔病理診断管理加算2
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジュノタイプ判定)
在宅療法後方支援病院)
在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)
人工腎臓/導入期加算1
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
連携充実加算
外来放射線照射診療料
歯根端切除術の注3
胸腔鏡下弁形成術/胸腔鏡下弁置換術
急性期充実加算
急性期看護補助体制加算
看護職員処遇改善評価料48
外来腫瘍化学療法診療料1
腹腔鏡下直腸切除・切除術(切除術・低位前方切除及び切除術に限る)(内視鏡手術用支援器を用いる場合)
周術期栄養管理実施加算
周術期薬剤管理加算
内視鏡的小腸ポリープ切除術
体外式膜型人工肺管理料
救急搬送診療料の注4に規定する重症患者搬送加算
顎関節人工関節全置換術(歯科)
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
膀胱頚部形成術(膀胱頚部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(単径部切開によるもの)
緑内障手術　緑内障手術(流出路再建術(緑内法)及び水晶体再建術併用眼内レーン挿入術)
緑内障手術　濾過胞再建術(needle法)
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
生体腎移植術
下肢創傷処置管理料
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡的手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡的手術用支援機器を用いる場合)
緩和ケア診療加算
BRCA12遺伝子検査
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び
腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
報告書管理体制加算
経皮的下肢動脈形成術
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
緑内障手術　緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)

2024年1月1日 現在

八尾徳洲会総合病院 組織図

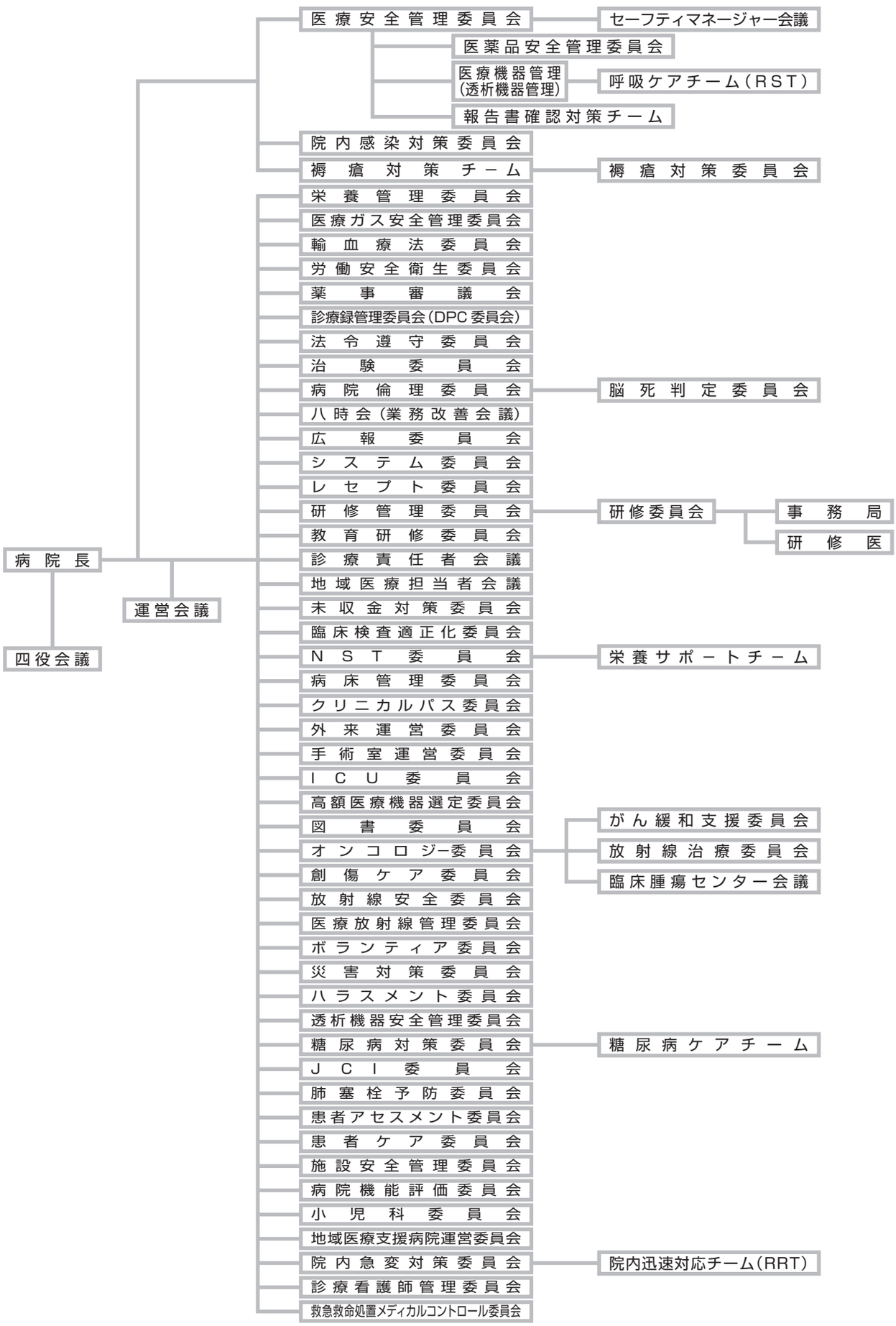
関連施設

介護老人保健施設　八尾徳洲苑
よろこび訪問看護ステーション
よろこび訪問看護介護センター
八尾徳洲会介護センター
（居宅介護支援事業所）
特別養護老人ホーム　久宝寺愛の郷
八尾市地域包括支援センター　久宝寺愛の郷



八尾徳洲会総合病院 委員会構成図

2024年1月1日 現在



患　者　統　計

―― 2023年 ――

1．外　来

1）外来患者統計　10

2）科別・月別外来患者数　10

3）1 日平均外来患者数　11

4）1 日平均外来新患者数　11

2．入　院

1）入院患者統計　12

2）科別・月別 1 日平均入院患者数　12

3）病棟別・月別 1 日平均入院患者数　12

3．救　急

1）月別救急搬送件数　13

2）救急搬送人数　年齢別・性別分布　14

3）救急搬送件数分布　15

1. 外　来

1）外来患者統計

①1日平均患者数　②1ヶ月総患者数　③1日平均新患者数

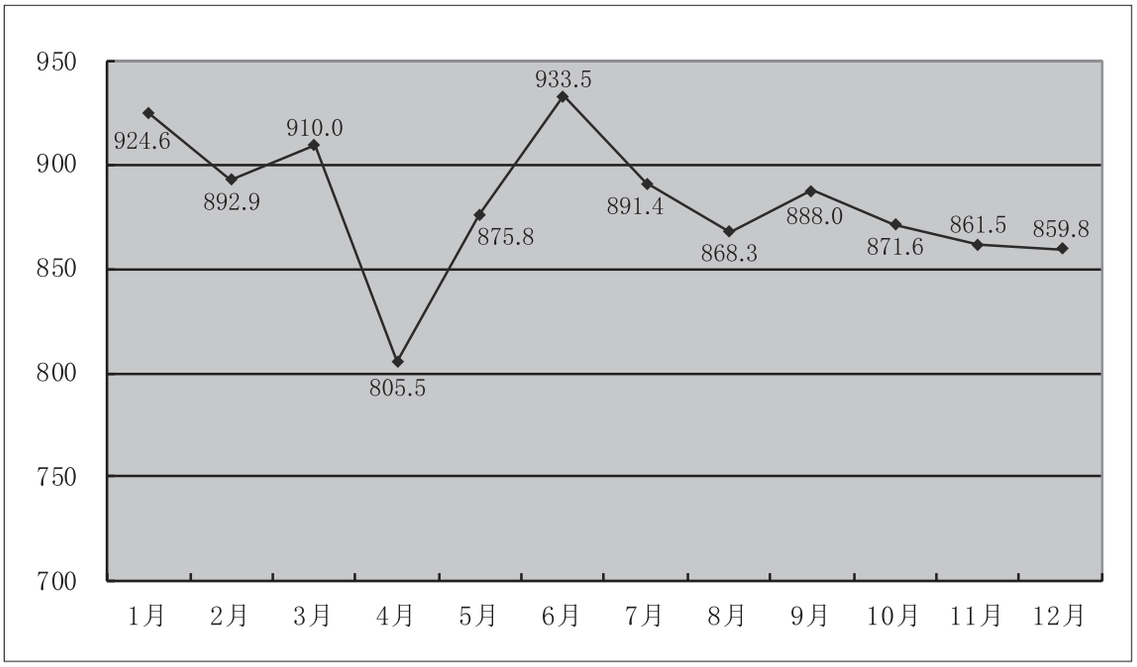
外来	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
①	924.6	892.9	910.0	805.5	875.8	933.5	891.4	868.3	888.0	871.6	861.5	859.8	10,582.9	881.9
②	28,662	25,000	28,211	24,971	27,151	28,006	27,632	26,916	26,640	27,020	25,846	26,654	322,709	26,892
③	47.3	30.7	33.3	32.2	31.3	29.9	32.7	29.9	26.8	25.4	26.6	30.0	376.1	31.3

2）科別・月別外来患者数

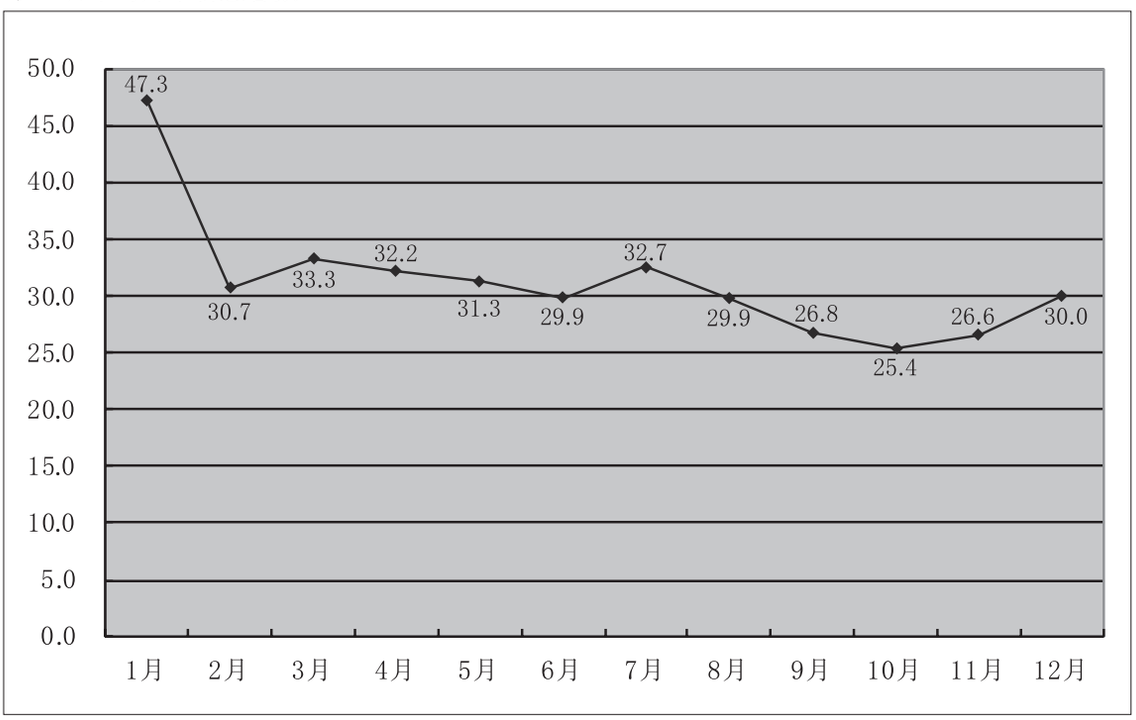
	内科	循環器科	外科	呼吸器外科	乳腺外科	小児外科	肝臓外科	肝臓内科	整形外科	心臓外科	眼科	脳神経外科	泌尿器科	形成外科	美容外科	放射線治療部
1月	10,007	1,522	1,287	204	143	72	601	2	2,987	422	1,264	950	1,481	516	0	324
2月	7,007	1,523	1,221	208	132	69	667	0	2,735	386	1,266	960	1,304	474	0	309
3月	8,098	1,643	1,373	247	161	93	742	0	3,198	486	1,464	1,130	1,554	598	0	290
4月	7,484	1,488	1,306	196	154	69	664	0	2,886	486	1,304	957	1,446	518	1	347
5月	7,326	1,777	1,365	197	121	56	719	1	3,091	503	1,307	1,033	1,390	614	0	399
6月	7,526	1,508	1,329	217	151	74	734	0	2,998	493	1,392	1,196	1,426	591	1	338
7月	7,908	1,800	1,332	203	159	78	707	0	3,039	450	1,221	939	1,455	585	1	390
8月	7,943	1,679	1,281	238	120	93	678	0	2,980	477	1,190	984	1,389	585	0	373
9月	7,386	1,668	1,293	244	151	77	731	0	2,917	524	1,260	1,014	1,503	593	0	327
10月	7,581	1,579	1,357	257	123	91	778	0	2,979	524	1,292	1,011	1,391	626	1	297
11月	7,369	1,703	1,210	219	122	77	704	1	2,765	514	1,216	1,013	1,228	588	0	241
12月	7,588	1,751	1,305	220	161	99	702	0	2,840	534	1,390	956	1,514	592	2	215
合計	93,223	19,641	15,659	2,650	1,698	948	8,427	4	35,415	5,799	15,566	12,143	17,081	6,880	6	3,850
平均	7,768.6	1,636.8	1,304.9	220.8	141.5	79.0	702.3	0.3	2,951.3	483.3	1,297.2	1,011.9	1,423.4	573.3	0.5	320.8

	リハビリ外来	人工透析	歯科口腔外科	皮膚科	小児科	婦人科	耳鼻咽喉科	検診	人間ドック	リウマチ科	膠原病	訪問看護	創傷治療センター	ストーマ外来	腫瘍内科	コロナワクチン患者数	合計
1月	92	959	886	368	957	361	284	412	1,170	0	285	101	141	20	294	550	28,662
2月	112	859	923	338	750	354	294	418	1,621	0	328	75	165	20	259	223	25,000
3月	135	1,015	1,121	447	805	442	387	457	1,252	0	368	77	187	25	278	138	28,211
4月	99	914	988	387	641	345	329	417	642	0	347	55	171	23	232	75	24,971
5月	95	950	956	380	818	338	345	682	651	0	335	79	152	19	235	1,217	27,151
6月	98	975	927	376	874	405	391	822	740	0	310	106	173	17	243	1,575	28,006
7月	92	946	890	349	817	391	310	1,029	699	0	318	94	164	21	262	983	27,632
8月	84	1,060	924	310	783	395	313	1,350	661	1	330	91	143	10	271	180	26,916
9月	86	1,023	947	336	794	378	356	1,016	665	0	307	88	123	16	264	553	26,640
10月	96	984	967	165	967	329	332	713	803	0	349	99	153	14	198	964	27,020
11月	81	1,025	923	203	1021	231	326	812	709	0	333	116	123	12	260	701	25,846
12月	107	1,010	875	209	923	227	329	930	700	0	375	97	148	11	235	609	26,654
合計	1,177	11,720	11,327	3,868	10,150	4,196	3,996	9,058	10,313	1	3,985	1,078	1,843	208	3,031	7,768	322,709
平均	98.1	976.7	943.9	322.3	845.8	349.7	333.0	754.8	859.4	0.1	332.1	89.8	153.6	17.3	252.6	647.3	26,892.4

3）1日平均外来患者数



4）1日平均外来新患者数



2. 入　院

1）入院患者統計

①1日平均患者数　②1カ月総患者数　③平均在院日数　④病床稼動率

入院	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
①	383.2	374.9	371.0	379.4	393.7	380.5	380.2	380.5	385.9	389.9	400.1	394.7	4,614.1	384.5
②	11,879	10,496	11,501	11,383	12,206	11,416	11,785	11,796	11,577	12,087	12,004	12,236	140,366	11,697.2
③	13.69	12.88	11.92	12.27	12.92	12.22	12.09	12.14	12.46	13.17	12.99	12.27	151.02	12.59
④	102.1	97.4	97.0	98.8	102.1	99.3	99.0	99.3	100.6	101.0	103.8	103.1	1,203.5	100.3

2）科別・月別1日平均入院患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
内科	143.29	135.79	144.00	139.40	147.71	144.00	134.94	137.65	143.17	140.35	131.53	140.87	1,682.70	140.23
循環器内科	38.84	33.07	31.32	32.70	32.61	31.13	40.06	42.35	46.53	38.74	48.03	46.32	461.70	38.48
外科	36.16	41.25	42.35	42.90	45.42	42.37	44.94	46.00	37.77	44.19	42.83	44.10	510.28	42.52
肝臓センター	17.39	16.57	16.13	16.70	14.19	18.13	19.00	17.29	18.20	16.39	21.33	17.00	208.32	17.36
整形外科	45.71	47.00	44.32	49.53	51.55	43.20	43.55	46.16	47.17	53.77	53.13	48.26	573.36	47.78
脳神経外科	36.45	32.11	30.35	36.47	38.61	40.33	34.32	35.03	37.07	41.61	39.60	41.45	443.40	36.95
泌尿器科	7.90	8.11	8.35	8.40	7.48	9.27	8.42	7.90	10.83	7.48	7.43	6.61	98.18	8.18
婦人科	2.16	1.79	2.61	4.00	2.61	2.03	2.06	1.06	0.63	0.32	0.00	0.00	19.27	1.61
小児科	0.42	0.54	1.00	0.47	0.29	0.57	0.10	0.19	0.17	0.35	0.00	0.00	4.10	0.34
眼科	7.97	6.75	7.29	5.17	5.87	5.30	4.84	5.48	4.23	4.68	5.60	4.55	67.73	5.64
形成外科	12.45	15.57	13.94	15.23	18.48	16.03	17.19	13.90	13.50	11.42	19.57	12.10	179.38	14.95
心臓外科	18.32	16.50	16.45	14.87	17.71	16.23	13.84	16.35	17.10	16.87	17.63	14.81	196.68	16.39
耳鼻咽喉科	0.32	0.50	0.29	0.10	0.87	0.20	0.16	0.29	0.57	0.19	0.50	0.00	3.99	0.33
皮膚科	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
口腔外科	3.52	4.21	4.29	3.50	3.06	4.20	3.65	3.48	4.13	3.26	2.50	3.58	43.38	3.62
腎臓内科	12.29	15.11	8.29	10.00	7.26	7.53	13.10	7.35	4.83	10.26	10.43	15.06	121.51	10.13
合計	383.2	374.9	371.0	379.4	393.7	380.5	380.2	380.5	385.9	389.9	400.1	394.7	4,614.0	384.5

3）病棟別・月別1日平均入院患者数

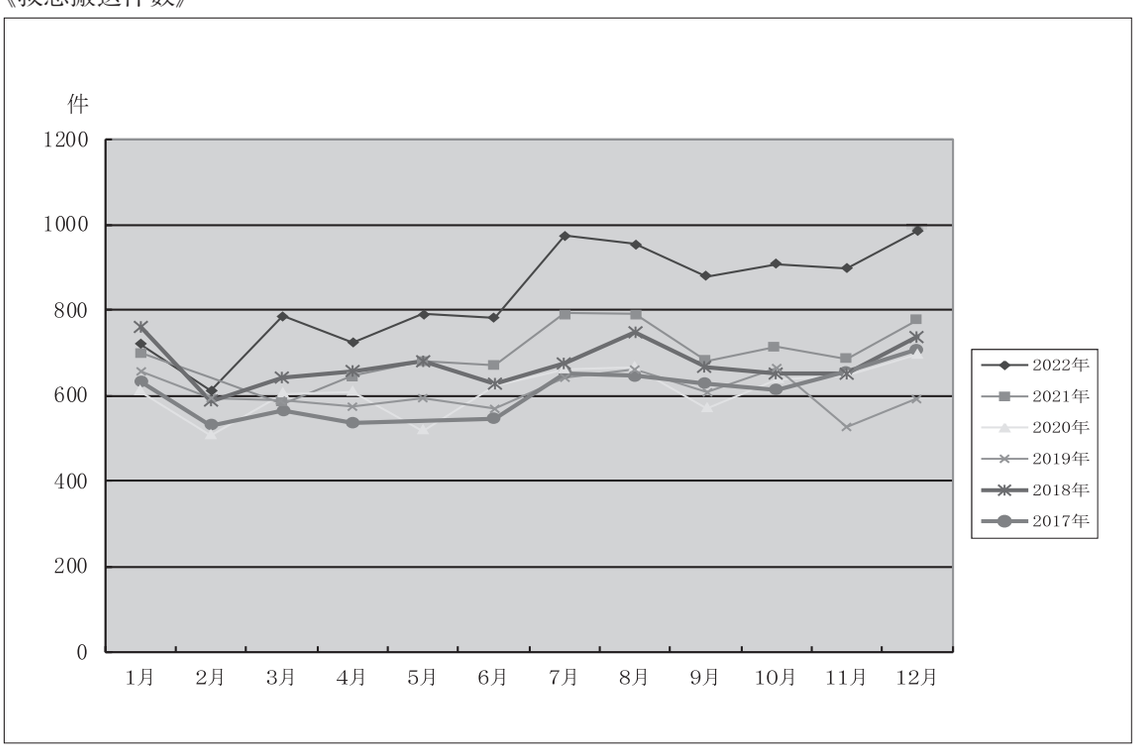
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
ICU	6.13	5.61	5.19	5.60	7.10	5.43	6.13	6.87	6.03	7.16	7.03	7.26	75.54	6.30
HCU	14.87	14.39	13.84	15.33	14.97	14.90	15.97	16.06	16.70	16.84	16.40	17.29	187.56	15.63
4東	44.65	42.64	40.58	42.40	42.16	41.80	40.45	39.48	41.90	42.42	42.67	43.29	504.44	42.04
5東	44.23	42.32	39.39	41.23	41.16	39.90	40.19	41.03	40.70	40.29	42.20	42.32	494.96	41.25
5西	39.74	38.68	37.71	36.73	38.19	37.93	37.74	35.32	37.77	38.74	37.27	34.94	450.76	37.56
6東	42.84	42.61	41.10	41.20	41.81	40.70	40.74	39.84	40.10	41.10	43.10	41.19	496.33	41.36
6西	44.19	43.07	43.06	42.17	43.77	41.10	39.71	42.03	42.87	43.81	44.03	43.16	512.97	42.75
7東	41.94	42.79	40.84	41.20	42.35	38.87	40.16	39.29	39.47	40.55	42.83	41.84	492.13	41.01
7西	44.58	43.43	42.35	41.73	43.00	41.93	41.35	42.00	42.23	41.94	43.67	43.10	511.31	42.61
8東	38.29	38.18	37.55	37.53	38.35	37.63	37.45	37.55	37.33	37.84	38.10	38.06	453.86	37.82
8西	21.74	21.14	29.39	34.30	40.87	40.33	40.26	41.03	40.80	39.23	42.83	42.26	434.18	36.18
総計	383.2	374.9	371.0	379.4	393.7	380.5	380.2	380.5	385.9	389.9	400.1	394.7	4,614.0	384.5

3. 救　急

1）月別救急搬送件数

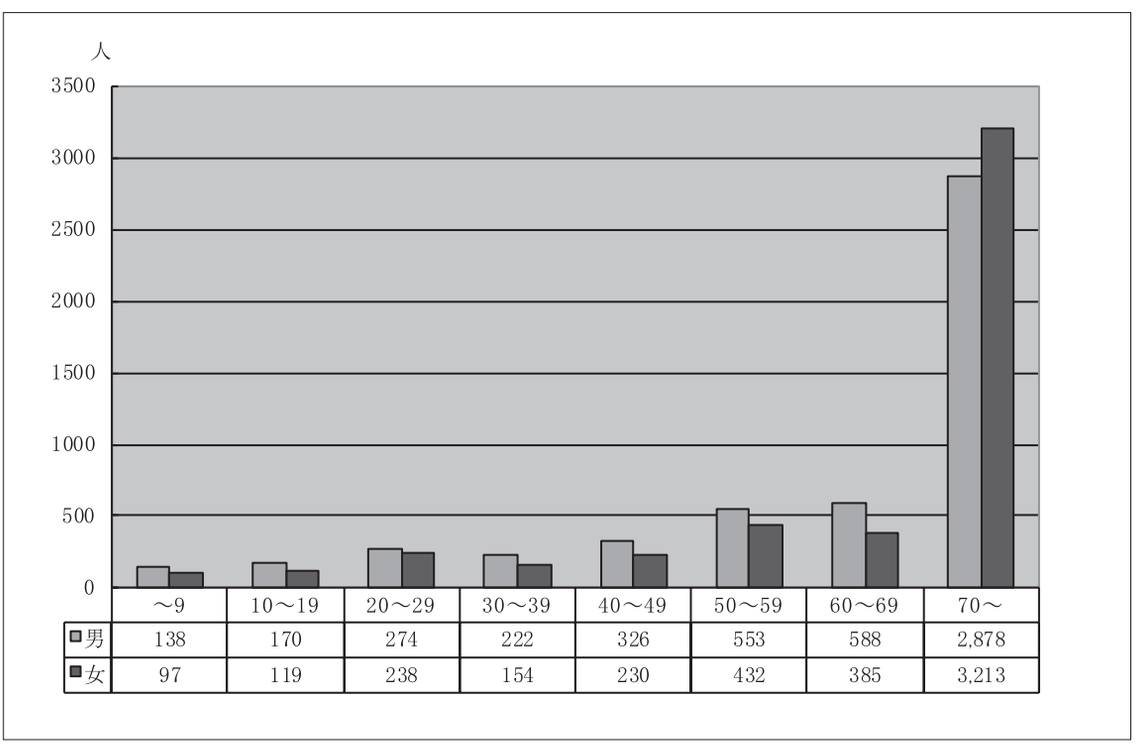
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
2023年	720	612	787	723	791	780	975	955	880	910	898	986	10,017	834.8
2022年	701	645	581	646	682	672	794	793	681	714	685	777	8,371	697.6
2021年	611	507	606	607	515	624	664	665	569	638	647	697	7,350	612.5
2020年	657	594	591	574	593	571	643	662	610	665	527	592	7,279	606.6
2019年	761	587	643	658	682	629	677	749	669	650	653	737	8,095	674.6
2018年	635	530	566	538	539	547	653	649	627	616	655	709	7,264	605.3

《救急搬送件数》



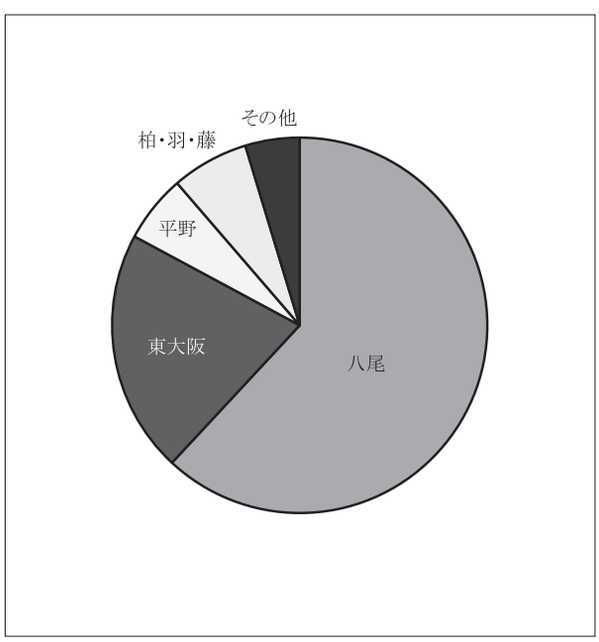
2）救急搬送人数　年齢別・性別分布

年齢	性別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	総合計
0～9歳	男	4	9	13	18	11	8	14	9	11	11	18	12	138	235
	女	10	6	6	5	16	8	6	6	9	12	7	6	97	
10～19歳	男	9	5	16	16	19	14	23	10	14	16	16	12	170	289
	女	6	3	12	6	19	14	15	12	9	7	8	8	119	
20～29歳	男	33	19	21	12	19	25	33	32	21	20	16	23	274	512
	女	21	18	19	10	18	13	31	26	22	22	17	21	238	
30～39歳	男	18	8	20	15	10	23	22	22	19	25	13	27	222	376
	女	13	9	13	8	10	16	18	14	17	7	13	16	154	
40～49歳	男	26	22	22	20	25	36	33	21	33	30	30	28	326	556
	女	26	16	19	22	13	20	22	17	20	12	22	21	230	
50～59歳	男	40	38	37	36	46	29	57	71	42	50	42	65	553	985
	女	35	16	33	36	45	21	44	41	40	43	33	45	432	
60～69歳	男	40	40	51	44	50	55	49	52	45	48	49	65	588	973
	女	17	21	42	32	29	35	43	46	19	32	38	31	385	
70歳～	男	207	178	204	200	222	213	275	271	271	264	269	304	2,878	6,091
	女	215	204	259	243	239	250	290	305	288	311	307	302	3,213	
合計	男	377	319	384	361	402	403	506	488	456	464	453	536	5,149	10,017
	女	343	293	403	362	389	377	469	467	424	446	445	450	4,868	



3）救急搬送件数分布

	八尾市	東大阪市	平野	柏･羽･藤	その他	合計
1月	439	132	39	61	49	720
2月	389	125	32	44	22	612
3月	480	160	62	57	28	787
4月	433	144	60	52	34	723
5月	475	170	44	57	45	791
6月	488	156	47	48	41	780
7月	614	218	44	57	42	975
8月	603	197	44	63	48	955
9月	576	186	39	43	36	880
10月	554	206	55	57	38	910
11月	534	183	69	67	45	898
12月	618	219	48	60	41	986
合計	6,203	2,096	583	666	469	10,017



	件数	%
八尾	6,203	61.9%
東大阪	2,096	20.9%
大阪市（平野）	583	5.8%
柏原･羽曳野･藤井寺	666	6.6%
その他	469	4.7%
合計	10,017	100.0%

単位：件

病　歴　統　計

―― 2023年 ――

1．科別退院患者数　18

2．死亡退院患者統計　19

3．疾病分類＜大分類＞科別　20

4．疾病分類＜中分類＞　21

1. 科別退院患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
内　科	153	151	198	190	194	194	210	181	182	197	171	186	2,207	183.9
男	82	83	104	111	92	98	91	105	95	106	100	113	1,180	98.3
女	71	68	94	79	102	96	119	76	87	91	71	73	1,027	85.6
循環器科	103	93	136	126	131	114	134	126	117	106	138	174	1,498	124.8
男	71	64	91	79	80	72	87	84	76	69	90	120	983	81.9
女	32	29	45	47	51	42	47	42	41	37	48	54	515	42.9
外　科	89	85	100	83	99	102	103	107	102	98	94	108	1,170	97.5
男	47	49	62	38	62	53	68	59	43	63	58	65	667	55.6
女	42	36	38	45	37	49	35	48	59	35	36	43	503	41.9
心臓外科	26	26	32	20	25	30	17	20	26	25	26	22	295	24.6
男	13	17	22	15	16	19	10	12	18	15	17	13	187	15.6
女	13	9	10	5	9	11	7	8	8	10	9	9	108	9.0
脳神経外科	51	47	50	63	77	77	62	71	62	75	80	83	798	66.5
男	33	28	31	37	43	43	37	43	40	42	45	46	468	39.0
女	18	19	19	26	34	34	25	28	22	33	35	37	330	27.5
整形外科	77	75	88	91	82	84	69	87	75	93	86	95	1,002	83.5
男	25	36	38	22	36	30	27	32	30	39	32	36	383	31.9
女	52	39	50	69	46	54	42	55	45	54	54	59	619	51.6
泌尿器科	36	47	45	40	41	49	58	44	47	42	32	39	520	43.3
男	25	39	35	30	33	41	38	34	36	36	27	24	398	33.2
女	11	8	10	10	8	8	20	10	11	6	5	15	122	10.2
形成外科	9	24	23	19	28	25	21	15	20	14	22	29	249	20.8
男	3	12	14	13	10	15	14	4	15	7	10	19	136	11.3
女	6	12	9	6	18	10	7	11	5	7	12	10	113	9.4
小児科	3	2	4	4	3	3	1	2	2	2	0	0	26	2.2
男	0	1	2	1	1	2	0	1	2	1	0	0	11	0.9
女	3	1	2	3	2	1	1	1	0	1	0	0	15	1.3
眼　科	81	79	83	73	65	75	54	74	61	56	82	65	848	70.7
男	41	35	31	32	30	37	29	32	33	27	36	32	395	32.9
女	40	44	52	41	35	38	25	42	28	29	46	33	453	37.8
耳鼻咽喉科	2	3	3	1	4	5	3	3	2	4	2	1	33	2.8
男	1	2	2	0	3	1	1	2	0	4	1	1	18	1.5
女	1	1	1	1	1	4	2	1	2	0	1	0	15	1.3
乳腺外科	2	1	6	2	1	2	2	2	1	1	1	4	25	2.1
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
女	4	1	6	2	1	2	2	2	1	1	1	2	25	2.1
腎臓内科	10	19	16	14	8	10	12	18	11	11	18	19	166	13.8
男	5	13	9	7	5	2	7	11	9	7	9	10	94	7.8
女	5	6	7	7	3	8	5	7	2	4	9	9	72	6.0
口腔外科	27	27	31	30	26	33	40	29	42	35	21	38	379	31.6
男	11	9	12	15	18	12	19	11	13	18	9	18	165	13.8
女	16	18	19	15	8	21	21	18	29	17	12	20	214	17.8
肝臓外科	54	42	45	50	41	46	58	54	59	41	60	46	596	49.7
男	33	28	25	24	25	31	27	25	37	26	36	33	350	29.2
女	21	14	20	26	16	15	31	29	22	15	24	13	246	20.5
肝臓内科	2	4	5	5	0	5	1	0	0	1	2	2	27	2.3
男	1	3	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	8	0.7
女	1	1	3	4	0	5	1	0	0	1	1	2	19	1.6
小児外科	1	5	8	5	5	6	3	9	11	8	5	9	75	6.3
男	0	2	7	4	3	4	1	6	5	2	7	5	46	3.8
女	1	3	1	1	2	2	2	3	6	3	3	2	29	2.4
呼吸器外科	14	16	16	18	18	17	23	24	27	19	14	22	228	19.0
男	11	7	7	12	14	14	16	19	21	12	10	16	159	13.3
女	3	9	9	6	4	3	7	5	6	7	4	6	69	5.8
呼吸器内科	30	17	24	17	27	27	21	40	37	26	18	18	302	25.2
男	15	9	16	13	19	15	14	22	14	15	6	10	168	14.0
女	15	8	8	4	8	12	7	18	23	11	12	8	134	11.2
腫瘍内科	24	17	17	17	13	11	17	24	22	17	16	22	217	18.1
男	14	8	11	12	9	7	11	12	14	12	13	13	136	11.3
女	10	9	6	5	4	4	6	12	8	5	3	9	81	6.8
集中治療科	24	19	22	25	22	21	29	32	25	21	30	48	318	26.5
男	16	11	13	13	15	20	22	23	19	14	16	36	218	18.2
女	8	8	9	12	7	1	7	9	6	7	14	12	100	8.3
放射線治療部	3	8	5	7	4	4	3	1	3	3	5	1	47	3.9
男	2	7	3	1	2	3	2	1	2	2	3	0	28	2.3
女	1	1	2	6	2	1	1	0	1	1	2	1	19	1.6
婦人科	8	11	18	20	19	12	15	14	10	5	0	0	132	11.0
合　計	831	818	975	920	933	952	956	977	944	897	928	1,027	11,158	929.8
男	449	463	537	480	516	519	521	538	522	517	526	610	6,198	516.5
女	382	355	438	440	417	433	435	439	422	380	402	417	4,960	413.3

2. 死亡退院患者統計

《科別》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
内　科	30	31	40	27	35	22	30	37	35	39	34	30	390	32.5
男	22	19	26	16	21	15	18	24	17	29	14	20	241	20.1
女	8	12	14	11	14	7	12	13	18	10	20	10	149	12.4
外　科	7	3	5	3	6	4	11	3	7	5	6	6	66	5.5
男	3	2	4	3	4	2	8	3	1	4	4	5	43	3.6
女	4	1	1	0	2	2	3	0	6	1	2	1	23	1.9
心臓外科	1	2	1	1	1	3	0	2	1	2	4	1	19	1.6
男	0	1	1	1	0	0	0	0	1	1	1	2	8	0.7
女	1	1	0	0	1	3	0	1	0	1	2	1	11	0.9
脳神経外科	2	0	3	7	3	5	3	5	5	8	4	5	50	4.2
男	2	0	1	3	0	3	1	2	2	3	2	4	23	1.9
女	0	0	2	4	3	2	2	3	3	5	2	1	27	2.3
整形外科	0	2	0	0	1	2	0	1	1	1	1	2	11	0.9
男	0	1	0	0	1	1	0	1	0	1	0	2	7	0.6
女	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	4	0.3
泌尿器科	1	0	1	2	0	2	0	1	0	0	1	1	9	0.8
男	1	0	1	2	0	2	0	1	0	0	1	0	8	0.7
女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.1
形成外科	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	3	0.3
男	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0.1
女	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	0.2
肝臓外科	0	3	3	2	4	4	2	2	3	4	3	4	34	2.8
男	0	3	2	2	3	1	0	1	3	2	3	3	23	1.9
女	0	0	1	0	1	3	2	1	0	2	0	1	11	0.9
腎臓内科	2	0	3	2	0	1	1	1	3	0	2	2	17	1.4
男	1	0	1	2	0	0	1	1	2	0	2	0	10	0.8
女	1	0	2	0	0	1	0	0	1	0	0	2	7	0.6
集中治療科	4	5	6	7	5	7	6	6	3	3	6	8	66	5.5
男	2	2	5	4	5	7	6	4	3	2	4	8	52	4.3
女	2	3	1	3	0	0	0	2	0	1	2	0	14	1.2
婦人科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
合　計	48	46	62	51	55	51	53	58	59	62	60	61	666	55.5
男	31	28	41	33	34	31	34	37	30	42	31	44	416	34.7
女	17	18	21	18	21	20	19	21	29	20	29	17	250	20.8

《疾病別》

悪性腫瘍	肺	40	乳	6	胆管	4	
	胃	14	悪性リンパ腫	5	直腸	2	
	膵臓	12	転移癌	5	急性骨髄性白血病	2	
	大腸	7	食道	5	前立腺	2	
	肝臓	7	膀胱	5	その他	19	合　計　135
呼吸器系	誤嚥性肺炎	51	COVID-19	19	膿胸	3	
	急性肺炎	46	細菌性肺炎	10	肺気腫	2	
	間質性肺炎	39	気管支肺炎	4	その他	3	
	呼吸不全	30	慢性閉塞性肺疾患	3			合　計　210
循環器系	心不全	51	心停止	6	胸部大動脈瘤	2	
	脳出血	19	解離性大動脈瘤	5	不整脈	2	
	脳梗塞	17	くも膜下出血	4	虚血性心筋症	2	
	急性心筋梗塞	7	腹部大動脈瘤破裂	2	その他	5	合　計　122
消化器系	肝硬変	11	腸壊死	4	肝膿瘍	2	
	肝不全	8	絞扼性イレウス	3	消化管出血	2	
	腸穿孔	7	腹腔内出血	2	その他	8	合　計　47
その他の疾患	敗血症	65	尿路感染症	5	尿毒症	3	
	慢性腎臓病	12	菌血症	5	窒息	3	
	老衰	7	低酸素血症	4	非結核性抗酸菌症	2	
	急性循環不全	6	急性硬膜下血腫	4	出血性ショック	2	
	急性腎不全	6	多臓器不全	4	その他	24	合　計　152

3. 疾病分類＜大分類＞科別

疾病分類＼科別	内科	循環器科	外科	心臓外科	脳神経外科	整形外科	泌尿器科	形成外科	小児科	眼科	耳鼻咽喉科	集中治療科	腎臓内科	口腔外科	肝臓外科	肝臓内科	小児外科	乳腺外科	呼吸器外科	呼吸器内科	腫瘍内科	放射線治療部	婦人科	合計
感染症及び寄生虫症（A00～B99）	127	1	14	5	0	2	0	13	4	0	1	35	0	0	10	0	2	0	1	5	3	0	0	223
新生物＜腫瘍＞（C00～D48）	233	0	349	5	15	8	258	29	0	0	0	7	1	54	205	10	0	23	96	3	136	44	110	1,586
血液及び造血器の疾患ならびに免疫機構の障害（D50～D89）	34	1	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5	0	0	0	0	0	5	0	0	51
内分泌・栄養及び代謝疾患（E00～E90）	178	2	14	0	4	1	0	15	7	2	0	17	4	0	7	0	0	0	0	4	3	0	0	258
精神及び行動の障害（F00～F99）	8	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
神経系の疾患（G00～G99）	43	1	0	0	70	12	0	1	0	0	2	6	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	137
眼及び付属器の疾患（H00～H59）	0	0	0	0	0	0	0	3	0	836	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	839
耳及び乳様突起の疾患（H60～H95）	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26
循環器系の疾患（I00～I99）	217	1,454	12	270	552	0	0	26	1	0	0	32	11	0	4	1	0	0	4	1	4	0	0	2,589
呼吸器系の疾患（J00～J99）	628	12	14	1	1	4	4	2	12	0	9	130	10	2	5	0	2	1	99	146	36	1	0	1,119
消化器系の疾患（K00～K93）	331	2	698	2	0	0	0	2	0	0	1	6	1	297	341	12	47	0	0	0	5	1	0	1,746
皮膚及び皮下組織の疾患（L00～L99）	40	1	1	0	0	1	0	66	0	0	0	4	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	119
筋骨格系及び結合組織の疾患（M00～M99）	24	0	0	0	53	203	0	34	2	0	0	5	3	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	326
腎尿路生殖器系の疾患（N00～N99）	234	8	15	3	0	0	253	17	0	1	0	23	127	0	3	1	11	1	3	0	9	1	20	730
妊娠、分娩及び産じょく＜褥＞（O00～O99）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
先天性奇形・変形及び染色体異常（Q00～Q99）	0	0	2	1	4	1	0	0	0	0	0	0	4	2	1	0	13	0	0	0	0	0	0	28
症状・徴候及び異常臨床所見・異常臨床所見で他に分類されないもの（R00～R99）	18	6	7	0	6	2	4	5	0	0	3	2	0	0	4	2	0	0	2	0	3	0	0	64
損傷・中毒及びその他の外因の影響（S00～T98）	39	10	34	7	91	768	1	36	0	9	0	19	3	18	8	1	0	0	23	2	2	0	1	1,072
特殊目的用コード（U00～U99）	44	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	30	1	0	2	0	0	0	0	142	7	0	0	230
合　　計	2,207	1,498	1,170	295	798	1,002	520	249	26	848	33	318	166	378	596	27	75	25	228	303	217	47	132	11,158

4. 疾病分類〈中分類〉

第1章　感染症および寄生虫症	223
A00-09　腸管感染症	70
A15-19　結核	11
A20-28　人蓄共通細菌性疾患	0
A30-49　その他の細菌性疾患	115
A50-64　主として性的伝播様式をとる感染症	1
A65-69　その他のスピロヘータ疾患	0
A70-74　クラミジアによるその他の疾患	0
A75-79　リッチケア症	0
A80-89　中枢神経系のウイルス感染症	2
A90-99　節足動物媒介ウイルス熱およびウイルス出血熱	0
B00-09　皮膚および粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	10
B15-19　ウイルス肝炎	8
B20-24　ヒト免疫不全ウイルス〔HIV〕病	2
B25-34　その他のウイルス疾患	2
B35-49　真菌症	1
B50-64　原虫疾患	0
B65-83　ぜん＜蠕＞虫症	0
B85-89　シラミ症、ダニ症およびその他の動物寄生症	0
B90-94　感染症および寄生虫症の続発・後遺症	1
B95-97　細菌、ウイルスおよびその他の病原体	0
B99　その他の感染症	0
第2章　新生物＜腫瘍＞	1,586
C00-14　口唇、口腔および咽頭	0
C15-26　消化器	588
C30-39　呼吸器および胸腔内臓器	250
C40-41　骨および関節軟骨	0
C43-44　皮膚	6
C45-49　中皮および軟部組織	25
C50　乳房	32
C51-58　女性生殖器	82
C60-63　男性生殖器	129
C64-68　尿路	128
C69-72　眼、脳および中枢神経系のその他の部位	6
C73-75　甲状腺およびその他の内分泌腺	7
C76-80　部位不明確、続発部位および部位不明の悪性新生物	75
C81-96　原発と記載されたまたは推定されたリンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物	44
C97　独立した(原発性)多部位の悪性新生物	0
D00-09　上皮内新生物	2
D10-36　良性新生物	59
D37-48　性状不詳または不明の新生物	153
第3章　血液および造血器の疾患並びに免疫機構の障害	51
D50-53　栄養性貧血	20
D55-59　溶血性貧血	2
D60-64　無形成性貧血およびその他の貧血	14
D65-69　凝固障害、紫斑病およびその他の出血性病態	5
D70-77　血液および造血器のその他の疾患	10
D80-89　免疫機構の障害	0
第4章　内分泌、栄養および代謝疾患	258
E00-07　甲状腺障害	2
E10-14　糖尿病	98
E15-16　その他のグルコース調節および膵内分泌障害	13
E20-35　その他の内分泌腺障害	9
E40-46　栄養失調(症)	4
E50-64　その他の栄養欠乏症	10
E65-68　肥満(症)およびその他の過栄養＜過剰摂食＞	0
E70-90　代謝障害	122

第5章　精神および行動の障害	14
F00-09　症状性を含む器質性精神障害	4
F10-19　精神作用物質使用による精神および行動の障害	7
F20-29　統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害	0
F30-39　気分〔感情〕障害	1
F40-48　神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	1
F50-59　生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	1
F60-69　成人の人格および行動の障害	0
F70-79　知的障害＜精神遅滞＞	0
F80-89　心理的発達の障害	0
F90-98　小児＜児童＞期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	0
F99　詳細不明の精神障害	0
第6章　神経系の疾患	137
G00-09　中枢神経系の炎症性疾患	5
G10-13　主に中枢神経系を障害する系統萎縮症	2
G20-26　錐体外路障害および異常運動	17
G30-32　神経系のその他の変性疾患	3
G35-37　中枢神経系の脱髄疾患	0
G40-47　挿間性および発作性障害	60
G50-59　神経、神経根および神経そう＜叢＞の障害	14
G60-64　多発(性)ニューロパチ＜シ＞ーおよびその他の末梢神経系の障害	8
G70-73　神経筋接合部および筋の疾患	4
G80-83　脳性麻痺およびその他の麻痺性症候群	0
G90-99　神経系のその他の障害	24
第7章　眼および付属器の疾患	839
H00-06　眼瞼、涙器および眼窩の障害	8
H10-13　結膜の障害	3
H15-22　強膜、角膜、虹彩および毛様体の障害	2
H25-28　水晶体の障害	472
H30-36　脈絡膜および網膜の障害	213
H40-42　緑内障	65
H43-45　硝子体および眼球の障害	71
H46-48　視神経および視(覚)路の障害	0
H49-52　眼筋、眼球運動、調節および屈折の障害	0
H53-54　視機能障害および盲＜失明＞	0
H55-59　眼および付属器のその他の障害	5
第8章　耳および乳様突起の疾患	26
H60-62　外耳疾患	0
H65-75　中耳および乳様突起の疾患	0
H80-83　内耳疾患	25
H90-95　耳のその他の障害	1
第9章　循環器系の疾患	2,589
I00-02　急性リウマチ熱	0
I05-09　慢性リウマチ性心疾患	2
I10-15　高血圧性疾患	7
I20-25　虚血性心疾患	934
I26-28　肺性心疾患および肺循環疾患	24
I30-52　その他の型の心疾患	599
I60-69　脳血管疾患	556
I70-79　動脈、細動脈および毛細血管の疾患	446
I80-89　静脈、リンパ管およびリンパ節の疾患、他に分類されないもの	18
I95-99　循環器系のその他および詳細不明の障害	3

4. 疾病分類〈中分類〉

第10章	呼吸器系の疾患	1,119	第15章	妊娠、分娩および産じょく＜褥＞	1
J00-06	急性上気道感染症	16	O00-08	流産に終わった妊娠	1
J10-18	インフルエンザおよび肺炎	423	O10-16	妊娠、分娩および産じょく＜褥＞における浮腫、たんぱく＜蛋白＞尿および高血圧性障害	0
J20-22	その他の急性下気道感染症	11			
J30-39	上気道のその他の疾患	11	O20-29	主として妊娠に関連するその他の母体障害	0
J40-47	慢性下気道疾患	100	O30-48	胎児および羊膜腔に関連する母体ケアならびに予想される分娩の諸問題	0
J60-70	外的因子による肺疾患	293			
J80-84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患	106	O60-75	分娩の合併症	0
J85-86	下気道の化膿性およびえ＜壊＞死性病態	41	O80-84	分娩	0
J90-94	胸膜のその他の疾患	83	O85-92	主として産じょく＜褥＞に関連する合併症	0
J95-99	呼吸器系のその他の疾患	35	O95-99	その他の産科的病態、他に分類されないもの	0
第11章	消化器系の疾患	1,746	第16章	周産期に発生した病態	0
K00-14	口腔、唾液腺および顎の疾患	300	P00-04	母体側要因ならびに妊娠および分娩の合併症により影響を受けた胎児および新生児	0
K20-31	食道、胃および十二指腸の疾患	110			
K35-38	虫垂の疾患	106	P05-08	妊娠期間および胎児発育に関連する障害	0
K40-46	ヘルニア	200	P10-15	出産外傷	0
K50-52	非感染性腸炎および非感染性大腸炎	15	P20-29	周産期に特異的な呼吸障害および心血管障害	0
K55-64	腸のその他の疾患	336	P35-39	周産期に特異的な感染症	0
K65-67	腹膜の疾患	22	P50-61	胎児および新生児の出血性障害および血液障害	0
K70-77	肝疾患	101	P70-74	胎児および新生児に特異的な一過性の内分泌障害および代謝障害	0
K80-87	胆のう＜嚢＞、胆管および膵の障害	525			
K90-93	消化管系のその他の疾患	31	P75-78	胎児および新生児の消化器系障害	0
第12章	皮膚および皮下組織の疾患	119	P80-83	胎児および新生児の外皮および体温調節に関連する病態	0
L00-08	皮膚および皮下組織の感染症	58			
L10-14	水疱症	3	P90-96	周産期に発生したその他の障害	0
L20-30	皮膚炎および湿疹	1	第17章	先天奇形、変形および染色体異常	28
L40-45	丘疹落せつ＜屑＞＜りんせつ＜鱗屑＞＞性障害	0	Q00-07	神経系の先天性奇形	0
L50-54	じんま＜蕁麻＞疹および紅斑	3	Q10-18	眼、耳、顔面および頚部の先天性奇形	0
L55-59	皮膚および皮下組織の放射線(非電離および電離)に関する障害	0	Q20-28	循環器系の先天性奇形	5
			Q30-34	呼吸器系の先天性奇形	0
L60-75	皮膚付属器の障害	2	Q35-37	唇裂および口蓋裂	0
L80-99	皮膚および皮下組織のその他の障害	52	Q38-45	消化器系のその他の先天奇形	6
第13章	筋骨格系および結合組織の疾患	326	Q50-56	性器の先天奇形	8
M00-03	感染性関節障害	2	Q60-64	尿路系の先天奇形	5
M05-14	炎症性多発性関節障害	16	Q65-79	筋骨格系の先天奇形および変形	4
M15-19	関節症	58	Q80-89	その他の先天奇形	0
M20-25	その他の関節障害	12	Q90-99	染色体異常、他に分類されないもの	0
M30-36	全身性結合組織障害	9	第18章	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	64
M40-43	変形性脊柱障害	16			
M45-49	脊椎障害	122	R00-09	循環器系および呼吸器系に関する症状および徴候	16
M50-54	その他の脊柱障害	27	R10-19	消化器系および腹部に関する症状および徴候	3
M60-63	筋障害	6	R20-23	皮膚および皮下組織に関する症状および徴候	2
M65-68	滑膜および腱の障害	5	R25-29	神経系および筋骨格系に関する症状および徴候	2
M70-79	その他の軟部組織障害	14	R30-39	腎尿路系に関する症状および徴候	5
M80-85	骨の密度および構造の障害	7	R40-46	認識、知覚、情緒状態および行動に関する症状および徴候	13
M86-90	その他の骨障害	25			
M91-94	軟骨障害	0	R47-49	言語および音声に関する症状および徴候	0
M95-99	筋骨格系および結合組織のその他の障害	7	R50-69	全身症状および徴候	23
第14章	腎尿路生殖器系の疾患	730	R70-79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの	0
N00-08	糸球体疾患	10	R80-82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの	0
N10-16	腎尿細管間質性疾患	143	R83-89	その他の体液、検体＜材料＞および組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの	0
N17-19	腎不全	219			
N20-23	尿路結石症	164	R90-94	画像診断および機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの	0
N25-29	腎および尿管のその他の障害	5			
N30-39	尿路系のその他の疾患	134	R95-99	診断名不明確および原因不明の死亡	0
N40-51	男性生殖器の疾患	28			
N60-64	乳房の障害	1			
N70-77	女性骨盤臓器の炎症性疾患	3			
N80-98	女性性器の非炎症性障害	23			
N99	腎尿路生殖器系のその他の障害	0			

4. 疾病分類〈中分類〉

第19章	損傷、中毒およびその他の外因の影響	1,072
S00-09	頭部損傷	122
S10-19	頚部損傷	19
S20-29	胸部＜郭＞損傷	55
S30-39	腹部、下背部、腰椎および骨盤部の損傷	146
S40-49	肩および上腕の損傷	115
S50-59	肘および前腕の損傷	98
S60-69	手首および手の損傷	22
S70-79	股関節部および大腿の損傷	259
S80-89	膝および下腿の損傷	107
S90-99	足首および足の損傷	14
T00-07	多部位の損傷	5
T08-14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷または部位不明の損傷	2
T15-19	自然開口部からの異物侵入の作用	3
T20-32	熱傷および腐食	5
T33-35	凍傷	0
T36-50	薬物、薬剤および生物学的製剤による中毒	15
T51-65	薬用を主としない物質の毒作用	2
T66-78	外因のその他および詳細不明の作用	24
T79	外傷の早期合併症	1
T80-88	外科的および内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	55
T90-98	損傷、中毒およびその他の外因による影響の続発・後遺症	3
第20章	傷病および死亡の外因	0
V01-99	交通事故	0
W00-X59	不慮の損傷のその他の外因	0
X60-84	故意の自傷および自殺	0
X85-Y09	加害にもとづく傷害および死亡	0
Y10-34	不慮か故意か決定されない事件	0
Y35-36	法的介入および戦争行為	0
Y40-84	内科的および外科的ケアの合併症	0
Y85-89	傷病および死亡の外因の続発・後遺症	0
Y90-98	他に分類される傷病および死亡の原因に関係する補助的因子	0
第21章	健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	0
Z00-13	検査および診査のための保健サービスの利用者	0
Z20-29	伝染病に関連する健康傷害をきたす恐れのある者	0
Z30-39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者	0
Z40-54	特定の処置および保健ケアのための保健サービスの利用者	0
Z55-65	社会経済的環境および社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者	0
Z70-76	その他の環境下での保健サービスの利用者	0
Z80-99	家族歴、既往歴および健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者	0
第22章	特殊目的用コード	230
U07	COVID-19	230

診　療　部

―― 2023年 ――

1）内　　科　26
2）循環器内科（カテーテル部門）　33
3）消化器内科　34
4）呼吸器内科　36
5）腫 瘍 内 科　37
6）血管透析科（腎不全対策･関連診療科）　39
7）腎 臓 内 科　43
8）糖尿病・代謝内科　44
9）脳神経内科　46
10）膠原病リウマチ内科　47
11）小　児　科　48
12）放 射 線 科（診療部）　50
13）救　急　科　51
14）集中治療科　54
15）外　　科　58
16）整 形 外 科　60
17）脳神経外科　64
18）心臓血管外科・心臓血管センター　66
19）形成外科・美容外科　69
20）呼吸器外科　71
21）小 児 外 科　72
22）歯科・歯科口腔外科　75
23）泌 尿 器 科　78
24）眼　　科　79
25）麻　酔　科　81
26）肝臓センター　83
27）皮　膚　科　88
28）婦　人　科　89
29）耳鼻咽喉科　90
30）病理診断科　91

1）内　科

病院長　原田　博雅

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

1. 概要

一般内科は、糖尿病や高血圧などの慢性疾患から、急性肺炎、尿路感染症、うっ血性心不全などの、急性疾患まで取り扱っております。現代では、医療の専門性が細分化したことにより、患者様自身で適切な診療科を選択しかねる症状が増えてきました。八尾徳洲会総合病院でも、その地域性により当院には幅広い年代の患者様が様々な症状を訴えられ当院を受診されます。当科ではどの診療科に受診すべきかわからない患者様に対して最初の窓口としての役割を担います。また、一般的な疾患に対しての治療と、循環器科など専門治療への紹介の橋渡しを行います。また、健康診断でいくつかの臓器にわたる異常を指摘され、受診する診療科に困った際にも一般内科を案内させていただきます。

診断のついていない健康問題を抱える患者様 に対して臓器の枠にとらわれない横断的な知識を活かして、幅広い医療を提供することを目標 にしています。臨床の経験に富んだ医師が、診断・治療に難渋する患者様の問題解決に尽力しています。診断の結果専門診療科への紹介が好ましい場合は、院内紹介や他施設への紹介を速やかに行い、対応していきます。

2. メンバー構成

循環器	福田貢（総長）、松尾浩志（部長）、髙橋直也、髙橋圭、田辺悠馬
呼吸器	原田博雅（院長）、石原英樹（副院長）
消化器	浅野幸吉、中島ひろみ（医長）
糖尿病・代謝	石橋里江子（部長）、植田秀樹
腫瘍	瓜生恭章（副院長）
脳神経内科	辰己新水（部長）
腎臓	森ちさこ（医長）
膠原病	古川牧緒
総合診療	髙原良典（部長）、康天志

3. 実績

《退院患者数》

◎内　科

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
347	324	418	396	399	381	426	422	397	381	396	468	4,755

1.感染症および寄生虫症（A00-B99）

疾　　病	件	疾　　病	件
敗血症	66	肺結核	9
（MRSA）	(5)	サルモネラ感染症	8
（連鎖球菌）	(3)	（腸炎）	(6)
（グラム陰性菌）	(3)	急性胃腸炎	7
胃腸炎	24	レジオネラ肺炎	4
（感染性）	(21)	非結核性抗酸菌症	3
（ウイルス性）	(3)	帯状疱疹	3
細菌感染症	18	ヘルペス	3
（溶連菌）	(2)	帯状疱疹性脳症	2
（大腸菌）	(2)	粟粒結核	1
（MRSA）	(2)	ウイルス性脳炎	1
細菌性腸炎	13	EBウイルス伝染性単核症	1
（カンピロバクター）	(6)	その他	8
（偽膜性）	(2)	合　計	171

2.新生物（C00-C97）※術後・再発・化学療法を含む

疾　　病	件	疾　　病	件
肺	184	悪性中皮腫	5
胃	39	甲状腺	5
結腸	22	前立腺	5
悪性リンパ腫	21	胆管	5
転移癌	15	乳房	4
（肺）	(4)	直腸S状部	2
（骨）	(3)	尿道	2
（脳）	(3)	卵巣	2
（胸膜）	(2)	膀胱	2
食道	12	腎	1
直腸	12	多発性骨髄腫	1
急性骨髄性白血病	7	尿管	1
肝臓	6	脳	1
子宮	6	その他	12
膵臓	6	合　計	378

◎上皮内・良性・性状不詳または不明の新生物（D00-D48）

〈良性腫瘍〉　　〈性状不詳・不明〉

疾　　病	件	疾　　病	件
結腸腺腫	6	骨髄異形成症候群	18
胃腺腫	6	肺腫瘍	5
十二指腸腺腫	3	甲状腺腫瘍	1
直腸腺腫	3	心臓腫瘍	1
血管腫	1	腎腫瘍	1
		その他	2
合　計	19	合　計	28

3.血液および造血器の疾患、免疫障害（D50-D89）※輸血目的の再入院を含む

疾　　病	件	疾　　病	件
貧血症	24	後天性血友病A	2
（鉄欠乏性）	(12)	汎血球減少症	2
（急性失血性）	(2)	血小板減少症	1
（大球性）	(2)	好酸球増加症	1
（巨赤芽球性）	(1)	自己免疫性溶血性貧血	1
好中球減少症	8		
血小板減少性紫斑病	2	合　計	41

4.内分泌、栄養および代謝疾患（E00-E90）

疾　　病	件	疾　　病	件
Ⅰ型糖尿病	9	低血糖	9
（ケトアシドーシス）	(5)	（昏睡）	(2)
（神経学的合併症）	(2)	アシドーシス	8
Ⅱ型糖尿病	67	電解質異常	8
（合併症なし）	(14)	高カルシウム血症	6
（多発合併症）	(13)	低アルブミン血症	6
（ケトアシドーシス）	(12)	低栄養	3
（その他の合併症）	(11)	副腎皮質機能低下症	3
（高血糖高浸透圧症候群）	(5)	ウェルニッケ脳症	2
（神経学的合併症）	(5)	脚気	2
（腎合併症）	(3)	甲状腺機能亢進症	2
脱水症	30	低蛋白血症	2
低ナトリウム血症	24	膵性糖尿病	1
低カリウム血症	12	その他	2
高カリウム血症	9	合　計	208

5.精神および行動の障害（F00-F99）

疾　　病	件	疾　　病	件
アルコール依存症	2	急性アルコール中毒	1
認知症	2	うつ病	1
過換気症候群	1	その他	2
急性カフェイン中毒	1	合　計	10

6.神経系の疾患（G00-G99）

疾　　病	件	疾　　病	件
パーキンソン病	12	重症筋無力症	2
てんかん	9	神経核内封入体病	2
慢性炎症性脱髄性多発神経炎	6	ギラン・バレー症候群	1
低酸素性脳症	5	肢体型筋ジストロフィー	1
細菌性髄膜炎	3	上下肢筋不全麻痺	1
アルツハイマー型認知症	2	脊髄小脳変性症	1
悪性症候群	2	その他	3
筋萎縮性側索硬化症	2	合　計	52

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

7.耳および乳様突起の疾患(H60-H95)

疾　　病	件	疾　　病	件
めまい症	8	メニエール病	1
(末梢性)	(5)		
(良性発作性頭位)	(1)	合　計	9

8.循環器系の疾患(I00-I99)※検査入院を含む

◎心血管

疾　　病	件	疾　　病	件
心不全	433	房室ブロック	28
(うっ血性)	(359)	肺塞栓症	17
(慢性)	(28)	虚血性心筋症	13
(急性)	(26)	陳旧性心筋梗塞	13
(左室)	(20)	大動脈弁狭窄症	11
狭心症	407	洞不全症候群	10
(不安定)	(44)	蘇生に成功した心停止	9
(労作性)	(36)	たこつぼ型心筋症	8
(3枝病変)	(16)	心室頻拍	7
冠状動脈硬化症	211	冠状動脈狭窄症	6
虚血性心疾患	135	高血圧性心不全	5
急性心筋梗塞	121	発作性心房細動	4
(下壁)	(44)	肺高血圧症	3
(前壁)	(21)	発作性上室頻拍	3
(側壁)	(7)	その他	29
(後壁)	(2)	合　計	1,473

◎脳血管

疾　　病	件	疾　　病	件
脳梗塞	13	脳出血	2
大脳動脈閉塞症	2	合　計	17

◎その他の血管

疾　　病	件	疾　　病	件
下肢閉塞性動脈硬化症	182	上肢動脈閉塞症	4
(壊疽あり)	(6)	間欠性跛行	2
重症虚血肢	16	鎖骨下静脈狭窄	1
毛細血管拡張症	11	門脈血栓症	1
食道静脈瘤	5	その他	2
深部静脈血栓症	5	合　計	229

9.呼吸器系の疾患（J00-J99）

疾　　病	件	疾　　病	件
肺炎・病原体不詳	317	胸水貯留	9
（気管支）	(84)	気管支拡張症	7
（大葉性）	(2)	気胸	7
誤嚥性肺炎	267	急性気管支炎	6
間質性肺炎	104	好酸球性肺炎	6
（薬剤性）	(10)	膿胸	6
細菌性肺炎	61	肺膿瘍	6
（緑膿菌）	(10)	肺気腫	5
（MRSA）	(4)	急性上気道炎	3
慢性閉塞性肺疾患	45	急性扁桃炎	3
気管支喘息	37	気管軟化症	2
（発作）	(21)	肺水腫	2
呼吸不全	23	放射線性肺線維症	2
肺炎球菌肺炎	16	慢性副鼻腔炎	2
インフルエンザ	15	その他	12
（肺炎を伴う）	(2)	合　計	963

10.消化器系の疾患（K00-K93）

◎食道、胃、十二指腸

疾　　病	件	疾　　病	件
食道炎	8	胃潰瘍	26
（逆流性）	(6)	（出血性）	(20)
食道狭窄	3	（急性）	(3)
食道潰瘍	2	胃ポリープ	4
食道裂孔ヘルニア	1	胃前庭部毛細血管拡張症	4
十二指腸潰瘍	15	萎縮性胃炎	3
（出血性）	(12)	胃食道逆流症	1
（急性）	(1)	その他	7
十二指腸炎	1	合　計	75

◎その他の腸疾患

疾　　病	件	疾　　病	件
腸憩室疾患	34	下血	2
大腸ポリープ	18	急性腹膜炎	2
急性虚血性腸炎	16	宿便性潰瘍	2
消化管出血	13	吐血	2
潰瘍性大腸炎	8	機能性便秘症	1
S状結腸軸捻転	3	直腸出血	1
直腸潰瘍	3	その他	10
糞便性イレウス	3	合　計	118

◎肝疾患

疾　　病	件	疾　　病	件
肝硬変症	16	急性肝障害	2
アルコール性肝疾患	12	（薬物性）	(1)
（肝硬変）	(11)	多発肝のう胞	1
（肝炎）	(1)	慢性肝不全	1
肝性脳症	4	肝不全	
肝膿瘍	2	合　計	38

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

◎胆嚢、胆管、膵

疾　　病	件	疾　　病	件
急性胆管炎	48	急性膵炎（アルコール性）	14 (7)
総胆管結石（胆管炎を伴う）	36 (7)	慢性膵炎（アルコール性）	8 (3)
急性胆のう炎	4		
胆のう結石	2	胆石性膵炎	2
閉塞性黄疸	1	合　計	115

11.皮膚および皮下組織の疾患（L00-L99）

疾　　病	件	疾　　病	件
蜂窩織炎	30	壊疽性膿皮症	1
水疱性類天疱瘡	3	頚部リンパ節炎	1
多形滲出性紅斑	2	その他	5
褥瘡	2	合　計	44

12.筋骨格系および結合祖組織の疾患（M00-M99）

疾　　病	件	疾　　病	件
関節リウマチ	5	全身性エリテマトーデス	2
偽痛風	5	変形性膝関節症	2
横紋筋融解	4	リウマチ性多発筋痛症	1
ANCA関連血管炎	3	顕微鏡的多発血管炎	1
化膿性脊椎炎	2	廃用症候群	1
壊死性筋膜炎	2	その他	4
脊椎症性ミエロパチー	2	合　計	34

13.腎尿路生殖器系の疾患（N00-N99）

疾　　病	件	疾　　病	件
慢性腎臓病	149	腎性貧血	2
尿路感染症	116	ANCA関連腎炎	1
急性腎盂腎炎	78	急性子宮留膿症	1
急性腎不全	34	骨盤内炎症性疾患	1
結石性腎盂腎炎	7	尿管結石症	1
ネフローゼ症候群	6	薬剤性腎障害	1
急性腎障害	5	合　計	402

14.先天性奇形、変形および染色体異常（Q00-Q99）

疾　　病	件
常染色体顕性（優性）多発性のう胞腎	4
合　計	4

15.症状、徴候および以上臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの（R00-R99）

疾　　病	件	疾　　病	件
意識障害	6	低酸素血症	2
めまい症	3	不明熱	2
食欲不振	3	喀血	2
失神	2	その他	7
徐脈	2	合　計	29

16.損傷、中毒およびその他の外因の影響（S00-T98）

疾　　病	件	疾　　病	件
急性薬物中毒	15	挫滅症候群	1
ペースメーカー電池消耗	10	急性硬膜下血腫	1
脊椎圧迫骨折	10	低体温	1
アナフィラキシー	9	薬物アレルギー	1
熱中症	9	腰殿部打撲傷	1
透析シャント閉塞	5	大腿筋肉内血腫	1
外傷性くも膜下出血	1	その他	8
窒息	1	合　計	74

17.特殊目的用コード（U00-U99）

疾　　病	件
COVID-19	224
合　計	224

4. 今後の目標

常に質の高い医療を提供できるように努めて参ります。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

2）循環器内科（カテーテル部門）

循環器内科部長　松尾　浩志

1. 概要

循環器内科は救急医療において重要な役割を担っており、当科では 24 時間救急体制を整えています。

当科では幅広い循環器疾患の診療を行っておりますが、特に虚血性心疾患および末梢動脈疾患の治療に力をいれております。虚血性心疾患においては冠動脈高度石灰化症例に対する Rotablator や Diamondback といった特殊治療器具を用いた治療を行っており、全国でも 3 本の指に入る症例数を誇っています。また、レーザーのエネルギーのより血栓やプラークを消失させるエキシマレーザーも導入しております。

末梢動脈疾患においては昨今増加している下肢閉塞性動脈硬化症に対して積極的にカテーテル治療を施行しています。下肢壊疽や潰瘍といった重症虚血肢に対しては形成外科による創傷ケアセンターと協力しながら診療にあたっております。高度石灰化病変を伴う大腿膝窩動脈病変に対しては Jetstream を新規導入し治療施行しております。

部長の松尾に関しては海外での治療および指導も多数行っており、国際交流のある診療科です。海外からの見学も受け入れており、国内にとどまらず海外の学会発表も行っています。

2. メンバー構成

福田貢（総長）・松尾浩志（循環器内科部長）・髙橋直也・髙橋圭・田辺悠馬・熊田博斗

3. 実績

	2021 年	2022 年	2023 年
PCI	751	765	737
末梢血管 EVT	289	230	251
ペースメーカー	59	33	9
リードレスペースメーカー	–	2	20
ローターブレーター	252	215	214
ダイアモンドバック	28	34	26
エキシマレーザー	–	57	81

《退院患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
1,522	1,523	1,643	1,488	1,777	1,508	1,800	1,679	1,668	1,579	1,703	1,751	19,641	1,637

4. 今後の目標

2024 年 4 年より増員し今まで以上に地域に貢献できるようにしていきたいと考えています。新規治療器具も積極的に導入し的確かつ質の高い治療が提供できるように努めます。

3）消化器内科

消化器内科　浅野　耕吉

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

1. 概要

当院内視鏡室では、消化管内視鏡検査・治療を施行しております。内視鏡適応症例に関しましては、ESD をはじめとして食道拡張術、食道・胃静脈瘤に対する硬化療法など様々な治療を積極的に行っています。

又、消化管出血などの緊急性を有する処置に関しても止血術、異物除去をはじめとして、様々な治療を行っております。

下部消化器内視鏡検査では、ポリペクトミーや内視鏡的粘膜切除術（EMR）を日帰りで行っています。一括切除できない病変もしくは、出血リスクがあるポリープに対しては、入院治療を行っています。

胆膵領域では、閉塞性黄疸や化膿性胆管炎、癌の胆管狭窄・閉塞に対し内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）を行っております。

超音波内視鏡（EUS）、FNA 関連手技（EUS － FNA）を行っています。

日本消化器内視鏡学会の推奨する日本消化器内視鏡データベースプロジェクト（JED：他施設共同研究事業）にも参加しています。

その他内視鏡室では、安全な検査・治療を行うためにスコープ・処置具の洗浄消毒への取り組みに力を入れています。

2. メンバー構成

学会認定

部長　浅野　耕吉

医長　中島　ひろみ　日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医、日本超音波医学会専門医
日本ヘリコバクター学会感染症認定医

3. 実績

内視鏡業務	
上部消化管内視鏡検査	5,302
止血術	62
EVL/EIS	13
拡張術	11
EMR・ポリペクトミー	11
ESD	53
食道・胃・十二指腸ステント	9
イレウス管（スコープ使用）	30
異物除去	14
OTSC	1
胃瘻造設	54
胃瘻交換	4
下部消化管内視鏡検査	2,688
止血術	65
拡張術	15
EMR/ ポリペクトミー	618
ESD	49
大腸ステント	30
イレウス管	17
異物除去	15
OTSC	4
小腸内視鏡検査	3

4. 今後の目標

患者様に対し、より苦痛の少ない検査、質の高い検査・治療を目指していきたいと考えております。

4）呼吸器内科

副院長　石原　英樹

1. 概要

当院にはこれまでも呼吸器内科常勤医は常に在籍状態にあったのですが、呼吸器内科として正式に標榜するようになったのは 2016 年 4 月からとなります。肺癌に関しては腫瘍内科が診療の中心になるので、当科では主に肺癌以外の呼吸器疾患（COPD、間質性肺炎など）を診療しています。それに加えて、呼吸リハビリテーションチームとして、院内の呼吸管理のコンサルト業務もおこなっています。2018 年 4 月からは濱口眞成医師が加わり、マンパワー的にも充実しつつあります。

また、呼吸器内科・人工呼吸領域での学会活動も積極的におこなっています。

2020 年以来の新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、当科と集中治療部を中心に中等症・重症患者の診療を担っています。特に ICU では、人工呼吸管理だけではなく ECMO 管理も含めた集学的治療を行っています。

2. メンバー構成

院長　　原田博雅　日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器専門医
　　日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器学会指導医・専門医
副院長　石原英樹　日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医

3. 今後の目標

現在中河内地区で呼吸器内科を標榜している病院がほとんどないのが現状です。今後これらの地域を含めた呼吸器診療の一助になれるよう努力していく所存です。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

5）腫瘍内科

腫瘍内科部長　瓜生　恭章

1. 概要

・腫瘍内科は常勤医１名、非常勤医１名による体勢が継続しています。
・血液腫瘍の診療が少なく、転院もしくは非常勤医師の洪先生に診ていただいています。
・腫瘍内科本来の臓器横断的な治療介入が難しい現状は継続しています。
・消化器外科、呼吸器外科、肝臓センター、泌尿器科の先生方に協力を得て固形癌に対する化学療法を行っております。
・当院には抗がん剤に精通したがん専門薬剤師が３名、及びがん薬物療法認定看護師２名が在籍しており、質の高いがん薬物療法を行っています。
・スタッフの育成にも力を入れており、昨年当院から初めてがん薬物療法看護師が誕生しました。
・臨床腫瘍センターでの看護業務の中で認定看護師として必要な知識の習得を目指し、積極的に認定看護師教育機関への入学支援を行っています。
・呼吸器腫瘍に関しては、全国徳洲会呼吸器部会で行っているカンファレンスを通じて、治療介入が難しい症例の検討を行っており、適正な標準治療が行えるように呼吸器外科と協力し治療を行っています。
・学会活動にも積極的に参加しており、全国の徳洲会の Real World Data を解析した、論文がアクセプトされました。今後も継続して活動を行っていく方針です。

2. メンバー構成

瓜生　恭章（部長）　　資格／日本臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医
日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医
専門分野／各種固形がん（肺がん）

洪　鉉寿（非常勤医師）　　資格／日本臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医
日本内科学会総合内科専門医
日本消化器病学会専門医、日本血液学会専門医
専門分野／各種固形がん（肺がん、大腸がん、胃がん、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など）

3. 実績

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
294	259	278	232	235	243	262	271	264	198	260	235	3,031	253

《がん化学療法施行件数（外来 2023 年）》

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
2021 年	210	211	268	264	237	279	253	247	265	248	236	270	2,988
2022 年	236	251	279	250	247	255	267	292	273	245	281	270	3,146
2023 年	216	208	218	208	210	207	199	202	188	202	201	189	2,448

4. 今後の目標

市中病院でも標準治療を行えるように今後も努力していきます。

がん薬物療法を受ける患者様が安心して加療をできる環境を維持していきます。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

6）血管透析科（ 腎不全対策・関連診療科 ）

透析センター長　申　勝

1. 概要

2023 年は、常勤医師 3 名・非常勤医師 4 名 の診療体制となっています。

また、看護師（11 名）、薬剤師（兼任 3 名）、臨床工学技士（兼任 4 名）、管理栄養士（兼任 3 名）、医事課の透析スタッフが、入院と通院を合わせて約 110 名の透析患者様の対応をさせて頂いています。

センター関連の総入院患者数は継続して増加の方向にあり、昨年のべ 1,191 例の内訳は 男：女＝ 2.0:1, 平均年齢 ; 73.0 歳 , 糖尿病有病率 ; 64.3% , 年間救急搬送率 ; 41.1%（490 件）でした。特に 75 歳以上の後期高齢者は、総入院患者数の 51.7% と半数を占め、救急搬送率 ; 48.9% と増加しました。内科系：外科系＝ 2.2：1 と、内科系入院が全体の 68.4% を占めています。2019 年末から世界的流行の 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対しては、他施設や行政との緊密な連携の上で、地域の診療体制継続と感染拡大防護に多職種で徹底して取り組んでいます。

2012 年 4 月より当院においても CAPD 外来が開設され、2023 年 12 月末までに 62 名の方が腹膜透析を開始されました。12 月末時点で PD 終了者と他施設の通院患者を除く 6 名が、当院を通院し腹膜透析を継続されています。腎移植については、専門外来の開設準備として腎移植委員会を 2021 年 10 月に立ち上げました。経過については定期的に報告して参ります。

経年的集計より透析センター関連での入院患者数と緊急透析数の増加を認めており、重症度に適合した対応をしています。

2. メンバー構成：透析センター診療担当医師

血液透析主担当：申勝（血管・透析内科）
腹膜透析主担当：森ちさこ（腎臓・免疫内科）
病棟管理主担当：玉城裕史（透析・膠原病科）
集中治療室担当：石原英樹（呼吸器内科）
循環器診療担当：福田貢（循環器内科）
糖尿病診療担当：植田秀樹（糖尿病内科）
透析室支援担当：寺川知良（泌尿器科非常勤）

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
959	859	1,015	914	950	975	946	1,060	1,023	984	1,025	1,010	11,720	977

《透析センター月別患者数》（2023 年）

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
透析患者数（月平均）	97.7	96.4	85.9	90.4	90.8	88.7	89.9	91.8	83.7	89.9	97.4	96.9	1,099.5	91.6
新入院数	110	77	98	92	86	97	108	108	78	117	110	110	1,191	99.3
新規導入数	7	2	9	4	2	6	3	2	5	3	8	5	56	4.7
CAPD開始数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	3	0.3
シャント手術数	5	14	9	13	7	6	4	3	4	2	4	10	81	6.8
PDカテ留置数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	3	0.3
死亡者数	4	6	3	4	2	4	1	3	4	2	4	3	40	3.3

注 1：透析患者数には、当院への通院患者を含みます。 新規導入数には、PD 患者も含みます。
注 2：新入院数は透析ｾﾝﾀｰに紹介された患者の総数であり、腎不全患者なども含みます。
注 3：死亡者数は、腎代替療法を行い透析患者登録されたことのある患者の総死亡数です。

《診療科別入院透析患者数（のべ人数）》（2023 年）

内科系	総合	呼吸器	循環器	消化器	肝臓	腎臓(CAPD)	膠原病ﾘｳﾏﾁ	糖尿病代謝	血管(その他)	合計
科別人数	71	106	388	26	0	154	62	4	4	815

外科系	脳神経	呼吸器	心臓血管	消化器	肝臓	泌尿器	整形(ﾘｳﾏﾁ)	眼・耳・歯	形成(末梢)	合計
科別人数	40	6	70	63	25	18	43	38	73	376

注 4：複数科にまたがる場合は、入院時の主診療科にて登録しました。

《年齢別入院分類表》

令和5年度(2023年) 八尾徳洲会総合病院 透析センター	20歳～65歳未満の入院患者（～19歳の入院なし） 293名(24.6%)	65歳～75歳未満の入院患者（前期高齢者） 282名(23.7%)	75歳以上～の入院患者（後期高齢者） 616名(51.7%)	透析センターに紹介された全ての入院患者を対象（外来 or 紹介） 1,191名(100.0%)
男女比(男:女)	3.4：1	2.1：1	1.6：1	2.0：1
平均年齢	55.7歳	70.3歳	82.5歳	73.0歳
救急搬送率	29.7%	33.3%	49.4%	41.1%
糖尿病の有病率	73.4%	67.0	59.1%	64.3%
ICU の入室率	15.7%	16.3%	13.0%	14.4%
緊急透析の有無	5.8%	4.3%	4.9%	5.0%
入院中 手術あり	32.4%	28.7%	20.5%	25.4%
入院中 カテあり	37.5%	41.1%	23.9%	31.3%
死亡率 入院時から一週間(168時間)	3.1%	4.6%	5.2%	4.5%

内 科 26
循環器内 33
消化器内 34
呼吸器内 36
腫瘍内科 37
血管透析 39
腎臓内科 43
糖尿病代謝内科 44
脳神経内 46
膠原リウ 47
小児科 48
放射診科 50
救急科 51
集中治療 54
外 科 58
整形外科 60
脳神経外 64
心臓血管心臓血セ 66
形成外科美容外科 69
呼吸器外 71
小児外科 72
歯 科歯科口腔 75
泌尿器科 78
眼 科 79
麻酔科 81
肝臓セン 83
皮膚科 88
婦人科 89
耳鼻咽喉 90
病理診断 91

《年齢血液浄化表》

令和5年度(2023年) 八尾徳洲会総合病院 透析センター	20歳～65歳未満の 入院患者 (～19歳の入院なし) 293名	65 歳～75 歳未満の 入院患者 (前期高齢者) 282名	75 歳以上の 入院患者 (後期高齢者) 616名	透析センターに 紹介された 入院患者(全体)を 対象(外来 or 紹介) 合計1,191名
緊急HD(初回時)	17	12	30	計59件
緊急CHDF(初回時)	16	14	12	計42件
CHDFの年間全件数 (緊急/ICU/術後etc.)	28	22	32	計82件(のべ633回)
エンドトキシン吸着療法 (PMX-DHP)	0	1	1	計2件(のべ2回)
血漿交換(PE)	2	1	0	計3件(のべ25回)
ビリルビン吸着療法	0	0	0	計0件(のべ0回)
LDLアフェレーシス	1	0	1	計2件(のべ6回)
血球吸着療法 (LCAP、GCAP)	1	0	0	計1件(のべ1回)

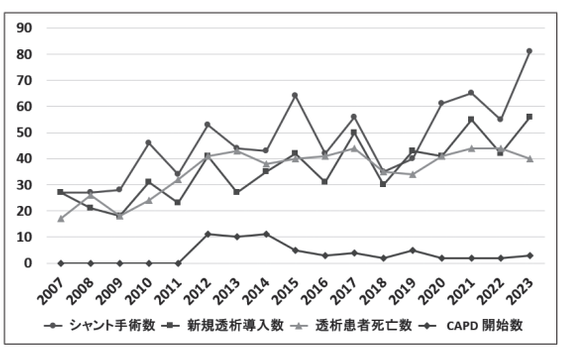
《病院全体での比較》

令和5年度(2023年) 八尾徳洲会総合病院 透析センター	病院全体での 年間入院患者 (医事課の集計より) 11,181名(100%)	病院全体の年間 救急搬送後入院 (病院全体の35.1%) 3,920名(100%)	透析センター関連の 年間入院患者 (病院全体の10.7%) 1,191名(100%)	透析センター関連の 年間救急搬送後入院 (病院全体の4.4%) 490名(100%)
男女比 (男：女)	1.25：1	1.20：1	2.00：1	1.87：1
平均年齢 (歳)	71.2歳	76.3歳	73.0歳	75.5歳
内科系入院数	5.968名 (53.4%)	2.834名 (72.3%)	815名 (68.4%)	354名 (72.2%)
外科系入院数	5,213名 (46.6%)	1,086名 (27.7%)	376名 (31.6%)	136名 (27.8%)

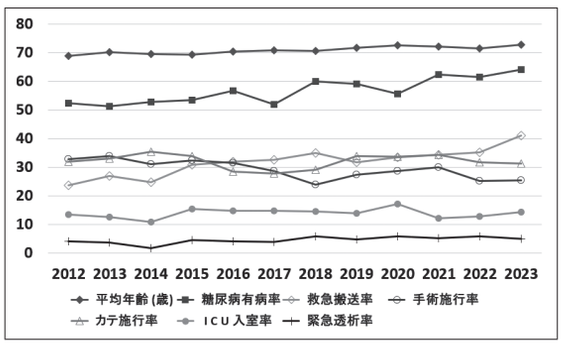
【病院救急搬送数】 年間 10,017 件 (月平均 835 件)

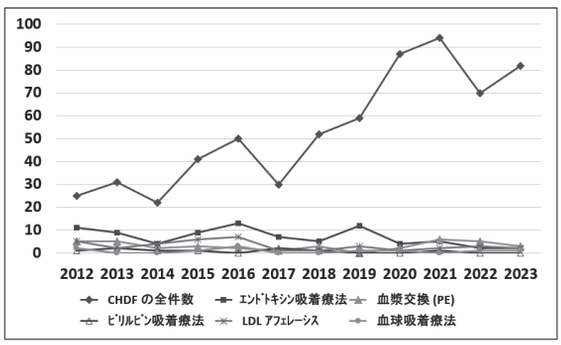
《透析年報グラフ》





《入院 - 浄化 - グラフ》





《週間当番表》

透析室 待機表	月	火	水	木	金	土
午前	申	森	玉城	寺川	申	申
午後	玉城	申	申	玉城	森	申
休日	申 （玉城）	申 （石原）	玉城 （申）	寺川 （玉城）	玉城 （申）	申 （福田）

4. 今後の目標

近隣の先生方の御指導のもと、他施設および他診療科と協力して、より高度な集学的治療および看護を提供できるように更に整備して参ります。腎移植実施に向けて徳洲会グループの湘南鎌倉総合病院と連携し、2021 年－秋－から準備を開始しています。また、地域の腎不全患者の－新規透析導入・入院加療・災害対策－の総合施設としての役割を担えるよう、スタッフ一同協力し引き続き努力していく所存です。今後とも宜しくお願い申し上げます。（ 申　勝 ）

2023 年－春－から 玉城 裕史（医師）の就任に伴い、透析室管理医師が 1 名増員となりました。若い人から高齢者までの幅広い年齢の患者様に、腎移植と腹膜透析を含めた適切な治療選択を提供して参りたいと考えています。腎不全治療の 3 本柱（移植・血液透析・腹膜透析）を基礎とし、グループ病院の特性を生かし、今後の高齢化・独居の患者様にも対応したいと思います。今後とも宜しくお願い申し上げます。（ 森　ちさこ ）

本邦では透析を行うべき疾患や対応すべき災害が年々増大しており、現在の対策は限界に近づきつつあります。八尾市周辺で急性期対応できる施設は当院を含めて一部に限定されますが、今後は他施設と連携して拡充した地域対策を行います。血液透析という治療が標準となる様に早期に実現したいと考えています。どうかご支援の程宜しくお願い申し上げます。

（ 玉城　裕史 ）

内　科 26
循環器内 33
消化器内 34
呼吸器内 36
腫瘍内科 37
血管透析 39
腎臓内科 43
糖尿病 代謝内科 44
脳神経内 46
膠原リウ 47
小児科 48
放射診科 50
救急科 51
集中治療 54
外　科 58
整形外科 60
脳神経外 64
心臓血管 心臓血セ 66
形成外科 美容外科 69
呼吸器外 71
小児外科 72
歯　科 歯科口腔 75
泌尿器科 78
眼　科 79
麻酔科 81
肝臓セン 83
皮膚科 88
婦人科 89
耳鼻咽喉 90
病理診断 91

7）腎臓内科

腎臓内科医長　森　ちさこ

1. 概要

2017 年 4 月から常勤医として働いています。2017 年 11 月より、前任の今田聰雄先生の患者様も引き継ぎ診させていただいています。腎炎、糖尿病性腎症などの腎不全を診ています。最大の特色は腹膜透析の導入・施行をしていることです。検尿異常から発見される腎炎（IgA 腎症・ANCA 関連血管炎）も診断・早期治療に尽力しています。腎炎から慢性腎不全と幅広く対応させていただいております。透析に至らないことが目標ですが、残念ながら腎不全に至った場合でも当院では療法選択をすることができます。

2. メンバー構成

森ちさこ　日本内科学会認定医・日本透析学会専門医・日本腎臓学会員
外来診察日　火曜（午前）・木曜（午後）・金曜（午前）

3. 今後の目標

近年の傾向として、糖尿病性腎症を主とした腎不全、腎硬化症の患者様が増えています。腎不全に至った場合でも、腹膜透析・血液透析・移植と３つの治療法を提案していきたいと思います。腎炎の患者様も積極的に診ております。検尿異常からの早期発見に力をいれています。腎生検による診断、ステロイド治療をしていきます。中河内地域に多い ANCA 関連血管炎も多く診させて頂いています。難病指定医ですので､医療費に関わる申請をさせていただきます。また多発性のう胞腎を積極的に診察しています。難病申請により医療費を軽減したうえで、進行抑制できるトルバプタンの認定医であるため導入が可能です（導入には 1 泊入院が必要です)。開業医の先生方には、疑わしい症例がありましたら、また腎機能障害の方がいらっしゃれば御紹介頂けると幸いです。可能な限り当日紹介も診させて頂きます。

8）糖尿病・代謝内科

糖尿病代謝内科部長　石橋　里江子

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管心臓血セ　66
形成外科美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

1. 概要

2023 年も安全な糖尿病診療を目指し、チーム内で情報を共有しながら方針を議論してきました。病棟では主に教育入院、外科系診療科における周術期の血糖マネジメント、重症低血糖や糖尿病性ケトアシドーシスなど急性合併症に対応しています。高齢化、社会的孤立などの要因で療養が難しいケースも増え、退院後のサポート構築を含めて地域との連携が一層重要となっています。

糖尿病教室は引き続き公開医療講座として毎月 2 講演ずつ行いました。感染対策を講じながら対面での講演も再開し、ハイブリッド形式に移行しました。院内イベントである『世界糖尿病デー in YAOTOKU』はコロナ禍前の形式に戻して実施することができました。情報の錯綜する時代にあって今後も皆様のお役に立てる啓発活動を続けていきたいと考えています。

2. 糖尿病ケアチーム構成メンバー　（★日本糖尿病学会専門医　○糖尿病療養指導士）

【常勤医師】　★石橋里江子　髙原良典（総合内科部長）　★植田秀樹　吉田圭佑
【診療看護師】　髙橋博之
【保健師】　○酒井菜穂子　○藤井安希子　○西村千恵　大谷康仁　牧田美奈　竹株緋那
【薬剤師】　○坂野千賀　○森田亜記　○栗野大輔　小田麻優子　清水麻理子
竹腰雄真　岡田祐奈　藤岡千裕　能勢綾夏　岩雲有海　加藤奈帆
【理学療法士】　○服部玄徳　船津和幸
【管理栄養士】　佐藤友亮　八木楓子　坂本美紀子
【臨床検査技師】　○髙津美乃里　○古賀奈実　大前裕也　戸野川始　宮原知里　上紺屋利則
【臨床心理士】　宮坂なつ花　髙橋恭子
【看護師】　西田愛希　竹内裕子
【医事課】　冨安里奈

3. 実績

1）糖尿病外来患者数

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
672	638	712	700	593	679	651	708	610	675	578	673	7,899

2）糖尿病入院担当件数　417 件 / 年　（主科 104 件含む）

3）『世界糖尿病デー　in YAOTOKU』　2023 年 11 月 14 日（日）　延べ参加者 120 名
場所：八尾徳洲会総合病院 1 階　エントランスホール
・血糖測定、血管年齢測定
・糖尿病専門医による相談コーナー
・フットケア

・個別栄養相談
・InBody、個別運動相談
・糖尿病川柳
・ポスター展示、クイズラリー

4）糖尿病教室　（公開医療講座）

場所：八尾徳洲会総合病院３階　第１・２会議室　　ハイブリッド開催

月	テーマ	担当	講師	参加人数
1月17日	糖尿病と歯周病	歯科医師	占部一彦	29
	糖尿病と腎臓	糖尿病内科医師	吉田圭佑	30
3月17日	血糖値測ってみよう、考えてみよう	薬剤師	坂野千賀	24
	小児から成人を対象とした 社会資源の活用法	医療ソーシャルワーカー	三谷勇一	21
4月21日	タイプ別！糖尿病療養のヒント ～あなたに合ったやりかたは？～	糖尿病内科医師	石橋里江子	36
	糖尿病の食事療法～基礎編～	管理栄養士	坂本美紀子	36
5月19日	糖尿病の薬について～内服編～	薬剤師	栗野大輔	32
	運動療法　総論 ～基本的知識と最近の話題～	理学療法士	服部玄徳	32
6月16日	検査データの見かた	臨床検査技師	戸野川始	33
	はじめようフットケア	保健師	西村千恵	31
7月21日	スティグマとアドボカシー	糖尿病内科医師	植田秀樹	29
	糖尿病と加齢	臨床心理士	髙橋恭子	30
9月15日	糖尿病腎症の食事療法	管理栄養士	佐藤友亮	28
	運動療法　各論 －有酸素運動について－	理学療法士	奥村葵	24
10月20日	糖尿病の薬について　～注射編～	薬剤師	栗野大輔	20
	大血管障害を防ごう	保健師	大谷康仁	20
11月17日	糖尿病と腎臓	総合内科医師	髙原良典	30
	糖尿病慢性合併症について	臨床検査技師	宮原知里	30
12月15日	糖尿病とこころ	臨床心理士	宮坂なつ花	24
	運動療法 各論 ～レジスタンス運動について～	理学療法士	船津和幸	24
			合計	563

4. 今後の目標

1) 特に１型糖尿病に関する先進医療の導入
2) 病診連携の強化
3) チーム医療に精通した後進の育成

9）脳神経内科

脳神経内科部長　辰己　新水

1. 概要

脳神経内科疾患全般を扱っております。

2. メンバー構成

常　勤：辰己　新水

非常勤：岡本　光佑

渡辺　徹也

3. 実績

主要な疾患は、下記の通りです。（辰己医師、2023 年 1 月～ 2023 年 12 月の期間の新規登録患者）

疾患カテゴリー	症例数	疾患カテゴリー	症例数
神経変性疾患	32	筋疾患	6
感染性神経疾患	14	神経筋接合部疾患	4
代謝・中毒性神経障害	14	末梢神経障害（脳神経障害を含む）	12
てんかん・けいれん	20		

4. 今後の目標

常勤医一人の体制でご迷惑をおかけするかもしれません。今後ともどうかよろしくお願いいたします。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

10）膠原病リウマチ内科

膠原病リウマチ内科　吉崎　和幸

1. 概要

当診療科は 2008 年 5 月に発足した診療科で、16 年が経過しました。内科疾患の中で、特に関節リウマチと全身性エリテマトーデスなど膠原病・リウマチ疾患を中心に診療しています。その他、血管炎症症候群やベーチェット病、免疫不全症、キャッスルマン病、更に不明熱も診療しています。診断が困難な患者様もご紹介下さい。

2. メンバー構成

本診療科は医師のみならず、薬剤師や看護師、理学療法士、そして医師事務作業補助者のチーム連携によって緻密な治療を包括的に行っています。患者様に「安心して生命をまかせられる医療」を提供できるよう日々精進しています。このため患者様は当診療科を安心し、信頼して頂いた上でご受診下さっていると考えております。

診療担当医と外来診療日

吉崎和幸（非常勤）　: 水曜日（午前 10：00 － 12：00）
八木田正人（非常勤）: 水曜日、金曜日（午前 9：00 － 12：00）
古川牧緒　　: 火曜日、木曜日（午前 9：00 － 12：00）

3. 実績

年月を経るごとに患者数が増加し、周辺医療機関にもその存在が定着しています。

膠原病リウマチ内科は、生物学的製剤治療を含めた先端医療を行っております。その結果、より高度で有効な治療を推進し、著しい治療効果が認められています。患者の満足度は高く、安全性にも十分配慮しているので、患者様のほぼ全員が安心して本院での治療を継続しています。

現在、膠原病・リウマチ診療においては、東大阪、八尾、柏原地域の中心的診療病院として活動しております。このため、大阪市内の病院あるいは大学病院に通院していた患者様が当院に受診するようになっております。

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
285	328	368	347	335	310	318	330	307	349	333	375	3,985	332

4. 今後の目標

患者様にとって安全安心の医療をご提供できるよう努めていきます。

11）小児科

小児科部長　石垣　早知子

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

1. 概要

小児科としては多職種連携と情報交換の為に月１回院内小児科委員会を開催し、種々の問題に対応し、最新の小児科情報を共有しています。また大阪府発達障がい対応登録施設に登録しています。アレルギー学会準教育施設登録施設としてもアレルギーの勉強のできる対応を心がけております。

2. メンバー構成

一般外来の他、発達とアレルギー、心身症について石垣は月曜から土曜まで外来を行い併存疾患への対応も心がけています。アレルギー学会専門医や子どもの心の相談医、ICD（感染対策）等の資格を取得し、多岐にわたる患者の診療を続け、入院患者も受けいれています。また大阪医科薬科大学より診療の援助を頂いています。月曜は松村先生（一般小児と小児腎外来と午後予防接種も担当)、木曜は新田先生、金曜は清水先生（毎週午前一般小児と小児循環器を主に第１、３金曜午後)、土曜は小武内先生（女性医師)、小児神経も土曜ほぼ毎週七里先生が担当しています。神原先生は火水の午後、木曜の夕診に主に心身症と発達心理等の予約診療を行っています。予防接種は月曜日午後と木曜夕診に行っています。金曜午後に乳児健診も行っています。小児関連では他科との交流も盛んで、特に虫垂炎疑いなどの小児外科疾患については互いに連携しています。石垣は成人アレルギー疾患についても舌下免疫療法やアレルギー相談を中心として診療を行っています。

3. 実績

コロナウイルス等感染症対策が必要とされる現状に対しては、外来レイアウトの他、感染対策に留意し、通常外来運営を維持できるよう努力しています。

入院の受け入れは肺炎など一般疾患が中心ですが、時には心身症などの疾患も入院して加療を行っています。起立性調節障害では現在点滴療法の検討が盛んに行われています。当科でもある程度対応しています。また引き続き医療だけでなく各種ケアも行っています。小児の言語発達遅滞など発達障害に対して言語聴覚士（ST）が評価および訓練を行っており、また小児心療内科として、臨床心理士がカウンセリングや心理治療を行っています。大阪府発達障がい支援施設の登録施設になったためもあり以前より成人の発達に対応しているリハビリ科とも連携しています。

小児科外来横には八尾市の委託事業でもあるモコモコ病児保育室があり、保育師とともに外来看護師が、看病できない保護者にかわって子どもたち（病児、病後児）のケアを年間 1000 人以上受け入れています。今年度は、コロナウイルス対策に留意し感染対策と受け入れ体制に工夫をしながら、できるだけ安全安心の病児保育受け入れをできるよう努力されています。そのため以前ほどは受け入れられないのですが､職員で誠心誠意対応しています。院内の看護師、医師、コメディカルの就業支援にも役立っていますが、広く開放し育児支援の役割も担っています。参加している全国病児保育協議会は広く病児のために啓蒙活動しています。

ほかに石垣は奈良リハビリテーション専門学校、小阪看護専門学校に小児科関連の講義に求めに応じて出張したりなど地域の小児科関連での活動援助を行っています。

大阪健康安全基盤研究所（旧大阪公衆衛生研究所）と府、国の感染対策の連携も取り、感染症の定点報告機関としての役割を果たしています。中河内地区として、八尾市のみならず東大阪市や柏原市とも連携しています。環境感染学会など感染症関連学会にも所属し、ICD としても感染対策室とでコロナ対応、新型インフルエンザ訓練などの院内外の感染対策に寄与しています。他に院内外の講習会で講演を行っています。徳洲会病院としても小児科部会として全国で交流し症例報告や外部からの講演会も行われています。

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
957	750	805	641	818	874	817	783	794	967	1,021	923	10,150	846

4. 今後の目標

今後も小児の心身の健康と成長に必要な小児診療を発展させ、新しい情報を　保護者様たちの為にも役立てたいと考えています。

12）放射線科（診療部）

放射線科部長　津島　寿一

1. 概要

放射線科ではCT、MRI、RI、消化管造影、マンモグラフィーと一部の単純撮影の読影。一部の消化管造影の施行、腹部四肢の血管造影とIVR、放射線治療を主に担当しています。各診療科や近隣の病院、診療所と連携し、各種画像診断、IVRや放射線治療を迅速かつ適切・正確に実施することに努めています。

2. メンバー構成

画像診断・IVR部門：常勤医5名（岩崎聖　津島寿一　兵頭公一　伊藤博文　甲川佳代子）
非常勤18名
放射線治療部門　　：常勤医1名（梶谷千香枝）　非常勤2名
上記のうち、診断専門医10名　IVR専門医2名　治療専門医3名　検診マンモグラフィー読影認定医4名（従事2名））

3. 実績

① CT、MR、RI、GIの読影件数　約39,600件／年
② IVR件数　94件／年
③放射線治療（新患人数）133人／年

4. 今後の目標

画像診断・IVR部門では、現状の常勤医のみでは不足で、常勤医の増員が不可欠でしたが、今年1月より常勤医2名が増加しています。

CTがキャノン320列に更新され、検査数がアップし、さらに昨年度中にもう1台のCTも更新され検査の増加がみられます。

放射線治療部門では、2014年1月から常勤の放射線治療専門医1名体制で行っていますが、引き続き大学からの応援と遠隔システムを利用し、安全で有効な放射線治療を各診療科と協力して遂行していきます。

日本医学放射線学会専門医修練機関に認定されており、研修医の教育にも力を入れていきたいと考えています。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

13）救急科

救急センター長　村尾　佳則

1. 概要

当院は、427 床の急性期病院として、年間 8000 ～ 9000 件の中河内地区を中心とした救急搬送を受け入れており、年々件数増加している。2023 年は 10,017 例の救急搬送を受け入れた。当院方針である「断らない医療の実践」のため､24 時間を通して対応できる体制をとっている。近隣施設より病診連携室経由で急性期疾患を紹介いただき救急搬送される場合は当科を窓口に受け入れ、積極的に初期対応を行っている。また、新型コロナ感染症が 2 類であった時には、度重なる緊急事態宣言や発熱患者の増多に対し、発熱対応エリアを作成し通常疾患患者とエリア分けして初期対応にあたった。現在、増改築中で ICU20 床、HCU30 床、感染症病床 26 床を含め 60 床が 2025 年に増える予定である。この計画では初療室に 7 床を配置しそのうち 4 床が陰圧室です。将来的に救命救急センターを目指す HCU 病棟は感染対応可能な陰圧陽圧切り替えできる個室が 12 床ある。

救急科専門医養成基幹施設に登録：八尾徳洲会総合病院は中河内地区の 2 次医療機関であるが、新型コロナ感染症が 2 類から 5 類に引き下げられたこともあり 2023 年は約 10,017 例の救急搬送を受け入れた。2023 年度より救急科専門医の専攻医募集を始めた。プログラムの特徴は、3 次医療機関である岸和田徳洲会病院、湘南鎌倉総合病院、宇治徳洲会病院、2 次医療機関として北野病院と野崎徳洲会病院を含む徳洲会グループの施設に加えて 3 次医療機関の大学病院の基幹施設として奈良県立医科大学高度救命救急センター、近畿大学病院救命救急センター、さらに国立病院機構大阪南医療センター、共愛会病院、名瀬徳洲会病院、徳之島徳洲会病院を連携、関連施設としている。

2. メンバー構成

村尾　佳則　救急センター長

救急科専門医・指導医、外科専門医・指導医、熱傷専門医、外傷専門医、社会医学系専門医・指導医、日本救急医学会功労会員、日本外傷学会名誉会員、第 32 回日本外傷学会会長（2018 年）、日本熱傷学会名誉会員、第 46 回日本熱傷学会会長（2020 年）、日本腹部救急医学会特別会員、日本臨床外科学会評議員、日本臨床救急医学会評議員・副編集委員長、日本 Acute Care Surgery 学会評議員、日本ショック学会評議員、日本災害医学会評議員、近畿外科学会特別会員、臨床研修指導者、救急科専門医プログラム統括責任者、日本 DMAT 隊員、日本 DMAT 統括

海外：ISS/SIC,IATSIC member, American Association for the Surgery of Trauma（AAST）, Shock Society（米国）member

阿部　祐子　救急総合診療部医長

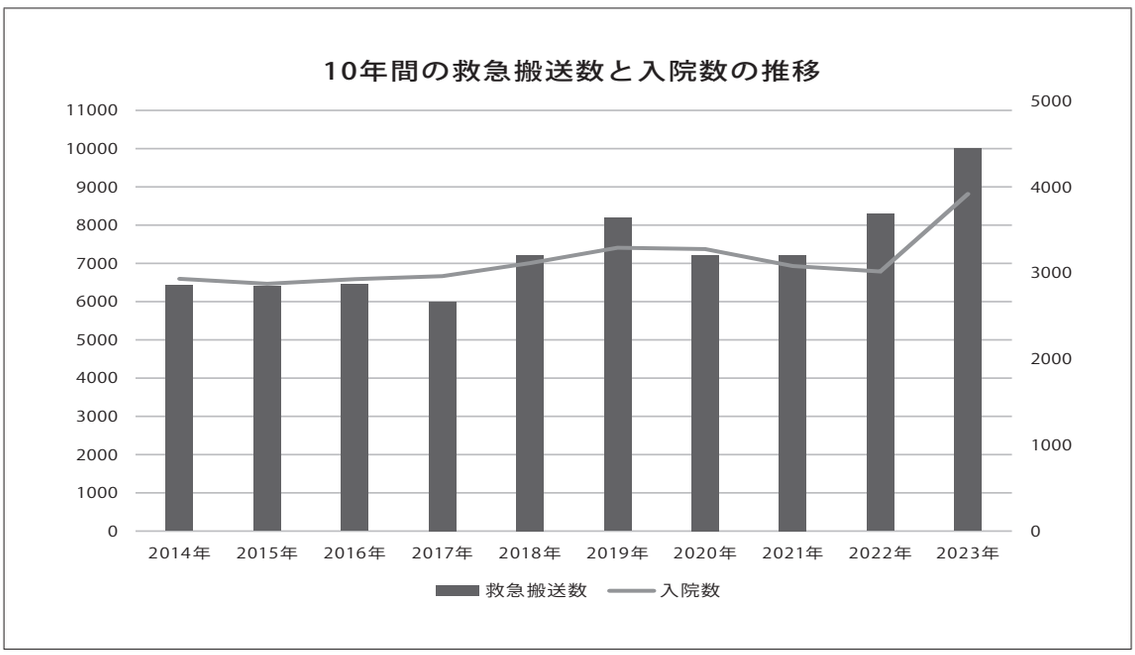
ICLS インストラクター、ABLS インストラクター

日本 DMAT 登録隊員、日本医師会認定産業医

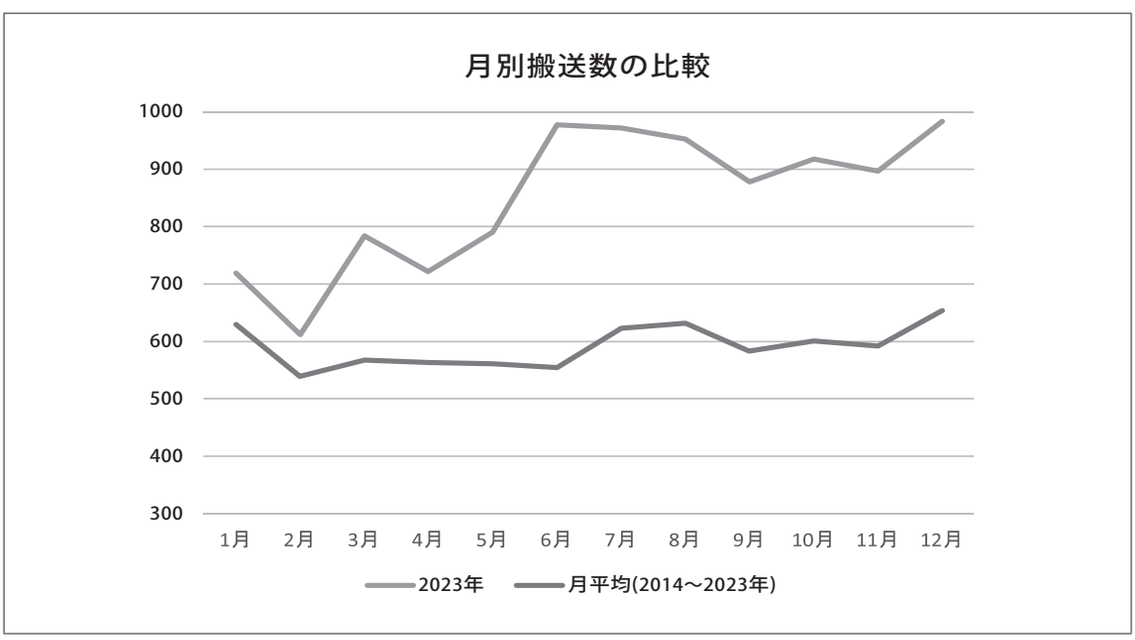
松岡　信子　救急総合診療科（救急科）兼外科医長
日本外科学会専門医、日本救急医学会専門医、JATEC インストラクター、
JPTEC プロバイダー、ITLS プロバイダー、MCLS プロバイダー、マンモグラフィー
読影認定医、緩和ケア研修会受講

3. 実績

救急搬送数は新型コロナ感染症が２類から５類に引き下げられたこともあり、７月より搬送数が増加した。コロナ病床は感染状況により縮小した。



また月別搬送数において、年々増加傾向にあり、やはり年末の搬送数が増加した。過去 10 年間の月平均数よりも大幅に増加している。



内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
搬送数	720	612	787	723	791	780	975	955	880	910	898	986	10,017
外傷搬送	182	158	238	203	207	174	233	202	184	239	230	266	2,516
紹介搬送	73	64	90	73	93	69	78	107	80	85	83	101	996
CPA搬送数	25	26	17	13	19	20	13	21	12	18	25	32	241

上記のように毎月約 10％の病診連携を通して他病院から各科への紹介救急搬送の初期対応を救急外来で行っている。

心肺停止症例は毎月約 20 例搬送されており、蘇生後低酸素脳症に対し、積極的に脳低温療法を取り入れるようにしている。

4. 今後の目標

本年も昨年同様、「断らない医療の実践」を目標に、医療ガイドラインに沿った安全、安心の医療を提供するとともに、初期研修病院として研修医、救急科専攻医の育成さらに地域のメディカルコントロール体制を充実することにより中河内地区の救急災害医療の充実に努めたい。

また年々救急搬送件数が増加傾向にあり、お断り件数を減少させるために 60 床の増床計画しており ICU,HCU, 感染症病棟を増設する予定である。

14）集中治療科

集中治療科部長　緒方　嘉隆

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

1. 概要

1）集中治療科

2022 年 10 月 4 日、厚生労働省より各都道府県知事あてに「新型コロナウイルス感染症拡大下において、集中治療に従事する医師の重要性が認識される中、地域における集中治療提供体制を適切に把握するため、「従事する診療科名等」の欄について、「集中治療科」を追加する。」と通達があった。この通達に伴い当院集中治療部は 2023 年より名称を集中治療科と改めた。

当院集中治療科は 2024 年現在 ICU 8 床で運用を行っている。

ICU のタイプとしては general ICU である。すなわち ER ICU（ 救急 ）・surgical ICU（ 外科系 ）・medical ICU（ 内科系 ）・CCU（ 循環器集中 ）としての性格をもって運用されている。ER ICU としては重症急性呼吸不全（ ARDS: 急性呼吸窮迫症候群・ILD-AE: 間質性肺疾患急性増悪 など）、敗血症性ショック、心停止後症候群、急性腎傷害（ acute on CKD: 慢性腎不全急性増悪含む ）、急性薬物中毒、重症熱中症、代謝性疾患（ 糖尿病性ケトアシドーシスなど ）などの症例が主に入室している。surgical ICU としては心臓血管外科・消化器外科・肝臓外科・脳神経外科・形成外科・呼吸器外科・口腔外科、小児外科症例が入室している。medical ICU として院内急変症例の入室がある。また当院心臓血管センターとの密接な協力の下、多数の循環器疾患患者を受け入れており CCU としての性格も色濃く担っている。

運用形式から見るといわゆる、より closed に近い semi-closed ICU であり、専従集中治療医が主に診療を担い、症例によっては主科と協力し診療を行っている。

2024 年 4 月時点で、当科に所属する専従集中治療医は 4 名であり、うち日本集中治療医学会学会認定集中治療専門医 1 名・救急科専門医 2 名で診療に当たっている（ 重複あり ）。

学会認定に関して当集中治療室は、日本集中治療医学会認定専門医研修施設、および日本専門医機構認定集中治療科専門医養成の基幹施設として指定を受け、集中治療科専門医を養成する施設として稼働している。また日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設の認定も受けており、学会事業の一つである ECMO プロジェクトに参画している。最後に、当集中治療室は特定集中治療加算 1 の指定を受けていることを標す。

2）重症新型コロナウイルス感染症と日本 ECMOnet

2020 年 4 月から現在も断続的に続いている新型コロナウイルス感染症パンデミックに関しては、その初期より大阪府の重症受入医療機関として、多数の重症症例を受入れ治療に当たり良好な成績をおさめた。現在までに多数の挿管人工呼吸管理（ 人工呼吸管理総数 140、人工呼吸離脱率 81.5% ）・ECMO（extracorporeal membrane oxygenation ）管理を行ってきている。また今回の新型コロナウイルス感染症パンデミックが始まって以来設立された日本 ECMOnet には当集中治療科より 2 名が所属し、その活動に積極的に携わっている。2021 年の第 5 波における首都東京の医療逼迫の時期には日本 ECMOnet の活動に協力、現地入りして東京の都立病院支援を行った。そして部長緒方は現在、日本 ECMOnet 大阪・奈良・和歌山エリアコーディネータの任を負っている。その関連で当 ICU は ECMO センターとしての性格も有する。他院

からのECMO導入後患者の搬送受入、またECMO導入目的で他院よりの患者受入も行っている。なお2020年4月以降、当科において管理行ったECMO総数は94（ V-V 31, V-A 20, ECPR 40, hybrid 3, central 1 ）である。

3）心臓血管センター

当院心臓血管センターは積極的に重症循環器疾患の受入を行っている。センター所属のメンバーと密接に協力し診療に当たっている。MCS（ mechanical cardiac support: 機械的循環補助 : V-A ECMO・ECPR・Impella・IABP ）症例の管理も行っている。

4）ICU・CCU増床

2025年度にICUは増床される予定である。現在の8床から20床（ うちCCU 10床 ）となる。

5）臨床試験、症例集積事業への参画

当集中治療科は全国の大学病院を中心に行われている臨床試験、学会主導の症例集積事業にも積極的に参加している。

現在参加している主なものは以下の通りである。内容詳細に関しては割愛する

・JIPAD（ 日本集中治療医学会 ）
・JPICS（ 日本集中治療医学会 ）
・R-CAST study（ 岡山大学など ）
・Lung stress mapping（ 大阪大学など ）
・SAVER Express study（ 広島大学など ）
・Liberation study（ 東京大学・広島大学など ）

6）2023年1月～12月の入室患者（ JIPADより抽出 ）

入室の総患者数：400
在室16日以上の長期在室患者数：18
年間延べ在室日数：2168

・治療内容

人工呼吸器使用患者数：283（ 70.8% ）
血液浄化法実施患者数：110（ 27.5% ）
ECMO実施患者数：23（ 5.8% ）（ 当科集積 ）

・重症度評価

APACHEII 中央値 17　平均値 18.9
APACHEIII 中央値 67　平均値 75.6
SAPSII 中央値 41　平均値 45.3
SOFA 中央値 8　平均値 8.9

・アウトカム

ICU 実死亡率 12.3　病院内実死亡率 24.5

予測死亡率 32.5（予測死亡率に用いたスコア APACHEII ）

2. メンバー構成

・部長

緒方嘉隆（ 平成 7 年 大阪大学医学部卒業 ）

専門医など

医学博士

日本救急医学会・救急科専門医

日本集中治療医学会・評議員、学会認定集中治療専門医、日本専門医機構認定・集中治療科指導医

日本呼吸療法医学会・呼吸療法専門医、代議員、機関誌「呼吸療法」編集委員会委員、ECMO プロジェクト委員会委員

日本内科学会・認定内科医・総合内科専門医

日本呼吸器学会・呼吸器専門医・指導医

日本呼吸器内視鏡学会・気管支鏡専門医

日本 ECMOnet 大阪・奈良・和歌山エリアコーディネータ

Euro ELSO adult ECMO course in Karolinska 修了

所属学会

日本救急医学会・日本集中治療医学会・日本呼吸療法医学会・日本心肺補助学会・日本内科学会・日本呼吸器学会・日本呼吸器内視鏡学会

・医長

濵口眞成（ 平成 20 年 大阪大学医学部卒業 ）

専門医など

日本救急医学会・救急科専門医

日本内科学会・認定内科医

日本 ECMOnet 協力者

・医員

石井真梨子（ 平成 22 年大阪医科大学（ 現大阪医科薬科大学 ）医学部卒業 ）

専門医など

日本内科学会・認定内科医

・医員

山田知樹（ 平成 25 年大阪大学医学部卒業 ）

専門医など

日本内科学会・認定内科医・総合内科専門医

日本呼吸器学会・呼吸器専門医

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

3. 実績

《病棟別、月別一日平均入院患者数》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
ICU	6	6	5	6	7	5	6	7	6	7	7	7	76	6
HCU	15	14	14	15	15	15	16	16	17	17	16	17	188	16

15）外　科

外科部長　村上　修

1. 概要

コロナも明け、以前の日常生活も戻りつつ当科は、虫垂切除や胆嚢摘出を初め緊急手術など多く鏡視下手術を積極的に行ってきました。高齢化社会の中で基礎疾患のあるリスクの高い悪性腫瘍の患者が増加してきています。低侵襲治療としてロボット支援手術を導入、手術合併症対策、緩和ケア、化学療法等含めた個別化医療をすすめてきました。地域中核病院として社会への貢献､手術件数はやや増加傾向となっております。外科医師数も増員してきたことにより、厚みのある外科診療ができるようになってきました。常勤医が不在の徳之島徳洲会病院外科の応援を、2019 年より当病院で継続しております。外科系他科とも連携して、教育にも力を入れ個人とチームの更なるレベルアップを進めていきたいと思います。

2. メンバー構成

村上　修　（部長）／日本外科学会専門医
遠藤　幸丈（部長）／日本外科学会専門医
豊田　亮　（医長）／日本外科学会専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医、
ダヴィンチサージカルシステム術者資格認定
垣本　佳士（医長）／日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医・指導医、
日本がん治療認定医療機構認定医
大田　修平（医長）／日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、
日本消化器内視鏡学会専門医、日本がん治療認定医療機構認定医、
ダヴィンチサージカルシステム術者資格認定、
ACLS・BLS プロバイダー、Diploma in Tropical Medicine
松岡　信子（医長）／日本外科学会専門医、日本救急医学会専門医、JATEC インストラクター、
JPTEC プロバイダー、ITLS プロバイダー、MCLS プロバイダー
堤　綾乃　（医長）／日本外科学会専門医、日本肝臓学会専門医、日本がん治療認定医療機構認定医
服部　彬　／日本外科学会専門医
小池　廣人　／日本外科学会専門医、ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定
大津　周　／日本外科学会専門医
森本　大樹（専攻医）

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

3. 実績

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
1,287	1,221	1,373	1,306	1,365	1,329	1,332	1,281	1,293	1,357	1,210	1,305	15,659	1,305

4. 今後の目標

患者の利益のためQOL向上のために正しい手術、周術期管理を丁寧に行っていきます。そして、救急疾患をはじめ癌の包括的な治療まで地域医療の充実のために外科医としての責務を果たしていきます。

また、個々に成長することも目標とし、学会活動も積極的に行っていきます。

16）整形外科

整形外科部長　當麻　俊彦

1. 概要

スタッフ 4 名で日々の整形外科診療にあたっております。外来は午前診が毎日、夕診は週 2 日（火・木）の 2 診体制で行っております。整形外科当直を行い、救急診療科と連携して 365 日 24 時間体制で整形外科救急疾患の受け入れを、また、麻酔科の協力を得て緊急手術の受け入れ態勢を整えております。入院されました患者様は 44 床の整形外科病棟（6 階西）で治療にあたっております。

スタッフ人員減にともないパワーダウンは否めませんが、手術件数は 2023 年は年間 1049 件でした。骨折・外傷疾患の手術が多く、中でも高齢者の骨折手術が多くみられ、合併症を持つ患者様もできるだけ受傷前の状態に回復できるように院内他科、および近隣の回復期リハビリ病院様の協力も得て手術治療を行っております。また、人工関節手術は年間 40 例（股関節 16 例、膝関節 24 例）、脊椎外科手術は 119 例の手術をこなし、手外科症例は 254 例と安定した成績をあげております。

また､患者様のニーズに応えるべく専門外来も開設しております。長谷川が骨粗鬆症外来(毎週木曜日 10:00 ～ 12:00）を、當麻は脊椎外来（毎週木曜日 10:00 ～ 12:00、予約制）を、土肥は手の外科・四肢外傷外来（毎週月曜日 14:00 ～ 16:00、予約制）を担当しております。

地域の基幹病院として外傷のほかに変性疾患等への対応に力を入れるだけでなく、研修会開催等にて近隣整形外科病院・クリニックの先生方との交流を深める機会を設けて病診連携機能の強化を図っております。また、公開医療講座、健康祭等にて整形外科疾患の治療・予防に関する情報を地域の方々に発信しております。

2. メンバー構成

顧問	長谷川　潔	専門：人工関節外科、骨粗鬆症
診療部長	當麻　俊彦	専門：脊椎外科、災害医療
医長	土肥　義浩	専門：手外科
医長	三木　秀賢	専門：人工関節外科

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
2,987	2,735	3,198	2,886	3,091	2,998	3,039	2,980	2,917	2,979	2,765	2,840	35,415	2,951

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

《手術件数》

分野	各手術	コメント	件数
脊椎 1	1 頚椎後方	形成術、除圧術、ヘルニア摘出術	13
		固定	2
	2 頚椎前方	除圧	2
		固定	4
	3 胸腰椎後方	形成術、除圧術、ヘルニア摘出術	49
		固定（椎体間固定、後側方固定）	31
	4 胸腰椎前方	除圧	0
		固定	0
	5 胸腰椎（前方＋後方）	前方+後方同時手術	0
	6 脊椎腫瘍手術		0
	7 脊椎外傷手術		0
	8 抜鋼術		7
	9 その他の手術（側方経路椎体間固定含む）	BKP、感染など	10
合計			119
骨盤 2	1 骨盤骨折観血的整復固定術		1
	2 抜鋼術		0
	3 その他の手術		0
合計			1
股関節，大腿骨 3	1 大腿骨頸部骨折 観血的整復固定術	内側骨折・転子間骨折など	44
	2 大腿骨頸部骨折 人工骨頭置換術	人工骨頭	74
	3 大腿骨骨幹部骨折観血的整復固定術		126
	4 人工股関節置換術（初回 THA）	初回例です	16
	5 人工関節・骨接合材料の抜去病巣郭清術	病巣郭清	1
	6 人工股関節置換術（再置換術）	再置換例です	0
	7 臼蓋形成術（Shelf, Chiari, RAO など）		0
	8		0
	9 小児股関節脱臼手術		0
	10 抜鋼術		5
	11 その他の手術		4
合計			270
膝関節，下腿骨 4	1 膝関節周辺骨折（膝蓋骨も含む）	膝蓋骨骨折	17
	2 下腿骨骨折観血的手術		24
	3 人工膝関節置換術（初回 TKA）	初回例です	24
	4 人工膝関節置換術（再置換術）	再置換例です	0
	5 人工関節・骨接合材料の抜去病巣郭清術	病巣郭清	3
	6 関節鏡（簡単なもの）	検査を主体とするもの	1
	7 関節鏡（複雑なもの）	半月板・滑膜切除など	9
	8 靭帯再建術（鏡下も含む）	陳旧例に対する再建術	0
	9 高位脛骨骨切り術		0
	10 抜鋼術		24
	11 その他の手術		3
合計			105
足関節，足部 5	1 足関節周辺骨折観血的整復固定術	踵骨骨折も含む	30
	2 足趾骨折観血的整復固定術		3
	3 人工足関節置換術		0
	4 足関節固定術		0
	5 足関節滑膜切除術		0
	6 アキレス腱縫合術		10
	7 足関節周辺靱帯縫合，再建術		1
	8 外反母趾手術		1
	9 足趾関節形成術	(外反母趾を除く)	0
	10 先天奇形手術		0

分野	各手術	コメント	件数
	11 内反足手術		0
	12 抜鋼術		11
	13 その他の手術		0
合計			56
鎖骨，肩関節 6 上腕	1 鎖骨・肩鎖関節周辺外傷に関する手術	骨折と靱帯損傷の修復手術	32
	2 上腕骨頚部骨折観血的整復固定術	骨接合術	10
	3 上腕骨骨折観血的整復固定術	頚部骨折以外の症例	20
	4 人工肩関節置換術		0
	5 肩板断裂手術		1
	6 反復性脱臼手術		0
	7 抜鋼術		42
	8 その他の手術		6
合計			111
肘関節，前腕 7	1 肘関節周辺骨折観血的整復固定術	Montegia 骨折を含む	21
	2 前腕骨骨折観血的整復固定術		8
	3 肘関節滑膜切除術，関節形成術		8
	4 人工肘関節置換術		0
	5 抜鋼術		6
	6 その他の手術		3
合計			46
手関節，手 8	1 手関節周辺の観血的整復固定術	ｺｰﾚｽ骨折，手根骨骨折を含む	73
	2 手指の骨折・靱帯損傷手術	骨折・靱帯手術	46
	3 手関節滑膜切除術，関節受動・形成術	手根骨部分固定も含む	8
	4 指関節滑膜切除術，関節受動・形成術		12
	5 腱鞘切開術	バネ指，デケルバンなど	44
	6 腱縫合術・移植・移行・腱剥離術	腱の手術	14
	7 重度外傷手術	再接着含む	0
	8 抜鋼術		42
	9 その他の手術		15
合計			254
神経の手術 9	1 尺骨神経剥離術（前方移行，King 等）		6
	2 手根管解放術（正中神経剥離術）		35
	3 梨状筋症候群手術		0
	4 その他 剥離，縫合，移植（上肢）		8
	5 その他 剥離，縫合，移植（下肢）		0
合計			49
腫瘍の手術 10	1 骨腫瘍 良性　四肢		0
	2 骨腫瘍 悪性　四肢		0
	3 骨腫瘍 良性　脊椎・骨盤・躯幹		0
	4 骨腫瘍 悪性　脊椎・骨盤・躯幹		1
	5 骨腫瘍生検術		3
	6 軟部腫瘍 良性　四肢		29
	7 軟部腫瘍 悪性　四肢		0
	8 軟部腫瘍 良性　脊髄		0
	9 軟部腫瘍 悪性　脊髄		0
	10 軟部腫瘍生検術		0
合計			33
筋性斜頸 11	1 腱切り術		0
植皮，移植 12	1 複合組織移植，遊離皮弁		0
	2 有茎皮弁		0
	3 遊離植皮		3
四肢切断術 13	1 上肢	手指を除く	0
	2 手指		1

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

分野	各手術	コメント	件数
	3 下肢	足趾を除く	0
	4 足趾		0
	5 その他の部位		0
その他の手術 14	1 上記に分類されない手術		1
手術件数			1,049

4. 今後の目標

地域の基幹病院として外傷のほかに変性疾患等への対応に力をいれるだけでなく、研修会開催等にて近隣整形外科病院・クリニックの先生方との交流を深める機会を設けて病診連携機能の強化を図って参ります。

17）脳神経外科

脳神経外科部長　吉村　政樹

1. 概要

われわれ脳神経外科は脳および脊髄神経を守ることを目的としています。突然の麻痺や呂律障害で発症する脳卒中の方の救急対応をはじめ、顔や手足の痛み・しびれ感や、ふらつきなどの症状がおありの方に対して、脳から脊椎脊髄疾患を想定した診断と治療を提供します。

脳卒中では、ホットライン対応により、急性期脳卒中の受け入れを 24 時間体勢で行なっています。一次脳卒中センターとして、超急性期血行再開通療法（t-PA 静注療法および血栓回収療法）を積極的に行ない、以前は寝たきりになっていたような脳梗塞でも、歩いて帰ることができる方が増えています。脳動脈瘤や血管狭窄症に対しても、近年では低侵襲治療としての血管内治療へ移行し、外科治療と同等の成績で入院期間の短縮が得られています。

高難度な頭蓋底腫瘍手術や下垂体腺腫など、当院としては希少な疾患の手術では、大阪公立大学脳神経外科と連携し、共同で対応できるよう体制を整えています。

脊椎疾患においては、顕微鏡手術による神経への愛護的手技を行なうと共に、筋組織へのダメージが少ない低侵襲手術により、神経機能回復と筋運動機能温存の両立を目指しています。2018 年からは最小侵襲手技である全内視鏡下手術（FESS）を開始し、当科の特徴となっています。若年者の腰椎ヘルニアや、高齢者の椎間孔狭窄などに適応し、ピンポイントで神経への圧迫を解除します。創は 1cm 弱で、痛みが少なく、入院期間の短縮（平均 4 日間）にもつながっています。

2. メンバー構成

吉村　政樹（部長）	日本脳神経外科学会専門医・指導医、日本脊椎脊髄外科専門医、日本脊髄外科学会認定医、日本脊髄外科学会脊髄内視鏡下手術技術認定医、日本脳卒中学会専門医、日本脳卒中の外科学会技術認定医、日本神経内視鏡学会技術認定医
坂本　竜司（医員）	日本脳神経外科学会専門医、脳血栓回収療法実施医
高　　沙野（医院）	日本脳神経外科学会専門医
小林　和貴（医員）	日本脳神経外科学会専修医

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
950	960	1,130	957	1,033	1,196	939	984	1,014	1,011	1,013	956	12,143	1,012

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

《入院患者数》 825 例（2023 年）

《手術件数》 2023 年 1 月～ 12 月

術式	件数	術式	件数
頭部疾患関連外科手術	126	脊椎疾患手術（合計）	54
動脈瘤クリッピング手術	1	頸椎前方除圧術	17
脳内血腫除去術（開頭＋内視鏡）	11	頸椎後方除圧術・固定術	17
脳動静脈奇形摘出手術	0	胸腰椎後方除圧術・固定術	9
頸動脈内膜剥離術，脳血管バイパス手術	3	全内視鏡下手術（FESS）	9
脳腫瘍摘出手術	7	経皮的椎体形成術	2
脳腫瘍生検術	1		
頭部外傷　開頭術	6	血管内手術（合計）	112
慢性硬膜下血腫穿頭ドレナージ術	66	急性期再開通療法	55
水頭症手術	21	脳動脈瘤塞栓術	20
		頸部血管形成術（CAS）	30
その他	10	動脈塞栓術	7
		合計	292

4. 今後の目標

適切な診断と、適切な治療適応の判断を徹底し、それぞれの患者様に最も適したやさしい治療をモットーに診療します。当院の最大の特徴である急性期脳卒中治療に関しては、血管内治療環境や CT 装置の更新による診断能力向上などハード面の充実とともに、ER や放射線科、ME スタッフのご協力の下、安定した治療サービスの提供が行えるようになっております。今後は院内全スタッフへの啓蒙を行うことで、盲点になりがちな「院内発症」の脳卒中診療のスピードアップを図りたいと思います。　脳卒中を疑えば、主治医スキップで脳外科院内ホットライン（PHS　3151）へ！！

脊椎脊髄疾患については、脳神経疾患との鑑別を含めた診断、脊椎アライメントを重視した姿勢管理、筋組織へのダメージを最小限に抑えた低侵襲手術を軸に診療を行って参ります。特に当科の特徴である FESS は、今後ますます需要が高まると考えられます。

18）心臓血管外科・心臓血管センター

心臓血管外科　部長・心臓血管センター長　薦岡　成年

1. 概要

現体制になり5年目、また心臓血管センター開設から3年目になりました。メンバーは11月に内田部長が異動となったため現在は薦岡以下3名となっています。日頃から循環器科と密な関係を維持し、4月から当センターのHot Lineを稼働させ始めました。また手術部をはじめ集中治療部およびER/ICU/HCU・病棟・リハビリ・薬剤部とも良好な連携を図り、循環器系の地域医療に貢献することができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。より一層の連携を深め、さらに地域医療に微力ながら貢献し続けたと考えています。

2023年の手術件数は、ステントグラフト手術72例、開心術112例、総手術件数357件と、昨年とほぼ同数を維持しました。

施設認定

- ●三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
- ●日本ステントグラフト実施基準管理委員会　腹部・胸部ステントグラフト実施施設
- ●日本脈管学会認定研修指定施設
- ● IMPELLA補助循環用ポンプカテーテル実施施設
- ●下肢静脈瘤血管内治療実施委員会認定実施施設

2. メンバー構成

部　　長：薦岡成年　2003年防衛医科大学卒業
　　外科専門医、心臓血管外科専門医・修練指導医、循環器専門医、脈管専門医、
　　日本血管外科学会認定血管内治療医、胸部・腹部ステントグラフト指導医、
　　TAVI指導医

医　　長：小島三郎　2012年広島大学卒業
　　外科専門医・心臓血管外科専門医（2023年取得）

医　　員：春日健介2016年滋賀医大卒業
　　外科専門医（2022年取得）、心臓血管外科専門医（2022年取得）

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

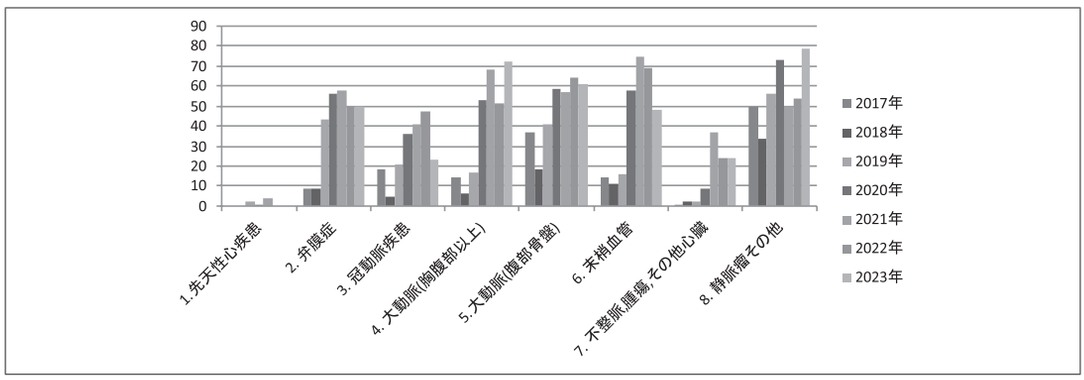
3. 実績

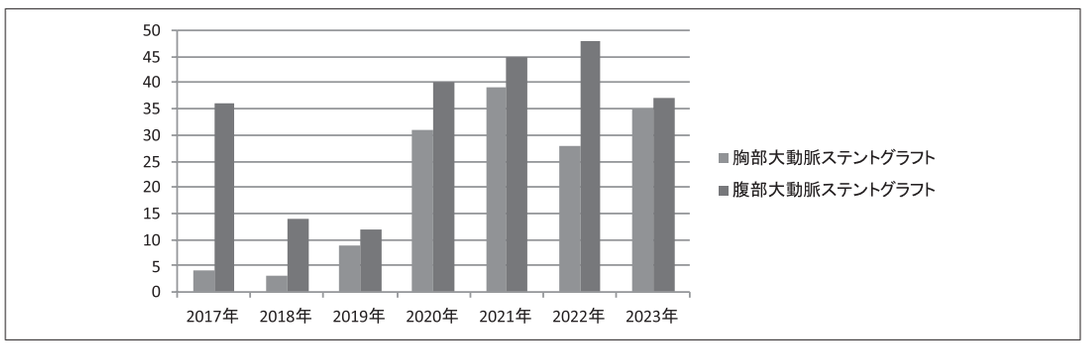
手術件数

年	腹部ステントグラフト	胸部ステントグラフト	計
2010	22	8	30
2011	43	31	74
2012	24	12	36
2013	40	7	47
2014	23	10	33
2015	31	5	36
2016	26	7	33
2017	36	4	40
2018	14	3	17
2019	12	9	21
2020	40	31	71
2021	45	39	84
2022	48	28	76
2023	35	37	72
合計	439	231	670

全心臓血管手術（重複例あり）	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
1. 先天性心疾患			2	1	4		
2. 弁膜症	9	9	43	56	58	50	50
3. 冠動脈疾患	18	5	21	36	41	47	23
4. 大動脈（胸腹部以上）	14	6	17	53	68	51	72
5. 大動脈（腹部骨盤）	37	18	41	59	57	64	61
6. 末梢血管	14	11	16	58	75	69	48
7. 不整脈 , 腫瘍 , その他心臓	1	2	2	9	37	24	24
8. 静脈瘤その他	50	34	56	73	50	54	79
合計件数	143	85	198	345	390	359	357
	2018 年 9 月から新体制						
主要心臓大動脈手術（重複例あり）	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
1. 先天性心疾患			2	1	4		
2. 弁膜症	9	9	43	56	58	50	50
3. 冠動脈疾患	18	5	21	37	41	47	23
4. 大動脈（胸腹部以上）	14	6	17	53	68	51	72
5. 不整脈、腫瘍、その他心臓		2	2	9	37	24	24
合計件数	41	22	85	156	208	172	169

ステントグラフト手術	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
胸部大動脈ステントグラフト	4	3	9	31	39	28	35
腹部大動脈ステントグラフト	36	14	12	40	45	48	37
経カテーテル的大動脈弁置換術	0	0	0	0	0	0	0
合計件数	40	17	21	71	84	76	72





・弁膜症手術：目標であったTAVI認定施設の取得は専門医の人数の関係で、今年も残念ながら達成できなかった。そのため、高齢者の大動脈弁膜症カテーテル治療は、薦岡医師が岸和田徳洲会病院に出張手術する形を継続している。2023年の当院での弁膜症手術数は概ね横ばいとなった。
・冠動脈バイパス術：2023年は前年と比較して減少した。主たる要因は、循環器科の医師数増加及びPCI件数の増加だと考えている。
・急性A型大動脈解離：心臓血管センターの開設に伴い、急性大動脈解離の院外紹介が緩やかではあるが増加している。手術は、ほぼ全例若手医師が執刀し、良好な成績を残せている。ただコロナの影響で、病床が満床であったり、ERでの対応不可や手術室満室などの理由で、緊急を断る件数もあったことが課題として残った。
・ステントグラフト：suture deviceを用いた経皮的ステントグラフト手術を標準術式にすることで、負担の少ない動脈瘤治療を継続している。また以前から薦岡部長が主導で行っている、解離性動脈瘤に対する血管内治療は良好な治療成績を維持している。その結果をAATS（アメリカ胸部外科学会）で発表する機会を得ることができた。また単純なステント-グラフト手術の多くは若手医師が執刀した。
・末梢動脈：ほぼ全例若手医師が執刀した。また下肢静脈瘤の血管内治療。

4. 今後の目標

心臓血管外科スタッフ３名（うち心臓血管外科専門医３名、外科専門医３名）となり、循環器科の人数も増えたため、本年度こそはTAVI（カテーテルによる大動脈弁置換術）の施設認定を取得したいと考えています。心臓外科的には若手の増員を目指し、また循環器科、コメディカルと共同し、病診連携にさらに力を注ぎ、中河内地区の循環器系での地域医療に貢献したいと考えていますので、本年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

19）形成外科・美容外科

形成外科・美容外科部長　綾部　忍

1. 概要

当科は、常勤 5 名で診療しています。2008 年より日本形成外科学会認定施設、現在は大阪公立大学形成外科の専門研修連携施設となっています。

当科の特徴としては「下肢救済治療」が挙げられます。

2009 年に米国足病医と連携し下肢切断を防ぐことを目的とした「創傷ケアセンター」を開設し、現在では日本で最も治療件数の多い施設となりました。閉塞性動脈硬化症に伴う下肢創傷の治療に力を入れており、distal bypass 術（足首付近までのバイパス術）を含めた血行再建も形成外科で積極的に行っています。血管内治療（カテーテル治療）は循環器内科で行っており、最近では足首より末梢まで血管を拡張できるようになりました。術後の潰瘍や創傷治療には積極的に陰圧閉鎖療法（NPWT）や赤外線療法を取り入れることで、より早期の離床・退院を可能にしています。

当科では装具療法にも力を入れています。他院で数回にわたる手術を受けたにもかかわらず治癒しない潰瘍でも適切なフットウェアを装着することで治癒に至る場合もあります。糖尿病や透析をされている患者様では複数の施設で連携して治療を行うのが一般的ですが、当院では関連他科の協力の結果すべての治療を行うことができ、このような施設は全国的にもほとんど見られません。

2015 年から、日本であまり行われていない「糖尿病足変形（シャルコー足など）に対する Surgical Offloading」を開始しました。足の変形に対して装具療法を行いますが、それにもかかわらず潰瘍形成を繰り返してしまう患者様に変形を矯正する手術を行うことで良好な結果を得ています。

読売新聞社より発売された「病院の実力 2014」では、血流の回復と組み合わせて傷の治療を行った患者数が全国 3 位となっており、最近では大阪府外（滋賀・三重・奈良・兵庫・和歌山）からもご紹介いただけるようになりました。糖尿病・透析患者様も多数受診され、他院で足を切断するように言われた方も歩いて帰っていただけるようチーム一丸となり治療しています。

顔面の皮膚癌、特に基底細胞癌の治療では「modified dermis graft 法」で皮膚欠損部の再建を行っています。2014 年に当院が初めて報告した方法で、周囲に新たな瘢痕を残さないことが特徴で整容的に優れており、自身で論文を検索し関東からも来院されるようになりました。

眼窩底骨折の手術では皮膚に傷を残さない「経結膜切開法」を採用しています。

2011 年より「美容外科」も開設しました。しみ・しわ・たるみ・脱毛のレーザー治療を行っています（自費診療）。

手術件数は大学病院などと比較すると多くはありませんが、患者様一人一人に対し丁寧で質の高い治療を行うよう心掛けています。

また当院は、大阪公立大学付属病院の関連病院として運営しているため、大学病院及び大学関連病院と連携をはかり、患者様にとって最良の医療を提供することが可能となっています。

2. メンバー構成

綾部忍・森川周至・野村麻衣・塚原麻理奈・築山隆弘の 5 名で診療を行っています。

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
516	474	598	518	614	591	585	585	593	626	588	592	6,880	573

【2023 年度　形成外科　年間の疾患大分類別手術手技数】

集計期間　2023 年 1 月 1 日～ 2023 年 12 月 31 日

形成外科　新患者数　2,446 名

形成外科　入院患者数　219 名

疾患大分類手技数	入院			外来			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	21	2	11	2	9	65	110
先天異常	4	0	0	0	0	8	12
腫瘍	25	0	13	1	4	459	502
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	4	0	1	0	1	25	31
難治性潰瘍	84	44	57	0	0	13	198
炎症・変性疾患	10	1	19	0	0	41	71
美容（手術）	0	0	0	0	0	0	0
その他	2	0	60	0	0	65	127
Extra レーザー治療	0	0	0	0	0	0	0
計	150	47	161	3	14	676	1,051

4. 今後の目標

一般形成外科治療に加え、当科の特徴である下肢救済治療の分野でより高い専門性を目指し、地域貢献できればと考えています。引き続き学会発表や誌上発表も積極的に行っていきます。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

20）呼吸器外科

呼吸器外科部長　市橋　良夫

1. 概要

原発性肺癌、転移性肺癌、縦隔腫瘍、気胸、膿胸などの外科的治療を基本として治療を行っている。胸腔鏡を用いて安全で低侵襲な手術を行い、患者様に寄り添う治療を心がけている。

2. メンバー構成

市橋　良夫（常勤）　日本外科学会専門医
呼吸器外科専門医合同委員会　呼吸器外科専門医

武田　翔（常勤）　日本外科学会専門医

花岡　伸治（非常勤）　大阪医科大学附属病院　特任教授　呼吸器外科科長
呼吸器外科専門医合同委員会　呼吸器外科専門医・指導医・代議員
日本肺癌学会評議員

佐藤　澄（非常勤）　大阪医科大学附属病院　講師
日本外科学会専門医・指導医
呼吸器外科専門医合同委員会　呼吸器外科専門医

3. 実績

2023 年の呼吸器外科全身麻酔手術症例は 123 例（肺葉切除　40 例、ロボット手術 13 例）

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
204	208	247	196	197	217	203	238	244	257	219	220	2,650	221

4. 今後の目標

2023 年 10 月より呼吸器外科常勤 2 人体制となり外科的治療適応の拡大を目指し、新規医療技術にも積極的に携わっていく。

昨年より手術支援ロボット（da-Vinci）、単孔式解剖学的肺葉切除術の件数拡大を目指す。

21）小児外科

小児外科部長　木村　拓也

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管心臓血セ　66
形成外科美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

1. 概要

今年の目玉は、肥厚性幽門狭窄症（生後 30 日前後）も腹腔鏡手術を導入し、安全に 2 例で来ており、早期に退院しています。

2023 年は当院で小児外科開設後、13 年目となりました。年間の手術数から考えると、約 1500 名程度の小児が当院で、小児の全身麻酔、手術を施行したこととなります。この 13 年間を振り返りますと、様々な症例を経験し、また無事に治療ができて、大きな合併症なく、過ごせたことに病院関係者、小児外科スタッフ、コメディカルに感謝し、また近隣の開業医からも信頼を失うことなく、患児を紹介していただけたことに深謝いたします。

当院は 5 年前より日本小児外科学会の教育関連施設（大阪大学小児成育外科学教室が母体）として認定され、若手の外科医が専門医取得を目指せる環境となりました。当院外科は新たな専門医制度のもと、基幹施設として認定されています。それに伴い、若い人材も増えて、指導体制を整えております。また当科では、2 年前より 3 人体制となり、小児外科領域の救急症例も引き続き積極的に受け入れていきたいと考えております。

どうしても少子高齢化の社会で、小児の症例が減少傾向にありますが、新たに小児医療チームとして、小児科、小児外科で活動できるように準備したいと思います。

小児医療を担う次世代が育つように、またそれに伴い病棟には子供たちの笑顔があふれるように、安全に標準医療が提供できるように頑張っていきたいと思います。

2. メンバー構成

部長：木村拓也（平成 7 年）

資格：日本外科学会認定医、専門医、指導医、日本小児外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、指導医、日本総合診療医学会認定医、日本臨床栄養代謝学会認定医、日本肝臓学会認定肝臓専門医、指導医、日本移植学会認定医、日本肝胆膵外科学会評議員、日本内視鏡外科学会評議員、日本病態栄養学会評議員、日本臨床栄養代謝学会評議員、近畿外科学会評議員、近畿小児外科学会評議員、ICT ドクター（ICD）、外科系プログラム責任者、NST 委員長、JCI 委員長、臨床研修指導者、臨床研修プログラム責任者、ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定、ダヴィンチサージカルシステム術者資格認定

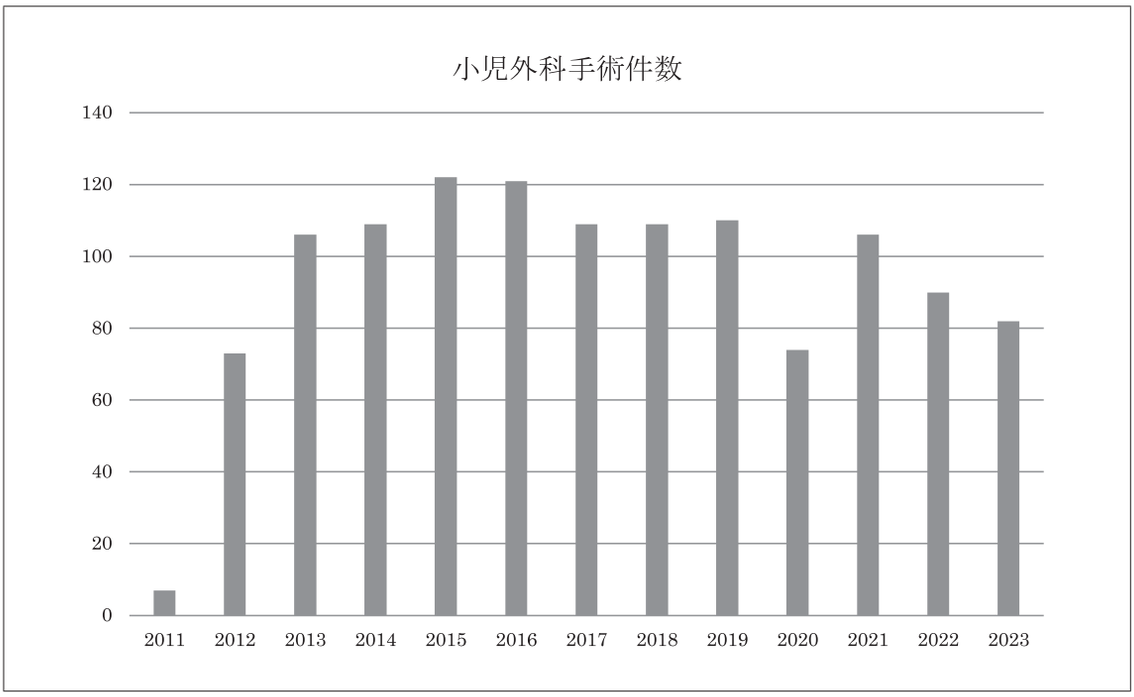
医長：山中宏晃（平成 14 年）

資格：日本外科学会専門医

医長：河島茉奈（平成 22 年）

資格：日本外科学会専門医、日本小児外科学科専門医、日本消化器外科学会専門医、日本肝臓学会専門医、臨床研修医指導者講習、がん診療にかかわる医師に対する緩和ケア研修会、ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定

3. 手術数の推移（2023 年度：82 例）



4. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
72	69	93	69	56	74	78	93	77	91	77	99	948	79

2023 年の手術に関する主な内容：合計 82 例

・体表疾患（3 例）

舌小帯：2 例

皮下腫瘤：1 例

・胸部疾患（1 例）

食道狭窄拡張術（バルン）アカラシア：1 例

・腹部疾患（52 例）

肥厚性幽門狭窄症：2 例

鼠径ヘルニア

高位結紮：23 例

単孔式腹腔鏡手術（LPEC）：20 例

急性虫垂炎：6 例（全例単孔式腹腔鏡手術）

臍ヘルニア：8 例

・生殖器、泌尿器科疾患（16 例）

停留精巣：10 例

包皮形成術：2 例

卵巣嚢腫：1 例

陰唇癒合：3 例

4. 今年の目標

2024 年も 3 人体制を維持し、地域に根ざし、地域の子供たちを守るだけではなく、広域で子供たちの治療を安全に継続可能な体制を作ります。

今後、当院は小児チームとして、小児科、小児外科で共同し、小児医療を実践したいと考えています。従来通り、小児外科特有の救急疾患に関しても可能な限り対応していきながら、積極的に、小児医療を提供したいと考えています。こどもの治療で悩んだら、何でも相談してください！

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

22）歯科・歯科口腔外科

歯科・歯科口腔外科部長　占部　一彦

1. 概要

歯科口腔外科は、部長:占部一彦（2006 年 4 月赴任）、医長:中川記世子（2019 年 7 月赴任）、医員：笠原　駿（2022 年 4 月赴任）の 3 名体制で診療にあたっています。八尾市・東大阪市・大阪市平野区・柏原市内の医院・歯科医院との病診連携をおこなっており、紹介率 40％以上を維持しています。

2008 年度より地域歯科支援病院の認定をうけ地域医療に貢献できますように体制づくりしています。

診療内容としては、親知らずの抜歯・腫瘍・粘膜疾患・顎変形症・顎顔面外傷などの手術を中心に、顎関節症などの治療および他科入院患者様の周術期口腔機能管理を行っています。

一般的な歯科治療は原則おこなっておりません。

当院は、大阪大学歯学部第一口腔外科の関連病院として運営しており、当科で加療が困難な疾患に関しては、大阪大学および他の大学関連病院と連携をはかり対応しています。また日本口腔外科学会の準関連研修施設認定をうけています。診療特徴としては、下記の内容が挙げられます。



1）抗凝固剤服用中の患者様への対応

抜歯などの小手術は、基本的にワーファリン等の抗凝固薬・抗血小板薬の服用は休薬なしで行っています。

抗凝固薬　：基本的に休薬なし（場合によって減量）で 1（～ 2）泊の入院下で処置・止血管理をおこないます。

抗血小板薬：基本的に休薬なしで外来処置室にて小手術をおこないます。

2）入院下での埋伏智歯抜歯

埋伏智歯抜歯術は、歯肉切開や骨削除を行って抜歯するのですが、かなり腫脹をともなう処置になります。それが数本ある患者様の場合には、腫脹がその都度伴うことになります。そこで入院管理下で全身麻酔下にて抜歯を行うことで１本抜歯に対する時間が短くすみ、数本まとめて抜歯することができます。また術後点滴と、疼痛コントロール・感染予防を行うことで１回の腫脹ですませることができます。

2. メンバー構成

部長：占部一彦（歯学博士）　　日本口腔外科学会専門医
医長：中川記世子（歯学博士）　日本口腔外科学会専門医
医員：笠原駿（歯学博士）　　日本口腔外科学会認定医

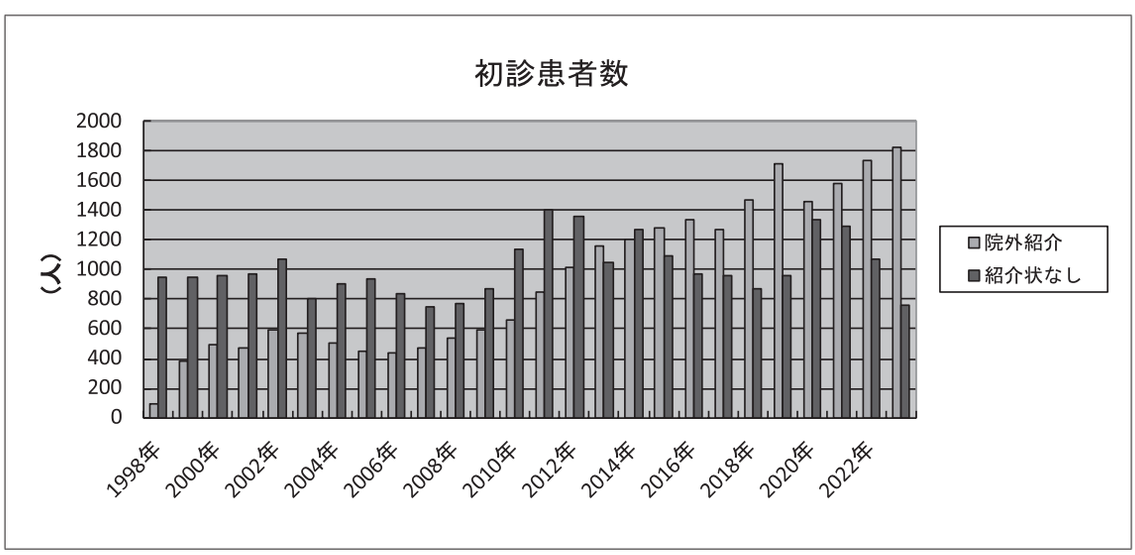
3. 実績

外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
886	923	1,121	988	956	927	890	924	947	967	923	875	11,327	944

《初診患者数推移》

	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
院外紹介	95	386	493	472	590	576	506	453	443	467	538	590	662	846	1,017	1,160	1,205	1,276	1,341	1,266	1,468	1,716	1,456	1,584	1,733	1,827
紹介状なし	945	945	961	970	1,070	809	900	932	834	752	775	866	1,134	1,406	1,355	1,051	1,264	1,088	973	959	871	955	1,333	1,287	1,070	763



内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

《外来手術例》

手術名	件数
骨性埋伏智歯抜歯	765
難抜歯	242
単純抜歯	833
歯根端切除 / 歯根嚢胞摘出術	71
上顎洞口腔瘻閉鎖術	11
口腔内・外消炎処置	28
口腔内外創傷処置	23
舌腫瘍摘出術	9
顎関節脱臼非観血的整復術	35
歯牙脱臼整復固定	19
歯肉腫瘍摘出術	11
粘液嚢胞摘出術	12
顎骨腫瘍摘出術	19
腐骨除去術	4
生検	18
その他	50
合計	2,150

《入院手術例》

手術名	件数
埋伏歯抜歯	187
抜歯（止血異常）	36
歯根端切除 / 歯根嚢胞摘出術	15
顎骨腫瘍摘出術	45
顎変形症手術	26
上･下顎骨･頬骨骨折観血的整復術	10
腐骨除去術	8
口腔内・外消炎手術	5
抜釘術	8
舌腫瘍摘出	4
骨隆起形成術	4
その他	17
合計	365

4. 今後の目標

救急病院の特徴として、炎症性疾患や外傷性疾患の救急対応が多いため、より迅速に対応できるように体制を構築し、地域医療に貢献できるよう力をいれています。

また医科歯科連携にて周術期口腔機能管理を行っており、患者様の入院期間の短縮に貢献していきたいと思います。

23）泌尿器科

泌尿器科部長　金丸　知寛

1. 概要

2023 年は前年度と同様の 3 人体制で、昨年に引き続き私が泌尿器科部長を務めております。

2022 年に導入されたダヴィンチ Xi の手術症例を増やすことに尽力いたしました。2023 年の当科症例数を下記に示しています。2022 年よりさらに症例数は増加しております。2023 年より、まだ施設基準は満たしていませんが、ロボット補助下膀胱全摘・腔内回腸導管造設術も先行的に開始しております。

2. メンバー構成

顧問　飯盛宏記　日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医

部長　金丸知寛　日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本泌尿器内視鏡学会・技術認定医
日本透析医学会専門医

医員　榮井広嗣　日本泌尿器科学会専門医

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
1,481	1,304	1,554	1,446	1,390	1,426	1,455	1,389	1,503	1,391	1,228	1,514	17,081	1,423

ロボット補助下前立腺全摘除術　27 例

ロボット補助下腎摘除・腎尿管全摘除術　9 例

ロボット補助下腎部分切除術　2 例

ロボット補助下膀胱全摘・腔内回腸導管　7 例

4. 今後の目標

上記手術のさらなる症例数の増加、また、膀胱全摘に関してはまだ施設認定基準に達しないため、症例数を増やしてそれも施設認定を取れるようにするのが目標です。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

24）眼科

眼科部長　奥田　吉隆

1. 概要

現在３名の常勤医師、非常勤医師数名により外来診療および手術を行っております。午前診察は初診および予約診療を行っております。午後はレーザー等の処置や時間のかかる検査が必要な患者様の予約診療を主として行っております。

当院で行っている手術は、網膜硝子体手術、白内障手術（多焦点眼内レンズ含む）、緑内障手術、外眼部手術が中心です。

網膜硝子体手術は、硝子体手術用機械（コンステレーションアルコン社製）、硝子体手術用広角観察システム（リサイトカールツァイス社製）および眼科手術用顕微鏡（Lumera700　カールツァイス社製）を使用しており、小切開硝子体手術を行っております。また４月からは3Dビジュアルシステム（NGENUITY）での手術を行っております。本年度、疾患としては、硝子体出血、網膜剥離、黄斑円孔、黄斑上膜、水晶体･眼内レンズ脱臼、外傷性眼疾患などを行っております。近医の開業医さんからのご紹介は基本的に 24 時間対応可能です。

白内障手術は、日帰りもしくは入院で行っております。当院での白内障手術の特徴は褐色白内障、過熟白内障といった進行した白内障手術が多いことです。眼内レンズ強膜内固定術や眼内レンズ縫着術等の眼内レンズ関連手術も積極的に行っております。また、角膜乱視の矯正の為に、トーリック眼内レンズを使用した白内障手術も行っております。

また最近では多焦点眼内レンズも導入し幅広い白内障手術を施行し、患者様の満足度の高い手術を心がけております。

外眼部手術に関しては、眼瞼下垂症、内反症などに対する眼形成手術や、翼状片手術、脂肪ヘルニアに対する手術、霰粒腫切開術、眼瞼皮膚腫瘍切除術、涙道疾患に対する手術などを行っております。

加齢黄斑変性症や網膜静脈閉塞症に合併した黄斑浮腫に対しては、抗 VEGF 薬の硝子体内注射を通院にて行っております。また、糖尿病網膜症に対する汎網膜光凝固術や急性緑内障発作に対するレーザー虹彩切開術、後発白内障に対する YAG レーザーなど、各種レーザー治療も行っております。

八尾市、柏原市、東大阪市、松原市、大阪市平野区、羽曳野市の先生方に於かれましては、いつも貴重な患者様をご紹介頂きまして誠にありがとうございます。今後とも病診連携を通じて地域医療に貢献させていただければ幸いです。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

2. メンバー構成

（常勤医師）

奥田　吉隆　（部長）　日本眼科学会専門医　PDT 認定医　ボトックス認定

宮木　俊哉　（医長）　日本眼科学会専門医

山田　真弘　（医員）

（非常勤医師）

照林　優也　緑内障専門医

高鍬　広章　眼形成専門医

西庄　龍東　ぶどう膜専門医

大学応援医師

3. 実績

≪外来患者数≫ 2023 年 1 月 1 日～ 2023 年 12 月 31 日

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
1,264	1,266	1,464	1,304	1,307	1,392	1,221	1,190	1,260	1,292	1,216	1,390	15,566

≪手術件数≫　2023 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日

計 2,391 件（うち白内障手術 1,453 件　硝子体手術 388 件　緑内障手術 81 件　眼形成 74 件　硝子体注射 387 件　その他 8 件）

4. 目標

地域の患者様から、より一層頼りにされるような病院を目指し、地域医療に貢献して参ります。また近隣の開業医様や病院様より沢山のご紹介を頂けるようになり、本当に感謝しております。今後も緊急疾患含めどのような疾患に対しても真摯に向き合い、患者様が満足して頂けるよう精一杯治療していきたいと思っております。このような手術件数ができるのも日頃より大事な患者様をご紹介して頂いている近隣の先生方のおかげでございますので、その思いを裏切らないよう馬車馬のように働いていく所存でございます。引き続きご支援を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

25）麻酔科

麻酔科部長　谷　仁介

1. 概要

当院麻酔科は、日本麻酔科学会の麻酔科認定病院に指定され、5 名の常勤麻酔科医師と複数の非常勤麻酔科医師で運営されています。

常勤麻酔科医師は、全員が厚生労働省認定の麻酔科標榜医資格を有し、また日本麻酔科学会認定の麻酔科指導医もしくは麻酔科専門医資格も有し、24 時間 365 日の麻酔業務に取り組んでいます。

当科の方針として、手術を受ける患者様の安全を第一に考え、本邦における標準的な全身麻酔を実践することを掲げています。

当院の手術室は､一般的な手術に加えてハイブリッド手術室を設置し､ダビンチによるロボット手術が泌尿器科、呼吸器外科、外科、肝臓外科で施行されています。

2023 年 4 月より西日本初の脊椎固定術用のロボットが導入され、今まで以上に安全な脊椎手術が行えるようになりました。

コロナウィルスを始めとする感染症対策として、手術室内できめ細かい感染対策をし、患者様が安心して手術、麻酔を受けていただけるようにしています。

手術を受ける際には多大な不安があると思いますが、当院での手術・麻酔に関しては我々にお任せ下さい。

2. メンバー構成

部長　谷　仁介　　（日本麻酔科学会指導医・専門医）
部長　池下　和敏　（日本麻酔科学会指導医・専門医、医学博士）
医員　仲村　光世　（日本麻酔科学会指導医・専門医）
医員　濱崎　亜弓　（日本麻酔科学会指導医・専門医）
医員　金沢　晋弥　（日本麻酔科学会指導医・専門医）

3. 実績

2022 年の麻酔科管理手術件数は 2,799 件でした。

《麻酔方法》

全身麻酔	TIVA	全身麻酔 + 硬､伝麻	脊髄くも膜下麻酔	鎮静
2,665 件	3 件	125 件	3 件	3 件

＜手術部位別＞

開頭・頸動脈	開胸	心臓・大血管	開胸＋開腹	胸腹壁
44 件	117 件	216 件	4 件	266 件

上腹部	下腹部	頭頸部	脊椎	股関節・四肢
395 件	567 件	362 件	159 件	669 件

《年齢別》

0 － 5 歳	6 － 19 歳	20 － 65 歳	66 － 85 歳	86 歳以上
50 件	127 件	974 件	1,326 件	322 件

4. 今後の目標

患者の安全を最優先に考え、術前、術中、術後が問題無く経過することを目標とし、24 時間 365 日、いつでも患者様を受け入れ、常に安全な手術麻酔を提供させていただきます。

コロナウィルスを始めとする感染症に対し、可能な限りの感染対策を取るとともに、最先端の手術に柔軟に対応し、患者様がいつでも安心して手術を受けられる麻酔科・手術室を目指します。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管心臓血セ　66
形成外科美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

26）肝臓センター

肝胆膵外科部長　木村　拓也

1. 概要

2023 年は新型コロナが 5 類へ移行した年でした。感染に対するたくさんの変化があって、治療薬も徐々に普及し、ワクチンも日常の一コマになりました。病院では入院や、手術前の検査も、変化し、症状がなければ、新型コロナやインフルエンザの検査を行うこともなくなり、ほぼ新型コロナ前に戻ったと考えています。その結果、さらに救急も増えて、外科全体では、緊急手術も増えて、医療全体が、元通りに戻った印象です。

今年の目玉はロボット支援下手術です

肝臓センターでは肝胆膵領域の悪性疾患を中心に、その他急性肝炎、慢性肝炎、ウィルス性肝炎、アルコール性肝炎、膵炎などを中心に治療を行っており、中河内地区に根差し、13 年目の節目を迎えました。主には、近隣施設より閉塞性黄疸、急性肝炎、慢性肝炎、肝胆膵領域の悪性疾患を紹介され、積極的に治療を行っています。

診断には、積極的に最新技術を導入し、EUS、ERCP、造影エコーなど多数行っている。また治療は血管合併切除などの超拡大手術から腹腔鏡手術などの低侵襲治療を行っており、ガイドラインを参考に患者に優しい、患者の目線に立った治療を常に考慮している。

現在 5 人体制で診療に従事しており、センターとして診断、治療内容に広がりを持たせることが可能となっています。また外科系診療科で一致団結し、当院は最初から新専門医制度に対応し、当院は外科の基幹施設として認定され、後期研修医の研修が継続できており、徳洲会グループとして、各拠点病院にも研修可能な体制づくりを目指しています。

以下、肝臓センターとしての活動内容を中心に記載する。

肝臓センターの肝胆膵外科部門は、感染対策部門とリンクし、外科（肝胆膵外科、消化器外科、小児外科など）の感染対策、特に創部感染に対する対策を推進し、手術部位感染（SSI）は減少しています。また栄養状態不良患者は、手術に対するリスクとなるため、NST とリンクし、栄養管理を推進しながら外科治療を導入し、成績向上に寄与しています。

昨年､JCI（アメリカの病院評価機能）を取得したため､外科系すべての手術に関する同意書、説明書、術前術後管理の統一（クリニカルパスの導入率向上）を新たに一新し、導入できたので、多くの項目で標準化しております。

2. メンバー構成

・松田康雄：肝臓センター長／顧問

資　　格：日本外科学会専門医、指導医、消化器外科学会専門医、指導医、超音波学会専門医、指導医

・木村拓也（平成7年）：副院長／肝胆膵外科部長

資　　格：日本外科学会認定医、専門医、指導医、日本小児外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、指導医、日本総合診療医学会認定医、日本臨床栄養代謝学会認定医、肝臓学会認定肝臓専門医、指導医、日本移植学会認定医、日本肝胆膵外科学会評議員、日本内視鏡外科学会評議員、日本病態栄養学会評議員、日本臨床栄養代謝学会評議員、近畿外科学会評議員、近畿小児外科学会評議員、感染制御医師（ICT）、外科系プログラム責任者、NST 委員長、TNT 講習、PEACE プロジェクト緩和ケア講習、臨床研修医指導者講習、臨床研修プログラム責任者講習、ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定、ダヴィンチサージカルシステム術者資格認定

・井上雅文（平成11年）：医長

資　　格：日本外科学会認定医、専門医、指導医、日本消化器外科学会専門医、指導医、日本肝臓学会認定肝臓専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、指導医、近畿外科学会評議員、PEACE プロジェクト緩和ケア講習、臨床研修医指導者講習

・藤井貴子（平成13年）：医長

資　　格：日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本肝臓学会専門医・指導医、日本移植学会認定医、日本化学療法学会専門医、日本がん治療認定医機構認定医、医療情報学会医療情報技師、日本肝臓学会西部会評議員、臨床研修医指導者講習、日本感染症学会インフェクションコントロールドクター（ICD）、医療安全管理者、がん診療にかかわる医師に対する緩和ケア研修会、下肢静脈瘤に対する血管内焼灼の実施基準による実施医、ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定

・河島茉奈（平成22年）：医長

資　　格：日本外科学会専門医、日本小児外科学科専門医、日本消化器外科学会専門医、日本肝臓学会専門医、臨床研修医指導者講習、がん診療にかかわる医師に対する緩和ケア研修会、ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定

3. 実績

≪外来患者数≫

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
601	667	742	664	719	734	707	678	731	778	704	702	8,427	702

1）肝臓外科

今年の目玉は、肝胆膵外科で、いよいよロボット支援下手術が開始となりました！肝臓切除（外側区域切除、部分切除）は2例、膵がん手術（膵体尾部切除）は1例施行し、特にトラブルなく導入できております！

内　科 26
循環器内 33
消化器内 34
呼吸器内 36
腫瘍内科 37
血管透析 39
腎臓内科 43
糖尿病 代謝内科 44
脳神経内 46
膠原リウ 47
小児科 48
放射診科 50
救急科 51
集中治療 54
外　科 58
整形外科 60
脳神経外 64
心臓血管 心臓血セ 66
形成外科 美容外科 69
呼吸器外 71
小児外科 72
歯　科 歯科口腔 75
泌尿器科 78
眼　科 79
麻酔科 81
肝臓セン 83
皮膚科 88
婦人科 89
耳鼻咽喉 90
病理診断 91

肝臓外科にて2023年に実施した手術は計209件で、コロナ禍の中、昨年と同程度の症例数を確保している。2012年より導入した腹腔鏡下肝臓手術も安定し、在院期間も短く安全に施行できている。2018年より、肝臓の葉切除、すなわち右葉切除や左葉切除に対しても、日本肝胆膵外科学会、日本内視鏡外科学会の前向き症例登録に参加し、倫理委員会を介して開始した。肝臓手術全体では37例と例年より増加傾向にありますが、C型肝炎の内科治療普及により、今後肝細胞癌は減少していくと予想される。

肝細胞癌に対する焼灼療法は10例と著しく減少している。マイクロ波による焼灼療法は少し広めの焼灼が可能で、また短時間で終了するため、患者の負担も軽減可能であるが、肝炎治療により、肝細胞癌自体が減少傾向にある。

膵癌、中下部胆管癌に対する膵頭十二指腸切除例や膵体尾部切除は18件で、例年通りである。今年も血行再建を多数行っているが、血管系の合併症はなく安全に施行できている。また術前化学療法を導入し、中長期成績の改善が望まれる。

2013年より腹腔鏡下膵体尾部切除を導入し、悪性疾患以外に適応し、安全に導入している。

図に過去の肝臓外科（肝胆道外科）手術実績の推移を示した。手術件数は横ばいですが、近年、血行再建や、比較的侵襲の高い手術が増加傾向にある。

2）肝臓内科

・慢性肝炎

・慢性B型肝炎

抗ウイルス薬である核酸アナログ製剤（エンテカビル、テノホビル）による治療を行っている。その他、院内で抗がん剤投与前には、De novo肝炎のモニタリングも行っている。

・慢性C型肝炎、代償性肝硬変　非代償性肝硬変

ゲノタイプ1型2型に対するIFNフリー内服治療（DAA：Direct Acting Antivirals）をパンジェノタイプのDAA治療を継続しており、重篤な合併症もなく、全例ウイルス陰性化率を達成した。また徳洲会グループとして、C型肝炎サーベイランスを開始し、C型肝炎患者の拾い上げを行っている。

・肝細胞癌

治療の中心は、抗PD―L1抗体であるアテゾリマブと分子標的薬であるベバシズマブが担っており、TACEによる治療は激減している。昨年より、新たな免疫療法が導入され、当院でもすでに10例ほど投与開始となっている。免疫療法の組み合わせや、TACE、抗がん剤によるダウンステージング後の局所療法など、肝細胞癌に対する治療の変遷は、ここ数年大きく変化し、最新の知識を導入しながら、積極的に投与している。

免疫療法の安全性は高いが、一方で、難治性下痢、De novo糖尿病、副腎不全、甲状腺機能低下症など多彩な副作用を経験し、治療の難しさを実感している。

・肝硬変

肝硬変の難治性腹水に対して新規利尿薬であるサムスカ使用を積極的に行い、腹水減少による症状改善症例を認めている。また耐用性がある症例では、外科とタイアップし、デンバーシャントも積極的に導入している。

また経経静脈的肝生検も、開始し、肝硬変の病態を正確に把握する試みも始めた。

肝性脳症の治療は合成二糖類、BCAA 製剤、カルニチンなどなどあるが難治性の脳症も散見される。腸内でのアンモニア産生菌に作用しアンモニア産生抑制する難吸収性リファマイシン系抗菌薬の治療を使用し肝性脳症発症は減少している。

本年の肝臓センターまとめと来年の目標

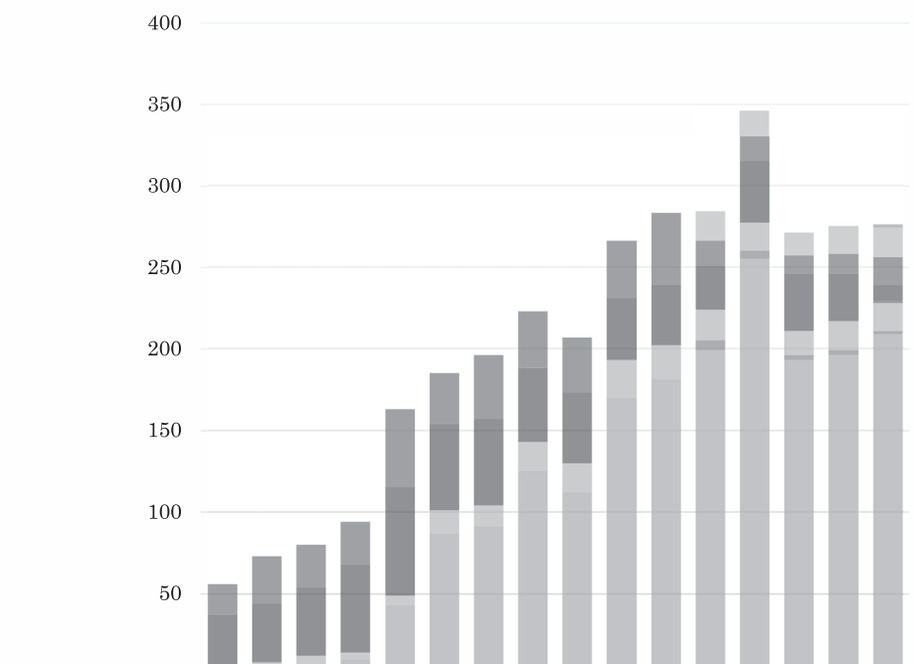
本年も昨年同様、手術症例を確保し、安全、安心の医療を提供していきたい。

肝胆膵領域に腹腔鏡手術による低侵襲治療を導入し、安全にできている。今後は適応を広げたくさんの患者さんが安心して当院で治療を受けられる体制を維持し、医療ガイドラインに沿った治療を実践しながら、術後成績の向上ならびに、手術症例の増加を維持したい。

また 2023 年導入し、安全に開始できているダビンチによるロボット支援下手術が増加傾向にあります。新しいテクノロジーで、より安全安心な、医療を提供したいと考えています。

また新専門医制度導入に伴う、施設認定の維持に努め、後期研修医の確保を目指していきたい。

手術症例の内訳



	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
ロボット肝臓																2
腹腔鏡下肝切除術												18	16	14	17	18
肝切除術	19	29	26	26	48	31	39	35	34	35	44	15	15	11	12	17
肝癌焼灼療法	31	36	42	54	66	53	53	45	43	38	37	27	38	35	29	10
ロボット膵臓																1
膵臓癌	4	2	7	4	6	14	13	18	18	23	21	19	17	15	18	17
胆嚢癌												6	5	3	3	2
その他	2	6	5	10	43	87	91	125	112	170	181	199	255	193	196	209

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

4. 今後の目標

本年も昨年同様、手術症例を確保し、安全、安心の医療を提供していきたい。

肝胆膵領域に腹腔鏡手術による低侵襲治療を導入し、安全にできている。今後は適応を広げたくさんの患者さんが安心して当院で治療を受けられる体制を維持し、医療ガイドラインに沿った治療を実践しながら、術後成績の向上ならびに、手術症例の増加を維持したい。

2023 年より、いよいよダビンチによるロボット支援下手術の普及が始まります。より、安全安心な、医療を提供したいと考えております。

また新専門医制度導入に伴う、施設認定の維持に努め、後期研修医の確保を目指していきたい。

27）皮膚科

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

1. 概要

当科では、薬疹、接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、尋常性乾癬、水疱症、天疱瘡、掌蹠膿疱症、円形脱毛症などの各疾患、白癬症、ヘルペス感染症、尋常性疣贅、尋常性ざ瘡、蜂窩織炎、丹毒、感染性粉瘤、尖圭コンジローマ・梅毒（STD）などの皮膚感染症、および皮膚腫瘍、皮膚潰瘍、熱傷（保存的治療可能な 、主に SDB まで）、男性型脱毛症（自費診療）などを診療しております。

検査としましては、金属パッチテスト、皮膚生検による病理検査、RAST 測定によるアレルギー検査等を行っております。

また、内科疾患に伴う結節性紅斑や血管炎に対する皮膚生検も行っておりますのでお申し付けください。

日光角化症、基底細胞癌、表皮内有棘細胞癌に関しましては、ダーモスコピーによる視診のうえ疑わしいものは部分生検を行い、確定診断のついた場合は当院形成外科に手術をお願いしております。

一方で、浸潤癌および悪性黒色腫（メラノーマ）、乳房外パジェット病や、尋常性乾癬に対する生物学的製剤による治療を必要あるいはご希望される症例や患者様に対しましては大阪市立大学へ紹介しております。

※尋常性白斑、尋常性乾癬、いずれの疾患にも紫外線療法は施行しておりません。

2. メンバー構成

岡村佳余子（非常勤医師）　渡邊美樹（非常勤医師）
葉山友紀（非常勤医師）

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
358	338	447	387	380	376	349	310	336	165	203	209	3,868

4. 今後の目標

症例として､皮膚疾患は慢性的に経過するものが多い傾向にあります。また､良性疾患であっても完治には副作用のつよい治療しか無いケースもあるので、一方的に治療を勧めるのでは無く、各々の患者様のライフスタイルに合わせた治療をモットーにしております。したがいまして、初診には時間をかけてお話をお伺いし、満足のいくコミュニケーションを取った上での診察を心掛けております。又、病院の特性として、多様な診療科がありますので、連携して治療にあたることが可能です。今年も何卒よろしくお願いいたします。

28）婦人科

婦人科　田村　明彦

1. 概要

一般的な産婦人科診療に加えて、悪性腫瘍に対して集学的治療を実施しています。

＜主な診療対象疾患＞

①婦人科悪性腫瘍

②婦人科良性腫瘍

③不妊・内分泌疾患

④女性の性器の形態異常

⑤女性の加齢に伴う疾患

⑥妊娠初期健診、妊婦健診および羊水染色体検査等、婦人科全領域および分娩を除く一部の産科領域について診療を実施しています。。

＊当院では分娩についての取扱いは行っておりません。

2. メンバー構成

田村明彦（常勤）　日本産科婦人科専門医

松岡達也（非常勤）　日本産科婦人科専門医

3. 実績

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
361	354	442	345	338	405	391	395	378	329	231	227	4,196	350

4. 今後の目標

当科では総合的な産婦人科医療に対して、高度で安心･安全な医療の実践を心がけております。

29）耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科部長　森　彰之

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病 代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管 心臓血セ　66
形成外科 美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科 歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

1. 概要

2023 年は新型コロナウイルスが 5 類に引き下げられ少しずつコロナ禍以前の日常を取り戻してきているようです。しかし、当科では上気道感染症の患者を多く診ていることもあり、まだまだ感染者数は多い印象です。昨年同様に引き続き感染対策を行い院内感染を起こさぬよう心がけてまいります。本年度も入院や手術は常勤医が 1 名のため適応・重症度を検討し治療にあたっています。

一般診療では以下の疾患を主に診察しております。

・鼻：鼻腔異物、アレルギー性鼻炎、急性副鼻腔炎、慢性副鼻腔炎、鼻出血など
・耳：耳垢栓塞、外耳炎、外耳道異物、急性中耳炎、慢性中耳炎、突発性難聴、老人性難聴、顔面神経麻痺、ハント症候群、メニエール病・前庭神経炎等の内耳性めまいなど
・のど：咽頭異物、急性扁桃炎、扁桃周囲膿瘍、急性咽頭炎、急性喉頭蓋炎、声帯ポリープなど耳鳴りおよび補聴器についての特殊外来で対応しています。

成人のスギ、ダニに対する舌下免疫療法も開始いたしました。
外来、入院患者の嚥下機能検査およびリハビリテーションも対応しております。
甲状腺疾患は当科では診察を行っておらず、専門機関に紹介しております。

入院は急性炎症や突発性難聴・顔面神経麻痺などのステロイド治療、めまい症など。
手術は就学児童以上を対象としております。
副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻内手術、鼻閉改善手術、扁桃摘出術、アデノイド切除術、声帯ポリープ切除術、鼓膜チューブビング術などを症例の重症度を検討し行っております。
中耳、内耳手術や唾液腺手術、悪性腫瘍に関しては高次施設に紹介いたします。

2. メンバー構成

森　彰之（常勤）

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
132	155	149	290	420	363	494	495	452	515	490	406	4,361	363.4

4. 今後の目標

入院・手術での対応を行っていき地域医療に貢献していきたいと思います。

30）病理診断科

病理診断科部長　中塚　伸一

1. 概要

2023 年 12 月現在、医師 9 名（常勤 4 名、非常勤 5 名）、病理専任の臨床検査技師 8 名（うち細胞検査士 4 名）、医療事務 1 名が業務に携わっています。

当科では、院内の組織診断、細胞診断、病理解剖を行うほか、徳洲会大阪病理診断研究センターとして、大阪および近隣府県のグループ病院 8 病院の病理診断を請け負ってきました。7 月から新たに六地蔵総合病院から受託を開始し、引き続き病病連携・病診連携を推進し、積極的に地域医療への貢献に努めています。2021 年より開始した神戸徳洲会病院との間の遠隔術中迅速病理診断についても実績を積み重ねています。2023 年の病理診断の総件数は組織診断 9,717 件、細胞診断 16,563 件でした。院内外で 19 件の病理解剖を行い、10 回の臨床病理検討会（CPC）を行いました。初期研修医は病理解剖に実際に立ち会い、CPC での発表を通して、全身の臓器の状態を把握し、病態を理解する訓練を積んでいます。4 月からは近畿大学病院とも病理専門研修プログラムの連携を組み、病理専攻医 2 名受け入れ、病理解剖について技術習得を支援し、指導を行っています。

11 月から AmoyDx 肺癌マルチ遺伝子 PCR パネル検査を in house で実施しています。9 月から院内にトースト通知管理システムが導入され、病理報告の未読防止対策が進められています。

2. メンバー構成

医師

中塚伸一（部長、センター長）	日本専門医機構病理専門医、日本病理学会分子病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
寺田信行（副部会長）	日本専門医機構病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
久保勇記	日本専門医機構病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
南部尚子	日本専門医機構病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
青笹克之（最高顧問）	日本専門医機構病理専門医
山下憲一（非常勤）	日本専門医機構病理専門医
関川進（非常勤）	日本専門医機構病理専門医
北村昌紀（非常勤）	日本専門医機構病理専門医、日本病理学会分子病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
加藤雅大（非常勤）	

臨床検査技師

岩﨑由恵（細胞検査士）、西川裕子（細胞検査士）、室木魁人（細胞検査士）、坪佐朱莉（細胞検査士）、吉川つかさ、溝邉栞、平井翔也、澤田麻優

3. 実績

《組織診断、細胞診断件数》

	組織診断	術中迅速診断	細胞診断
当院	4,237	145	9,491
生駒市立病院	1,230	1	2,167
松原徳洲会病院	1,699	11	1
高砂西部病院	0	0	0
神戸徳洲会病院	483	13*	691
近江草津徳洲会病院	1,034	0	1,959
全南病院	13	0	0
東大阪徳洲会病院	48	0	0
六地蔵病院	65	0	51
東佐野病院	59	0	11
松原中央病院	63	0	0
名古屋徳洲会病院	0	0	2,159
一般医療施設	786	32	33
合計	9,717	202	16,563

＊遠隔病理診断（テレパソロジー）による

《剖検一覧》

剖検番号	剖検日	出所	年齢	性別	臨床診断
730	2023.01.07	腫瘍内科	75	女	縦隔腫瘍、脳梗塞
731	2023.01.10	腫瘍内科	62	男	神経内分泌腫瘍
732	2023.01.31	腫瘍内科	75	男	肺癌
733	2023.03.18	内科	72	男	肺炎、敗血症、DIC
734	2023.03.22	内科	87	女	骨盤腫瘍、黄疸
735	2023.03.28	松原徳洲会病院・内科	85	女	誤嚥性肺炎、心不全
736	2023.05.10	松原徳洲会病院・内科	71	男	肺炎
737	2023.07.14	内科	62	男	肺癌、中咽頭癌、腸管気腫症
738	2023.07.18	松原徳洲会病院・内科	89	男	敗血症性ショック
739	2023.07.26	松原徳洲会病院・内科	75	男	拡張型心筋症、慢性腎不全
740	2023.08.07	内科	83	男	不明熱、敗血症
741	2023.08.05	松原徳洲会病院・内科	70	男	直腸癌、肺炎
742	2023.08.10	松原徳洲会病院・内科	53	男	縦隔腫瘍
743	2023.08.12	松原徳洲会病院・内科	76	男	残胃癌、敗血症
744	2023.10.25	松原徳洲会病院・内科	83	男	COPD、尿毒症、消化管出血
745	2023.11.07	腫瘍内科	83	男	甲状腺腫瘍
746	2023.11.08	内科	72	男	敗血症、前立腺癌放射線療法後、心筋梗塞
747	2023.12.14	腫瘍内科	46	男	ALK陽性肺癌、癌性胸膜炎
748	2023.12.24	内科	86	女	膀胱癌、呼吸不全

計 19 例

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　36
腫瘍内科　37
血管透析　39
腎臓内科　43
糖尿病代謝内科　44
脳神経内　46
膠原リウ　47
小児科　48
放射診科　50
救急科　51
集中治療　54
外　科　58
整形外科　60
脳神経外　64
心臓血管心臓血セ　66
形成外科美容外科　69
呼吸器外　71
小児外科　72
歯　科歯科口腔　75
泌尿器科　78
眼　科　79
麻酔科　81
肝臓セン　83
皮膚科　88
婦人科　89
耳鼻咽喉　90
病理診断　91

《担当カンファレンス》

消化器カンファレンス（水曜午前、毎週）

乳腺カンファレンス（水曜午後、月に約２回）

呼吸器カンファレンス（木曜午後、毎週）

4. 今後の目標

引き続き、正確で迅速な病理診断に努めてまいります。大阪病理診断研究センターの活動として、さらに近隣の医療施設との提携を拡大し、質の高い病理診断で地域医療に貢献できるよう努めます。今後、不足が予想される病理医、細胞検査士について積極的にリクルート活動を行い、後進の育成に努めます。また、徳洲会グループ施設の横断的活動を通して、先頭に立って相互の教育体制整備、教材整備を進めます。

副　診　療　部

―― 2023年 ――

31）薬　剤　部　96
32）放 射 線 科　99
33）臨床検査科　101
34）リハビリテーション科　104
（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・心臓リハビリテーション）
35）臨床心理科　110
36）臨床工学科　112
37）栄　養　科　122
38）治験センター　125
39）医療福祉相談室　126
（MSW 医療ソーシャルワーカー）
40）病診連携室　130
41）健診センター　142
42）情報システム管理室　144
43）保　育　室　146
44）がん相談支援センター　148
45）医療安全管理部　151
46）感染制御部　155
47）臨床腫瘍センター　159

31）薬剤部

薬剤部部長　大里　恭章

薬剤部　96
放射線科　99
臨床検査　101
リハビリ　104
臨床心理　110
臨床工学　112
栄養科　122
治験セン　125
医療福祉　126
病診連携　130
健診セン　142
情報シス　144
保育室　146
がん相談　148
医療安全　151
感染制御　155
臨床腫瘍　159

1. 概要

2020 年から続いた新型コロナウイルス感染症も 2023 年 5 月に 2 類相当から 5 類移行へと位置づけられ、感染症法に基づく、新型コロナ陽性者及び濃厚接触者の外出自粛は求められなくなり、基本的な感染症対策は個人が自主的な判断をするようになりました。しかし、そのような社会が動く中それ以降も新型コロナの患者数は減少することなく、反対に新型コロナウイルス感染症に対する治療薬である「ベクルリー点滴静注用（レムデシビル）」の処方数が感染拡大のピーク時よりも多くなり、月間購入金額が医薬品の中で一番多くなる月もありました。高額でもある医薬品でもあり、適正な在庫数管理と医事課と協力のもと保険請求の漏れがないよう努め、医事請求上の問題もこれまでおこりませんでした。

また、2021 年 3 月から始まった新型コロナワクチンの接種事業については、流行株に対応するワクチンが導入される度に従来株のワクチンの混在を起こさないように管理に心がけ、安全にかつ効率的に行うため以前から引き続き薬剤師がキャビネット内でワクチンの希釈と分注作業を行い、ワクチン接種人数の増減による無駄が発生しないようにしました。さらにはこの経験を活かし職員インフルエンザワクチンの接種事業も集団接種で行なうことで、薬剤師による分注作業を担い他部署の業務負担の軽減、薬液採取を無駄なく行ない経費の節約に努めました。

薬剤部内では 2023 年 2 月に注射剤自動払出装置の更新、調剤システムのバージョンアップさらには散薬自動分包機の導入が完了しました。これによりさらに対物業務の効率化が図られ対人業務への注力を注ぐことが可能となりました。また、現在病院で進められている増床（60 床）に伴う薬剤師の増員をお願いしたところ 11 名の新入職を迎えることができ、入職したスタッフがしっかり病棟活動ができるようスタッフ全員で指導にあたり無事に病棟業務に従事できるようになりました。そして人員の増加によりに土・日曜日のスタッフの出勤人数も増やし予約入院及び退院時指導の対応を強化し、薬剤管理指導件数も前年と比べ 5％以上の増加となりました。

医師の働き方改革が 2024 年度から始まり、まずは救急件数が増加している状況の中で薬剤師が ER でどのような業務ができるのか模索して、現場のスタッフの負担軽減と業務の効率を考え、ER の常駐化を進めていく予定です。他にも常に薬剤師として臨床現場で何が求められ、何ができるのかを考え、それらの責務を果たせるよう努めていきたいと思います。

2. メンバー構成

・薬剤師48名　（非常勤1名）

【産前産後休暇：2名】【僻地・離島応援：3名】

・有資格者

日本医療薬学会	医療薬学指導薬剤師	大里恭章
	医療薬学専門薬剤師	大里恭章、草薙みか
	がん専門薬剤師	草薙みか、南野智志、山本倫数
	薬物療法指導薬剤師	草薙みか
	薬物療法専門薬剤師	草薙みか
日本病院薬剤師会	感染制御認定薬剤師	横山法靖
	認定指導薬剤師	大里恭章、草薙みか
日本化学療法学会	抗菌化学療法認定薬剤師	横山法靖
日本臨床栄養代謝学会	NST専門療法	大里恭章、草薙みか、南野智志、森田亜記、岩政かおり、山本倫数、森田幸男
日本糖尿病療法指導士認定機構	糖尿病指導療法士	坂野千賀、森田亜記、栗野大輔
日本アンチドーピング機構	スポーツファーマシスト	山本倫数、井上悠、森下夏伎
日本薬剤師研修センター	漢方薬・生薬認定薬剤師	草薙みか、門間智恵
	小児薬物療法認定薬剤師	坂野千賀
	認定実務実習指導薬剤師	大里恭章、草薙みか、坂野千賀、横山法靖、前田晃佑、青山瑛里子
日本麻酔科学会	周術期管理チーム薬剤師	大里恭章、前田晃佑
日本臨床救急医学会	救急認定薬剤師	山本浩二郎
日本臨床腫瘍薬学会	外来がん化学療法認定薬剤師	濱田達志
日本アカデミック・ディテーリング研究会	アカデミック・ディテーリング認定薬剤師	大里恭章、坂野千賀、栗野大輔
日本循環器学会	心不全療養指導士	森田幸男

3. 実績

学生実習受け入れ【2023年度：2023年5月～2024年2月：12名】

・２期　４名（大阪医科薬科大学 1名、近畿大学２名、摂南大学 1名）

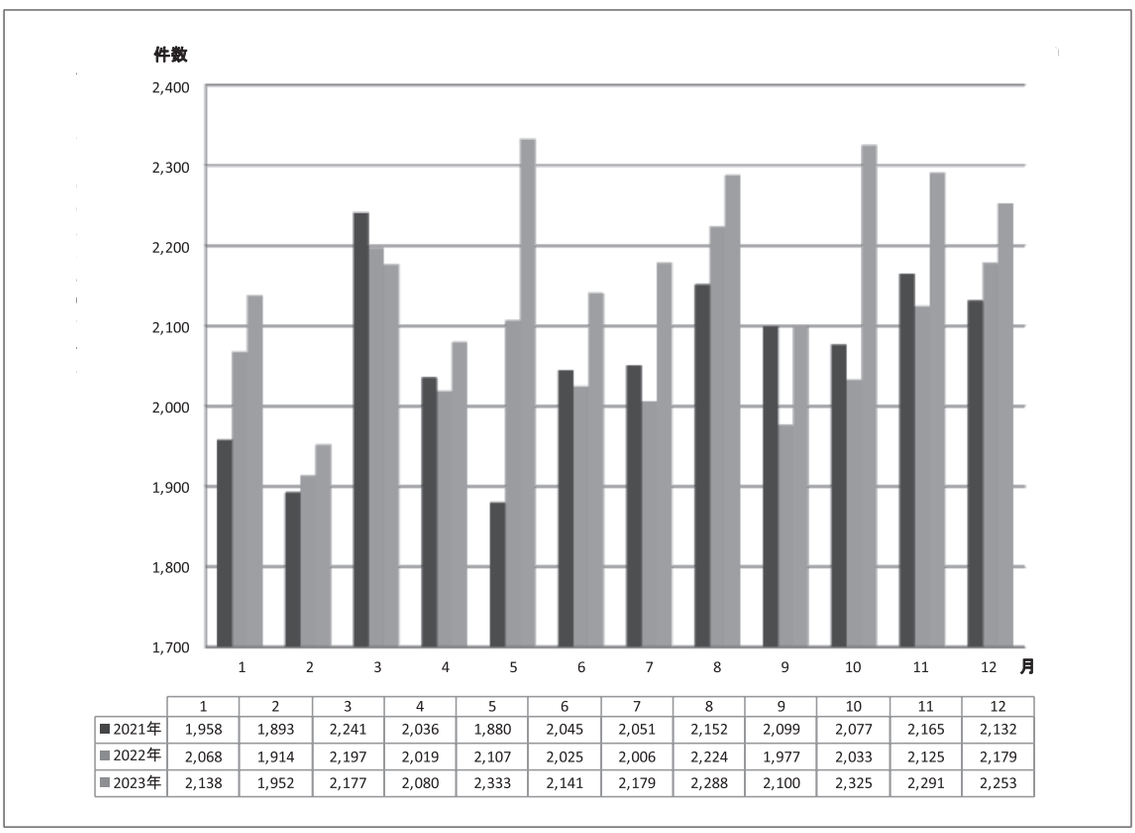
・３期　４名（大阪医科薬科大学 1名、武庫川女子大学１名、同志社女子大学 1名
大阪大谷大学１名）

・４期　４名（近畿大学１名、摂南大学１名、武庫川女子大学２名）

《業務量》2023年

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
処方箋枚数(外来)	2,141	1,579	1,764	1,665	1,674	1,580	1,914	1,824	1,526	1,588	1,649	1,876	20,780	1,731.7	101.2%
調剤数(外来)	4,419	3,401	3,827	3,814	3,686	3,628	4,081	4,057	3,574	3,612	3,986	4,354	46,439	3,869.9	100.2%
処方箋枚数(入院)	7,279	6,889	7,654	7,607	7,187	7,407	7,418	7,611	7,274	7,124	7,532	8,060	89,042	7,420.2	99.7%
調剤数(入院)	14,898	14,392	15,902	15,563	14,935	15,907	15,747	15,599	15,254	15,242	15,583	17,302	186,324	15,527.0	99.7%
注射本数	30,972	28,014	30,794	31,962	36,645	32,383	34,177	33,334	33,348	33,937	34,013	34,347	393,926	32,827.2	107.4%
無菌製剤処理2件数(入院)	161	171	185	194	317	217	175	160	201	220	239	285	2,525	210.4	158.4%
無菌製剤処理1件数(悪性腫瘍)	268	285	317	259	267	263	254	265	236	250	253	228	3,145	262.1	88.0%
外来腫瘍化学療法診療料 1-イ	230	226	248	208	234	240	205	227	195	213	224	210	2,660	221.7	89.8%
外来化学療法加算　1	50	55	68	52	63	50	54	60	51	58	67	54	682	56.8	98.7%
薬剤情報提供件数	1,887	1,353	1,491	1,297	1,526	1,426	1,599	1,704	1,547	1,441	1,437	1,715	18,423	1,535.3	103.7%
退院時薬剤情報指導件数	404	415	517	473	503	525	518	539	532	568	597	718	6,309	525.8	265.5%
薬剤管理指導件数(I)	1,292	1,179	1,277	1,308	1,428	1,310	1,304	1,384	1,278	1,454	1,452	1,439	16,105	1,342.1	105.9%
薬剤管理指導件数(II)	846	773	900	772	905	831	875	904	822	871	839	814	10,152	846.0	105.1%
薬剤管理指導件数(合計)	2,138	1,952	2,177	2,080	2,333	2,141	2,179	2,288	2,100	2,325	2,291	2,253	26,257	2,188.1	105.6%

《薬剤管理指導件数の推移》



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
■2021年	1,958	1,893	2,241	2,036	1,880	2,045	2,051	2,152	2,099	2,077	2,165	2,132
■2022年	2,068	1,914	2,197	2,019	2,107	2,025	2,006	2,224	1,977	2,033	2,125	2,179
■2023年	2,138	1,952	2,177	2,080	2,333	2,141	2,179	2,288	2,100	2,325	2,291	2,253

4. 今後の目標

①臨床業務活動のさらなる充実をめざす

②学会発表、論文発表を積極的に行い、リサーチマインドを追求する

③スタッフの育成とともに資格取得ができる環境の構築する

④医療制度改革に対応できるように組織の変革を常に継続する

薬剤部 96
放射線科 99
臨床検査 101
リハビリ 104
臨床心理 110
臨床工学 112
栄養科 122
治験セン 125
医療福祉 126
病診連携 130
健診セン 142
情報シス 144
保育室 146
がん相談 148
医療安全 151
感染制御 155
臨床腫瘍 159

32）放射線科

放射線科技師長　平野　泰弘

1. 概要

2023 年は診療放射線技師 4 名の新入職と退職が 1 名あり、現在は診療放射線技師 35 名、事務員 1 名の体制となっております。今年度も放射線部会と緊密に連携し、徳洲会グループの超規模病院としての責務を全うして参ります。検査実績としましては、昨年度と同様に近隣のクリニックや診療所より年間約 3139 件の検査依頼を頂きました。

今期は 2023 年 7 月に 1 階のパノラマ装置を更新しました。

他の既存の装置をフル活用する事で検査待ち日数を短縮し、緊急検査にもスムーズに対応できるよう努めました。

また、昨年同様に循環器科と脳外科の協力により、緊急カテーテルの件数も増加し、脳卒中の患者様に対しても緊急 CT・MRI 検査、緊急の血栓除去術や血管塞栓術の治療も行う等、救急の面においても貢献できたと考えております。

学術面では、今後も個人能力向上と放射線科全体のレベルアップを目指し、学会等への積極的な参加を続けていきます。

治療、検査体制の充実を図り、安全に配慮しながら迅速に対応できるよう、また、地域に信頼される病院になれるように努力して参ります。

2. メンバー構成

診療放射線技師 35 名、事務員 1 名

有資格取得者

第 1 種放射線取扱主任者	伊吹剛、井上竜太、齋藤里沙、宮本夏実
マンモグラフィ検診認定技師	村尾信義、川野友也、疋田直子、齋藤里沙、安川莉愛、金岡愛実、宮本夏実
胃がん検診認定技師	琉秀光、近藤浩司、上甲実
肺がん CT 認定技師	近藤浩司、伊吹剛
救急撮影認定技師	平野泰弘、小川宏明
Ai 認定技師	橋詰智
医療情報技師	村尾信義
X 線 CT 認定技師	伊吹剛、瀬川裕一

薬剤部 96
放射線科 99
臨床検査 101
リハビリ 104
臨床心理 110
臨床工学 112
栄養科 122
治験センター 125
医療福祉 126
病診連携 130
健診センター 142
情報システム 144
保育室 146
がん相談 148
医療安全 151
感染制御 155
臨床腫瘍 159

3. 実績

《月別放射線科統計》

2023年	単純透視	CT	MR	RI	CAG	DSA	放射線治療	紹介件数	総件数
1月	6,449	2,846	784	86	90	46	316	223	10,840
2月	6,259	2,728	834	100	91	30	445	238	10,725
3月	6,677	3,159	948	131	63	54	335	311	11,678
4月	6,472	2,907	912	107	119	58	418	266	11,259
5月	6,589	3,188	1,008	90	118	51	362	254	11,660
6月	6,662	3,148	1,034	95	101	44	354	291	11,729
7月	6,898	3,061	958	75	134	54	296	270	11,746
8月	6,461	3,068	915	101	102	49	380	235	11,311
9月	6,893	3,058	931	88	87	38	278	254	11,627
10月	6,690	3,161	962	88	98	44	369	290	11,702
11月	6,711	3,056	931	92	112	46	314	269	11,531
12月	7,075	3,251	920	88	150	43	167	238	11,932
合計	79,836	36,631	11,137	1,141	1,265	557	4,034	3,139	130,567
平均	6,653	3,053	928	95	105	46	336	262	10,881

実習生受け入れ

清恵会第二医療専門学院　　2名

大阪ハイテクノロジー専門学校　3名

4. 今後の目標

RI（核医学診断装置）、治療装置（治療計画CT装置）を更新予定です。CT線量管理による画像の質の向上や被曝量の低減等を含め、診断精度及び治療成績の向上に努め、引き続き予防医療や地域貢献を目指します。また、科内の労働環境改善を目指すと共に、勉強会への積極的な参加や資格の取得励行など、個人能力の向上に努めて参ります。

33）臨床検査科

技師長　松田　治恵子

1. 概要

2023 年はコロナへの対応の変化とともに、業務の見直しと、内外共に交流が再開した 1 年であった。継続的に行なっている全南病院バックアップのための毎月の応援とは別に、離島僻地への派遣により当院とは異なる場所での経験を積ませることができます。今年は 11 月に経験年数 5 年目の技師を約 1 ヶ月間喜界島に派遣した。人員不足となった徳之島にも応援予定です。対面での研修も再開されてきたことにより、実施数の少ない輸血の栃木で行なわれた実技講習会や、医療安全管理者養成研修に参加し、逆に講師として業者主催の勉強会（シスメックス　ユリナリシスセミナ 2023Vol1 当院における全自動尿中有形成分分析装置の運用・体液測定を中心に）を発表することができた。

検査各部門では検体検査・生理検査ともに過去最高の件数・点数であった。生理検査では、超音波検査に大きな変化はないが、その他の循環器系検査（心電図・ABI・トレッドミル・負荷心筋シンチ・エルゴメーター）、呼吸器系検査など機能検査が増えているため過去最高の検査数となった。学術発表においては、2 演題の学会発表と 3 演題の学術集会での発表を行なうことができた。学生実習に関しては、大学 1 校（2 名）、専門学校 1 校（2 名）の受け入れを実施した。

2. メンバー構成

・臨床検査技師　　46 名（＊他、採血コーナー常勤看護師 1 名、非常勤看護師 2 名）

合計：49 名

3. 実績

1）資格試験合格者

・日本糖尿病療養指導士　古賀奈実技師

・ICLS　　片渕凌志技師、堀川晃志技師

・心電図検定 2 級（日本不整脈心電図学会）　　戸野川始技師

2）実習生受け入れ

・日本医療学院専門学校　2名（4ヶ月）

・関西医療大学　2名（3ヶ月）

3）機器更新・新設

・GeneExpertモジュール交換

・卓上遠心器S300T　3台

4）学会発表

・第64回日本臨床細胞学会春季大会

開催日：2023 ／ 6 ／ 11

場所：名古屋国際会議場

発表者：西川裕子

薬剤部 96
放射線科 99
臨床検査 101
リハビリ 104
臨床心理 110
臨床工学 112
栄養科 122
治験セン 125
医療福祉 126
病診連携 130
健診セン 142
情報シス 144
保育室 146
がん相談 148
医療安全 151
感染制御 155
臨床腫瘍 159

演題：S 状結腸癌の膀胱浸潤にて尿中に線毛を有する腺癌細胞を認めた 1 例

・第62回日本臨床細胞学会秋期大会

開催日：2022 ／ 11 ／ 4

場所：福岡国際会議場

発表者：室木魁人

演題：胸水穿刺検体で診断に至った SMARCA4 欠損未分化腫瘍の一例

5）検査統計

（件数）

項目 / 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
一般	44,606	41,069	47,740	43,697	46,379	44,586	46,613	46,663	44,491	45,312	43,332	46,560	541,048	45,087.3
血液	78,887	72,546	85,104	79,553	90,665	84,217	87,610	88,505	85,677	84,685	83,525	86,063	1,007,037	83,919.8
微生物	8,010	6,993	7,748	7,568	8,439	8,007	8,288	8,796	8,610	8,382	8,296	8,452	97,589	8,132.4
免疫	29,711	23,671	27,817	25,716	25,742	25,200	26,128	26,495	25,437	25,437	25,078	26,377	312,809	26,067.4
生化学	173,285	159,177	185,920	174,796	196,391	185,777	193,280	192,078	185,345	184,779	182,916	190,211	2,203,955	183,662.9
病理	967	945	1,055	1,063	1,128	1,226	1,204	1,113	1,128	1,114	1,204	1,198	13,345	1,112.1
細胞診	2,461	2,497	2,712	1,991	2,372	2,675	2,800	2,682	2,569	2,740	2,516	2,631	30,646	2,553.8
外注合計	4,919	4,619	5,965	6,154	5,599	5,622	5,518	4,730	5,470	5,126	5,441	5,509	64,672	5,389.3
検体合計	379,277	343,779	401,227	374,981	412,109	392,793	407,949	407,854	393,882	392,552	386,238	402,290	4,694,931	391,244.3
腹部エコー	731	748	814	719	783	836	779	785	787	790	796	801	9,369	780.8
心エコー	758	674	761	688	740	734	794	714	705	756	675	690	8,689	724.1
他エコー	791	727	867	763	878	868	731	849	812	869	879	838	9,872	822.7
生理合計	6,132	5,737	6,808	6,132	6,543	6,624	6,717	6,691	6,411	6,516	6,521	6,646	77,478	6,456.5
月間検査合計	385,409	349,516	408,035	381,113	418,652	399,417	414,666	414,545	400,293	399,068	392,759	408,936	4,772,409	397,700.8

（点数）

項目 / 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
一般	290,096	279,068	310,142	285,405	321,876	294,664	312,772	314,039	297,176	309,541	289,122	305,342	3,609,243	300,770.3
血液	1,068,256	974,914	1,146,123	1,070,607	1,168,605	1,132,266	1,178,591	1,195,237	1,182,119	1,178,318	1,135,788	1,180,242	13,611,066	1,134,255.5
微生物	2,070,868	1,563,929	1,670,063	1,582,527	1,616,004	1,486,990	1,705,278	2,059,915	1,914,830	1,816,320	1,703,131	1,566,697	20,756,552	1,729,712.7
免疫	4,872,840	3,126,516	3,409,489	3,098,246	2,431,015	2,293,461	2,613,352	2,878,202	2,466,328	2,209,850	2,091,803	2,517,083	34,008,185	2,834,015.4
生化学	2,330,937	2,155,930	2,467,969	2,371,333	2,654,755	2,452,694	2,595,164	2,546,393	2,511,271	2,533,108	2,474,894	2,595,068	29,689,516	2,474,126.3
病理	847,710	809,300	929,050	931,370	966,150	1,050,740	1,032,020	965,140	978,000	960,300	1,044,000	1,021,590	11,535,370	961,280.8
細胞診	305,632	302,493	328,092	251,633	299,169	324,312	337,476	326,637	312,540	332,641	308,267	326,718	3,755,610	312,967.5
外注合計	1,181,443	1,148,464	1,484,017	1,420,801	1,355,597	1,373,072	1,218,918	1,116,129	1,326,293	1,214,069	1,266,166	1,285,524	15,390,493	1,282,541.1
検体合計	14,135,312	11,398,384	12,888,695	12,109,562	11,959,381	11,552,689	12,187,011	12,584,732	12,118,447	11,680,897	11,441,921	11,990,324	146,047,355	12,170,612.9
腹部エコー	399,760	410,630	442,680	397,250	427,530	453,240	429,750	429,710	432,380	431,100	440,690	439,460	5,134,180	427,848.3
心エコー	671,380	603,040	678,980	616,600	664,220	651,500	705,540	638,240	628,460	677,060	608,260	616,500	7,759,780	646,648.3
他エコー	448,650	407,750	486,650	432,050	489,400	483,600	391,050	471,950	455,300	488,050	496,650	464,300	5,515,400	459,616.7
生理合計	2,137,390	2,005,815	2,338,945	2,059,850	2,241,795	2,255,045	2,206,920	2,220,640	2,170,990	2,224,135	2,205,280	2,176,200	26,243,005	2,186,917.1
院内検査合計	16,272,702	13,404,199	15,227,640	14,169,412	14,201,176	13,807,734	14,393,931	14,805,372	14,289,437	13,905,032	13,647,201	14,166,524	172,290,360	14,357,530.0





4. 今後の目標

1）検査技師の質の向上

①各専門技士育成

細胞検査士、輸血専従技師、微生物検査技師、生理検査技師（超音波・各種機能検査）

②各種資格試験の受験

細胞検査士、認定臨床微生物検査技師、感染制御認定臨床微生物検査技師、
認定輸血検査技師、認定血液検査技師　など

③各種学会発表・論文執筆の推進

2）業務改善・改革

①各部門人員配置の見直し・増員

②採血待ち時間短縮・結果返却における TAT の改善

③業務負担（残業時間）の分散

3）増改築における検査科移転

①採血コーナー拡大

②採血・受付支援システム導入

③検体検査効率化・自動搬送導入

34）リハビリテーション科（理学療法・作業療法・言語聴覚療法）

理学療法室　室長　野村　日呂美

薬剤部　96
放射線科　99
臨床検査　101
リハビリ　104
臨床心理　110
臨床工学　112
栄養科　122
治験セン　125
医療福祉　126
病診連携　130
健診セン　142
情報シス　144
保育室　146
がん相談　148
医療安全　151
感染制御　155
臨床腫瘍　159

1. 概要

2023 年はコロナ感染が 5 類に移行したことで、病院の対応も変化する年ではあったが、2022 年同様、感染拡大を防止するため病棟担当制を継続した。

理学療法では若手の教育・業務量の均一化を目的に脳外・整形・心肺・訪問等の専門分野単位で運営を行っているが、今年は『整形－訪問』を兼任するスタッフを増員して合計 3 名体制で訪問チームの運営を行った。これにより患者の退院先の拡大に努めることができ、その成果を院内 QI 大会で発表。見事、最優秀を受賞した。更なる退院先の拡大とスタッフの経験値の向上目的に全南病院と屋久島病院へスタッフの派遣応援を実施した。また、近隣の病院との連携強化として理学療法士協会への活動を通して会議・交流会・勉強会等、地域の中核病院としての活動も継続して行っている。

作業療法では第三者病院評価『JCI』での転倒転落の発表を担当。病院全体の転倒転落の事例を検証すると共に院内での転倒転落防止に向けての対策を講じ、その追跡データーをまとめて発表した。

言語療法では、近隣で小児の言語発達訓練を行ってくれる施設がないことから当院に患者が集中していることと、高齢化により入院患者の多くが嚥下障害を併発している方が多く業務が逼迫している状態が数年持続している。インスタグラムでの広告活動や様々な業務改善に取り組み、全国で数少なく業務過多な言語聴覚士が少しでも働きやすい職場を作れるよう日々努力している。

リハビリテーション科全体の活動として、実習生の受け入れを 20 名実施。急性期病院での臨床現場を伝えていく事と、就職に繋げるよう努めた。

また、心肺・DM・整形・脳外・訪問・リウマチ・手の外科、NST、緩和ケア、創傷外来など、チーム内で療法士の専門性を活かした活動を継続し、その中で患者治療の成績分析を行い、各チーム・委員会内での発表を行った。

2. メンバー構成（次項参照）

3. 実績（次項参照）

4. 今後の目標

2024 年度は全南病院の一部が移管され患者数が昨年より増加する。理学では入院前にパスに準じたパンフレットの作成－患者教育によりスムーズな退院の促進に取り組む計画を講じている。作業では 2 年ぶりに 2 名の新人入職の予定である。全国で数少ない作業療法士が当院で増えていき、いずれは他病院を応援できるよう教育体制の見直しを検討中。言語は更なる業務整理を行う事で離職防止を行っていこうと考える。

【理学療法】

1. メンバー構成

在籍人数　　単位：名

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
25	25	25	28	28	28	28	28	28	28	28	28

全南病院応援 1 名

屋久島に 10 月～ 1 名応援中（来年 3 月までの予定）

ワクチン接種受付にてスタッフ応援

大阪公立大学助教授　1/2W 学術的指導応援中

1 名育児短時間にて勤務中（-0.3）

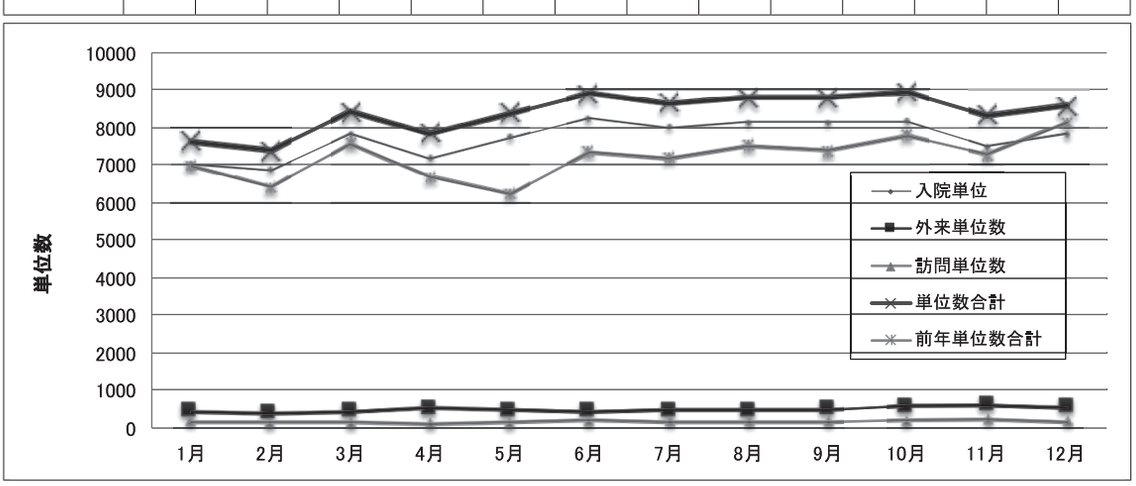
2 月より整形兼務の訪問担当者を 2 名、合計訪問チーム 3 名で運用

1 名 ICU・HCU　加算　算定要員

4 月に 3 名入職、11 月中旬から 1 名病欠　12 月末 1 名退職（12 月有給で不在）

2. 実績

2023年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計単位数	平均
入院単位	7,034	6,866	7,830	7,203	7,754	8,262	8,013	8,139	8,137	8,174	7,496	7,835	92,743	7,728.6
外来単位数	435	389	445	527	478	438	475	479	510	571	602	546	5,895	491.3
訪問単位数	162	148	152	109	156	206	186	181	162	200	231	187	2,080	173.3
単位数合計	7,631	7,403	8,427	7,839	8,388	8,906	8,674	8,799	8,809	8,945	8,329	8,568	100,718	8,393.2
スタッフ数（実働数）	20	19	19	19	20	21	22	22	22	21	21	20		20.7
前年単位数合計	6,991	6,410	7,571	6,685	6,239	7,377	7,212	7,515	7,390	7,788	7,280	8,139	86,597	7,216.4
前年スタッフ数	18	18	18	21	20	20	20	20	20	21	21	21		19.9
延べ入院件数	4,822	4,632	5,211	4,744	5,106	5,217	5,147	5,063	5,144	5,241	4,883	5,236	60,446	5,037.2
延べ外来件数	370	348	368	391	375	344	360	366	376	407	422	381	4,508	375.7
訪問患者数	14	14	13	14	14	16	14	15	13	17	16	14	174	14.5



薬剤部　96
放射線科　99
臨床検査　101
リハビリ　104
臨床心理　110
臨床工学　112
栄養科　122
治験セン　125
医療福祉　126
病診連携　130
健診セン　142
情報シス　144
保育室　146
がん相談　148
医療安全　151
感染制御　155
臨床腫瘍　159

①実習生受け入れ

＜見学実習＞	期間	学年	
森ノ宮医療大学	7/31 ～ 8/4	2年	1名
大阪公立大学	2/13 ～ 2/17	2年	1名
大阪府立大学	9/11 ～ 9/15	2年	1名
＜検査測定実習＞			
大阪保健医療大学	1/23 ～ 2/18	3年	1名
行岡医療大学	2/6 ～ 2/24	3年	1名
大阪公立大学	2/13 ～ 3/3	3年	1名
＜臨床実習＞			
大阪医療福祉専門学校	5/29 ～ 7/22	3年	2名
大阪府立大学	5/29 ～ 7/19	4年	1名
四條畷学園大学	8/7 ～ 9/27	4年	1名
＜地域実習＞			
大阪公立大学	9/1 ～ 9/7	4年	1名

②《地域連携》

服部　玄徳　　八尾市柏原市理学療法士会　学術部員

研修会名：八尾市柏原市理学療法士会主催研修会

日　　時：2023 年 7 月 7 日　18：30 ～ 20：30

テ ー マ：糖尿病管理における身体活動についての再考

講　　師：本田　寛人 先生（四條畷学園大学　リハビリテーション学部　理学療法学専攻　准教授）

司　　会：服部　玄徳

研修会名：八尾市柏原市理学療法士会主催研修会

日　　時：2023 年 12 月 1 日　18：30 ～ 20：30

テ ー マ：退院に向けた住環境整備～転倒予防戦略の立て方～

講　　師：上田　哲也 先生（大阪公立大学　医学部　リハビリテーション学科　理学療法学専攻　講師）

司　　会：服部　玄徳

小阪　葵　八尾市柏原市理学療法士会　学術部員

久松　寛　八尾市柏原市理学療法士会　学術部員

3. 今後の目標

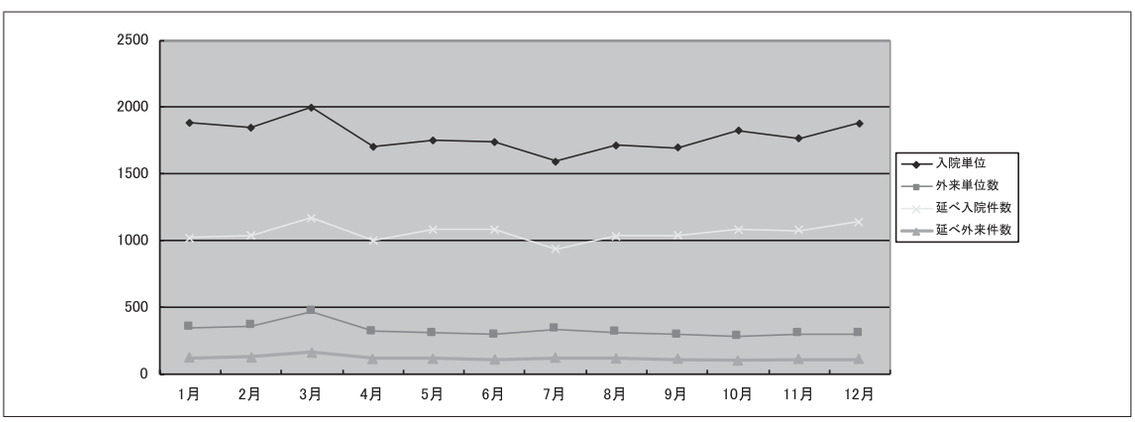
今年は患者の退院先の拡大を目的に『訪問－整形』兼任者を 2 名配置し、訪問チーム合計 3 名体制で運用した。来年は TKA 患者の介護保険の申請や、訓練時に必要な物品、退院までの日程・日数を事前にお伝えできるようパンフレット作成し入院から退院までの流れをスムーズにしていこうと考える

1. 業務量

＜言語療法件数＞

＜言語療法単位数＞

2023年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計単位数	平均
入院単位	1,885	1,847	2,002	1,701	1,759	1,744	1,599	1,717	1,698	1,830	1,769	1,884	21,435	1,786.3
外来単位数	350	361	468	320	310	294	335	312	296	283	300	305	3934	327.8
延べ入院件数	1,028	1,040	1,174	1,002	1,087	1,082	936	1,038	1,042	1,088	1,075	1,143	12,735	1,061.3
延べ外来件数	126	129	166	120	115	112	122	117	112	105	112	114	1,450	120.8
スタッフ数	7	7	6.74	7	5.98	6	6	6	6	6	6	6	75.72	6.3



2. 実習生受け入れ

2023 年 10 月 2 日～ 11 月 29 日　　大阪医療技術学園専門学校（昼夜間部）　　臨床実習　1 名

【作業療法】

1. メンバー構成

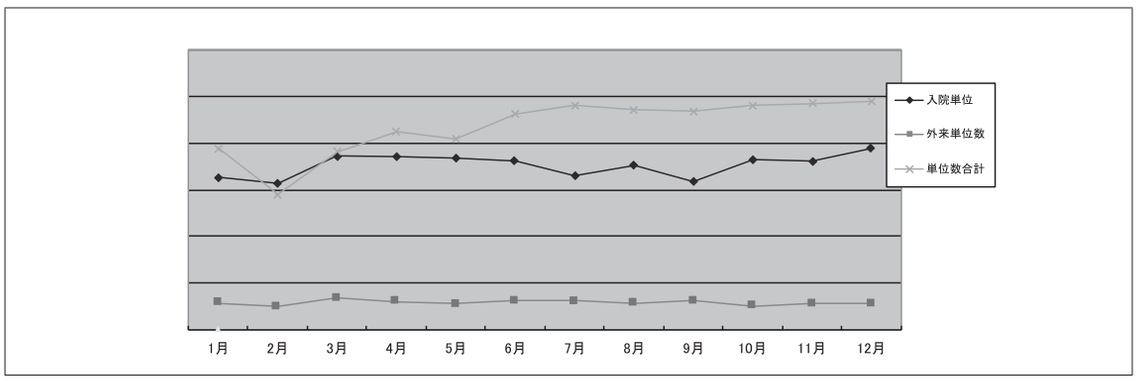
1月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
スタッフ実働人数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

2. 実績

＜作業療法単位数＞

2023年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計単位数	平均
入院単位	1,633	1,570	1,865	1,854	1,847	1,814	1,647	1,770	1,595	1,831	1,808	1,945	21,179	1,748.5
外来単位数	286	252	344	300	282	315	312	289	314	259	277	294	3,230	293.6
単位数合計	1,919	1,822	2,209	2,154	2,129	2,129	1,959	2,059	1,909	2,090	2,085	2,239	3,230	2,042.2
スタッフ実働人数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72	6
入院患者数	1,046	932	1,114	753	782	878	742	938	864	938	837	973	10,797	899.8
外来患者数	223	233	268	277	244	258	266	313	241	237	285	280	3,125	260.4
前年度単位合計	1,949	1,453	1,911	2,127	2,044	2,314	2,411	2,359	2,342	2,400	2,424	2,449	26,183	2,181.9
2021 スタッフ人数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72	6

薬剤部　96
放射線科　99
臨床検査　101
リハビリ　104
臨床心理　110
臨床工学　112
栄養科　122
治験セン　125
医療福祉　126
病診連携　130
健診セン　142
情報シス　144
保育室　146
がん相談　148
医療安全　151
感染制御　155
臨床腫瘍　159



①実習生受け入れ

＜見学実習＞	期間	学年	
森ノ宮医療大学	8/17 ～ 8/22	1年	1名
四條畷学園大学	8/28 ～ 9/1	1年	1名
大阪府立大学	2/30 ～ 3/3	1年	1名
＜検査測定、評価実習＞			
関西福祉科学大学	1/16 ～ 2/17	3年	1名
奈良学園大学	8/22 ～ 8/29	1年	1名
大阪医療福祉専門学校	1/24 ～ 1/27	3年	1名
＜臨床実習＞			
大阪医療福祉専門学校	5/22 ～ 7/29	4年	1名
関西福祉科学大学	7/18 ～ 8/4	4年	1名

【心臓リハビリテーション】

①概要

昨年よりスタッフを増員し、より心リハの外来に力を注いだ。その結果、昨年に比べ 10 倍以上の外来患者を獲得できた。また、入院患者においても一日 2 回のリハビリテーションを提供することで、患者の ADL 拡大、QOL の向上に努め早期退院の一助になったと考える。今後も、外来心リハを拡大することで、再入院予防にも努めていきたい。

②メンバー構成

循環器内科医師：　福田貢、松尾浩志
心臓血管外科医師：内田直里、薦岡成年、小島三郎、春日健介
理学療法士：　片田理恵、長谷川静、奥村葵、上西希
臨床検査技師：　戸野川始、西岡徹、桐原恵利佳

③実績

入院	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均	合計
患者数	935	685	811	768	720	726	688	721	724	748	790	871	766	9,187
単位数	1,427	940	1,239	1,164	1,130	1,221	1,060	1,175	1,240	1,223	1,251	1,433	1,209	14,503

入院	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均	合計
患者数	3	35	62	65	49	43	48	39	44	80	92	67	52	627
単位数	4	38	87	120	88	65	78	61	73	128	154	112	84	1,008

入院	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均	合計
患者数	938	720	873	833	769	769	736	760	768	828	882	938	818	9,814
単位数	1,431	978	1,326	1,284	1,218	1,286	1,138	1,236	1,313	1,351	1,405	1,545	1,293	15,511

④今後の目標

術後リハビリテーションの充実、外来運動療法の積極的な実施

外来患者の個別面談の実施

他院からの外来心臓リハビリ患者の積極的な受け入れ

35）臨床心理科

臨床心理士　朴　祐希

薬剤部　96
放射線科　99
臨床検査　101
リハビリ　104
臨床心理　110
臨床工学　112
栄養科　122
治験セン　125
医療福祉　126
病診連携　130
健診セン　142
情報シス　144
保育室　146
がん相談　148
医療安全　151
感染制御　155
臨床腫瘍　159

1. 概要

当院における心理士の役割は、治療に来られる患者様の心に寄り添い、支えることです。人が病気やけがを患うと不安や混乱、苦しみや痛みなどさまざまな感情・感覚が生じ、それらが治療の妨げになることも少なくありません。それらを少しでも軽減し、患者様が心身ともに穏やかに過ごせるようサポートすることを私たちは目指しています。

世間ではCOVID-19に伴う制限が少しずつ緩和されてきておりますが、療養生活の中では依然と制限が多く残っています。人とつながる機会が少なくなることは、療養中の方々には不安やストレスを増大させることになりかねません。誰もが孤立することなく、人とのつながりを感じられるようなサポートができればと思っております。

当科では業務内容を再検討し、1年が経過しました。片上医師との連携を強め、患者様により質の高いサポートを提供できるよう努め、必要に応じた薬物療法、心理療法を行える体制を構築しました。今後も協力・協働しながら患者さんのケアを行っていきたいと考えています。

また、9月に参加した第41回小児心身医学会学術集会では、髙橋心理士が学会長賞を受賞し、院外でも活躍の幅を広げています。

2. メンバー構成

片上徹也　（精神保健指定医・臨床心理科部長）
朴祐希　　（臨床心理士・公認心理師）
宮坂なつ花（臨床心理士・公認心理師）
髙橋恭子　（臨床心理士・公認心理師）

3. 実績

【外来業務】

・心理外来（小児科・その他の診療科）

小児科領域ではおもに心身症や発達障害などの患者様を対象に、医師の指示のもと心理検査やカウンセリング、プレイセラピーなどの心理治療を行っています。他の診療科においても、身体疾患に伴う心理的な不調をきたしている患者様に対応しています。

・糖尿病外来

糖尿病ケアチームのスタッフとともに患者様の血糖管理や治療を支えるための精神的なサポートをしています。症例カンファレンスでケース検討をした患者様に認知機能検査やAUDITを実施し、チームスタッフとの連携によりその人に合わせた支援を行っています。また、今年は天理よろづ相談所病院へ見学の機会をいただき、糖尿病教室に参加し、同じ病気を共有するもの同士が気持ちや体験を共有することの大切さを実感しました。学んだことをチームと共有し、支援に活かしています。

【入院業務】

・診療科は問わず入院患者さんやそのご家族に対して、カウンセリングなどの心理的ケアを実施しています。

・緩和ケアチーム・糖尿病ケアチーム・精神科リエゾンチーム、心臓外科リハビリカンファレンス、ICU カンファレンスに参加し、医師や看護師をはじめとする他職種と連携・協力しながら、患者さんをサポートするチーム医療を実践しています。

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外来	小児科	86	104	124	94	88	89	88	77	78	85	72	91	1,076
	糖尿病外来	2	5	3	3	3	2	1	3	3	2	2	4	33
	その他	1	1	3	2	1	2	2	2	4	5	4	8	35
	検査	2	0	1	1	0	0	0	0	1	1	2	2	10
	合計	91	110	131	100	92	93	91	82	86	93	80	105	1,154
入院	内科系	14	8	8	7	4	13	2	0	7	7	1	10	81
	外科系	6	19	20	3	8	24	6	10	4	15	21	40	176
	小児科・婦人科	3	8	7	3	0	2	0	0	0	0	0	0	23
	糖尿病	10	8	8	3	3	5	2	3	8	8	4	9	71
	緩和ケア	0	4	4	0	0	6	9	3	1	3	2	16	48
	リエゾンフォロー	12	16	25	24	26	19	8	14	19	22	28	8	221
	検査	3	9	4	4	6	10	4	5	2	6	5	3	61
	合計	48	72	76	44	47	79	31	35	41	61	61	86	681

4. 今後の目標

私たちは、生活の中で困難さを抱え相談に来られた方１人１人と丁寧に向き合い、一緒に悩むことで、皆さんが少しでも日々を過ごしやすくなることを目標にしています。

昨年は外部研修に参加するなど、様々な体験をすることができました。そこから学んだものを日々の業務に活かしていくだけでなく、今年度も新たな経験を積んでいきたいと思っております。そして患者さんだけでなく、病院で働く職員のメンタルヘルスの向上に取り組んでいきます。

36）臨床工学科

臨床工学科　技士長　藤田　和睦

薬剤部　96
放射線科　99
臨床検査　101
リハビリ　104
臨床心理　110
臨床工学　112
栄養科　122
治験セン　125
医療福祉　126
病診連携　130
健診セン　142
情報シス　144
保育室　146
がん相談　148
医療安全　151
感染制御　155
臨床腫瘍　159

1. 概要

〈人工透析業務〉

1）件数

・透析件数は、12,656 件と前年比 890 件増加し、その内、透析濾過については i-HDF が 3,304 件、on-line HDF が 1,402 件と前年比 201 件の増加であった。病棟透析（ICU、HCU、8 西）が 313 件で前年比 109 件増加した。特殊血液浄化は、持続血液透析が 633 件で前年比 64 件増加、PMX は 1 件で前年比 1 件減少であった。

腹水濃縮濾過が 8 件で前年と同数、レオカーナは 6 件で前年比 37 件減少した。昨年と比べ、ICU・HCU 領域での急性血液浄化件数が著明に増加した。

2）取り組み

・透析装置の保守点検、透析室での配置を 4 ～ 5 名体制を維持し他カテゴリー（covid-19 対応含む）への業務支援を行い、他業務の教育・指導、業務効率の充実を図った。又、新たにエコー装置購入、DIACOM（透析支援システム）が 10 月から稼働し業務の効率化が計られた。透析液の水質管理（生物学的汚染物質、化学的汚染物質）を継続的に安定して行うことができた。

3）課題、目標について

・i-HDF や on-line HDF が始まり、更なる継続的な透析液（超純粋透析液）水質管理を行う事。課題としては、超純粋透析液使用のため、ET 測定頻度が増加し、ET 測定器の購入が必要。エコーを購入したがシャント評価や穿刺の件数がまだまだ少ない。又、JCI を取得し継続的な環境整備を行う。

〈DSA 業務〉

・昨年に引き続き DSA 治療中心に業務を行っている。脳アンギオ治療 98 件、シャント PTA38 件対応した。今後の課題として、緊急症例も含め幅広く対応できるように研鑽していきたいと思う。

〈人工心肺業務〉

1）件数

・人工心肺使用症例（開胸）　96件（前年比-13件）
・人工心肺不使用症例（開胸）　10件（前年比+4件）
・人工血管置換術（開腹）　23件（前年比-1件）
・自己血回収　131件（前年比-8件）
・TEVAR　34件（前年比+5件）
・EVAR　34件（前年比-17件）

2）取り組み

・人工心肺症例は 96 件と軒並みの件となり、さらなる体制強化および緊急手術にも対応した。なお、2023 年の緊急人工心肺症例は 25 件であった。業務体制は常時 3 名配置し、安全と教育に努めた。人工心肺業務に従事する臨床工学技士には、より専門的な知識を有した体外循環技術認定士が携わり、今年は 1 名追加となり資格取得者は 4 名在籍している。また MICS 下での人工心肺操作を始め、小切開かつ低侵襲な重症心臓外科手術に対応している。

3）課題や目標について

・2024 年は更なる人工心肺使用症例数の増加、緊急手術、重症症例の増加や低侵襲手術の導入など心臓血管外科手術の増加が予想される。また 2024 年は TAVI も開始となる予定である。それらに私たちは安全で安定した医療を提供できるよう強化を図りたい。

〈手術室業務〉

1）件数

・鏡視下手術　　865件（前年比-59件）
・MEP　　80件（前年比-33件）
・ナビゲーション　34件（前年比-48件）
・ダビンチ　　105件（前年比+68件）

2）取り組み

・2023 年も継続して、手術室および救急、DSA に設置している麻酔器の日常点検、さらに例年計画している保守点検も 11 月に実施することにより故障トラブルの早期発見に務めた。
・電気手術メスを始めとする高周波エネルギーデバイスの保守点検も当科で実施した。
・MEP 術中モニタリングおよびナビゲーション支援においては整形外科領域だけでなく脳神経外科領域においても取り組んでおり、症例数増加にも対応している。
・内視鏡手術支援ロボット daVinci の使用は増加傾向にあり泌尿器外科、呼吸器外科、消化器外科と多岐に亘っている。
・手術室安全を向上させるため、周術期管理チーム認定制度の更なる認定取得を推進する。

3）課題や目標について

・2024 年も更に件数増加や新しい医療機器が導入されることが予想される。特に内視鏡手術支援ロボット daVinci には積極的な取り組みをしていく。また医療機器の安全使用や装置異常やトラブル早期発見に対し、臨床工学技士として迅速な対応を図りたい。

〈心臓カテーテル・PM 業務〉

1）件数

総カテ 1,224 件数件（昨年 1,653 件）
PCI 件数 725 件（昨年 776 件）
EVT 件数 256 件（昨年 237 件）
緊急心臓カテーテル件数は 183 件（昨年 118 件）

・高度な手技を要する Rotablator は 220 件（昨年 215 件）、Diamond Back は 26 件（昨年 34 件）。エキシマレーザー 80 件（昨年 57 件）。今年度、新たにショックウェーヴ 43 件。ジェットストリーム 15 件を施行。
・ペースメーカー外来 316 件。（昨年 314 件）
・ペースメーカー植え込み件数 52 件（昨年 39 件）
・遠隔モニタリングには力を入れており、導入数が増加。1,013 件（昨年 896 件）の実施となった。

2）取り組み
・新規デバイスであるジェットストリームの導入により浅大腿動脈の石灰化に対する適応の患者へ積極的に使用している。
・学会発表をおこなうことで、他施設との交流が出来た為、新しい技術など当施設に導入することが出来た。

3）課題や目標について
・今年度より医師が 4 人増員と大幅に体制が変わり、それに伴い循環器ホットラインが始まり緊急心臓カテーテルが増え、より一層迅速な対応と人員の増加を図らなければならない。
・新人スタッフの教育に力を入れ、科内全員が対応出来るよう、人数のベースアップを試みる。

〈呼吸器・機器管理業務〉

1）件数
・NPPV の件数は 2,543 件で、昨年 2,205 件より 238 件増加した。（1 日 1 件としてカウント）
・例年どおり NPPV をレンタルすることが多かった。
・ベンチレータの件数は 5,145 件で昨年 4,484 件より 661 件増加した。
・ネーザルハイフローの件数は 3,400 件で昨年 2,785 件より 615 件増加した。
・Para PAC およびモナール（搬送用人工呼吸器）件数は 135 件で昨年 161 件より 26 件減少した。

2）取り組み
・MRI 用輸液・シリンジポンプ　を導入した。
・2023 年も継続して人工呼吸器に使用前点検ならび定期的な回路交換・人工呼吸器のオーバーホールを実施。
・QI 目標として医療機器の迅速な故障対応を掲げ、一定の成果がみられた。

3）課題や目標について
・ICU 業務　V-VECMO　導入件数増加
・MRI 用輸液・シリンジポンプ使用件数増加　共に対応できるように教育行っていく
・ME 物品不足ないように努める
・2024 年も新しい医療機器が導入されることに対して、それらの異常の早期発見およびトラブルに臨床工学科として取り組んでいきたい。

薬剤部　96
放射線科　99
臨床検査　101
リハビリ　104
臨床心理　110
臨床工学　112
栄養科　122
治験セン　125
医療福祉　126
病診連携　130
健診セン　142
情報シス　144
保育室　146
がん相談　148
医療安全　151
感染制御　155
臨床腫瘍　159

〈内視鏡〉

1）件数

・上部消化管検査は5,302件で昨年比63件減少した。下部消化管検査は2,688件で昨年比71件増加した。ERCPは362件で昨年比39件増加した。治療件数は、ポリペクトミー・EMRは618件で昨年比73件減少、ESDは49件で昨年比7件の増加であった。施行医師の不足により内視鏡手技介助に対応する場面が増加している。他職種との密な連携を行うことにより治療件数増加、手技時間の短縮に対応出来たと考える。

2）取り組み

・教育のテーマとして介助者の育成は、昨年同様に目に見える教育をテーマとして行った。難易度が高い処置が増加している為、対応できるスタッフの育成が、引き続きテーマとなる。

・内視鏡機器保守管理に関しては、修理件数および修理金額が増加した。検査・処置中の噛まれ件数が増加した。先端部の故障による修理が増加した。機器更新時期に当たるため、機器選定も重要である。又、新棟検診センター内の内視鏡稼働に向けた機器選定も必要となる。

・学会発表において、日本臨床工学技士学術大会に1演題、近畿消化器内視鏡技師学術大会に1演題、日本消化器内視鏡技師学術大会に2演題発表を行った。近畿内視鏡技師学術大会のビデオディスカッションにおいてもパネリストとして参加した。又、グループ内臨床工学部会内視鏡WGとしても1演題発表（共同演者）を行った。

・グループ内部会活動では、臨床工学部会内視鏡WG長としてコスト削減、eラーニングの作成、WGでの学会発表、スコープ清浄度測定の実施を行った。昨年に引き続きグループ内でのコスト削減や業務の質の向上に大きな貢献したと考える。

・外部活動においては、内視鏡処置具に関する業者からのウェビナー講師を行った。又、昨年同様、日本臨床工学技士会（職能団体）の内視鏡業務検討小委員会メンバーとして、日本臨床工学技士学会でも内視鏡処置介助のタスクシフトセッションに関わり、内視鏡処置介助業務の法的合法化に向けての活動を行うことができた。昨年に引き続き八尾徳洲会総合病院の知名度の向上に貢献したと考える。

3）課題や目標について

・目標としては、医師と連携して安全な内視鏡処置介助を行えるようにしていきたい。

〈救急車〉

1）件数

・救急車搬送（一般患者転院搬送） 67件（昨年40件）
ドクターカー搬送件数 2件（昨年4件）
臨床工学技士の救急車同乗 合計11件（昨年9件）

2）取り組み

・ドクターカー搬送については昨年同様に当院の救急車で、医師、臨床工学技士（1～2人）、医事課（運転手）で当院からの搬送や搬送依頼のあった病院に向かい、当院に搬送する

ことを目的として行っている。搬送中に臨床工学技士は救急車が出発するまでに車内周辺機器の準備を行い、救急車走行中は助手席に座り、運転手のサポート（走行時安全確認、ナビゲート、サイレンの操作）を行なう。また、一般患者転院搬送同様に人工呼吸器の操作・管理に加えて、補助循環装置の操作・管理も行う。搬送中の人工呼吸器管理は2021年よりモナール（搬送用人工呼吸器）が運用開始となり、この装置によって、2023年も人工呼吸器使用患者の搬送を簡便に行えている。

・救急車の点検については、毎日、医事課職員による点検が行われており、車内にある消火器についても使用期限などを確認し、更新・半年点検を実施した。搬送時の医療機器は毎日、臨床工学技士によって外観・充電状態を確認し、車内物品についても、搬送後に物品が揃っているかの確認を行っている。また、車内環境の更新も図っている。

3）課題や目標について

・2023年は2022年と同様に救急車搬送に臨床工学技士が同乗できた。このまま安全に努めて対応していきたい。

人工呼吸器や補助循環装置などの生命維持装置の管理・操作できる臨床工学技士がしっかりサポートし、八尾徳洲会総合病院の安全な救急車搬送に尽力していきたい。

2. メンバー構成

・藤田技士長を含む25名（2023年12月現在）で構成。役職者構成は以下の通り

・藤田技士長

・中西副技士長

・藤村係長

・杉本主任　杉山主任

・向井副主任　玉城副主任　長谷川副主任

告示研修受講者数

・12名受講済み。13名の告示研修受講を進めていく。

薬剤部 96
放射線科 99
臨床検査 101
リハビリ 104
臨床心理 110
臨床工学 112
栄養科 122
治験センター 125
医療福祉 126
病診連携 130
健診センター 142
情報システム 144
保育室 146
がん相談 148
医療安全 151
感染制御 155
臨床腫瘍 159

3. 実績

2023 年臨床工学科業務量件数

心カテ業務	
CAG	499
右心カテ	79
CAS（頸動脈ステント）	3
PTA	256
TPM	58
PPM	52
その他（PTAV、PTMC）	3
アンギオ業務	
脳アンギオ	39
腹部アンギオ	13
下肢アンギオ	68
シャント造影	19
血液浄化	
HD/HDF/ECUM（外来）	8,662
HD/HDF/ECUM（入院）	3,994
on-lineHDF	1,402
i-HDF	3,304
病棟透析	313
CRRT	633
PMX	1
GCAP	1
CART	8
血漿交換	25
レオカーナ	6

手術室業務	
人工心肺（開胸）	96
人工心肺不使用（開胸）	10
人工血管置換術（開腹等）	23
自己血回収（単独）	131
ダビンチ	105
ナビゲーション	34
MEP	80
鏡視下手術	865
TEVAR	34
EVAR	34
補色循環業務	
ECMO	357
IABP	209
IMPELLA	21
VAD	1
ペースメーカーチェック	
外来	254
入院	62
遠隔モニタリング	1,013
救急車	
救急車同乗	11

内視鏡業務	
上部消化管内視鏡検査	5,302
止血術	62
EVL/EIS	13
拡張術	11
EMR･ポリペクトミー	11
ESD	53
食道・胃・十二指腸ステント	9
イレウス管（スコープ使用）	30
異物除去	14
OTSC	1
胃瘻造設	54
胃瘻交換	4
下部消化管内視鏡検査	2,688
止血術	65
拡張術	15
EMR/ ポリペクトミー	618
ESD	49
大腸ステント	30
イレウス管	17
異物除去	15
OTSC	4
小腸内視鏡検査	3

胆膵系処理	
ERCP	362
EST/EPBD	133
胆管メタリックステント	27
チューブステント	267
ELT	43
バスケット / バルーン採石	209
擦過細胞診	31
胆管内内視鏡	1
胆管内結石破石術	1
気管支鏡	
BF	102
BAL	8
EBU-TBNA	9
医療機器メンテナンス	
輸液ポンプ	6,726
シリンジポンプ	3,266
除細動器	10,189
低圧持続吸引器	873
人工呼吸器	6,370
生体監視モニター	63,871
血液浄化装置	16,964
内視鏡機器	22,234

医療機器メンテナンス	
輸液ポンプ	6,726
シリンジポンプ	3,266
除細動器	10,189
低圧持続吸引器	873
人工呼吸器	6,370
生体監視モニター	63,871
血液浄化装置	16,964
内視鏡機器	22,234

呼吸器管理業務	
IPPV	5,145
NPPV	2,543
NHF	3,400
在宅人工呼吸器	11
輸送用人工呼吸器	135
救急車での人工呼吸器	12

薬剤部 96
放射線科 99
臨床検査 101
リハビリ 104
臨床心理 110
臨床工学 112
栄養科 122
治験センター 125
医療福祉 126
病診連携 130
健診センター 142
情報システム 144
保育室 146
がん相談 148
医療安全 151
感染制御 155
臨床腫瘍 159

4. 活動状況

認定士取得状況

- 体外循環認定士　藤田技士長　杉本主任　長谷川副主任
- 呼吸療法認定士　藤田技士長　藤村係長　杉山副主任　長谷川副主任
- 血液浄化技術認定士　藤田技士長　杉山主任　長谷川副主任　玉城副主任
- 消化器内視鏡技師　中西副技士長
- 周術期管理チーム　長谷川副主任

委員会活動（2023 年 4 月 1 日構成図より）

・運営委員会	藤田技士長	・医療安全管理委員会	藤田技士長
・SM	藤田技士長	・院内感染対策委員会	藤村係長
・JCI 委員会	藤田技士長	・医療ガス安全管理委員会	藤村係長
・高額医療機器選定委員会	藤田技士長	・広報委員会	藤田技士長、藤村係長
・治験委員会	藤田技士長	・研修管理員会	藤田技士長
・手術室運営委員会	藤田技士長	・病院倫理委員会	藤田技士長
・医療放射線管理委員会	中西副技士長	・診療録管理委員会	藤村係長
・ICU・HCU 運営会議	杉本主任		
・システム委員会	杉山主任	・災害対策委員会	三原技士
・教育研修委員会	山谷技士		
・広報委員会	藤田技士長、藤村係長、山谷技士		
・透析機器管理委員会	藤田技士長、藤村係長、三原技士		
・肺塞栓予防委員会	長谷川副主任	・文書管理委員会	藤村係長
・研修管理委員会	藤田技士長	・図書委員	向井副主任
・施設安全管理委員会	杉本主任	・院内急変対策委員会	藤村係長

技士会活動

・日本臨床工学技士会	内視鏡業務検討小委員会委員	中西副技士長
・大阪府臨床工学技士会	選挙管理委員	藤田技士長
・大阪府臨床工学技士会代議員		中西副技士長

学術大会・外部発表

- 第80回近畿消化器内視鏡技師学会　2/12　東内技士
  演題『マイクロスコープを用いた新しい挑戦』
- 第80回近畿消化器内視鏡技師学会　2/12　中西副技士長
  演題『パネルディスカッション　世にも奇妙？なあるある物語～ ERCP編～』
- 第90回日本消化器内視鏡技師学会　5/27　中西副技士長
  演題『イレウス管挿入手技介助教育における動画資料の工夫』
- 第119回日本消化器病学会　四国支部例会　6/18　中西副技士長
  演題『内視鏡治療介助動画作成への取組』
- 第33回日本臨床工学会　7/21　中西副技士長
  演題『内視鏡治療介助業務におけるタスクシフト・シェアに関する外部ヒアリングを行って』

・第99回大阪透析研究会　9/3　山谷技士
　演題『地域医療支援病院の腎不全治療における臨床工学技士の近年の業務状況』
・Complex　Cardiovascular　Therapeutics　10/19　玉城副主任
　演題『新規導入デバイスを経験して』
・臨床工学部会関西大阪CEセミナー　10/22　尾﨑技士
　演題『当院におけるinbodyの活用に関して』
・第91回消化器内視鏡技師学会　11/4　中西副技士長
　演題『下部消化管ステント留置手技介助における動画作成の取組』

部会関連（グループ内臨床工学部会）

ワーキンググループ（以下 WG）

・内視鏡WG長　　中西副技士長

部会活動関連出席（グループ内臨床工学部会）

・全国責任者会議（吹田徳洲会病院）　11/18、19　中西副技士長
・執行部会議　　中西副技士長（内視鏡WG長）
　WEB会議　4/10、8/7、6/6、12/11
　集合会議　2/19、20（鹿児島徳洲会病院）6/5,6（東京本部）10/3、4（東京本部）
・関西大阪ブロック責任者会議
　WEB会議 1/11、2/8、3/8、4/12、5/12、7/12、8/9、10/11、11/15、12/13
　6/14（神戸）9/16（TIS）　　中西副技士長
・全国内視鏡WG会議
　3/9、8/27、11/30（WEB）　　中西副技士長
　7/1（湘南藤沢）
・関西大阪ブロック内視鏡WG会議（WEB）
　3/17　　中西副技士長、西川技士
・CE内視鏡セミナー運営会議（WEB）
　4/11、5/12、6/23、8/24、12/22　　中西副技士長
・カテWG会議
　1/21（松原）、1/28（八尾）　　向井副主任
　3/8（WEB）　　向井副主任
・手術WG会議
　12/8（WEB）　　杉本主任
・関西大阪ブロックCEセミナー　（野崎）
　10/22　　中西副技士長、山谷技士、尾﨑技士、中之技士
　　吉岡技士、平野技士
・関西大阪ブロック新人セミナー　（吹田）
　5/20　　西村技士、吉岡技士、平野技士
・関西大阪ブロックCEセミナー会議（WEB）
　3/28、10/7　　山谷技士
・関西大阪ブロック医療機器WG会議（WEB）

薬剤部　96
放射線科　99
臨床検査　101
リハビリ　104
臨床心理　110
臨床工学　112
栄養科　122
治験セン　125
医療福祉　126
病診連携　130
健診セン　142
情報シス　144
保育室　146
がん相談　148
医療安全　151
感染制御　155
臨床腫瘍　159

6/9、10/5　　杉本主任、杉山主任

・関西大阪ブロック電波管理責任者会議（WEB）

3/22、9/13

・学生実習

大阪ハイテクノロジー専門学校	(1/10 ～ 2/20)	2名
	(5/16 ～ 6/23)	2名
日本メディカル専門学校	(10/11 ～ 11/18)	2名
藍野大学	(6/5 ～ 7/19)	1名

・学生見学

滋慶医療科学大学	3/8	2名

5. 今後の目標

・スタッフの教育推進

・質の高い医療機器の提供

・QI 活動強化

・スタッフの定着（離職率低減）

37）栄養科

栄養科室長　小山　洋史

薬剤部　96
放射線科　99
臨床検査　101
リハビリ　104
臨床心理　110
臨床工学　112
栄養科　122
治験セン　125
医療福祉　126
病診連携　130
健診セン　142
情報シス　144
保育室　146
がん相談　148
医療安全　151
感染制御　155
臨床腫瘍　159

1. 概要

2023 年は約 20 年使用した給食システムの入れ替えのために献立作成、食事オーダーの変更や栄養科全体の業務の見直しなど行った。ICU、HCU の稼働率向上に伴い、2020 年の診療報酬改定から新設された早期栄養介入加算での管理栄養士の業務も算定要件に準じた動きをするために人員の配置に日々難渋した。調理部門では JCI や機能評価の審査をクリアするために、厨房設備の修繕や厨房機器の配置の変更など行い、より良い衛生環境を得るために、職員のマニュアルの更新や衛生教育にも力を入れた。

2. メンバー構成

2023 年 1 月 1 日～ 2023 年 12 月 31 日

管理栄養士　10 名（栄養サポートチーム専従内 1 名）
調理師　16 名
常勤調理補助　1 名
調理補助　22 名

3. 実績

≪実習生受け入れ≫

・武庫川女子大学　2023年6月5日～6月23日　2名

・大阪松蔭女子大学　2023年8月21日～8月25日　3名
2022年8月25日～9月1日　3名

≪食数≫　2023 年 1 月 1 日～ 12 月 31 日

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
一般食	13,050	11,665	13,050	13,483	14,604	13,691	14,033	13,854	14,037	14,074	13,915	14,321	163,777	13,648
経管栄養	1,999	1,988	1,999	1,627	2,762	2,565	1,928	1,662	2,188	2,970	2,291	2,235	26,214	2,185
特別食	12,371	11,497	12,371	12,237	10,796	10,341	11,361	11,419	11,401	10,560	10,931	11,380	136,665	11,389
特別食非加算	1,528	1,413	1,528	1,377	1,774	1,303	1,652	1,522	1,477	1,995	1,825	1,439	18,833	1,569
職員食	8,070	7,089	8,070	7,880	7,577	8,193	8,172	8,215	7,679	8,327	7,883	8,184	95,339	7,945
保育所	660	515	660	462	454	418	449	611	454	547	569	618	6,417	535
病児後保育	52	80	52	44	75	112	102	76	90	126	66	119	994	83
付き添い食	26	34	26	42	19	31	31	88	52	30	12	28	419	35
合計	37,756	34,281	37,756	37,152	38,061	36,654	37,728	37,447	37,378	38,629	37,492	38,324	448,658	37,388

≪病院食内訳≫　　2023年1月1日～12月31日

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
常食	4,356	3,360	4,444	4,701	5,301	4,755	4,968	3,867	3,873	4,014	3,522	4,668	51,829	4,319
軟菜食	3,991	4,338	4,670	4,745	3,785	3,045	4,450	4,505	4,595	4,672	3,048	4,274	50,118	4,177
極軟菜食	1,341	1,266	1,403	1,388	1,266	1,403	1,171	1,259	1,412	1,261	1,386	1,928	16,484	1,374
ペースト食	1,047	801	720	856	1,219	1,220	793	936	906	1,104	859	719	11,180	932
流動食	68	46	83	45	127	44	85	49	38	54	44	129	812	68
学童食	0	0	0	0	17	34	23	64	18	62	6	19	243	20
幼児食	0	12	15	44	28	33	18	30	31	25	6	21	263	22
離乳食	0	0	0	0	93	90	93	93	90	93	75	0	627	52
糖尿食	2,998	2,736	2,675	2,769	2,942	3,248	3,337	2,985	2,908	2,930	2,095	3,018	34,641	2,887
心臓食	3,179	1,786	1,981	1,701	3,490	3,149	3,351	3,907	3,640	3,625	3,212	3,629	36,650	3,054
高血圧食	1,416	1,413	1,528	1,377	1,774	1,533	1,013	1,514	1,758	2,147	1,623	1,757	18,853	1,571
腎臓食	1,648	1,475	1,580	1,225	999	1,323	1,332	1,127	929	1,111	939	1,440	15,128	1,261
透析食	2,142	2,183	1,819	1,987	1,608	1,000	1,254	820	650	618	730	709	15,520	1,293
糖尿透析食	447	251	293	343	720	788	1,084	1,455	911	759	1,029		8,080	735
高脂血症食	0	0	0	1	354	173	134	66	65	60	50	158	1,061	88
低脂肪食	481	411	659	862	663	642	874	854	689	667	767	831	8,400	700
肝臓食	217	236	356	192	226	304	421	282	271	443	254	147	3,349	279
肝不全食	236	166	84	544	215	214	275	68	257	232	264	278	2,833	236
貧血食	0	18	97	64	42	52	60	222	68	244	294	423	1,584	132
低残渣食	1,128	679	1,101	615	1,019	1,133	1,139	1,264	1,127	852	1,037	786	11,880	990
潰瘍食	180	267	420	471	318	321	281	292	290	425	241	379	3,885	324
胃切後食	197	200	335	246	155	232	228	204	143	119	83	76	2,218	185
クローン病食	0	0	0	0	32	29	0	0	11	0	0	0	72	6
カテ食	94	88	170	15	0	0	0	0	0	0	0	0	367	31
ケモ食	298	247	151	211	212	511	199	301	325	168	183	208	3,014	251
COPD食	0	0	0	0	21	6	37	44	24	25	50	37	244	20
注腸検査食	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4	2	0	10	1
顎間固定食	81	37	64	85	94	55	8	42	39	82	43	34	664	55
訓練食	212	195	262	212	273	257	252	332	290	338	254	242	3,119	260
濃厚流動食	2,439	1,990	2,017	1,995	2,757	2,561	1,891	1,651	2,147	2,865	1,882	2,221	26,416	2,201
その他(単品食等)	1,886	1,489	1,440	1,492	1,947	1,689	1,538	1,862	1,909	1,872	1,501	1,609	20,234	1,686
合計	30,082	25,690	28,367	28,186	31,697	29,848	30,309	30,095	29,414	30,871	25,479	29,740	349,778	29,148

≪栄養指導件数≫　　2023年1月1日～12月31日

栄養指導件数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
入院初回	167	143	167	162	202	188	230	222	190	203	192	192	2,258	188
入院2回目	29	38	29	32	55	36	63	64	51	52	42	24	515	43
外来初回	18	15	18	18	17	16	21	20	19	17	9	13	201	17
外来2回目	115	152	115	102	68	80	77	78	69	78	67	66	1,067	89
集団	0	0	0	0	2	2	0	0	6	0	0	0	10	1
外来化学療法	5	4	5	4	5	6	3	3	0	2	1	1	39	3
合計	334	352	334	318	349	328	394	387	335	352	311	296	4,090	341

≪その他の業務≫　　2023年1月1日～12月31日

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
早期栄養介入加算(ICU)	104	64	104	78	98	78	110	70	99	137	77	126	1,145	95
早期栄養介入加算(HCU)	342	318	342	343	331	280	373	419	307	356	400	391	4,202	350
栄養情報提供加算	27	23	27	17	23	22	35	49	34	63	37	32	389	32
栄養管理計画書	3,195	2,777	3,195	3,022	3,290	3,244	3,265	3,310	3,180	3,232	3,258	3,358	38,326	3,194
周術期栄養介入加算	5	6	5	6	0	6	2	4	1	7	3	0	45	4
個別食時加算	23	16	7	23	26	28	35	25	47	30	11	37	308	26
合計	3,696	3,204	3,680	3,489	3,768	3,658	3,820	3,877	3,668	3,825	3,786	3,944	44,415	3,701

4. 今後の目標

2024年に向けての地域医療構想の実現のために病床の機能分化が進められている。管理栄養士においても病床の機能に応じた適切な栄養管理が求められており、2024年の診療報酬の改定でも管理栄養士の病棟配置が論議されているため、ICUやHCU以外での一般病棟でのきめ細やかな栄養管理ができるように人員の確保、教育が急務となる。また調理部門では老健の移転、サ高住の新設に伴い、調理師の介護部門との連携の強化も視野に入れて業務を進めて行く必要がある。

薬剤部 96
放射線科 99
臨床検査 101
リハビリ 104
臨床心理 110
臨床工学 112
栄養科 122
治験セン 125
医療福祉 126
病診連携 130
健診セン 142
情報シス 144
保育室 146
がん相談 148
医療安全 151
感染制御 155
臨床腫瘍 159

38）治験センター

副センター長　元田　健太郎

1. 概要

2020 年から続く新型コロナウイルス感染症の流行による影響は、2023 年の 5 類移行にて大きな区切りを迎えました。

新型コロナウイルス感染症の流行以降、当センターでは、治験や臨床研究だけではなく、発熱外来やコロナワクチン関連業務に従事することで地域医療に貢献してきました。一方で、コロナ禍にて落ち込んだ治験受託件数減少の影響から、主業務である治験の実績が伸び悩んでおりました。しかしながら、コロナによる治験需要の低下が収まりを見せる中で、2023 年は各業務に割く人的リソースの配分を見直し、2023 年の治験等による売上は昨年を上回り、前年比 65％増となりました。

2. メンバー構成

治験センター長	大里　恭章（薬剤師：薬剤部長兼任）
治験副センター長	元田　健太郎（臨床検査技師）
専任CRC	加藤　美和（看護師）
事務員	澤田　梓歩子

3. 実績

【治験】

①中等度から重度の慢性閉塞性肺疾患（サノフィ）
②慢性腎臓病（アストラゼネカ）
③動脈硬化性心血管疾患、慢性腎臓病、全身性炎症（ノボ ノルディスク）
④心房細動（バイエル薬品）
⑤心血管疾患の既往を有する肥満症（ノボ ノルディスク）
⑥肥満症（ノボ ノルディスク）
⑦全身性の炎症を伴う心不全（ノボ ノルディスク）

4. 今後の目標

コロナ禍後の経済活動の活性化に伴う労働市場の流動化により、人材の流出が続き、人員不足が生じていることから、生産性向上と労働環境改善を両立させるため、労働プロセスの改善や効率化に取り組みます。また、引き続き治験の受託増に向けて、治験実施診療科の拡大を目指したいと考えています。

39）医療福祉相談室（MSW：医療ソーシャルワーカー）

認定医療ソーシャルワーカー　三谷　勇一

薬剤部　96
放射線科　99
臨床検査　101
リハビリ　104
臨床心理　110
臨床工学　112
栄養科　122
治験セン　125
医療福祉　126
病診連携　130
健診セン　142
情報シス　144
保育室　146
がん相談　148
医療安全　151
感染制御　155
臨床腫瘍　159

1. 概要

75 歳以上の後期高齢者が大きく増加する「2025 年問題」と、生産年齢人口の減少に伴う社会保障費の負担増となる「2050 年問題」が間近に迫る中、地域包括ケアシステムの推進が求められます。この人工オーナス（onus）期を支える基盤となる、地域医療と介護サービスの連携の充実を目指す専門家として、当院では、医療ソーシャルワーカーが配置されております。

人工オーナス（onus）期とは、若者の比率が低く、高齢者の比率が非常に高い人口構造の状態を指します。労働力人口が減少し、働く世代が引退世代を支えるため、社会保障制度の維持が、困難な状態を指します。医療ソーシャルワーカーは、このような時代に、地域の中で改革を起こし、社会的困難を抱える人々への伴走型支援を目指しています。

これらの背景における具体的な活動として、国際的医療機能評価機関（JCI）の認証をうける過程で、さまざまな質の向上を目指してきました。本年度は、MSW の独立回線の開通や、カンファレンスの回数の増加により、退院支援カンファレンスの対象者を増やしました。その結果、退院支援計画書の作成枚数の増加につながりました。これらの取組みは、学会発表 1 演題となりました。

2. メンバー構成

病棟専任社会福祉士 10 名、（算定加算：入退院支援加算 1、入院時支援加算 1）
三谷勇一（ICU・HCU）、中納浩子（4 東）、伊藤貴代（5 西）
木村千恵（5 東）、井本裕美（6 西）、蔵元裕恵（6 東）、五十嵐健太（7 東）
門田翔太（7 西）、影山雄紀（8 東）

退院支援専従看護師　　：加藤和代
入院時支援専任看護師　　：上田あゆみ、辻井千穂、西村なおみ

人事異動：　9 月退職 1 名

委員会活動等

患者ケア委員会	三谷	患者アセスメント委員会	三谷	業務改善委員会	門田
QI会議	三谷	運営会議・広報委員会	門田	放射線治療委員会	三谷
QI会議	門田	がん緩和支援委員会	三谷	オンコロジー委員	三谷
未収金委員会	伊藤	地域医療担当者会議	蔵元	病床管理委員会	影山
入退院支援会議	三谷				

認定資格等

認定社会福祉士（医療分野）	三谷	認定スーパーバイザー	三谷
認定医療ソーシャルワーカー	三谷	救急認定ソーシャルワーカー	三谷
認定がん専門相談員	三谷	入院時重症患者対応メディエーター	三谷
公認心理師	三谷・門田	職場適応援助者	三谷
精神保健福祉士	蔵元・伊藤	障害者職業生活相談員	三谷
社会福祉士実習指導者	三谷・門田	介護福祉士	井本
地域緩和ケア連携調整員	三谷・門田		
認知症サポーター	三谷・門田		

3. 実績

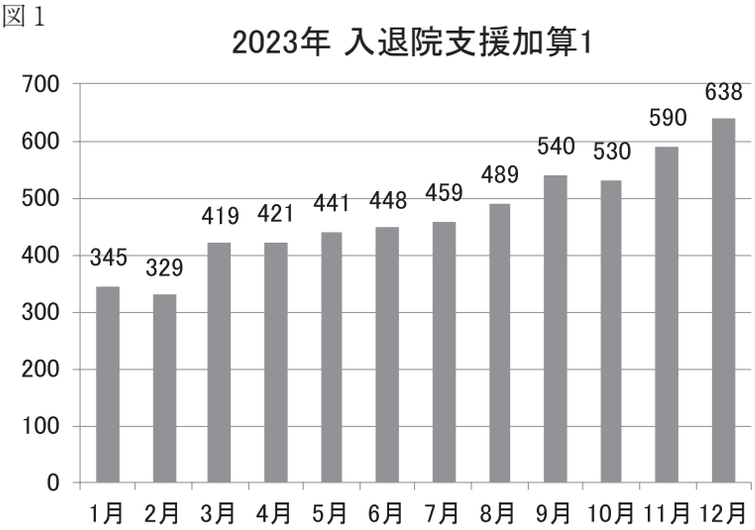
1）退院支援実績

2023 年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1. 他施設へ		149	143	175	177	188	200	170	205	166	189	217	210	2,189
内、グループ内施設へ		16	18	16	16	12	20	16	21	6	21	19	16	197
内訳	① 医療機関	93	83	92	106	107	121	101	127	100	106	131	124	1,291
	内、グループ内施設へ	9	7	10	8	6	10	9	11	2	7	8	10	97
	② 老健施設	14	14	13	14	13	17	13	20	9	24	15	17	183
	内、グループ内施設へ	7	11	6	8	6	8	7	10	4	14	9	6	96
	③ 老人ホーム等	41	44	68	57	65	58	56	55	56	58	70	67	695
	内、グループ内施設へ	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	4
	④ その他	1	2	2	0	3	4	0	3	1	1	1	2	20
	内、グループ内施設へ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. 在宅診療へ		41	54	67	67	45	43	36	35	32	46	27	39	532
内訳	グループ内事業所	8	12	21	12	15	11	7	4	6	6	6	9	117
	（再掲）内、新規登録	4	4	1	4	3	6	6	4	5	9	5	7	58
	グループ外事業所	33	42	46	55	30	32	29	31	26	40	21	30	415
3. 死亡		48	45	62	50	54	51	53	56	59	62	60	59	659
4. その他（軽快退院を含む）		593	576	671	626	646	658	697	681	687	603	619	721	7,778
1、2、3、4 の合計		831	818	975	920	933	952	956	977	944	900	923	1029	11,158

2）入退院支援加算 1（退院支援計画書）算定実績

昨年の 4,315 件から増加し、5,649 件となりました。また、入院時支援加算は、昨年の 279 件から増加し、464 件でした。

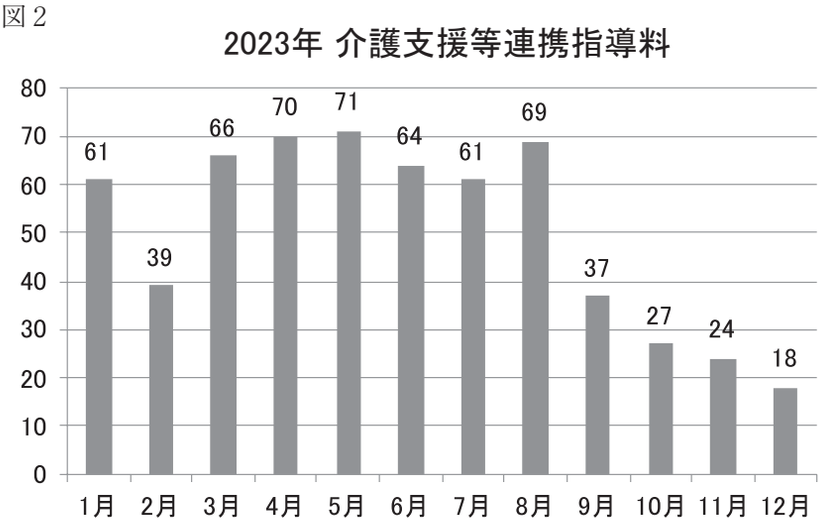
図 1



3）介護指導等連携指導料など

施設基準として年間 63 件以上の算定が必要となります。2023 年は 607 件で条件を満たしました。昨年の 858 件を下回っています。退院時共同指導料 2 は、206 件と昨年の 233 件より下回りました。地域連携診療計画加算は、189 件と昨年の 211 件より下回りました。また、入院時支援加算 1 は 464 件、入院時支援加算 2 は 10 件となりました。

図 2



4）相談援助実習（指導者：三谷、門田）合計 2 名

大阪国際福祉専門学校（1 名）

期間：2023 年 12 月 1 日～ 12 月 28 日

関西福祉科学大学（1 名）

期間：2023 年 8 月 17 日～ 9 月 19 日

5）研修・部会参加

7/25　徳洲会 MSW 部会（大阪）　三谷

薬剤部　96
放射線科　99
臨床検査　101
リハビリ　104
臨床心理　110
臨床工学　112
栄養科　122
治験セン　125
医療福祉　126
病診連携　130
健診セン　142
情報シス　144
保育室　146
がん相談　148
医療安全　151
感染制御　155
臨床腫瘍　159

4. 今後の課題と目標

2024 年に実施されるトリプル改定として、医療保険の診療報酬、介護保険の介護報酬、障害福祉サービスの報酬と、3 制度の同時改正が行われます。特に医療 DX（デジタルトランスフォーメーション）においては、ハード面の充実が求められるため、組織として改革が求められます。

介入力向上としては、単なる知識習得の学習ではなく、ソーシャルワーク実践経験から学びを深めることが求められます。そのためには、経験学習理論をもとにしたプログラムの開発が求められます。実践と省察、経験と抽象化、これらを繰り返し文章化することで、省察的実践家を目指します。そのためには、これまで未着手であったインシデントレポートを作成し、介入力向上を図ります。

40）病診連携室

病診連携室　課長補佐　児島　和人

薬剤部　96
放射線科　99
臨床検査　101
リハビリ　104
臨床心理　110
臨床工学　112
栄養科　122
治験センター　125
医療福祉　126
病診連携　130
健診センター　142
情報システム　144
保育室　146
がん相談　148
医療安全　151
感染制御　155
臨床腫瘍　159

1. 概要

患者様が安心して安全に医療を受けられるよう中河内地区の急性期医療の中核施設として、また大阪府のがん拠点病院として、その役割を果たすべく、地域の医療機関と紹介・逆紹介の連携を活発かつ密接におこなっており、当院へ積極的に紹介いただけるよう常に迅速かつ正確に対応させていただくことを心がけております。

また、地域の皆様にも幅広く医療をご理解していただき、積極的に予防医療へも関心を持っていただけるよう定期的にオンライン医療講座を開講しています。また、がん教育の一環として、八尾市および中河内医療圏の小中学校では児童・生徒さま向けの医療講演もおこない、予防医療の啓蒙活動にも努めております。

本年は地域医療支援病院の認定を受け、今まで以上に地域に根ざした医療機関として貢献できるよう職員一同切磋琢磨していく所存です。

2. メンバー構成

病診連携室長：木村拓也　副院長・外科統括部長（肝臓外科・小児外科）
事務：児島和人・中道睦代・立川陽子・出口やよい・山中隆史

3. 実績

「中河内医療連携の会」（病診連携の会）
地域の連携医、連携施設との勉強会・情報交換会を定期的に開催

2023 年 2 月 18 日（土）「中河内医療連携の会」の予定でしたが、
新型コロナ感染症の流行を鑑み、中止と致しました。

《当院主催の主な公開医療講座》

職種	対象者	演　題	講　師	開催日	開　催　場　所
医師	一般	腎機能が悪いと言われたら・・・	腎臓内科　医長　森　ちさこ	2月7日	オンライン講座
		花粉症やアレルギー その他様々な情報をお届けします	医学博士　小児科部長　石垣　早知子	2月24日	オンライン講座
		健康食品は健康に役立つの？	全南病院　院長　上山泰男	4月24日	オンライン講座
		花粉症やアレルギー その他様々な情報をお届けします	医学博士　小児科部長　石垣　早知子	5月24日	オンライン講座
		透析治療について	腎臓内科　医長　森　ちさこ	8月22日	オンライン講座
看護師	一般	スキンケア～乾燥対策～	皮膚・排泄ケア認定看護師 河畑　美香	1月18日	オンライン講座
		低栄養になるとどうなるの？ フレイルとサルコペニアのお話し	摂食・嚥下障害看護認定看護師 川原　毅得	1月19日	オンライン講座
		抗がん剤ができるまで	がん化学療法看護認定看護師 苗代 啓子	1月26日	オンライン講座
		インフルエンザから身を守ろう	感染管理認定看護師　萩原　美香	1月31日	オンライン講座
		健康貯筋をしましょう	摂食・嚥下障害看護認定看護師 川原　毅得	2月16日	オンライン講座
		健康寿命を延ばすために ～ 皮膚からみた栄養 ～	皮膚・排泄ケア認定看護師 河畑　美香	2月16日	オンライン講座
		がん治療の歴史	がん化学療法看護認定看護師 苗代 啓子	2月20日	オンライン講座
		脳梗塞にいち早く気付くために	クリティカルケア認定看護師 主任　鹿山　美穂	2月27日	オンライン講座
		知っていますか？ライフレビュー	緩和ケア認定看護師　西山　由希子	3月13日	オンライン講座
		安全な手術のために ～ 患者さんに知っておいてほしいこと ～	手術看護認定看護師　村野　尚久	3月28日	オンライン講座
		ストーマケア ～ 困り事を解決します ～	皮膚・排泄ケア認定看護師 河畑　美香	3月30日	オンライン講座
		結　核	感染制御部　部長　　澁谷　豊克	4月10日	オンライン講座
		笑いと健康	感染制御部　部長　　澁谷　豊克	4月10日	オンライン講座
		足のはなし ～ それ危険信号かも！ ～	皮膚・排泄ケア認定看護師 河畑　美香	4月18日	オンライン講座
		緩和ケアの考え方	緩和ケア認定看護師　西山　由希子	4月24日	オンライン講座
		看護師の役割拡大 診療看護師（NP）について	診療看護師　高橋　博之	4月25日	オンライン講座
		肺がんの治療と副作用	がん化学療法看護認定看護師 苗代 啓子	5月18日	オンライン講座
		国内、サル痘患者急増中！	感染制御部　部長　　澁谷　豊克	5月23日	オンライン講座
		会話と健康	認定看護管理者　澁谷　豊克	5月23日	オンライン講座
		めまいのお話	クリティカルケア認定看護師 主任　鹿山　美穂	5月24日	オンライン講座

職種	対象者	演　題	講　師	開催日	開催場所
看護師	一般	大腸がんの治療と副作用	がん化学療法看護認定看護師 苗代 啓子	5月30日	オンライン講座
		床ずれのはなし	皮膚・排泄ケア認定看護師 河畑　美香	6月12日	オンライン講座
		ストーマのはなし	皮膚・排泄ケア認定看護師 河畑　美香	6月12日	オンライン講座
		八尾市に多い感染症	感染制御部　部長　　澁谷　豊克	6月20日	オンライン講座
		災害に対する家庭の備え	認定看護管理者　澁谷　豊克	6月20日	オンライン講座
		熱中症にならないために	クリティカルケア認定看護師 主任　鹿山　美穂	6月27日	オンライン講座
		始めよう、人生会議 ～ もしもの時のために ～	クリティカルケア認定看護師 藤原　麻友美	7月10日	オンライン講座
		こわい？！マダニ媒介感染症	感染制御部　部長　澁谷　豊克	7月11日	オンライン講座
		スマート・ライフ ～ 健康寿命をのばそう ～	認定看護管理者　澁谷　豊克	7月11日	オンライン講座
		抗がん剤による皮膚障害	がん化学療法看護認定看護師 苗代 啓子	7月20日	オンライン講座
		抗がん剤による皮膚障害	皮膚・排泄ケア認定看護師 河畑　美香	7月20日	オンライン講座
		正しい脱水予防法	緩和ケア認定看護師 西山　由希子	7月24日	オンライン講座
		知っておきたい認知症！	認定看護管理者　澁谷　豊克	8月14日	オンライン講座
		認知症予防にもなる？ みんなで、脳トレ！	認定看護管理者　澁谷　豊克	8月15日	オンライン講座
		安全な手術のために ～ 患者さんに知っておいて欲しいこと ～	手術看護認定看護師　村野　尚久	8月24日	オンライン講座
		膵臓がんの治療 抗がん剤の副作用	がん化学療法看護認定看護師 苗代　啓子	8月24日	オンライン講座
		COVID-19の最新情報と注意点	感染制御部　部長　澁谷　豊克	9月5日	オンライン講座
		秋にかかりやすい病気とは？	認定看護管理者　澁谷　豊克	9月5日	オンライン講座
		めまい	クリティカルケア認定看護師 主任　鹿山　美穂	9月25日	オンライン講座
		インフルエンザについて	感染管理認定看護師　萩原　美香	9月26日	オンライン講座
		安全な手術のために ～ 患者さんに覚えておいてほしいこと ～	手術看護認定看護師　村野　尚久	10月12日	オンライン講座
		褥瘡の日	皮膚・排泄ケア認定看護師 河畑　美香	10月23日	オンライン講座
		肺炎	感染制御部　部長　澁谷　豊克	10月24日	オンライン講座
		心疾患	認定看護管理者　澁谷　豊克	10月24日	オンライン講座
		乳がんの治療と副作用	がん化学療法看護認定看護師 苗代 啓子	10月31日	オンライン講座

薬剤部　96
放射線科　99
臨床検査　101
リハビリ　104
臨床心理　110
臨床工学　112
栄養科　122
治験センター　125
医療福祉　126
病診連携　130
健診センター　142
情報システム　144
保育室　146
がん相談　148
医療安全　151
感染制御　155
臨床腫瘍　159

職種	対象者	演題	講師	開催日	開催場所
看護師	一般	心筋梗塞	クリティカルケア認定看護師 主任　鹿山　美穂	11月14日	オンライン講座
		いい皮膚の日	皮膚・排泄ケア認定看護師 河畑　美香	11月20日	オンライン講座
		温泉！　レジオネラ症？	感染制御部　部長　澁谷　豊克	11月21日	オンライン講座
		有酸素運動で運動不足解消！	認定看護管理者　澁谷　豊克	11月21日	オンライン講座
		心から笑っていますか？	緩和ケア認定看護師　西山　由希子	11月24日	オンライン講座
		冬場に急増！ヒートショック	認定看護管理者　澁谷　豊克	12月5日	オンライン講座
		こどもの急な病気に困ったら	認定看護管理者　澁谷　豊克	12月5日	オンライン講座
		ストーマケア	皮膚・排泄ケア認定看護師 河畑　美香	12月11日	オンライン講座
		足　の　お話	皮膚・排泄ケア認定看護師 河畑　美香	12月11日	オンライン講座
		感染性胃腸炎	感染管理認定看護師　萩原　美香	12月19日	オンライン講座
		胃がんの治療と抗がん剤	がん化学療法看護認定看護師 苗代 啓子	12月19日	オンライン講座
救急救命士	一般	院内救急救命士について	救急救命士　中条　誠	9月26日	オンライン講座
臨床検査技師	一般	夜間頻尿	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	1月23日	オンライン講座
		水・・飲みすぎてませんか？ 心不全予防～日常生活のポイント～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	1月31日	オンライン講座
		いびきと隠れ脳梗塞 ～ 前触れｻｲﾝを見逃すな ～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	2月13日	オンライン講座
		良い睡眠、悪い睡眠	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	2月24日	オンライン講座
		睡眠障害	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	3月7日	オンライン講座
		耳鳴り ～鼻すすりは耳に悪いって知っていますか?～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	3月27日	オンライン講座
		夜間頻尿	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	4月18日	オンライン講座
		水・・飲みすぎてませんか？ 心不全予防～日常生活のポイント～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	4月27日	オンライン講座
		いびきと隠れ脳梗塞 ～ 前触れｻｲﾝを見逃すな ～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	5月11日	オンライン講座
		良い睡眠、悪い睡眠	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	5月22日	オンライン講座
		睡眠障害	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	6月22日	オンライン講座
		耳鳴り ～鼻すすりは耳に悪いって知っていますか?～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	7月7日	オンライン講座
		夜間頻尿	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	7月18日	オンライン講座

職種	対象者	演題	講師	開催日	開催場所
臨床検査技師	一般	水・・飲みすぎてませんか？ 心不全予防～日常生活のポイント～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	8月14日	オンライン講座
		いびきと隠れ脳梗塞 ～ 前触れｻｲﾝを見逃すな ～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	8月29日	オンライン講座
		良い睡眠、悪い睡眠	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	9月4日	オンライン講座
		睡眠障害	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	9月25日	オンライン講座
		耳鳴り ～鼻すすりは耳に悪いって知っていますか?～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	10月10日	オンライン講座
		夜間頻尿	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	10月27日	オンライン講座
		水・・飲みすぎてませんか？ 心不全予防～日常生活のポイント～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	11月7日	オンライン講座
		いびきと隠れ脳梗塞 ～ 前触れｻｲﾝを見逃すな ～	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	11月20日	オンライン講座
		良い睡眠、悪い睡眠	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	12月18日	オンライン講座
		睡眠障害	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	12月25日	オンライン講座
ソーシャルワーカー	一般	認知行動療法 ～ 考え方を柔らかくします！ ～	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	1月19日	オンライン講座
		遺族基礎年金 ～ 意外と知らない年金のこと！ ～	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	1月30日	オンライン講座
		自律神経の乱れによる体調不良を防ぐ方法 ～ アクセプタンス＆コミットメントセラピー ～	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	2月14日	オンライン講座
		がん患者と、障害者を対象とした 就労支援	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	2月22日	オンライン講座
		子どものためのマインドフルネス ～ 大人がやっても面白い ～	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	3月29日	オンライン講座
		介護保険制度の基礎	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	4月20日	オンライン講座
		障害者支援と 職場適応援助者（ジョブコーチ）	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	4月25日	オンライン講座
		成年後見制度：認知症になる前に備えたい！	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	5月15日	オンライン講座
		第三分野の保険：がん保険	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	5月23日	オンライン講座
		マインドフルネス序説 慈悲の瞑想	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	6月13日	オンライン講座
		年金の仕組み	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	6月19日	オンライン講座
		相続と遺言	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	7月18日	オンライン講座
		気分をすっきり！ 認知再構成法と思考記録法	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	7月31日	オンライン講座
		瞑想：ヴィパッサナーとシャマタ	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	8月22日	オンライン講座
		民間保険の活用法	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	8月30日	オンライン講座

薬剤部　96
放射線科　99
臨床検査　101
リハビリ　104
臨床心理　110
臨床工学　112
栄養科　122
治験セン　125
医療福祉　126
病診連携　130
健診セン　142
情報シス　144
保育室　146
がん相談　148
医療安全　151
感染制御　155
臨床腫瘍　159

職種	対象者	演題	講師	開催日	開催場所
ソーシャルワーカー	一般	労働保険 もらいそびれないための雇用保険と労災	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	9月6日	オンライン講座
		自営業者のための年金制度 賢くもらう第一号被保険者	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	9月19日	オンライン講座
		セカンドオピニオンについて考えてみよう	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	10月17日	オンライン講座
		賢く活用！医療保険と医療費控除	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	10月30日	オンライン講座
		中河内合同がんサロンの歴史	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	11月13日	オンライン講座
		老後の資金繰り：リバースモーゲージ編	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	11月21日	オンライン講座
		がんについて知りたい！ やお徳サロンって何ですか？	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	12月5日	オンライン講座
		年金の上手なもらい方（中級編） 知らないともらいそびれます。	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	12月26日	オンライン講座
保健師	一般	今日から始める高血圧予防	保健師　西村　千恵	2月7日	オンライン講座
		知っておきたい災害時の備え	保健師　主任　酒井　菜穂子	3月13日	オンライン講座
		高血圧Q＆A	保健師　　藤井　安希子	8月31日	オンライン講座
理学療法士	一般	今日から実践!!　腰痛予防体操	理学療法士副主任　服部　玄徳	1月24日	オンライン講座
		骨折予防 ～ 家で転倒しないコツ！ ～	理学療法士　服部　玄徳	2月14日	オンライン講座
		今日から実践!!　腰痛予防体操	理学療法士　服部　玄徳	3月28日	オンライン講座
		骨折予防 ～ 家で転倒しないコツ！ ～	理学療法士　服部　玄徳	4月25日	オンライン講座
		今日から実践!!　腰痛予防体操	理学療法士　服部　玄徳	6月20日	オンライン講座
		骨折予防 ～ 家で転倒しないコツ！ ～	理学療法士　服部　玄徳	7月11日	オンライン講座
		病院の外来リハビリテーションと 当訪問リハビリテーションの違いについて	よろこび訪問看護ステーション 副主任　理学療法士　松本 龍也	8月21日	オンライン講座
		今日から実践!!　腰痛予防体操	理学療法士　服部　玄徳	8月29日	オンライン講座
		骨折予防 ～ 家で転倒しないコツ！～	理学療法士　服部　玄徳	9月26日	オンライン講座
		今日から実践!!　腰痛予防体操	理学療法士　服部　玄徳	10月31日	オンライン講座
		骨折予防 ～ 家で転倒しないコツ！～	理学療法士　服部　玄徳	11月7日	オンライン講座
		今日から実践!!　腰痛予防体操	理学療法士　服部　玄徳	12月12日	オンライン講座
臨床心理士	一般	ストレスと身体の関係	臨床心理士　朴　祐希	1月23日	オンライン講座
		怒りとうまく付き合うために	臨床心理士　宮坂　なつ花	3月22日	オンライン講座

職種	対象者	演題	講師	開催日	開催場所
臨床心理士	一般	心のメンテナンスをしよう	臨床心理士　髙橋　恭子	6月26日	オンライン講座
		こころと体のつながり	臨床心理士　朴　祐希	11月13日	オンライン講座

《糖尿病教室医療講演》

職種	対象者	演題	講師	開催日	開催場所
医師	糖尿病教室	糖尿病と歯周病	歯科口腔外科　部長 占部　一彦　医師	1月17日	オンライン講座＋院内開催
医師		糖尿病と腎臓	糖尿病代謝内科　吉田　圭佑　医師	1月17日	オンライン講座＋院内開催
薬剤師		血糖値　測ってみよう、考えてみよう	薬剤師係長　坂野　千賀	3月17日	オンライン講座＋院内開催
ソーシャルワーカー		小児から成人を対象とした 社会資源の活用法	認定医療ソーシャルワーカー／ 公認心理師　三谷　勇一	3月17日	オンライン講座＋院内開催
医師		タイプ別！糖尿病療法のヒント ～ あなたに合ったやり方は？～	糖尿病代謝内科部長　石橋　里江子	4月21日	オンライン講座＋院内開催
栄養士		糖尿病の食事療法 ～ 基礎編 ～	管理栄養士　坂本　美紀子	4月21日	オンライン講座＋院内開催
薬剤師		糖尿病の薬について ～ 内服編 ～	薬剤師副主任　栗野　大輔	5月19日	オンライン講座＋院内開催
理学療法士		運動療法　総論 ～ 基本的知識と最近の話題 ～	理学療法士　服部　玄徳	5月19日	オンライン講座＋院内開催
臨床検査技師		検査データの見かた	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	6月16日	オンライン講座＋院内開催
保健師		はじめようフットケア	保健師　西村　千恵	6月16日	オンライン講座＋院内開催
医師		スティグマとアドボカシー	糖尿病代謝内科　医師　植田　秀樹	7月21日	オンライン講座＋院内開催
臨床心理士		糖尿病と加齢	臨床心理士　髙橋　恭子	7月21日	オンライン講座＋院内開催
栄養士		糖尿病腎症の食事療法	管理栄養士　佐藤　友亮	9月15日	オンライン講座＋院内開催
理学療法士		運動療法　各論 ～ 有酸素運動について ～	理学療法士　奥村　葵	9月15日	オンライン講座＋院内開催
薬剤師		糖尿病の薬について ～ 注射編 ～	薬剤師　栗野　大輔	10月20日	オンライン講座＋院内開催
保健師		大血管障害を防ごう	保健師　大谷　康仁	10月20日	オンライン講座＋院内開催
医師		糖尿病と腎臓	総合診療部長　研修委員長 髙原　良典	11月17日	オンライン講座＋院内開催
臨床検査技師		糖尿病慢性合併症について	臨床検査技師　宮原　知里	11月17日	オンライン講座＋院内開催
臨床心理士		糖尿病とこころ	臨床心理士　宮坂　なつ花	12月15日	オンライン講座＋院内開催
理学療法士		運動療法　各論 レジスタンス運動について	理学療法士　船津　和幸	12月15日	オンライン講座＋院内開催

薬剤部　96
放射線科　99
臨床検査　101
リハビリ　104
臨床心理　110
臨床工学　112
栄養科　122
治験センター　125
医療福祉　126
病診連携　130
健診センター　142
情報システム　144
保育室　146
がん相談　148
医療安全　151
感染制御　155
臨床腫瘍　159

《医療従事者向けオンライン医療講演》

職種	対象者	演題	講師	開催日	開催場所
検査技師	医療従事者向け	徳洲会グループの 治験・研究実施体制について	治験センター　副センター長 元田　健太郎	1月13日	オンライン講座
事務		苦情等に対する対応要領	医療安全管理部　相談役 衛藤　隆一	2月17日	オンライン講座
臨床工学技士		臨床工学技士の実際の業務について	臨床工学科　副技士長 中西　孝次	3月10日	オンライン講座
臨床検査技師		心電図のお話	検査部　臨床検査技師　副主任 森　文子	4月14日	オンライン講座
看護師		新型コロナウィルス感染症 「5類」移行でどうなる？	感染管理認定看護師　萩原　美香	5月12日	オンライン講座
理学療法士		脳卒中急性期における病態と 離床リスク管理 ～ リハビリ介入において ～	リハビリテーション科　係長 辻田　聡司	6月9日	オンライン講座
医師		小児科について	小児科部長　石垣　早知子	7月26日	オンライン講座
放射線技師		認知症の画像診断	放射線科　係長　琉　秀光	8月18日	オンライン講座
薬剤師		アミノ酸輸液について	薬剤部 部長　大里　恭章	9月8日	オンライン講座
看護師		急変を防ぐ呼吸の観察 ～ 危険な呼吸の見抜き方 ～	クリティカルケア認定看護師 藤原　麻友美	10月13日	オンライン講座
栄養士		当院糖尿病ケアチームの紹介及び 糖尿病療養指導の取り組み	栄養科　管理栄養士　係長 佐藤　友亮	11月10日	オンライン講座
医師		腎臓病について	腎臓内科　医長 森　ちさこ	12月8日	オンライン講座

《依頼講演（特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷)》

職種	対象者	演題	講師	開催日	開催場所
理学療法士	一般	自分の体は自分で守ろう ～ 寝たきり、認知症にならないために ～	理学療法士　麻野　智幹	2月9日	久宝寺コミュニティセンター
看護師		笑いと健康	副看護部長　澁谷　豊克	7月20日	久宝寺コミュニティセンター
栄養士		一年中元気で過ごすために	栄養科　室長　小山　洋史	10月20日	久宝寺コミュニティセンター

《依頼講演（八尾市社会福祉協議会 / 八尾市障害者団体協議会)》

職種	対象者	演題	講師	開催日	開催場所
医師	一般	フレイルとサルコペニア	医師　心臓外科　酒井　敬	1月25日	八尾市社会福祉会館
医師		元気なお年寄りになる方法 ～ フレイルを予防しましょう ～	医師　心臓外科　酒井　敬	10月26日	八尾市社会福祉会館

《依頼講演（八尾市立学校）》

職種	対象者	演題	講師	開催日	開催場所
医師	がん教育	がん教育 八尾市立高安小中学校	外科・肝臓外科・乳腺外科・小児外科 医学博士　河島　茉澄	5月17日	八尾市立高安小中学校
医師 看護師	がん教育	がん教育 八尾市立八尾中学校	肝臓外科　藤井　貴子 緩和ケア認定看護師　西山　由希子	7月4日	八尾市立八尾中学校
医師	がん教育	がん教育 八尾市立高美中学校	外科・肝臓外科・乳腺外科・小児外科 医学博士　河島　茉澄	11月1日	八尾市立高美中学校
看護師			緩和ケア認定看護師　西山　由希子		

《依頼講演（八尾市消防本部）》

職種	対象者	演題	講師	開催日	開催場所
医師	救急隊	～中河内地区を守る救急隊の方々のために～ 循環器救急疾患	循環器内科　部長　松尾　浩志	12月13日	八尾市消防本部

《世界糖尿病デー》

職種	対象者	演題	講師	開催日	開催場所
医療スタッフ	世界糖尿病デー	【イベント内容】糖尿病専門医による個別相談／各専門職による個別相談／血糖測定／血管年齢測定／InBody（体成分分析）／フットケア／糖尿病川柳／クイズラリーなど	世界糖尿病デー　in YAOTOKU	11月14日	1階　エントランス

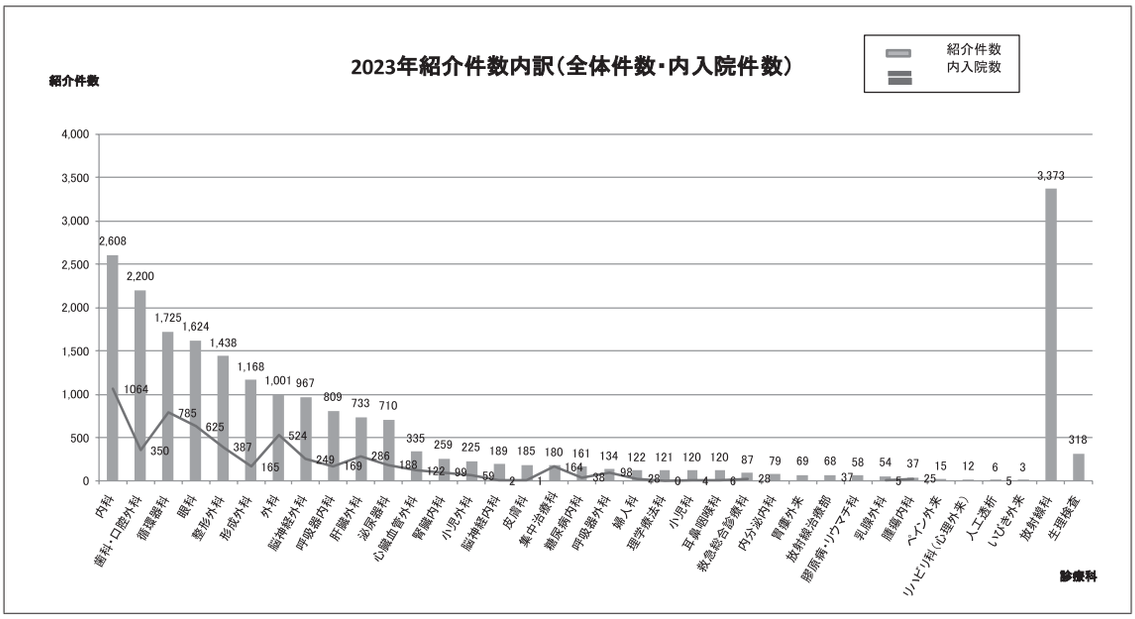
薬剤部　96
放射線科　99
臨床検査　101
リハビリ　104
臨床心理　110
臨床工学　112
栄養科　122
治験セン　125
医療福祉　126
病診連携　130
健診セン　142
情報シス　144
保育室　146
がん相談　148
医療安全　151
感染制御　155
臨床腫瘍　159

《各科紹介件数（内入院数）》

紹介件数（上段） 内入院数（下段）	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
内科	177	191	247	210	264	242	213	210	228	235	189	202	2,608
	65	83	104	89	100	97	80	93	96	93	80	84	1,064
歯科・口腔外科	149	172	223	183	173	186	189	177	202	176	198	172	2,200
	24	25	31	25	25	34	32	30	38	32	23	31	350
循環器科	133	135	151	159	173	132	144	117	141	133	147	160	1,725
	57	53	66	79	81	47	65	58	61	63	74	81	785
外科	87	69	101	88	96	68	92	83	82	85	63	87	1,001
	50	33	51	39	53	29	51	50	39	52	30	47	524
呼吸器内科	73	57	67	74	83	62	64	73	71	59	57	69	809
	17	8	14	17	11	10	11	18	22	13	11	17	169
整形外科	104	81	135	138	160	115	145	96	101	123	119	121	1,438
	26	24	32	43	42	19	35	30	21	47	37	31	387
眼科	139	156	163	143	142	142	108	105	124	139	145	118	1,624
	56	63	60	52	53	50	43	43	39	54	59	53	625
脳神経外科	79	53	76	87	92	70	83	75	90	99	76	87	967
	16	12	20	18	26	18	16	24	29	19	21	30	249
形成外科	92	83	107	93	104	104	92	97	81	95	101	102	1,151
	17	11	13	13	19	16	12	11	8	16	16	13	165
創傷治療センター	1	1	2	2	3	1	1	1	0	1	0	4	17
													0
泌尿器科	77	57	66	55	64	58	66	61	42	59	50	55	710
	18	18	17	12	20	21	16	18	7	16	11	14	188
肝臓外科	49	60	55	55	71	60	64	55	62	74	70	58	733
	24	22	24	16	26	22	27	22	30	22	30	21	286
小児外科	13	20	27	15	13	22	11	25	21	24	16	18	225
	0	5	8	2	2	4	5	6	9	8	3	7	59
小児科	8	6	9	6	8	20	10	11	11	11	10	10	120
	2	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	4
皮膚科	17	18	23	27	22	13	26	11	13	7	3	5	185
	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
心臓血管外科	27	25	34	29	23	29	21	31	38	31	25	22	335
	10	10	11	13	9	10	10	11	12	14	8	4	122
耳鼻咽喉科	7	7	9	12	11	17	14	5	16	6	9	7	120
	1	1	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	6
婦人科	17	11	15	17	16	10	14	17	5	0	0	0	122
	4	2	3	7	4	1	3	3	1	0	0	0	28
糖尿病内科	4	12	14	18	15	13	10	11	10	20	15	19	161
	0	1	3	4	3	4	2	2	6	4	5	4	38
腎臓内科	22	13	28	21	19	14	23	27	28	21	24	19	259
	10	6	10	9		7	10	6	11	11	11	8	99
脳神経内科	18	16	17	15	21	12	17	16	8	20	16	13	189
	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
理学診療科	18	10	18	7	0	12	16	15	6	6	11	2	121
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内分泌内科	7	1	8	11	5	7	6	7	6	13	7	1	79
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器外科	9	10	16	8	11	7	8	10	11	12	12	20	134
	8	6	8	7	8	6	7	10	10	7	8	13	98
膠原病リウマチ外来	4	7	7	6	3	5	5	1	4	3	6	7	58
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
乳腺外科	5	2	5	7	4	7	6	3	3	2	7	3	54
	0	0	0	1	1	0	2	1	0	0	0	0	5
いびき外来	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	3
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
人工透析	1	0	0	1	0	0	1	2	1	0	0	0	6
	1	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	5
腫瘍内科	4	3	1	4	4	0	2	6		5	2	6	37
	1	1	1	3	4	0	1	5	1	3	1	4	25
放射線治療部	12	13	11	6	4	6	0	0	4	5	3	4	68
	5	7	5	4	4	4	0	0	1	3	2	2	37
胃瘻外来	3	8	6	5	8	7	5	5	7	4	6	5	69
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リハビリ科（心理外来）	1	0	1	1	2	3	2	1	0	1	0	0	12
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
集中治療科	17	3	6	13	10	18	12	21	19	18	16	27	180
	16	0	0	11	10	17	12	20	19	18	14	27	164
救急総合診療科	4	13	14	1	6	4	11	5	7	11	6	5	87
	0	13	12	0	1	0	1	1	0	0	0	0	28
ペイン外来	0	0	1	2	1	0	1	3	3	2	0	2	15
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	242	256	331	294	269	298	290	249	275	316	296	257	3,373
内視鏡検査	30	28	64	48	57	66	58	38	42	51	42	33	557
生理検査	30	37	39	12	27	27	32	17	17	32	22	26	318
その他													0
紹介件数合計	1,680	1,634	2,097	1,874	1,985	1,857	1,862	1,688	1,779	1,899	1,769	1,746	21,870
内入院数合計	428	405	494	467	504	416	442	465	462	495	444	491	5,513

薬剤部 96
放射線科 99
臨床検査 101
リハビリ 104
臨床心理 110
臨床工学 112
栄養科 122
治験センター 125
医療福祉 126
病診連携 130
健診センター 142
情報システム 144
保育室 146
がん相談 148
医療安全 151
感染制御 155
臨床腫瘍 159

《各診療科紹介件数内訳（全体件数・内入院数）》



科 / 項目	内科	歯科・口腔外科	循環器科	眼科	整形外科	形成外科	外科	脳神経外科	呼吸器内科	肝臓外科	泌尿器科	心臓血管外科	腎臓内科	小児外科	脳神経内科	皮膚科	集中治療科	糖尿病内科	呼吸器外科	婦人科
紹介件数	2,608	2,200	1,725	1,624	1,438	1,168	1,001	967	809	733	710	335	259	225	189	185	180	161	134	122
内入院数	1,064	350	785	625	387	165	524	249	169	286	188	122	99	59	2	1	164	38	98	28

科 / 項目	理学療法科	耳鼻咽喉科	小児科	救急総合診療科	内分泌内科	胃腸外来	放射線治療部	膠原病・リウマチ科	乳腺外科	腫瘍内科	ペイン外来	心理外来	人工透析	いびき外来	放射線科	生理検査	内視鏡検査	その他	合計
紹介件数	121	120	120	87	79	69	68	58	54	37	15	12	6	3	3,373	318	557		21,870
内入院数	0	6	4	28	0	0	37	0	5	25	0	0	5	0	0	0	0		5,513

※創傷治療センターは形成外科に、いびき外来の検査入院は内科に含まれます。

《検査紹介件数》

	放射線科	内視鏡	生理検査	合計
1月	242	30	30	302
2月	256	28	37	321
3月	331	64	39	434
4月	294	48	12	354
5月	269	57	27	353
6月	298	66	27	391
7月	290	58	32	380
8月	249	38	17	304
9月	275	42	17	334
10月	316	51	32	399
11月	296	42	22	360
12月	257	33	26	316
合計	3,373	557	318	4,248

主な検査項目

・放射線科

MRI	CT	DSA
RI	インプラントCT	CT（冠動脈）
単純撮影	マンモグラフィー	骨密度

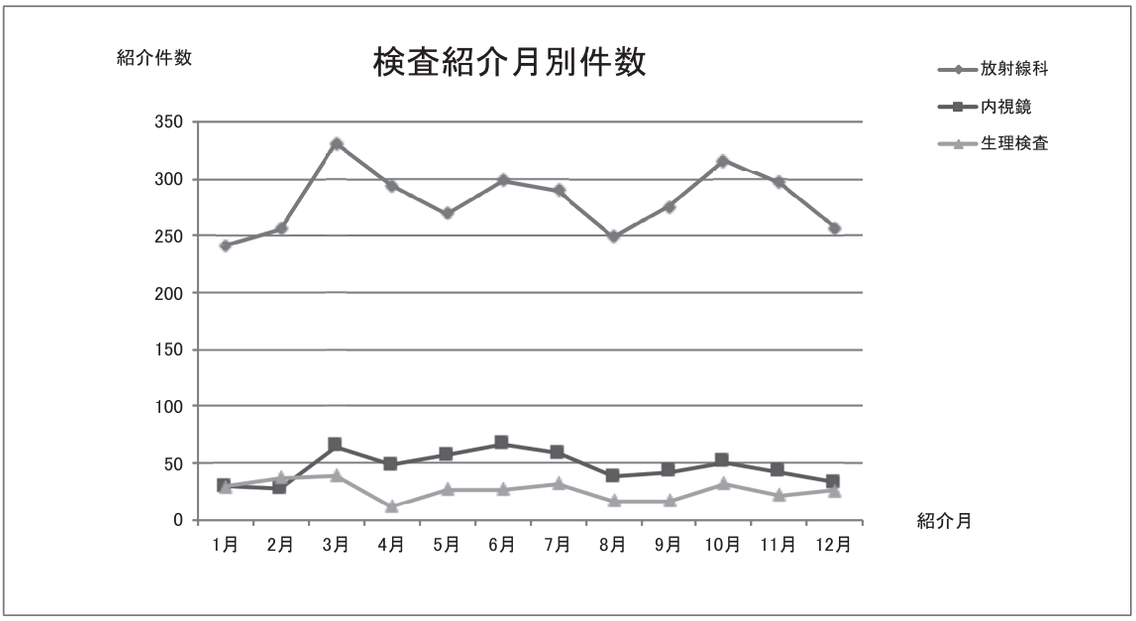
・内視鏡

GIF	CF

・生理検査

腹部エコー	心エコー	末梢血管エコー
甲状腺エコー	頚動脈エコー	乳腺エコー
トレッドミル	心電図	ホルター心電図
呼吸機能	脳波	肺機能
COVID-19 検査		

《検査紹介月別件数》（＊ PCR 検査紹介件数も含みます）



4. 今後の目標

中河内地区の医療を担うべく、地域の登録医の先生方をはじめ広域の医療機関まで広範囲にわたり、検査・外来・救急・入院に至るまで、あらゆる医療ニーズに迅速かつ円滑に対応し、患者様が安全・安心に継続性のある適切な医療を受けられるよう信頼される医療機関として努力してまいります。

さらに地域の皆様へ様々な情報の発信をおこない、公開医療講座や地域の団体、自治会等からの依頼講演も積極的に開催し、幅広く医療を理解いただき、予防医療の啓蒙活動もすすめてまいります。

また、地域医療支援病院として、連携医の先生方の開放病床の積極的な共同利用の促進や定期的に医療連携の会を開催し､勉強会や情報交換会を通じて連携の強化をはかってまいります。

41）健診センター

健診センター長　上野　靖

薬剤部　96
放射線科　99
臨床検査　101
リハビリ　104
臨床心理　110
臨床工学　112
栄養科　122
治験セン　125
医療福祉　126
病診連携　130
健診セン　142
情報シス　144
保育室　146
がん相談　148
医療安全　151
感染制御　155
臨床腫瘍　159

1. 概要

当院健診センターは、八尾市推奨の肺がん検診（胸部X線）、胃がん検診（バリウム検査）、乳がん検診（マンモグラフィー）、大腸がん検診（便潜血検査）、子宮がん検診を施行できる唯一の認定施設です。毎年多くの八尾市民の方にご利用して頂きありがとうございます。

コロナ後もマスク着用と受診者様には来院時間を細かく設定させて頂き、感染防止に努めています。受診者様のご協力のもと、これまで感染が拡大せず健診業務できた事に感謝申し上げます。まだまだこのような状態が続きますが、ご協力お願いしたいと思います。

健診センター内での腹部超音波検査や女性技師による乳腺超音波検査もおこなっており、時間短縮と快適さを提供できる環境が少しずつ整備されました。今後もサービス向上を目指して行きます。

腹部超音波検査で要精密検査と判定された受診者様のための専門医師によるドック精査外来や総合病院に併設されている健診センターの強みを生かした疾患の早期発見・早期治療のバックアップ体制にも力を入れて参ります。

予約業務に関しては、例年と同様に、毎年受診して頂いている企業様への事前予約を行い、個人受診者様にもスムーズにご予約頂けるように試みています。しかしながら、人間ドックコースで胃内視鏡検査を希望される受診者様の予約枠が、予約開始から数ヶ月後には埋まり、受診者様には大変ご迷惑をおかけしてしまいました。検査枠を増やして参りましたが、まだまだ受診者様のご希望に添えるようではありませんので、更なる業務改善をしていきたいと思います。

2. メンバー構成

常勤医師1名、常勤看護師4名、常勤放射線技師1名、常勤事務員7名、非常勤医師2名、非常勤看護師3名、非常勤検査技師1名

3. 実績

2023 年	ドック	企業	バス健診	合計
1 月	527	1,170	0	1,697
2 月	516	1,621	0	2,137
3 月	594	1,252	0	1,846
4 月	598	679	53	1,330
5 月	586	831	1,069	2,486
6 月	664	1,026	0	1,690
7 月	627	1,231	0	1,858
8 月	585	1,549	0	2,134
9 月	586	1,193	0	1,779
10 月	737	876	61	1,674
11 月	634	949	0	1,583
12 月	636	1,085	0	1,721
合計	7,290	13,462	1,183	21,935
平均	608	1,122	99	1,828

4. 今後の目標

2024 年末に当院敷地内に新しく南館が完成します。当健診センターは南館に移動し健診業務をおこなっていきます。健診センター内で多くの検査ができるように医療機器の整備やスタッフの教育、検査体制の構築を行っていきます。できるだけ受診者様の負担を減らし、安心安全な健診センターを目指し、健診検査を少しでも早く終え、迅速な検査結果の返却に努めて参ります。

次年度は受診者様のニーズに応えられるような検査枠の拡充やオプションを充実させていきたいと思います。

また、総合病院の利点を生かして呼吸器疾患や消化器疾患、脳疾患など、専門医師と連携し、速やかに精密検査できる体制を作り、早期治療に努めます。

42）情報システム管理室

システム管理室　野口　翼

薬剤部　96
放射線科　99
臨床検査　101
リハビリ　104
臨床心理　110
臨床工学　112
栄養科　122
治験セン　125
医療福祉　126
病診連携　130
健診セン　142
情報シス　144
保育室　146
がん相談　148
医療安全　151
感染制御　155
臨床腫瘍　159

1. 概要

A）人員について

野口・久保・松本の 3 名。

B）院内電子カルテ端末の経年劣化による故障の頻発

電子カルテ端末で利用している、端末の中でも特に古いものについては 10 年以上経過しており端末自体のスペックの低さから、電子カルテ利用時に遅延等が散見された。また経年劣化に伴う故障が頻発し端末の修理、入れ替えを行った。

2023 年	2022 年	2021 年	2020 年	2019 年
203 台	188 台	138 台	70	28 台

C）データ・マニュアルの整備

前年と比べマニュアルが整備され、データとして管理することにより同様のトラブルに誰でもが対応できるようになっている。また、案件についても進捗管理を徹底することにより、より早く解決ができるようになっている。

D）セキュリティについて

近年高まっているセキュリティへの対策について、院内・院外を含め対応が必要とされている。院内でのセキュリティ対策はもちろんのこと、院外についてのセキュリティについては病院内の対策ではなく、TIS(徳洲会インフォメーションシステム) を中心とした、様々なセキュリティ対策を実施し、診療・診察に影響を与えることなく運用していくことが重要である。

E）課題について

情報システム管理室としての業務は電子カルテ保守・運用やベンダーコントロール、院内の PC 操作に対してのヘルプデスク業務などが含まれるが、情報発信や電子カルテシステムの改善なども重要な業務であると感じている。日々の業務に追われ自ら発信することが出来ていないため、更に各科との連携を高め、利便性を高めたシステムの運用を目指していきたい。

2. メンバー構成

システム管理者 : 野口翼・久保　準人・松本　巧
システム委員　: 21 名（医局、看護部、臨床工学科、栄養科、放射線科、薬剤部、理学療法室、検査室、総務部、医事課、医局秘書）

3. 実績

・案件数（システム作業依頼件数）

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
123 件	126 件	124 件	144 件	110 件	129 件
7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
115 件	120 件	117 件	133 件	133 件	117 件
年間合計					1,491 件

・主な内訳

・電子カルテクライアント機器メンテナンス対応（PC、プリンター、ネットワーク）

・電子カルテサーバー保守・運用　（メンテナンス対応）

・病院関連システムメンテナンス（データ更新、保守作業、修理対応）

・ベンダーコントロール業務（各部門システムベンダーとの折衝業務）

・PC 関連　院内ヘルプデスク対応

・電子カルテ操作教育

・部門検査機器導入　関連システム接続対応

・ホームページ関連

4. 今後の目標

院内の電子カルテ端末並びに機器の保守を行うだけでなく様々なシステムを、誰もが気軽に簡単に利用できるよう、情報発信を行い日々変わっていく、最新のシステムを院内で認知されるように努めることを目標とする。院内イントラの整備などによって、各科での情報共有手段が不足している状況を改善し各科での利便性を高めることについても取り組んでいく。

また、セキュリティに関してもウィルス感染や個人情報の流出を防ぐため対策を講じ、安心して利用できる環境の構築を目指していく。

施設の増改築に備え、端末やネットワークに不備無く円滑に進められるよう、事前準備を行っていく。

43）保育室

保育室係長　河野　美加

薬剤部　96
放射線科　99
臨床検査　101
リハビリ　104
臨床心理　110
臨床工学　112
栄養科　122
治験セン　125
医療福祉　126
病診連携　130
健診セン　142
情報シス　144
保育室　146
がん相談　148
医療安全　151
感染制御　155
臨床腫瘍　159

1. 概要

2023 年、4 月に非常勤保育士 1 名、7 月に常勤保育士 1 名が入職したが、新入児の入室も大変多く、目まぐるしい 1 年となった。4 月に入職した非常勤保育士も実父の介護の為に 12 月末で退職となり、今後の人員確保が課題となる。

8 月には感染制御部の指導の下手洗い教室が開かれ、子ども達の手指衛生向上に努めた。

また、10 月には QI 大会に参加し、『危険をなくす！』を指標に挙げ、特別賞を頂いた。

5 月にコロナが 5 類になり、世間ではマスクの着用が緩和され、全国的にアデノウィルス溶連菌・インフルエンザが流行し、モコモコ保育室（病児保育室）では感染症の利用児が増加すると共に今までには少なかったダブル感染も多く、マスクの重要性を再確認した年となった。

エンジェル保育室では、年末にノロウィルス・インフルエンザがアウトブレイクになりコロナも含めまだまだ予断は許せない状況にある為、今後も手指衛生、室内消毒などの感染対策に努めていきたい。

2. メンバー構成

エンジェル保育室	《キリン組》	永田	木下	大岩	竹田
	《リス組》	曽我	吉原	中村	
	《ヒヨコ組》	河野	長谷川	中西	田中（7 月入職）
	《フリー》	小林	國澤（4月～ 12月）		
モコモコ保育室		荻	今岡	奥村	

3. 実績

《エンジェル保育室年齢別登室園児数》

		1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
登室数	0歳児	198	197	260	26	97	135	159	198	178	200	204	236	2,088
	1･2歳児	223	215	242	286	275	224	250	227	253	279	283	305	3,062
	3歳児	123	107	141	40	58	58	60	54	42	43	39	38	803
	4歳児	86	79	52	136	147	135	139	133	144	144	137	107	1,439
	5歳児	159	135	164	69	65	62	62	44	68	65	51	54	998
	学童保育	13	13	19	42	16	13	17	25	23	19	15	9	224
	合計	802	746	878	599	658	627	687	681	708	750	729	749	8,614
	一時預かり保育	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	半日預かり保育	0	0	0	1	0	0	3	0	0	0	1	0	5

《病児・病後児保育室運営状況》

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
開室日数	19	17	21	17	20	22	20	20	18	21	19	20	234
利用者数	78	80	52	44	75	112	102	76	90	114	66	106	995
一日平均利用者	4.1	4.7	2.5	2.6	3.8	5.1	5.1	3.8	5	5.4	3.5	5.3	4.3
保育士数	48	47	43	36	55	63	60	54	55	63	56	59	639
一日平均保育士数	2.5	2.8	2	2.1	2.8	2.9	3	2.7	3.1	2.9	2.9	3	2.7
診察結果待ち数	3	2	0	3	3	7	10	9	9	11	14	18	89
意見書利用数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

《研　修》

7月15日　管理者研修
11月 3日　KICN研修
3ヶ月に1回保育士研修（勉強会）を保育室にて実施

《行　事》

2月 3日　節分
3月 3日　ひなまつり
17日　お別れ会
5月 2日　こどもの日
9日　遠足（久宝寺あいあい広場）
6月 9日　時の記念日
7月 7日　七夕
9日　お楽しみ会
8月 7日　手洗い教室
9月 4～ 9日　個人懇談
10月12日　遠足（花園中央公園）
11月 7・21日　健康診断・インフルエンザ予防接種
11月10日　QI大会
12月17日　クリスマス会 （保育室にて）

★毎月身体測定・避難訓練・誕生会・月2回幼児教育（英語ECC）
4ヶ月に1回保育士による感染対策指導を実施

4. 今後の目標

・感染症拡大防止に努める
・保育士の研修参加を強化する。

44）がん相談支援センター

認定がん専門相談員　三谷　勇一

薬剤部　96
放射線科　99
臨床検査　101
リハビリ　104
臨床心理　110
臨床工学　112
栄養科　122
治験セン　125
医療福祉　126
病診連携　130
健診セン　142
情報シス　144
保育室　146
がん相談　148
医療安全　151
感染制御　155
臨床腫瘍　159

1. 概要

2023 年は、新型コロナウイルス感染症の影響のため中止していた院内のがん患者サロンの再開に至りました。当院初のハイブリットでの開催となり、テーマとして、「ウィッグの上手な使い方と爪のケア化学療法の脱毛と爪のトラブル」として企画しました。

また、2 次医療圏単位での合同サロンは、対面式での開催となりました。第 5 回中河内圏域合同がんサロンのテーマは、「あなた考えるアピアランスケア」とし、「光で自然なアピアランスを実現するカモフラージュファンデーションの開発」、「入浴着の開発について」、「アロマハンドトリートメントがもたらす効果」、「アピアランス体験会」を企画しました。

2. メンバー構成

委員長：医　師　　村上　修（副院長・外科部長）
委　員：社会福祉士　三谷　勇一（両立支援コーディネーター）
（認定がん専門相談員：国立がん研究センター）

3. 実績

（1）研修参加・部会活動

1/13　第4回中河内がん相談支援センター部会（WEB開催）
1/14　令和4年度大阪府がん拠点病院がん相談支援センター相談員研修会
AYA世代の患者支援（Ⅲ群研修）
3/5　令和4年度大阪府がん拠点病院がん相談支援センター相談員研修会
アピアランスケア（Ⅲ群研修）
4/21　第1回中河内がん相談支援センター部会（WEB開催）
5/26　第2回中河内がん相談支援センター部会（WEB開催）
6/24　大阪府がん診療連携協議会相談支援センター部会（WEB開催）
8/25　第3回中河内がん相談支援センター部会（WEB開催）
9/22　神奈川県がん相談員研修会：相談対応の質保証を学ぶ（Ⅲ群研修）
11/11　和歌山県がん相談研修会：情報支援研修地域展開版（Ⅲ群研修）
11/24　第4回中河内がん相談支援センター部会（WEB開催）
12/1　第5回中河内合同がんサロン（ハイブリッド開催）

（2）がん患者サロン（やお徳サロン）の開催

開催計画：6 回程度／年　時：第 2 火曜日 14:00-15:00.　場所：当院会議室にて

第 1 回令和 5 年 12 月 12 日（火）（外部講師　スヴェンソン）
ウィッグの上手な使い方と爪のケア ~ 化学療法の脱毛と爪のトラブル

（4）がん相談支援センター相談延べ件数の表

2023年相談内容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
治療	0	1	5	7	0	4	2	2	3	9	5	3	41
←手術	0	0	4	2	1	4	2	1	1	5	0	0	20
←放射線	0	0	5	3	1	4	2	0	1	7	0	0	23
←薬物	0	1	4	4	1	4	2	1	3	4	0	1	25
←免疫	0	0	4	0	1	0	2	1	0	0	0	0	8
←ゲノム	0	0	4	0	0	1	0	0	1	2	5	1	14
←その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	5
検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
症状	0	1	5	2	0	0	0	1	0	2	2	1	14
←妊生殖	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
←アピアランス	0	0	5	2	0	0	0	1	0	0	0	0	8
←晩期合併	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
←長期フォロ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3
←その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
セカンドオピニオン（一般）	0	0	4	0	0	3	1	0	1	4	1	0	14
セカンドオピニオン（受入）	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	3
セカンドオピニオン（紹介）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
治療実績	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
臨床試験	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
受診・入院	0	1	1	1	0	1	0	0	0	1	1	0	6
転院	0	1	5	5	0	7	1	3	5	1	1	1	30
医療機関紹介	5	3	7	4	0	6	3	2	6	5	1	4	46
予防・検診	0	0	0	0	4	0	0	0	0	2	0	0	6
在宅医療	11	3	16	12	0	13	3	8	9	9	2	7	93
緩和・ホスピス	6	5	18	9	5	13	9	7	10	8	0	4	94
ADL・服薬	8	2	13	9	4	7	4	6	2	7	0	4	66
介護、看護、養育	8	2	16	9	2	9	5	6	6	7	0	4	74
←介護	8	2	11	7	2	9	5	5	5	6	0	4	64
←看護	8	2	15	4	2	9	4	4	3	4	0	3	58
←養育	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
社会	0	0	5	2	0	1	1	0	1	0	0	1	11
←就労	0	0	4	1	0	1	1	0	1	0	0	1	9
←仕事と両立	0	0	3	1	0	1	1	0	1	0	0	1	8
←就学	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
←学業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
費用	9	1	11	5	0	5	3	5	3	3	2	2	49
←介護保険	8	0	8	4	1	4	1	4	3	3	0	0	36
←傷病手当	0	0	5	0	1	0	1	0	1	0	0	0	8
←その他	5	1	4	3	0	2	3	1	1	0	2	2	24
補完	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
生きがい	0	0	3	3	0	0	0	2	1	0	0	0	9
苦痛	0	1	3	1	1	5	1	4	8	2	2	9	37
告知	0	0	3	0	1	0	0	0	1	0	0	0	5
医療者とのコミュニケーション	0	2	5	2	0	1	2	1	5	6	2	1	27
患者･家族間のコミュニケーション	1	1	5	1	3	1	0	0	1	3	3	0	19
友人･知人･職場のコミュニケーション	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
患者会	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
グリーフケア	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
その他	3	0	0	1	0	0	1	2	0	1	0	0	8

4. 今後の目標

大阪府がん診療拠点病院の要件として、アピアランスケアへの取り組みが注目されており、今後、イベントや勉強会として、取り組みの強化が求められています。また、がん相談支援センターの業務内容について、相談者からフィードバックを得る体制、がん患者及びその家族が必ず一度はがん相談支援センターを訪問することができる体制、Web 会議ツールを活用した遠隔相談の実施体制が整っておらず、多くの課題が残っています。さらには、意思決定支援に関わる人材育成や、がん患者の自殺リスクに対する体制の未整備、情報の取得や意思疎通に配慮を必要とするものに対するマニュアルがないなど、解決すべき課題を多数抱えています。これらの課題を、ひとつずつ解決していくことが求められます。

また、院内で開催される予定のやお徳サロンの開催計画について、2 月 13 日『笑いヨガってなんですか？～さぁみんなで、わっはっはぁ～』、4 月 9 日『食べたいを支えたい！吐き気があるときの簡単料理』、6 月 11 日『ミニチャームを作ろう！～乳房パッドは魔法の輪！～』、8 月 13 日『ミニチャームを作ろう！折花と香りで癒されたい！』、10 月 8 日『認知行動療法とヨガ』を企画しています。これまでのやお徳サロン以上に活発な活動をしていく予定です。

薬剤部 96
放射線科 99
臨床検査 101
リハビリ 104
臨床心理 110
臨床工学 112
栄養科 122
治験セン 125
医療福祉 126
病診連携 130
健診セン 142
情報シス 144
保育室 146
がん相談 148
医療安全 151
感染制御 155
臨床腫瘍 159

45）医療安全管理部

医療安全管理者　糸永　美千代

1. 概要

各部署でインシデント・アクシデントを振り返り、再発防止が出来るよう部署責任者とセーフティーマネージャーを中心に医療安全対策カンファレンスを実施し、対策の検討をしています。更に患者影響度の高い事例に関しては、根本原因を見つけ出し具体的な対策を立案、実行出来るように根本原因分析（RCA 分析）を行っています。

2. メンバー構成

医療安全管理部長　兼任医師	1名
医療安全管理者　専従看護師	1名
患者支援・相談窓口担当職員	1名
総務課出向事務職員	2名
総務課所属　相談役（主業務：警察事案対応）	1名

3. 実績

①医療安全管理活動

(1) インシデント・アクシデント報告システム

報告総数は例年 2,000 件前後で推移しており、少しずつ報告数が増えてきております。エラー発生率を事例別に見ると（表 .1）自己転倒、薬剤エラー、ドレーン・チューブ抜去が多くあげられていました。転倒は前年と比べ 3%増加していますが、低床ベッドの導入、転倒転落予防フローチャートの導入、リスクを再評価することで次年度の発生数減少を目指しています。次に事例件数を月別に比較してみると 7.4 ～ 9.4%であり変化はありませんでした。次に事故レベル別に見てみると（表 2）治療や処置を必要としなかった Lv2 以下が 85.7%を占めていました。レベル 0 の報告を増やすこととし、20%以上を目標としておりましたが 4.5%でした。研修医からの報告はレベル 0 が多く提出されていますが、他部署はアクシデント報告が主となっております。

Lv3a が増加したのは対策が奏功したため転倒後の患者影響度が低下したためと思われます。結果､Lv3b 以上は 28 件（1.1%）と前年の 39 件（2.8%）より減少していました。LV3b 以上は根本原因分析を行い、カンファレンスや会議で共有することで、再発防止を意識する職員が増えてきています。引き続き、対策や評価を病院全体で共有することで、院内ルールの整備を図り、さらに患者影響度を下げていきたいと思っております。

表1　事例内容 事例実件数：2,566　対象期間：2023.1.1 ～ 12.31

月	薬剤	輸血	治療・処置	医療機器等	ドレーン・チューブ	検査	療養上の世話	転倒・転落	その他	合計	月別報告数
1	50	0	11	39	19	14	22	36	23	214	8.3
2	41	1	13	17	24	19	16	32	26	189	7.4
3	38	2	11	18	31	23	31	41	33	228	8.9
4	50	2	7	19	20	17	43	45	26	229	8.9
5	57	3	18	7	24	19	30	33	32	223	8.7
6	44	1	9	9	35	15	41	46	40	240	9.4
7	42	5	15	10	26	13	26	43	41	221	8.6
8	39	2	12	5	27	8	28	45	28	194	7.6
9	36	4	12	3	24	9	28	50	32	198	7.7
10	51	1	8	8	17	19	29	55	26	214	8.3
11	49	3	12	6	22	22	28	40	29	211	8.2
12	34	4	8	5	15	24	41	51	23	205	8
合計	531	28	136	146	284	202	363	517	359	2,566	
概要別割合	20.69	1.09	5.3	5.7	11.1	7.9	14.1	20.1	14		

表2　事故レベル 事例実件数：2,566　対象期間：2023.1.1 ～ 12.31

Lv0	Lv1	Lv2	Lv3a	Lv3b	Lv4a	Lv4b	Lv5	合計
115	1,017	1,017	339	25	2	0	1	2,566
4.5%	39.6%	41.6%	13.2%	0.9%	0.07%	0%	0.04%	

(2) 医療安全管理委員会

毎月　第4月曜日に開催　(1月～12月、延12回)

病院における高度な医療の提供に不可欠である安全管理体勢を確保するために、病院のあらゆる部門や診療科を統合し、組織横断的に安全な医療を提供することを目的としております。医療安全管理におけるリスクと現状の分析、発生した有害事象の分析、再発防止策の検討、啓発を行っております。

(3) セーフティーマネージャー会議

医療安全管理委員会に先行して、毎月1回開催（1月～12月、延12回）

医療安全管理委員会の下部組織として患者の安全、安心に貢献することを目的とし、医療事故の防止、医療の質管理を組織横断的に行うため、院内ラウンドや医療安全対策カンファレンスを実施しております。RCA分析した情報の共有や半年後の評価を実施しており、同部署での警鐘事例は発生しておりません。

薬剤部　96
放射線科　99
臨床検査　101
リハビリ　104
臨床心理　110
臨床工学　112
栄養科　122
治験センター　125
医療福祉　126
病診連携　130
健診センター　142
情報システム　144
保育室　146
がん相談　148
医療安全　151
感染制御　155
臨床腫瘍　159

(4) 医療安全全体研修

医療安全管理部主催で年間2回開催しております

1月は医療安全に必要なDNARの基礎知識について部会からの講義をEラーニングで開催し延824名の聴講で参加率は85.4%でした。

7月は患者安全について～実践と現状～について講義+Eラーニングで開催し、延べ883名の参加で参加率は86.9%でした。

(5) 医療安全部会参加

医療安全管理部会　会議

年4回、関西・大阪ブロックの医療安全管理者が参加して安全対策や近況等の共有

医療安全管理部会　全国担当者研修会

(6) 医療安全関連活動への参画

日本医療機能評価機構認定病院　　(会員)

医療事故紛争対応研究会　　(会員)

日本医療リスクマネジメント学会　(会員)

近畿厚生局　医療安全セミナー参加

大阪府看護協会府東支部　医療安全管理者交流会

②院内安全パトロールの継続実施

院内・外周辺における様々な事案（トラブルなど）を発見し対応するために、1日2回のパトロールを実施しています。

これまでパトロール中に、スタッフと患者（その家族など）のトラブルを発見して早期に解決したり、スタッフからの相談に対応するなどしています。

現在までに、不法侵入者による、スタッフに対する暴力事案や盗難被害などの発生もなく、パトロールの成果が認められるため、今後もパトロールを継続していきます。

③患者相談窓口活動と相談支援業務

(1) 患者相談窓口活動

患者相談窓口は医療に関する患者・家族などの苦情や心配に迅速に対応し、医療の情報提供、指導などを通して、患者さんとの信頼関係を築いて行く窓口として設置され、体制は担当看護師の他に医事課職員が担当しています。

その業務内容は主に案内・相談・介助・その他に分類でき、詳細を右記に示します。

薬剤部 96
放射線科 99
臨床検査 101
リハビリ 104
臨床心理 110
臨床工学 112
栄養科 122
治験セン 125
医療福祉 126
病診連携 130
健診セン 142
情報シス 144
保育室 146
がん相談 148
医療安全 151
感染制御 155
臨床腫瘍 159

2023年八尾パルス（相談等）業務実績（件数30､358対象期間1／4～12／30）

案内												相談		介助				
予約診（再来機）	入院患者	再診	紹介受付	バス乗場	駐車券	職員面会	文書受付	初回	健診センター	会計（返戻等）	その他の院内施設	医療相談	苦情相談	車椅子	視・聾・聴	その他	その他	総合計
7,451	1,734	2,871	2,314	1,633	1,542	827	554	563	667	457	3,359	2,537	223	2,590			1,036	30,358
24.5%	5.7%	9.5%	7.6%	5.4%	5.1%	2.7%	1.8%	1.9%	2.2%	1.5%	11.1%	8.4%	0.7%	8.5%			3.4%	100%
79.0%												9.1%		8.5%			3.4%	100%

案内業務は全体の約 80％を占め、前年同様でした。紹介窓口と総合受付が離れた所にあり、表示も不明瞭で分かりにくいという実態があり、今後の検討が必要かと思われます。

相談業務は全体の 9.1％であり、内容は受診科に関すること、自身の疾患や検査方法、検査治療費に関すること、転院先の相談、セカンドオピニオンの他に発熱しているが診てもらえるのかなど相談内容は多岐にわたっています。その都度、関係部署と連絡を取りながら対応して参りました。今年は、病院の工事に伴い、駐車場の入り口の閉鎖・駐車場の縮小・無料化等があり、駐車場・駐車券に関するお問い合わせ、又、コロナワクチン会場へのお問い合わせ、送迎バスの乗り場の変更による、バス乗り場のお問い合わせも増えていました。

介助業務は全体の 8.5％ですが、車いす患者の窓口までの移送や、筆談援助、電話をかける、タクシー呼び出しなどの介助が多くなっています。

皆様の声分類一覧（2023 年 1 月～ 12 月）

	①感謝	②接遇	③要望等	④その他	合計
医局	7	4	3	9	23
看護部	18	18	39	5	80
医事課	4	15	5		24
薬剤部			2	1	3
総務課／資材課	1		31		32
ワクチン担当			1		1
検査科	1	2			3
システム管理室			3		3
栄養科			5		5
放射線科	2		1		3
健診センター		1	1		2
電話交換室				1	1
その他・アイワ	1		1		2
回覧不可		1		8	9
合計	34	41	92	24	191
	18%	21%	48%	13%	100%

46）感染制御部

感染対策室室長　渋谷　豊克

1. 概要

【八尾徳洲会総合病院　感染管理指針】

感染管理のための基本的考え方

当院は、徳洲会の基本理念に基づき、医療関連感染を未然に防ぐことを第一として取り組み、感染症患者発生の際には拡大防止のため、原因の速やかな特定と科学的根拠に基づく対策の実施により制御、終息を図ります。職員は、この目標を達成するため、感染管理指針及び院内感染管理マニュアルにのっとった医療を患者様とそのご家族様に提供できるように取り組みます。

第 2. 感染管理体制の充実を図ります。

院内感染対策委員会を設置し、医療関連感染対策の推進を図ります。病院長直下に感染制御部を設置することで、組織的に医療関連感染対策を実施する体制を整え感染を制御し管理していきます。また、チーム医療として感染制御チーム、抗菌薬適正使用支援チームを設置し、医療関連感染防止に係る対策の推進､薬剤耐性菌対策として抗菌薬の適正使用の推進を図ります。

第 3. 職員に対して教育、研修を実施します。

医療関連感染対策のための基本的考え方及び具体的方策について、職員に周知徹底を行います。個々の職員の医療関連感染に対する意識を高め、業務を遂行する上での知識・技術の向上を図ります。病院全体に共通する医療関連感染に関する内容について、定期的に研修会を開催します。

第 4. 感染症の監視と発生時の迅速な対応を実施します。

日常的に院内における感染症の発生状況を把握するシステムを有し、医療関連感染症の発生又はその兆候を察知したときは、迅速かつ適切に対応します。

第 5. 他の医療機関等との連携体制を推進していきます。

他の医療機関と合同で、定期的に医療関連感染対策に関するカンファレンスを行います。また、河内地域のネットワークに参画し、地域における医療・介護・福祉・保育の感染制御を支援します。

第 6. 新興感染症に対応できる体制を構築します。

保健所、医師会と連携し、他の医療機関と合同で新興感染症等の発生を想定した訓練を実施します。また、新興感染症の発生時等には都道府県等の要請を受けて感染症患者を受け入れる体制を構築します。

2. メンバー構成

・院内感染対策委員会

病院長、看護部長、事務部長、薬剤部長、検査技師長、その他部門長

職種：医師、看護師、事務員、臨床検査技師、薬剤師、管理栄養士、臨床工学技師、
理学療法士、放射線技師、歯科衛生士、保育士、委託業者（清掃、リネン、中材）

・感染制御部

専従配置：看護師 1 名（感染管理認定看護師、第一種衛生管理士）、事務員 1 名

専任配置：医師 2 名（ICD：1 名）、薬剤師 3 名（感染制御認定薬剤師：1 名）
臨床検査技師 2 名、看護師 3 名（感染管理認定看護師：1 名）

・ICT（感染対策推進チーム）

職種：医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師、栄養士、臨床工学技師、理学療法士、
放射線技師、事務員

・AST（抗菌薬適正使用支援チーム）

職種：医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師

3. 実績

項目	内容
感染管理システム 地域連携	①河内地域感染管理ネットワーク（医療、介護、福祉、保育）の開催（毎月） ②中河内感染防止対策協議会への参画（施設名：順不同） 【カンファレンス連携施設】 八尾市保健所　八尾市医師会 東朋八尾病院　貴島病院本院　八尾こころのホスピタル 松原徳洲会病院　東大阪徳洲会病院 北田内科・呼吸器内科クリニック　松田クリニック　しろばとクリニック 浅井クリニック　吉田クリニック　ほりい内科・整形外科クリニック 吉崎クリニック　中谷クリニック　あかし内科クリニック 【相互ラウンド連携施設】 池田病院　石切生喜病院 ③新興感染症訓練
感染管理教育	①院内感染対策講習会開催：年 2 回　不参加者への e-ラーニング 第 1 回参加率：100%　　第 2 回参加率：100% ②新人研修・中途採用者研修（随時） ③ PPE 着脱訓練
Surveillance	①耐性菌、監視対象菌、監視対象ウイルス ②厚生労働省（JANIS）：検査部門、手術部位部門、ICU 部門、全入院部門 ③日本環境感染学会（JHAIS）：SSI 部門 ④日本看護協会（DiNQL）：デバイス ⑤感染対策連携共通プラットホーム（J-SIPHE）：手指衛生、デバイス、抗菌薬 ⑥徳洲会グループ：手指衛生、耐性菌、インフル、ノロ、COVID-19 ⑦エピネット：血液・体液曝露
感染防止技術	①手指衛生キャンペーン開催 ② PICC・CVC 固定交換方法マニュアル・動画作成 ③ PPE 着脱訓練
職業感染対策	①入職時健診抗体価検査 HBV、HCV、麻疹、風しん、水痘、ムンプス、T-SPOT ②職員ワクチン接種 HBV、麻疹、風しん、水痘、ムンプス、インフルエンザ、COVID-19 ③血液・体液曝露対策 ④結核曝露対策
ファシィリティ・マネジメント	①栄養科職員のノロウイルス検査の実施 ②空調、水道管理 ③ゾーニングの見直し、工事リスク・アセスメント ④陰圧室の差圧モニタリング

薬剤部 96
放射線科 99
臨床検査 101
リハビリ 104
臨床心理 110
臨床工学 112
栄養科 122
治験セン 125
医療福祉 126
病診連携 130
健診セン 142
情報シス 144
保育室 146
がん相談 148
医療安全 151
感染制御 155
臨床腫瘍 159

2023 年度【リスクアセスメント】

項目	発生リスク	患者・訪問者職員に対するリスク	組織的対策の必要性	準備状況	スコア
手指衛生	4	4	4	2	14
CABSI	3	3	4	2	12
COVID-19	3	3	3	2	11
結核	3	3	3	2	11
MRSA	3	3	3	2	10
インフルエンザ	3	2	3	2	10
CAUTI	2	2	3	2	9
B.cereus	2	2	3	2	9
SSI	2	3	2	2	9
VAP	2	2	3	2	9
ASP	2	2	3	2	9
CD	2	2	2	2	8

点数表

発生リスク	患者・訪問者職員に対するリスク	組織的対策の必要性	準備状況	スコア
1. なし 2. 低い 3. 中等度 4. 高い	1. なし 2. 一時的 3. 多大・永久的 4. 致命的	1. なし 2. 低い 3. 中等度 4. 高い	1. 良好 2. 中等度 3. 不十分	最大値　15 点 最小値　4 点

【成果指標】

2023 年度に特定した課題と優先順位と結果

順位	課題	指標	目標値	結果値	対策
1	手指衛生	平均値	80%	65%	手指衛生キャンペーンの実施
					手指衛生ポスター作成
					手指衛生直接観察・観察者の育成
					院内保育室での手洗い教室
2	CABSI	発生密度率	1.4‰	0.88‰	PICC・CVC
					マニュアル及び動画作成
					管理遵守調査
3	結核	LTBI 発生件数	0件	0件	肺炎患者の入院時､結核スクリーニング
					職員の接触者検診の実施
4	COVID-19	クラスター 発生件数	0件	4件	入院患者・職員の有症状時スクリーニング検査の実施
					流行時期の､全入院スクリーニング検査の実施

4. 今後の目標

2023 年度は、以下の第三者機関による審査に合格しました。

①公益財団法人日本医療機能評価機構

（種別：一般病院 2　機能種別版評価項目 3rdG：Ver3.0）　5 回目の更新

② Joint Commission International Accreditation（JCI）　1 回目の更新

2024 年度の診療報酬改訂は、6 年に 1 度の「トリプル改訂」であり、医療と介護の連携が重要視されます。今後は、地域の医療・介護・障害者福祉サービスとの更なる連携の強化、また行政との連携を密にし、感染管理指針に準拠したうえで、新興感染症を含め、あらゆる感染症に対応できる強い医療機関の構築を目指します。

薬剤部　96
放射線科　99
臨床検査　101
リハビリ　104
臨床心理　110
臨床工学　112
栄養科　122
治験セン　125
医療福祉　126
病診連携　130
健診セン　142
情報シス　144
保育室　146
がん相談　148
医療安全　151
感染制御　155
臨床腫瘍　159

47）臨床腫瘍センター

臨床腫瘍センター副センター長　南野　智志

1. 概要

当センターには、がん薬物療法に関わる専門資格、認定資格を取得したスタッフが常駐し、各科臨床医、看護師、管理栄養士ら協力のもと、その専門性を活かして安全かつ質の高いチーム医療を展開しています。

また、院内全体のがん化学療法を安全・適切に行えるよう、がん化学療法看護認定看護師、がん専門薬剤師の育成に積極的に取り組み、地域の院外薬局との連携強化にも取り組んでいます。

2. メンバー構成

センター長：瓜生　恭章（呼吸器内科・腫瘍内科：日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医）
副センター長：金丸　知寛（泌尿器科）、南野　智志（薬剤部：日本医療薬学会がん専門薬剤師）
外　　科：垣本　佳士
薬　剤　部：山本　倫数（日本医療薬学会がん専門薬剤師）
看　護　部：苗代　啓子（がん化学療法看護認定看護師）
栄　養　科：佐藤　友亮
医　事　課：原田　高輔、 片山　由貴

3. 実績

2023 年のがん化学療法施行件数は年間 3,377 件（外来：2854 件、入院：523 件）、生物学的製剤の施行件数は年間 669 件となっています。癌種別では前年度と同様に肺癌の化学療法が約 30％と最も多く、次いで肝胆膵癌が約 17％、大腸癌が約 15％となっています。

《がん化学療法・生物学的製剤 施行件数（2023 年 1 月～ 12 月）》

		2023/1		2023/2		2023/3		2023/4		2023/5		2023/6		2023/7		2023/8		2023/9		2023/10		2023/11		2023/12		合計	
		外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院
がん化学療法施行件数（癌種別）	肺癌	71	16	71	16	85	14	53	29	73	19	70	16	82	15	84	9	70	11	51	13	70	14	49	7	829	179
	大腸癌	51	3	42	3	57	4	39	1	45	0	44	0	39	0	42	0	31	0	37	0	31	2	36	0	494	13
	胃癌	20	0	24	0	17	0	16	0	19	0	21	1	8	1	23	0	20	0	29	0	23	1	26	0	246	3
	乳癌	9	0	11	1	9	2	8	1	7	0	8	0	4	2	8	0	11	2	5	0	10	0	16	0	106	8
	肝・胆・膵	43	1	44	1	55	1	56	1	55	0	51	0	47	1	44	1	42	0	53	0	44	7	38	1	572	14
	食道癌	0	5	0	0	2	1	3	0	3	0	2	0	1	1	2	8	0	6	0	5	1	0	4	4	18	30
	泌尿器癌	28	5	26	6	23	8	27	5	26	2	36	4	24	4	16	5	23	10	36	16	33	2	28	1	326	68
	造血器腫瘍	20	13	18	12	20	15	19	17	14	15	16	0	18	4	27	5	21	5	7	2	7	3	10	8	197	99
	婦人科癌	2	6	0	8	0	14	1	12	2	10	3	5	2	9	0	13	1	10	8	5	6	5	4	3	29	100
	その他	3	1	5	1	3	3	2	2	5	1	4	0	5	0	7	0	1	1	2	0	0	0	0	0	37	9
	合 計	247	50	241	48	271	62	224	68	249	47	255	26	230	37	253	41	220	45	228	41	225	34	211	24	2854	523
（診療科別）	内科	23	3	22	2	28	5	17	8	30	5	24	4	28	3	26	1	23	3	22	3	19	5	17	0	279	42
	腫瘍内科	80	26	73	27	85	25	59	40	68	30	69	12	81	16	84	13	72	13	44	12	62	16	45	16	822	246
	外科	78	9	69	3	75	5	60	0	68	0	61	1	47	2	64	8	50	7	65	5	57	1	61	4	755	45
	乳腺外科	7	0	10	1	8	0	5	1	5	0	7	0	2	2	6	0	4	1	6	0	6	0	18	0	84	5
	肝臓外科	34	1	42	1	47	4	54	1	51	0	55	0	47	1	44	1	43	0	53	0	45	7	40	1	555	17
	泌尿器科	24	5	25	6	24	8	27	5	26	2	36	4	24	3	27	5	23	10	32	14	29	2	28	1	325	65
	脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	婦人科	1	6	0	8	0	14	2	11	0	10	1	5	0	10	0	13	5	10	5	5	3	0	2	2	19	94
	その他	0	0	0	0	4	1	0	2	1	0	2	0	1	0	2	0	0	1	1	2	4	3	0	0	15	9
	合 計	247	50	241	48	271	62	224	68	249	47	255	26	230	37	253	41	220	45	228	41	225	34	211	24	2854	523
生物学的製剤	膠原病・リウマチ	42	0	53	0	57	0	53	0	51	0	44	0	45	0	48	0	39	0	48	0	57	0	48	0	585	0
	炎症性腸疾患	8	0	3	0	11	0	3	0	12	0	4	0	9	0	9	0	7	0	2	0	10	6	0	0	78	6
	合計	50	0	56	0	68	0	56	0	63	0	48	0	54	0	57	0	46	0	50	0	67	6	48	0	663	6

資格取得

日本看護協会　がん薬物療法看護認定看護師：上田　晴香

実習生受け入れ

日本医療薬学会　地域薬学ケア専門薬剤師（がん）：1名　（アイン薬局）

4. 今後の目標

患者様に確実・安全・効果的ながん化学療法を受けていただけるよう、診療科・職種の枠組みを超えて連携したチーム医療を実践できるよう努め、地域の院外薬局との連携強化を図ります。

薬剤部　96
放射線科　99
臨床検査　101
リハビリ　104
臨床心理　110
臨床工学　112
栄養科　122
治験セン　125
医療福祉　126
病診連携　130
健診セン　142
情報シス　144
保育室　146
がん相談　148
医療安全　151
感染制御　155
臨床腫瘍　159

看　護　部

―― 2023年 ――

48）4階東　5階西　164

5階東　6階西　6階東　165

7階西　7階東　8階西　166

8階東　ICU　167

HCU　外来・ER　168

手術室　透析室　169

退院調整チーム　入退院支援　170

保健指導　171

48）看護部

看護部長　小原　真栄美

4階東 164
5階西 164
5階東 165
6階西 165
6階東 165
7階西 166
7階東 166
8階西 167
8階東 167
ICU 167
HCU 168
外来･ER 168
手術室 169
透析室 169
退院調整 170
入退支援 170
保健指導 171

1. 概要

2023 年は継続した感染管理対策と救急患者様の受け入れ推進に努力して参りました。

地域の方々が安心して受診していただける病院として看護の質の向上を目指していきます。

4 階東病棟　脳神経外科／脳神経内科／眼科

当病棟は、脳神経外科・脳神経内科・眼科の患者を受け入れている 44 床の病棟である。突然発症する脳卒中で急性期治療が必要な患者、脊椎脊髄疾患の患者、神経難病の患者、眼科手術が必要な患者の看護を行っている。疾患による高次脳機能障害や、認知症、せん妄症状を呈する患者や、栄養管理のため鼻腔チューブを挿入している患者が多くいる。転倒転落、鼻腔チューブ抜去に至らないよう、ミトンや、抑制帯を用いての身体抑制を行うケースも少なくはない。日々のカンファレンスで、身体抑制の確認を行い、不要となった患者は速やかに中止する。医師とリハビリスタッフとのカンファレンスに参加することで、リハビリテーションの進捗を確認できる機会がある。また、主治医と家族の面談に看護師が同席することで、患者様や家族の思いを聞き意思決定支援を行っている。入院後早期にリハビリテーションが開始され、栄養管理や薬剤管理の他､精神科医師によるリエゾンチームの介入など多職種と協働しながら、患者の ADL の獲得、社会復帰をめざした支援を行っている。

2023 年平均在院日数は 14.1 日であった。昨年度は 16.5 日であり、入院期間が短縮されている。今後も切れることのない支援と看護の提供､患者様に関わるスタッフがそれぞれ専門性を持ち、携わることが必要であると考えている。

質の高い安全な看護の提供ができるよう努めていきたい

5 階西病棟　一般内科／婦人科／眼科／小児領域全ての診療科

当病棟は一般内科、眼科、婦人科外来部門、15 歳以下の小児科を対象とし、全診療科の患児（男女問わず）受け入れを行っている 41 床レディースフロア病棟である。平均患者数：37 名 / 月、平均在院日数 13 日 / 月。一般内科では主に、誤嚥性肺炎や尿路感染症、慢性心不全の高齢患者が大半を占めている。高齢患者が退院後、より良い環境下で生活できるよう入院時から、患者様の意向や家族の気持ちに寄り添いながら退院支援活動に取り組んでいます。眼科では白内障、硝子体、網膜剥離の手術目的患者の受け入れを行い、緊急手術目的患者の受け入れも行っている。婦人科外来では健診センターとの連携を図り、人間ドックの癌検診等の対応が主に行っている。15 歳以下の小児領域に相当する患児の受け入れは、診療科問わず患児と保護者の方が安心で安全な療養環境を提供できる様取り組み、受け入れを行っている。診療区域での選別ではなく、女性や小児であるといった選別で受け入れを行うといった他病棟とは違う特徴を持つ病棟であるため、日々広い視野での知識や看護を意識し、優しさと温かさを持ち患者や家族の環境にも配慮した看護の提供を目指している。

5階東病棟　循環器／心臓血管外科

当病棟は、循環器科・心臓血管外科病棟である。心筋梗塞、狭心症、冠状動脈硬化症、心不全、下肢閉塞性動脈硬化症、重症虚血肢に対するカテーテル検査治療や心臓血管外科周術期の患者を多く受け入れている急性期病棟である。

2023年は循環器内科医師の増員、それに伴い循環器内科と心臓外科が協力し、新たに心臓血管センターを開設。循環器ホットラインを設置し、八尾市内だけでなく中河内医療圏の循環器病に関する救急を受け入れている。

平均入院患者数：137.17名／月、平均退院患者数：147.5名／月、平均在院日数：8.49日である。循環器ホットラインにより緊急入院患者の増加が予測され、ひとりでも多くの患者様を受け入れられるよう、心臓リハビリテーションや呼吸リハビリテーション、MSWなどの多職種と連携を図り、早期離床・早期退院を目指していく。DPCによる入院疾患上位に位置している心不全は、入退院を繰り返すことが多い。心不全手帳を導入し、日常生活における自己管理を実践していただけるよう退院指導に取り組んでいる。少しでも地域でその人らしく、長く生活ができるために、外来と連携し自己管理ができているか確認し、再入院率低減を目指している。今後も多職種で協働し、患者様・家族が安心・安全な療養環境が提供できるよう努めていく。

6階西病棟　整形外科／耳鼻咽喉科

当病棟は、整形外科、耳鼻咽喉科疾患を主に受け入れている急性期病棟である。疾患の特性として、転倒を契機とした骨折患者の緊急入院が多く、骨折整復手術、人工関節手術、脊椎手術を中心に行っている。2023年は入院患者数908人／年、退院患者数907人／年、手術件数866件／年と前年に比べ約80人／年多くの患者様の受け入れを行い、周手術期医療・看護を提供してきた。安全安心な専門的医療の提供、かつ地域や社会への早期復帰を目指して、医師・看護師・理学療法士・医療ソーシャルワーカーなど各職種が連携し、入院から退院まで継続した介入を行い、早期退院を目指した。整形外科病棟は高齢患者が多く、喪失した機能の回復には一定の期間が必要になる。急性期治療後も、患者様や家族が安心して療養を継続でき社会生活を過ごせるために、病院・療養施設・地域が途切れることなく介入できるよう連携をさらに強化していく必要がある。2024年は、退院後すぐに介護が介入できるように介護申請の案内を積極的に行い、また、クリニカルパスの活用により職種それぞれが専門性を発揮し協働、患者や家族が安心と満足感の得られる急性期医療を提供していきたいと考える。

6階東病棟　形成外科／泌尿器科／歯科・口腔外科／眼科

当病棟は形成外科・泌尿器科・口腔外科・眼科の周手術期を中心とした44床の混合外科病棟である。2023年の入院は1689名　退院1644名　手術1168件　平均在院日数は9.2日であった。

周手術期看護だけでなく、術前後の化学療法や放射線療法を受ける患者や陰圧療法などの創傷管理など多岐にわたる看護の提供を行っている。

また、形成外科患者や泌尿器科で人工肛門造設などの手術を受ける患者様に対してはボディイメージの変容による精神的サポートが出来るようにすること、口腔外科・眼科では短期入院の場合が多いため、歯科衛生士や外来スタッフの協力を得て、患者の退院後の生活に着目した術

前後の指導を心がけている。医師・看護師だけでなくMSWや他コメディカルスタッフとともにチーム医療を発揮し、自分や大切な家族を安心して預けてもらえるような医療・看護の提供が出来るように今後も努力していきたい。

7階西病棟　消化器内科

当病棟は、消化器内科を中心に受け入れている44床の内科病棟である。消化管出血･ポリープの内視鏡的治療をはじめ、胆嚢炎、総胆管結石のERCP、ステント留置を行う患者、感染性腸炎などの感染性疾患の患者様、胃癌・肝臓癌・膵臓癌・大腸癌などの早期癌治療であるESDやEMRなどの患者を受け入れている。陰圧個室では、COVID-19や結核の患者の受け入れも行なっているため、自分自身を感染から守り、院内クラスターを発生させないために、毎月PPE着脱トレーニングを実施している。

2023年は新入院患者数991人／年､退院患者数1154名/年､平均在院日数14.52日/月であった。超高齢化社会を迎え、私たちには入院した患者様の日常生活動作を低下させず、身体疾患を回復させ、元の生活の場に速やかに戻ることができるようにする役割が求められている。患者様のできる能力に着目し、日々の日常生活動作が身体機能の維持拡大につながるよう、リハビリカンファレンスを実施し、情報共有を行っている。やむを得ず身体拘束が必要になった場合には、倫理的な感性を持ちながら、毎日抑制解除カンファレンスを実施し、判断行動をしている。また、せん妄予防のために入院前の日課を取り入れたり、自宅でいつも目にしていた物を置いたり、つじつまの合わない言動の背景に隠された患者の気がかりや不安に対応し、患者がその人らしく過ごせるような働きかけも行っている。

1日でも早く患者が住み慣れた地域に戻ることができるように、そして地域における救急医療に貢献できるよう、MSWと連携・協働し、在院日数の短縮を目指していきたい。

7階東病棟　外科／肝臓外科

当病棟は、消化器外科・肝臓外科・呼吸器外科の周手術期の患者を中心とした44床の病棟である。入院から短い期間で手術前の準備や不安の緩和が出来るよう、入院前支援部門との連携を行っている。また、病状説明への看護師同席を可能な限り行い、意思決定支援へのサポートが出来るように努めている。手術後は早期から元の生活を想定してMSWと連携を行っており、望む生活に戻れるようなサポートに努めている。

平均入院患者数111.6人/月、平均退院患者数123.3人/月である。平均在院日数10.5日と大きな短縮にはつながらなかったが、退院支援カンファレンスを入院患者全員対象としたことで早期の情報提供と介入が可能となっており、退院後の環境を速やかに整えて早期退院を目指していく。

今後も多職種との連携を図り、安全な療養環境の提供と一貫性のある看護の提供を目指し、地域から信頼される病棟にしていきたい。

8階西病棟　呼吸器外科・内科

当病棟は、呼吸器内科・一般内科病棟である。2020年2月以降はCOVID－19患者の受け入れも行なっており、呼吸器内科・一般内科＋COVID－19の混合病棟として地域のニーズ

4階東 164
5階西 164
5階東 165
6階西 165
6階東 165
7階西 166
7階東 166
8階西 167
8階東 167
ICU 167
HCU 168
外来･ER 168
手術室 169
透析室 169
退院調整 170
入退支援 170
保健指導 171

やフェーズに応じた病床運用を行なっている。2023 年 5 月に COVID － 19 は 5 類感染症へと移行されたが、依然として患者数がゼロになることはなく、その時々で目まぐるしく変化する病床運用に対応してきた。

2022 年は COVID － 19 の専用病床であった時期もあるため、平均在院日数は約 13.0 日であったのに対し、2023 年は混合内科病棟となり、平均在院日数が約 18.3 日と大幅に延びてしまった。高齢患者は認知機能や ADL、嚥下機能の低下が起こりやすいため、入院早期からリハビリテーションを開始し、日常生活への復帰支援を強化していく。今後はこれまで以上に患者様の ADL・IADL を維持できるよう関わること、ADL、IADL の維持が困難だと思われる患者様に対しては、退院後の生活を見据えた関わりを持つことを意識しながら、他職種と協働し在院日数の短縮を目指す。また、患者様・家族が安心できる質の高い医療・看護が提供できるよう努めていきたい。

8 階東病棟　呼吸器疾患／腎臓内科／糖尿病教育／腫瘍内科

当病棟は、腫瘍内科、呼吸器内科、腎臓内科、糖尿病教育入院の患者様を多く受け入れ、化学療法や放射線療法を受ける患者様、クリティカル期を脱した人工呼吸ケアが必要な患者等への看護を提供している。がん化学療法看護認定看護師が勤務する臨床腫瘍センターへの応援勤務を通して化学療法看護のスキルアップを図り、2023 年は看護師 1 名が新たに、がん化学療法看護認定看護師を取得した。

当病棟における 2023 年の入院数は 590 件、転入数 230 件、人工呼吸患者の延べ人数は 977 人、気管切開 1537 人、経管栄養 1640 人であった。平均在院日数は 21.4 日で、長期的な治療を要する患者もいるが、そうでない事例もあった。次年度は、患者および家族が安心して退院後を過ごすための意思決定支援、多職種連携、地域連携、退院支援の強化、患者の身体機能維持などを課題として取り組む。また、疼痛ケアを含めたがん看護、糖尿病看護、人工呼吸ケアの向上を図りながら、看護の質向上と患者・家族に寄り添う『心に届く看護』を提供していく。

また、当病棟は以前に COVID-19 クラスターを経験しているが、2023 年は入院前に感染していたと思われる単発的な COVID-19 陽性が発生してもクラスターには至らなかった。これについては、適切な手指衛生や PPE（個人防護具）適正使用の確認など定期的な実施や、患者様および職員の有症状時検査徹底により、1 人ひとりの感染対策が向上したと評価でき、今後も取り組みを継続する。

ICU

ICU は重篤な急性臓器機能不全状態にある患者様を対象とし、多職種連携のもとに高度かつ専門的なチーム医療を提供する部署である。（定床：8 床）　重症な内科救急患者、侵襲度の高い術後患者を 24 時間体制で受け入れている。より質の高い集中治療の提供のため、特殊モニタリング装置などの新規機器の導入を積極的に行っている。

また、1 日 1 回多職種カンファレンスを継続しており、多職種協働を図っている。

スーパー ICU　加算の取得後、医療看護必要度は 90％前後を維持している。心臓血管外科・脳神経外科の術後に加え、緊急手術患者も増加しており、患者様の重症度が年々高くなっている。また、重症呼吸不全・循環不全患者へのロングラン ECMO 管理についても多く対応した。

4階東 164
5階西 164
5階東 165
6階西 165
6階東 165
7階西 166
7階東 166
8階西 167
8階東 167
ICU 167
HCU 168
外来･ER 168
手術室 169
透析室 169
退院調整 170
入退支援 170
保健指導 171

今後は、さらにより質の高い医療・看護の提供を行い、患者の早期回復支援につなげられるようにしてきたいと考えている。集中治療を安全で効果的に提供するために必要な安全文化と診療ガイドライン等に基づいた医療提供体制の構築に向けた取り組みを引き続き行っていきたい。

HCU

HCU（High Care Unit）は、ICUと一般病棟の間に位置する20床の高度治療室である。診療科は、内科、脳神経外科、循環器内科、外科、呼吸器内科、整形外科など多岐にわたり、一般病棟では全身管理が困難な重症度の高い患者様や、病状変化が予測される患者様を対象に受入れている。

2023年は、新たにHCU内での内視鏡補助下ハイブリッド気管切開術の実施や、人工呼吸器離脱に向けたプロトコルの実践運用を重ねケアの標準化を図ることができた。一方で、年間入室患者数は1559名（緊急入院：942名、転入：617名）で、前年と比較し病床稼動率が低下した。病高度治療室としての役割を果たし地域の急性期医療・看護に貢献していくためにも、安定した病床数稼動により適時適切な患者様受入れを行っていくことが課題である。

HCUに入室する患者様の重症度は年々高度複雑化している。患者様・家族へ安全で安心な急性期医療を提供していくためにも、これからもスタッフのキャリア支援と人材育成により看護の質の維持向上に取り組んでいきたい。

外来・ER

当院外来は『診療部門』、『検査･治療部門』、『予防医療部門』の3つの部門に分かれている。

・『診療部門』

2023年度は下記の2点に重点をおき、取り組みを行った。

1)病院戦略である心不全患者の再入院を防ぐ：病棟と連携し心不全手帳を使用して患者教育を行った。指導実施率の目標は90％であるが、平均60％で目標達成できていない。次年度も目標90％達成出来るように継続看護を実践していく。

2)外来転倒件数0件。転倒リスク評価を行い、転倒リスクのある患者には赤札の装着をご協力頂いている。職員の転倒に対しての危険予知能力の向上、患者自身も転倒予防に対して意識が向上し、インシデント2レベルの転倒はかなり減少した。だが件数は毎月0件にはなっていないので、次年度も継続をしていく。

・『検査・治療部門』

上下部内視鏡検査は前年度より1.02％増加。治療（ESD,ERCP,）件数は1.18％増加している。鎮静剤を使用される患者様の転倒転落防止に努め、発生件数は0件であった。医師の人数問題もあり検査の待ち時間が発生しているが、統一した接遇の強化で対応を行った。

働きやすい職場環境作りを意識し、離職防止に努め、患者様に「今後もこの病院で検査を受けたい」と思っていただけるよう、接遇と看護の質向上に取り組んでいきたい。

・『予防医療部門』は「保健指導」として別に記載

ERは、救急応需率の向上を目標に月750件以上、応需率80％以上を目指し取り組んでいる。

コロナ感染症の増加に伴い月々で実数は変化するが、7月8月12月は750件以上の救急受け入れを行った。しかし救急依頼件数が7月以降1000件を超えており、応需率は80%達成が難しい現状となっている。中河内医療圏以外からの救急搬送依頼が前年に比べ今年は増えており、地域の救急ニーズに応えながら、それ以外の地域にも可能な限り協力していく必要がある。
またERは血管内治療（IVR）部門も担当しており、心臓カテーテル治療や脳血管治療、腹部血管治療、シャントPTA治療を緊急対応も含めて担っている。心臓カテーテル治療は100件前後、脳血管治療は20件前後が毎月行われており緊急治療も月10件前後行われている。ER、IVR共に迅速な対応とスキルが求められる中で「断らない医療」を完遂するべく、スタッフの育成と個々のスキルアップの向上に努めている。
依然終息が見えないコロナ禍の中で感染症対応の第一線を担うERは、患者の迅速対応とスタッフの感染対策を徹底し、今後も地域の救急医療に貢献出来るよう邁進していきたい。

手術室

手術室は8室で稼働しており、2023年の手術件数は6,639件（内緊急手術941件）で、前年対比154件増加。今年より休日・夜間における眼科の二次後送病院に参画したこともあり、眼科の手術件数がさらに増加した。また、昨年より導入したダヴィンチ手術においては、泌尿器科・呼吸器外科に続き、消化器外科・肝臓外科も開始。対象疾患も拡大し、患者様にとってより低侵襲の手術を提供できる体制を構築している。
来年4月より、「術後疼痛管理チーム」の活動を開始する予定である。手術を受けられた患者の疼痛管理を行い、苦痛軽減・離床促進を図り、早期退院へ繋げていけるよう取り組んでいきたい。中河内地域の高齢化進行率は高く、当院で手術を受けられる患者も高齢化している。今後もより安全に、そして安心して手術を受けていただけるよう、職員教育および体制整備に務めていく。

透析室

透析センターは一般フロア39床と個室1床があり、外来通院患者様と近隣透析施設より当院での治療を受ける患者を午前と午後の2クール体制で受け入れている。
2023年末の外来登録患者数は61名（昨年54名）、のべ転入患者総数は544名（昨年457名）、透析導入患者数は56名（昨年41名）と増加したが、腹膜透析患者数は6名（昨年8名）と減少した。
2023年、透析センターでは2つの出来事があった。
1つ目は、台風を契機とした院内の停電により当院での透析が行えず、当院外来患者に他施設で透析を受けていただいた事だ。近隣の透析クリニック様から透析患者の受け入れ、送迎車の手配までも快く迅速に対応いただき、本当に感謝している。この経験から災害時透析における連絡体制などの課題が明らかになった。
2つ目は、長年の目標であった透析システムの導入である。手作業による作業ミスを無くし、インシデントの減少に繋げること、記録時間の短縮で患者に向き合う時間を増やすことが可能になった。
来年度は、腹膜透析の拡大をはかりたい。昨年他施設を見学し、腹膜透析外来の運用・職員教

育のヒントをもらった。引き続き、就労しながら自宅で行える腹膜透析がある当院の強みを活かしたい。

透析が必要となる患者様が、安心して受けられる透析を提供することが当センターの役割である。急性期病院の透析センターとして地域に貢献し、透析患者のため、安全で安心な質の高い透析を目標に、日々透析技術を磨きながら、透析患者に寄り添っていきたい。

《透析患者数動き》　2023.1.1 ～ 2023.12.31

2023 年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
外来患者数	54	58	58	55	56	58	57	57	56	60	61	61	691	58
登録患者数平均	97	96	85	90	90	85	89	91	83	89	96	97	1,088	91
新規登録患者数	8	3	12	3	4	7	4	4	4	5	8	11	73	6
転入合計	46	44	51	48	34	48	52	46	38	43	46	48	544	45
死亡合計	3	5	4	2	3	6	2	2	5	1	3	2	38	3

導入患者数　56　名 / 年
腹膜透析患者数　6　名

退院調整チーム

入退院支援部門の退院支援チームは後方支援を担い入院前支援スタッフと入院前から患者様が安心して入院生活を送り退院後の生活を支援するため病棟看護師や家族、地域との医療介護連携を行っている。

入院時支援介入 2022 年は 545 件。2023 年は 676 件で（+101）であった。介護保険を有する患者様は 17.18％であり、介護保険の申請が無いケースもあり高齢や独居、経済的理由など MSW や他職種と協働し支援調整をしている。退院支援カンファレンスについては 2022 年は 4846 件 2023 年は 6252 件となり、（+ 1406）退院困難な要因をもつ患者に支援を増やすことができた。

退院支援リンクナース会では看護サマリーの見直しや早期作成について取り組みを行っている。

退院先には 2023 年療養病床や回復期リハビリ病床、地域包括ケア病床などを含めた医療機関へ 1291 件（+ 47）老人保健施設 183 件（+ 28）特別養護老人ホーム・ケアハウス・ケア付マンション・有料老人ホーム等への入所・グループホームなど 695 件（+ 180）

グループホーム（介護保険以外）障害者福祉施設などへの入所 20 件（− 2）

在宅医療・介護の新規及び再開を含む件数（以下のサービスを受ける方）・訪問診療・往診・訪問看護・訪問介護・訪問薬剤指導・訪問歯科・訪問栄養指導・居宅療養管理指導などの在宅診療 532 件（+ 19）軽快退院・通院（自他施設）7778 件（− 226）退院先が老人ホームなどに移行している傾向にある

新型コロナ感染症が 5 類になり面会制限も緩和され、リハビリ見学を家族やケアマネージャーも一緒に行っている。

実際の患者の状態を見て家に帰ったとき何が必要かを考え、訪問サービスや通所などの介護サービスの調整や介護保険の区分変更など調整ができるようになった。

入退院支援

入退院支援部門の入院時支援では、病気やけがによって入院しても、患者様と家族が安心・

4階東 164
5階西 164
5階東 165
6階西 165
6階東 165
7階西 166
7階東 166
8階西 167
8階東 167
ICU 167
HCU 168
外来･ER 168
手術室 169
透析室 169
退院調整 170
入退支援 170
保健指導 171

安全に入院療養生活を送り、住み慣れた地域で継続して生活できることを目指して介入している。

取り組みの一つとして、全身麻酔手術の予定入院患者に対して、入院前支援外来を行っている。医事課職員が予約・入院時書類・手続きの案内を行う所から連携が始まり、外来予約日には入退院支援看護師、手術室看護師、薬剤師から手術関連と入院生活の説明・オリエンテーションを行っている。入院前に介入した患者の情報は、病棟、MSW、栄養科などの多職種と情報共有し、協働することで退院支援・調整が早期に対応できる体制を構築している。

2021 年 10 月より、人生会議（ACP）の普及啓発活動として、入院時支援で大阪府の人生会議のパンフレットを用いて、意思決定の支援を開始している。2023 年は合計 664 名の患者様・家族に手渡し説明させて頂いた。全ての方が希望する医療やケアが受けられ、その人らしい生活や人生が送れるように、医療従事者含め地域住民に向けた活動を今後の課題として、推進していきたい。

保健指導

現在 6 名の保健師が、様々なライフステージにある、あらゆる健康レベルの人を対象に、看護をベースとした個人支援と公衆衛生をベースとした集団に対するシステム、体制づくりを予防医療の観点で行っている。活動の場は、外来では外来保健指導、糖尿病外来保健指導、小児科予防接種指導、禁煙外来、健診センターでは特定健診受診者への健診結果の説明と特定保健指導を実施している。糖尿病外来においては、地域の基幹病院としてチームで専門治療を提供している。患者様に対する個人支援に加え、合併症の発症予防、早期発見、早期治療、再発予防のためにフットケアや合併症検査パス、注射薬のローテーション指導をすべての糖尿病外来に通院する患者が経年的にサービスを受けることができるよう他職種で連携しながら体制づくりを行っている。今年度はさらに高齢者支援と透析予防指導パス開始することができた。

今年度の保健指導件数は、3357 件／年で、領域では糖尿病外来が最も多く 2049 件（61.0％）、健診利用者への結果説明、特定保健指導が 951 件（28.3％）、禁煙補助薬の安定供給により、禁煙治療が 141 件（4.2％）であった。（表 1：別紙）

今年度は特定保健指導の第 4 期開始となるため、スムーズなシステムの移行とさらなる特定保健指導件数の増加を目指したい。

《保健指導の領域件数》

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
外来保健指導	2	2	5	4	1	4	6	5	4	6	4	5	48
外来禁煙指導	7	10	14	19	16	10	15	14	13	12	7	4	141
C 型肝炎サーベイランス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓リハビリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児科外来	11	14	9	8	2	4	16	12	5	5	10	13	109
糖尿病外来	135	136	154	152	149	165	161	192	198	217	198	192	2,049
病棟	3	5	7	2	8	5	3	2	11	6	2	4	58
院外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

健康相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
健診・人間ドック	33	46	46	52	47	56	51	30	29	48	38	29	505
特定保健指導	35	34	29	39	40	60	33	37	40	38	23	38	446
合計	226	247	264	276	263	304	285	292	300	332	283	285	3,357

2. メンバー構成

看護部副看護部長：髙橋章恵
5階西病棟看護主任：尾崎芽紅美
6階西病棟看護主任：乾　恵美
7階西病棟看護主任：中嶋美也子
8階西病棟看護主任：秋田裕香里
ICU 看護師長：村中烈子
外来看護師長：宮本千代美
手術室副看護部長：柴山智賀子
退院調整：加藤和代
4階東病棟看護主任：毛頭悦子
5階東病棟看護師長：井本ユミ
6階東病棟看護主任：坂田レミ
7階東病棟看護主任：坂本景子
8階東病棟看護師長：竹内裕子
HCU 看護師長：中島麻由美
ER 看護師長：山本真紀
透析室看護師長：栗田美貴
保健師主任：酒井菜穂子

3. 教育実績

実習受入れ一覧

学校名	科目	期間	学生数	実習場所
小阪病院看護専門学校	成人看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	5月8日～5月25日	6名	4東、6西
	成人看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	5月29日～6月15日	6名	6西、8東
	成人看護学Ⅱ、Ⅲ	6月19日～7月6日	5名	4東、8東
	基礎看護学Ⅱ	7月11日～7月25日	10名	4東、5東、6東、7東
	小児看護学	9月25日～9月28日	3名	5西
	成人看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	9月25日～10月12日	6名	7西、7東
	小児看護学	10月2日～10月5日	2名	5西
	成人看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	10月16日～11月2日	5名	7西、7東
	小児看護学	10月23日～10月27日	2名	5西
	小児看護学	10月16日～10月20日	2名	5西
	統合	11月20日～12月7日	10名	6西、7西、7東、8東
	成人・老年看護学	2月1日～2月14日	10名	4東、5西、6西、7東、
	成人・老年看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ	1月11日～1月23日	10名	4東、7西、7東、8東
アナン学園高等学校	成人看護学（急性期）	6月26日～7月5日	2名	5東
	小児看護学	7月3日～8月3日	2名	5西
	小児看護学	8月14日～8月17日	2名	5西
	基礎看護学Ⅲ	9月4日～9月15日	5名	4東、5東
	成人看護学Ⅰ	10月10日～10月20日	6名	4東、6西
	統合	9月25日～10月4日	6名	5東、6東
	成人看護学（慢性期）	1月29日～2月16日	5名	7西、8東
	基礎看護学Ⅰ	1月11日～1月12日	5名	5西、5東

4階東 164
5階西 164
5階東 165
6階西 165
6階東 165
7階西 166
7階東 166
8階西 167
8階東 167
ICU 167
HCU 168
外来・ER 168
手術室 169
透析室 169
退院調整 170
入退支援 170
保健指導 171

学校名	科目	期間	学生数	実習場所
錦秀会看護専門学校	小児看護学	4月24日～4月28日	3名	5西
	小児看護学	5月8日～5月12日	3名	5西
	小児看護学	5月22日～5月26日	3名	5西
	小児看護学	5月29日～6月2日	3名	5西
	小児看護学	6月5日～6月9日	3名	5西
	小児看護学	6月12日～6月16日	3名	5西
	小児看護学	6月26日～6月30日	3名	5西
	小児看護学	7月3日～7月7日	3名	5西
	小児看護学	7月10日～7月14日	3名	5西
	小児看護学	7月18日～7月21日	3名	5西
	小児看護学	8月28日～9月1日	3名	5西
	小児看護学	9月4日～9月8日	3名	5西
東亜看護専門学校	成人看護学	6月20日～7月26日	6名	6西
	統合	10月24日～10月27日	6名	6西
	基礎看護学	11月1日～11月2日	3名	6西
	基礎看護学	11月8日～11月9日	2名	6西

院内研修

《レベルⅠ》

研修日	研修名
4月	看護技術I
5月	看護技術Ⅱ(尿道留置カテーテル)
	メンタルヘルスケア研修
	看護記録電子カルテ操作編
6月	看護記録「正しい記録の書き方･看護過程」
7月	RCA研修I(基本編)
	二次救命処置研修(急変時対応)
8月	医療安全研修I「KYT」
	RCA研修Ⅱ(フィッシュボーン)
9月	卒後6ヵ月の振り返り(リフレクション)
	感染管理(振り返り)
10月	コスト意識と物品管理
	多重課題(リフレクション)
	BLSスキルテスト
	終末期のケア
	RCA研修Ⅱ(フィッシュボーン)
12月	看護を語るナラティブ
	医療安全研修Ⅱ

《レベルⅡ》

研修日	研修名
6月	レベルⅡ感染管理Ⅰ-②
	既卒新人二次救命処置研修
	レベルⅡ感染管理Ⅰ-①
8月	メンバーシップ研修Ⅰ-①
	メンバーシップ研修Ⅰ-②
11月	メンバーシップ研修Ⅱ-①
	メンバーシップ研修Ⅱ-②

《レベルⅡ・Ⅲ》

研修日	研修名
7月	医療安全研修

《レベルⅡ以上》

研修日	研修名
5月	ホスピタリティー研修①
	ホスピタリティー研修②
9月	ホスピタリティー研修③
	ホスピタリティー研修④
12月	ホスピタリティー研修⑤
	ホスピタリティー研修⑥

《レベルⅢ》

研修日	研修名
6月	リーダーシップ研修I
11月	リーダーシップ研修II-①
12月	リーダーシップ研修II-②

《レベルⅢ以上》

研修日	研修名
7月	RCA研修
	メンタルヘルスケア研修

《レベルⅣ・Ⅴ・管理者》

研修日	研修名
6月	医療安全Ⅰ
8月	看護診断①（看護ケアプラン）
	看護診断②（看護ケアプラン）

《トピックス》

研修日	研修名
5月	せん妄教育①
6月	せん妄教育②
9月	せん妄教育③

《次世代管理者》

研修日	研修名
6月	ロジカルシンキングⅠ
8月	ロジカルシンキングⅡ
10月	ロジカルシンキングⅢ
	ロジカルシンキングⅣ
11月	RCA研修

《スキルアップ》

研修日	研修名
4月	小児BLS指導者養成研修①
	小児BLS指導者養成研修②
5月	看護ケアに活かせる解剖生理
	BLS指導者養成研修①
	BLS指導者養成研修②
6月	入退院支援研修Ⅰ
	呼吸の観察とアセスメント
7月	レベルⅢ感染管理Ⅰ-①（耐性菌の特徴）
	レベルⅢ感染管理Ⅰ-②（耐性菌の特徴）
	身体診察（問診）
	中途採用者BLS
	緩和ケア（緩和ケアの基本）
	皮膚・排泄ケア①
8月	レベルⅡ感染管理Ⅱ-①
	レベルⅡ感染管理Ⅱ-②
	緩和ケアⅠ
	二次救命処置研修（更新）
	二次救命処置研修（初回受講者）
	二次救命処置研修（更新）
	皮膚・排泄ケア①失禁
	皮膚・排泄ケア②
	看護ケアに活かせる解剖生理
9月	皮膚・排泄ケア③
	二次救命処置研修（更新）
	循環の観察とアセスメント

4階東 164
5階西 164
5階東 165
6階西 165
6階東 165
7階西 166
7階東 166
8階西 167
8階東 167
ICU 167
HCU 168
外来・ER 168
手術室 169
透析室 169
退院調整 170
入退支援 170
保健指導 171

10 月	看護ケアに活かせる解剖生理（脳神経）
	急変キャッチトレーニング
11 月	急変キャッチトレーニングレベルⅡ・Ⅲ
	急変キャッチトレーニングレベルⅡ・Ⅲ
	急変キャッチトレーニングレベルⅣ・Ⅴ
	急変キャッチトレーニングレベルⅣ・Ⅴ
	緩和ケアⅡ
	意識の観察とアセスメント
	レベルⅣ・Ⅴ感染管理Ⅱ-①
	レベルⅢ感染管理Ⅱ-②

《看護補助者》

研修日	研修名
5 月	看護補助者研修ラダーレベルⅠ
	看護補助者研修ラダーレベルⅡ
	看護補助者研修ラダーレベルⅢ

《看護協会　短期研修》

研修日	研修コース名
5月	診て聴いて触って実践に活かすフィジカルアセスメント（講義・演習）①
6月	BPCを策定し災害へ備えよう！
	スタッフの自律と成長を促す対談～1on1の活用～
	共に育つための教育の基本的知識
	病院・施設から地域医療へつなぐ入退院支援・退院調整
	魅力的な研修会の組み立て方
	感染管理の基礎知識
	今日から実践できる褥瘡ケア①
	新人看護職員教育担当者研修
	臨地実習指導者①
	やってみよう家族アセスメント！ ～明日から変わる!?家族のとらえ方～
	共に育つための教育の基礎知識・心理学的アプローチ
	高齢者の特性を踏まえたエンド・オブ・ライフ・ケア
	災害看護における書記医療支援活動
	摂食・嚥下紹介のある患者の看護の基礎と実際を学ぶ
	臨地実習指導者②
8月	がん化学療法を受ける患者の支援
	コーチング・コミュニケーション
	悩んだらやってみよう！心をしなやかにして働く方法
	実践に活かす輸液管理の基礎知識 ～安全に実施するために看護師が知っておくべきこと～
	みんなで考える看護倫理
	認知症高齢者の看護実践に必要な知識①
9月	がん患者の症状緩和を図る看護
	チームで取り組む医療安全。やってみようTeam STEPPS
	共に育つための教育の基本的知識～教育方法～
	災害看護における初期医療支援活動
	実践に活かす小児救急
	多職種協働とコンフリクトマネジメント
	病院と在宅医療を担う 訪問看護ステーション・福祉関係施設の相互研修
10月	救急・集中治療領域におけるクリティカルケア
	一般病棟において、予兆をとらえて急変を防ぐ観察と看護のポイント
	ACPに基づいた穏やかでその人らしい最期を見守る看取りのケア
	みんなで考える看護倫理:アドバンス
	より良い意思決定に向けたナッジの活用 ～看護現場をよりよくする仕掛け～
	危険予知トレーニング
	高齢者の「食」を考える～肺炎を予防する知識と実際～
	認知症高齢者の看護実践に必要な知識②
11月	看護チームにおけるリーダーシップ
	頑張る看護職のストレス対処法 ～アンガーマネジメントでストレス軽減～
	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修②
	精神疾患を持つ患者のとらえ方と接し方 ～精神的苦痛に寄り添う看護～
	認知症患者のケア ～認知症患者が安心して医療を受けられるケアを考える～
	ファシリテーションの基本を学ぼう
	診て聴いて触って実践に活かすフィジカルアセスメント③
12月	看護管理者のリフレクション
	がん放射線療法を受ける患者の看護
	現場で知っておきたい外国人対応
	文章の書き方とポイント ～レポート（小論文）の作成にも役立てよう～
	実地指導者研修
	看護に活かす臨床推論
	慢性心不全患者の療養支援
	認知症高齢者の看護実践に必要な知識③
1月	概念化スキル（コンセプチュアルスキル）で問題解決・人材育成
	看護管理に大切な人材育成とチームマネジメント

《看護協会　長期研修》

研修日	研修コース名
5月	認定看護管理者教育課程ファーストレベル①
8月	第2回認定看護管理者研修教育課程セカンドレベル②

《徳洲会グループ》

研修月	開催主催	研修コース名
7月	徳洲会看護部	徳洲会看護部問管理者研修「師長研修」
8月	徳洲会看護部	看護補助者担当者研修
10月	徳洲会看護部	ベストプラクティス研修
		第9回医療メディエーター（医療対話推進者）養成研修会
12月	徳洲会関西大阪ブロック	仕事の能率を劇的に変える効果的な時間術

《その他》

研修月	開催主催	研修コース名
7月		2022「重症度、医療・看護必要度」評価者および院内指導者研修会
	大阪府病院協会	令和５年度看護職員実務者研修「循環器病総合コース」

2）研究発表業績

1）院外発表

年月日	学会名	病棟名	発表者名	テーマ
7月20日～7月22日	第38回日本環境感染学会総会・学術集会	ICU	萩原美香	当院 ICU における人工呼吸器離脱プロトコルの標準化に向けた取り組みとその成果
11月24日～11月25日	第25回日本救急看護学会	ICU	藤原麻友美	口腔ケアの標準化に伴う、人工呼吸器関連肺炎低減への取り組み
10月20日～10月22日	第9回日本NP学会学術集会	ICU	植田翔太	徳洲会だからこそ実現できる離島応援診療看護師（NP）の実際と効果
10月20日～10月22日	第10回日本NP学会学術集会	ICU	髙橋博之	当院でのエコー下血管先史における長軸法と短軸法での PICC 挿入時間の比較
10月7日	第41回CVIT近畿地方会	ER	松尾智子	カテ室の医療安全について考えよう！
12月1日～12月3日	APCNP2023 台湾専科護理師學會	ICU	髙橋博之	THE ROLE OF JAPANESE NURSE PRACTITIONERS ON SURGEON TASK SHARING

4階東 164
5階西 164
5階東 165
6階西 165
6階東 165
7階西 166
7階東 166
8階西 167
8階東 167
ICU 167
HCU 168
外来･ER 168
手術室 169
透析室 169
退院調整 170
入退支援 170
保健指導 171

委　員　会

―― 2023年 ――

49）呼吸ケアチーム（RST）　180
50）褥瘡対策委員会　181
51）研修管理委員会　182
52）栄養サポートチーム（NST）　186
53）緩和ケアチーム　188
54）がん緩和支援委員会　190
55）地域医療支援病院運営委員会　192

49）呼吸ケアチーム（RST）

リハビリテーション科　片田　理恵

呼吸ケア 180
褥瘡対策 181
研修管理 182
栄養サポ 186
緩和ケア 188
がん暖和 190
地域医療 192

1. 概要

ICU/HCU での早期離床リハ加算の算定が開始され、今まで以上により多くの患者の早期から介入できている。また、多職種カンファレンスを開催することでより問題点を早期に発見でき、廃用症候群の予防、早期退院に向けての取り組みを強化できている。

新型コロナウィルスへの対応は、隔離中もリハビリテーションを提供することで廃用症候群の予防、隔離解除後の早期退院を担っている。

2. メンバー構成

医　　師：　原田博雅、石原英樹、緒方嘉隆　濱口眞成、山田知樹

看　護　師：　村中烈子

理学療法士：　片田理恵、岩本千尋、上西希、麻野智幹、松田圭吾

3. 実績

呼吸リハチーム対象

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
患者数	288	322	318	341	396	309	315	319	277	317	229	221	304.3
単位数	349	404	440	478	504	401	427	409	346	379	297	264	391.5

4. 今後の目標

・呼吸リハスタッフの増員

・ICU・HCU での早期離床、365 日介入の充実

50）褥瘡対策委員会

形成外科部長　綾部　忍

1. 概要

当院は、2002 年より褥瘡対策委員会を発足しています。医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・資材課・医事課で構成され、毎週 1 回の回診を行い、それぞれの専門的な知識や技術を出し合って効果的・効率的な褥瘡予防・治療を目指しています。
さらにきめ細かいケアを行うため、看護部各部署にリンクナースを配備しています。

2. メンバー構成

医　　師	綾部忍、森川周至、野村麻衣、塚原麻理奈、築山隆弘
看　護　師	柴山智賀子、坂田レミ、中嶋美也子、河畑美香
管理栄養士	齋藤朝美、藤田春菜
薬　剤　師	森田幸男、岩政かおり
理学療法士	明見匡人
資　材　課	柏山文成
医　事　課	永野柚里

3. 実績

2023 年 1 月～ 12 月の実質褥瘡発生率平均　1.43％
年間褥瘡発生件数　220 件
年間持ち込み褥瘡件数　225 件

4. 今後の目標

褥瘡予防に努めるとともに、褥瘡治療に対して保存的治療・手術治療を行い早期発見・早期治癒促進に努めています。年々高齢化に伴い、持ち込み褥瘡件数が増加傾向にあります。また褥瘡を有した状態で地域に戻られるケースも多く、退院後の環境を踏まえた褥瘡治療を他職種カンファレンス・回診ラウンドにより提供しています。今後の課題として、褥瘡ハイリスク患者に対して重症褥瘡を発生させることなくチーム介入を行い、褥瘡発生率の低減を目指していきます。

51）研修管理委員会

呼吸ケア 180
褥瘡対策 181
研修管理 182
栄養サポ 186
緩和ケア 188
がん暖和 190
地域医療 192

研修管理委員長　原田　博雅（院長）
プログラム責任者　髙原　良典（総合診療部長）

1. 概要

当院は、厚生労働省指定の基幹型臨床研修病院及び協力型臨床研修病院として初期臨床研修医の育成を行っています。プライマリ・ケアと救急医療を中心に、数多くの症例を経験することで総合的な臨床能力をもった医師の育成を目指しています。また、高度集中治療から在宅医療まで幅広く経験できる研修を売りにし、ここ数年は定員数のフルマッチを継続し、これが大阪府より認められ、次年度からは一名の定員増となりました。気軽に意見を交わせる場として毎月研修医会議を開催しており、指導医・研修医双方が研修環境の改善に取り組めるような雰囲気作りを心がけています。

研修医の基礎的な臨床スキルの向上や、プレゼンテーションの英語表現能力の向上を目指し、イギリス人医師 Dr. ジョエル・ブランチによるケースカンファレンス・レクチャーを週２回開催、さらに、今年度は千葉西総合病院 内科部長 八重樫牧人先生のレクチャーを２月、６月、９月の３回開催し、来年度はコロナ禍が明けて以来の感染症専門医 Dr.Lo を招聘予定です。

今年度は臨床研修説明会の各実地開催も大幅に再開し始め、徳洲会グループ主催も含め多くの説明会に参加し、来年度も継続致します。

現在、大阪公立大学医学部附属病院のたすきがけプログラム協力型施設としても初期臨床研修医を受け入れ、指導にあたっていますが 2023 年度から村上総合病院、佐渡総合病院の２施設と連携して初期臨床研修医の育成にあたる体制を整え、村上総合病院より１名を迎えることが出来ました。

専門研修プログラムに関しては、現在基幹施設として内科、外科、総合診療科、整形外科（Ⅱ型）、救急科の認定を受けています。

脳神経外科、形成外科、麻酔科、泌尿器科、放射線科、眼科、病理診断科領域については、引き続き大学病院や徳洲会グループの各施設と連携を取りつつ当院の特色を生かし、初期研修から専門研修へとシームレスな移行が出来るよう企画・運営を行っていきます。

2. メンバー構成

研修管理委員長：原田博雅（院長）　　プログラム責任者：髙原良典（総合診療部長）
事務責任者：井上雅章（事務部長）
外部委員：3 名（菊池内科 院長　菊池 博氏、医療法人幸晴会 中谷クリニック 院長 飯地 理氏
八尾市消防本部消防署 救急課長 西村 元一氏）
その他委員：54 名（内訳　院内医師 10 名、看護部・コメディカル 9 名、協力施設医師 35 名）

3. 実績

1）研修医数

《 初期臨床研修 》

１年次：7 名（大阪公立大学医学部附属病院、村上総合病院（新潟県）たすきがけ３名含む）

2年次：6名（病院都合による中断者2名含む）

《専攻医》

内科：1名　　外科：1名　　整形：1名

（以下、他 連携施設として受入れ）

大阪公立大学形成外科専門研修プログラム（2名）、大阪医科薬科大学眼科専門研修プログラム（1名）

2）勉強会・カンファレンス等

《医局発表》

年次	学会	発表の場	開催日	演題
2年次	日本内科学会	第240回近畿地方会	2023年6月24日	診断に難渋した超高齢者の短軸型胃軸捻転症を併発した食道裂孔ヘルニアの1例
2年次	日本臨床救急医学会	第26回日本臨床救急医学会総会･学術集会	2023年7月29日	放射線治療後にPTP誤飲により発症した小腸穿孔の一例
1年次	日本内科学会	第241回近畿地方会	2023年9月2日	肺結核後遺症によるⅡ型呼吸不全に対して在宅ハイフロー療法が有効であった一例
1年次	日本内科学会	第241回近畿地方会	2023年9月2日	多発皮下出血を呈した89歳女性の一例
1年次	日本内科学会	第242回近畿地方会	2023年12月9日	間質性肺炎増悪時の呼吸不全に対してVV－ECMOを用いることで救命し得た一例
1年次	日本内科学会	第242回近畿地方会	2023年12月9日	豊胸術が原因と考えられる好酸球性肺炎の1例
1年次		第207回近畿外科学会	2024年2月3日	結腸穿孔による左気胸をきたした外傷性横隔膜ヘルニアの1例
1年次		第207回近畿外科学会	2024年2月3日	直腸原発Mixid neuroendocrine-non-neuroendocrine neoplasm(MINEN)が肝臓に転移した一例
2年次	日本内科学会	第243回近畿地方会	2024年3月16日	大腸癌を合併したCronkhite-Canada症候群の1例
2年次	日本内科学会	第243回近畿地方会	2024年3月16日	遅れて肺病変が出現し皮膚生検にて診断に至った粟粒結核の一例

《医局発表》 Grand　Round

毎週金曜日 AM8:10 から学会形式の医局発表を行っています。

初期研修医の発表練習の場として開催しています。　（※は初期研修医による発表）

発表内容	開催日
診断に苦慮した消化管穿孔の一例（※）	1月13日
たこつぼ型心筋症の一例（※）	1月20日

呼吸ケア 180
褥瘡対策 181
研修管理 182
栄養サポ 186
緩和ケア 188
がん暖和 190
地域医療 192

小児期に胆道拡張症に対して分流手術施行後、47歳時に肛門部胆管癌に対して右葉切除を施行した一例(※)	2月24日
後縦隔に発生したパラガングリオーマの1手術症例(※)	3月1日
CO2ナルコーシスを伴う急性呼吸不全をきたした肥満低換気症候群の1例(※)	3月10日
菌血症を合併した非チフス性サルモネラ腸炎の一例(※)	3月17日
診断に時間を要した大動脈解離の1例(※)	3月24日
Clinical Impact of Stellate Ganglion Phototherapy on Ventricular Tachycardia Storm Requiring Mechanical Support Devices	4月7日
研修医紹介(※)	4月14日
新給食システムの説明	4月21日
腹腔鏡下胃幽門側切除術施行時に偶発的に認めた異所性膵の1例(※)	4月28日
後腹膜出血によって発見された正中弓状靱帯圧迫症候群の一例(※)	5月12日
救急災害医療、新型コロナ後の救急輪番制、救急科専門医ダブルボード	5月19日
急激な経過を辿ったMPO-ANCA陽性急速進行性糸球体腎炎(※)	6月2日
遷延する消化管出血により腎不全に至った一例	6月9日
ACTH単独欠損症等を基礎疾患とする6才喘息児へのメポリズマブ使用の試み	6月16日
動物咬傷　アライグマ咬傷を経験して(※)	6月23日
多発皮下出血を呈した89歳女性の一例(※)	7月7日
診断に難渋した超高齢者の短軸型胃軸捻転症を併発した食堂裂孔ヘルニアの1例(※)	7月14日
腹部手術歴のない腸間膜癒着を伴う内ヘルニアの1例(※)	7月21日
肺小細胞癌に抗Hu抗体陽性傍腫瘍性神経症候群を発症した1例(※)	8月4日
肺外症状から診断に至ったレジオネラ肺炎の一例(※)	8月18日
全身状態が極めて不良であり早期手術を行った感染性心内膜炎の一例(※)	8月25日
低K血症を認めたバセドウ病の一例(※)	9月1日
既読管理システム導入説明会	9月8日
結核後遺症による2型呼吸不全に対して在宅ハイフロー療法が有効であった1例(※)	9月22日
Ball valve syndrome を呈した胃癌の1例	9月29日
急性アルコール中毒疑いで搬送された薬物過量内服の一例(※)	10月6日
53歳男性に生じた左下腿蜂窩織炎の1例(※)	10月13日
呼吸器症状に乏しく診断に難渋した粟粒結核の一例(※)	10月20日
透析患者のサルモネラ腸炎が菌血症に至った一例(※)	10月27日
壊疽性膿皮症を合併したクローン病の1例(※)	11月17日
悪性腫瘍と結核性病変の鑑別に難渋した一例(※)	11月24日
進行する貧血に対し腸管切除に至った一例	12月8日
離島において偽アルドステロン症を臨床診断した一例(※)	12月15日
歯の原因で起こる重圧感染症	12月22日
豊胸術が原因と考えられる好酸球性肺炎の1例(※)	12月29日

《臨床病理検討会》

（※は初期研修医による発表）

演　題	開 催 日
気胸をくり返しCO2ナルコーシスで亡くなった1例（※）	2 月24日
肺癌多発肝転移をきたし突然心肺停止に至った1例（※）	4 月28日
神経内分泌腫瘍の多発転移にて死亡した1例（※）	5 月26日
肺腺癌による呼吸不全で死亡した一例（※）	6 月23日
肺炎･膿胸の診断にて治療するも急速に呼吸不全が進行し死亡した一例（※）	8 月25日
上縦隔腫瘍多発転移による脳梗塞で死亡した一例（※）	9 月22日
肺小細胞癌に対する抗がん化学療法中に麻痺性イレウスを起こし死亡した一例（※）	12月22日

3）各種講習会への参加支援

ICLS、ACLS、BLS、緩和ケア研修会をはじめ、JATEC、PALS や NST 研修会など、各種講習会への参加を奨励し費用の負担などを行っています。

4）研修医の主な卒業大学

大阪公立大学、奈良県立医科大学、京都府立医科大学、高知大学、愛媛大学、徳島大学、鳥取大学、関西医科大学、東海大学、広島大学、久留米大学、弘前大学、福井大学、大阪大学、香川大学、島根大学、兵庫医科大学、琉球大学、金沢大学、金沢医科大学、大阪医科大学、近畿大学など、研修医の出身大学も多岐にわたっています。学閥にとらわれない開かれた医局が特徴です。

4. 今後の目標

・初期臨床研修医の募集定員増員に向けてとり組む、および専攻医採用に力を注ぐ。
・研修医のスキルアップを図るため、院内勉強会を再考・計画的に実施する。
・研修医のインシデント・アクシデント報告意識を高め、医療安全体制を確立する。
・働き方改革において、引き続き臨床研修医労働時間短縮計画の取り組みを行う。
・専門研修プログラムの連携強化を目指し、連携先の充実を図る。
・研修医年 1 回の学会発表を継続必須として実践する。

52）栄養サポートチーム（NST）

NST 委員長　木村　拓也

呼吸ケア　180
褥瘡対策　181
研修管理　182
栄養サポ　186
緩和ケア　188
がん暖和　190
地域医療　192

1. 概要

栄養サポートチーム（以下、NST）は特別な栄養管理を必要とする入院患者様を対象に、通常の食事だけでなく静脈栄養、経腸栄養を含む全ての栄養療法における適切な栄養管理・評価・提案を行い、一日でも早く良好な栄養状態に改善できるように活動している。

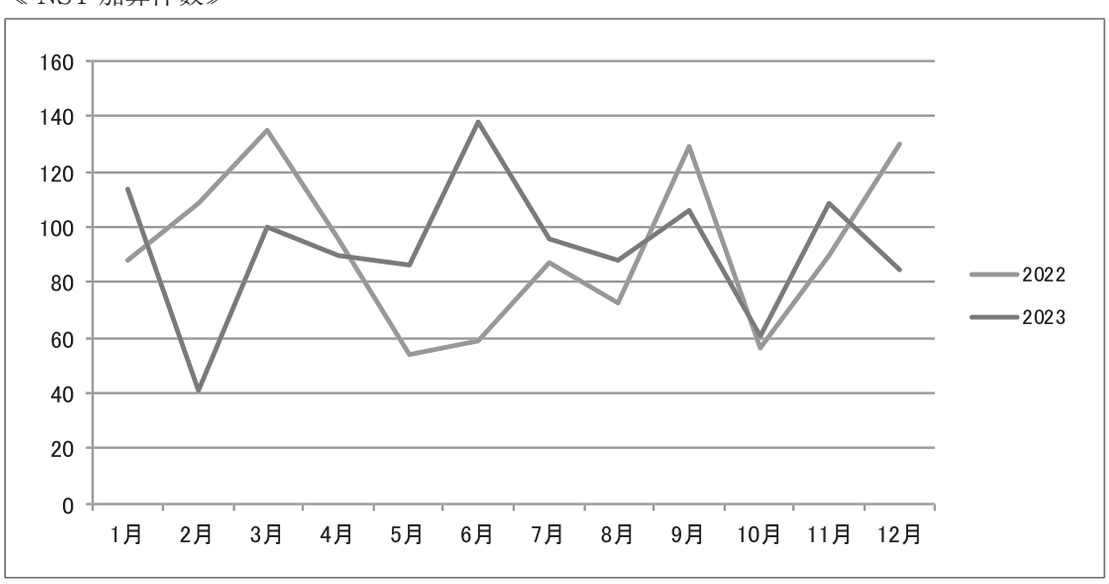
また、NST 教育認定施設として研修生受け入れを実施しており 2023 年は 12 名の研修生を受け入れた。

2. メンバー構成

医師	3名	臨床検査技師	2名
看護師	14名（リンクナース含む）	言語聴覚士	2名
薬剤師	7名	管理栄養士	3名

3. 実績

≪ NST 加算件数≫



	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
2022	88	109	135	96	54	59	87	73	129	56	90	130	1,106	92.2
2023	114	41	100	90	86	138	96	88	106	61	109	85	1,114	92.8

昨年と比較し、総件数は +8 件、月平均 +0.8 件と横ばいとなっている。

4. 今後の目標

・教育、研修

近年実施出来なかった勉強会を開催し、栄養療法に関する知識を習得できるようにする。

2024 年度も研修生の受け入れを積極的に行う。現在 16 名の受け入れを予定している。

・研究、発表

定期的な症例検討会の実施、日本臨床栄養代謝学会や日本病態栄養学会など地方・全国学術集会へ参加し、培った知識や技術を患者様に還元できるよう日々研鑽に努める。

53）緩和ケアチーム

緩和ケア認定看護師　西山　由希子

呼吸ケア　180
褥瘡対策　181
研修管理　182
栄養サポ　186
緩和ケア　188
がん暖和　190
地域医療　192

1. 概要

大阪府がん診療拠点病院には、緩和ケアチームの設置が義務づけられている。

当院の緩和ケアチームは、医師（外科・内科・麻酔科・精神科・心療内科）、緩和ケア認定看護師、看護師、薬剤師、作業療法士、公認心理師、管理栄養、MSW で構成され、それぞれの職種が持つ専門知識を最大限に活用し、患者様の問題点に継続的にアプローチする事で、多方面から苦痛の緩和を目指している。

定期的なチーム回診で、患者様の病気と生活を切り離すことなく総合的に評価しながら、その上で介入時に確認した患者様とそのご家族の希望に向けての調整を実施している。

緩和ケアチームの役割として核となっているのは苦痛の除去であるが、平行して、患者様とそのご家族に残された時間を満足感や達成感の中で過ごして頂くためのケア提案や支援も実施している。

残念ながら患者様とそのご家族、医療従事者において、今もなお緩和ケアに対して「終末期のケア」という認識を持っている人が多いのが現実である。

緩和ケアは、終末期になってからの開始ではなく、診断された時から開始する事が推奨されている。早期からの関わりが QOL の維持、向上に繋がるということを繰り返し伝え、周囲の意識改革を行いながら、患者様とそのご家族に寄り添い、ケアを継続する事で辛い気持ちや苦しい時間を少しでも軽くできる様に活動している。

2. メンバー構成

医師：垣本　佳士（外科）
　　：池下　和敏（麻酔科）
　　：髙原　良典（総合内科）
　　：片上　徹也（精神）、
　　：杉本　貴美子（精神）
緩和ケア認定看護師：西山　由希子
看護師：藤井　正作
薬剤師：青山　瑛里子
　　：山田　直輝
　　：井上　悠
公認心理師：朴　祐希
　　：宮坂　なつ花
作業療法士：梅崎　大貴
管理栄養士：小山　洋史
　　：佐藤　友亮
MSW：三谷　勇一

3. 実績

《緩和ケアチーム介入件数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数	平均
2	2	3	5	3	4	2	2	1	6	1	4	35	2.92

《がん種別件数》

肺	胃	大腸	膵	肝	胆管（胆嚢含）	乳	前立腺	その他
5	4	8	3	3	1	0	2	8

《院内緩和ケア研修会》

開催日	講演1	講演2	参加者
5月23日	がん疼痛緩和の基本的な知識 ～オピオイド製剤を中心に～	効果的な口腔ケアを実施するために	29名
12月7日	がん患者の栄養管理 ～緩和ケアチームの管理栄養士として～	スピリチュアルペインのお話	33名
3月7日	症例を通して がん疼痛治療の基本を学びましょう	症例に対応する社会資源の紹介	56名

4. 今後の目標

・急性期病院としての役割を担いながら、がん診断期から急性期治療、支持療法に至るまでの全ての病期に渡って、継続的にがん患者様の支援を行う。

・近隣の病院や診療所とも充分に連携を取り、患者様の病期、病状、体調にふさわしい環境を提案できるように努力と工夫を継続する。

・ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を推進し、患者様とそのご家族の気持ちを尊重し、そして寄り添う事を大切にしながら、患者様を中心に人生の最終段階を過ごすための体制を整えることを支援していく。

54）がん緩和支援委員会

緩和ケア認定看護師　西山　由希子

呼吸ケア　180
褥瘡対策　181
研修管理　182
栄養サポ　186
緩和ケア　188
がん暖和　190
地域医療　192

1. 概要

がん診療において、疾患別に推奨される治療方法や生活、世代別の特徴等を知り、情報共有することで患者様にとってベストと考えられる質の高い医療を提供すること、大阪府がん拠点病院としての役割を果たすことを目的と掲げて活動。

患者様の QOL の維持･向上や、がんと診断されたときから出現する身体的、精神的、社会的、そしてスピリチュアルな苦痛に対して積極的､継続的かつ総合的な緩和ケアを提供するために、安定した体制確保の実現を目指し、がん緩和支援委員会（以下「委員会」という）を設置している。

2. メンバー構成

委 員 長　　外科医師：垣本佳士（緩和ケア研修指導者）
事務局長　　苗代啓子（がん化学療法看護認定看護師）
委　　員　　内科医師：高原良典（緩和ケア研修指導者）
麻酔科医：池下和敏（緩和ケア研修指導者）
精神科医師：片上徹也
心療内科医：杉本貴美子
看護部：西山由希子　（緩和ケア認定看護師）
薬剤部：山田直輝
公認心理師：朴祐希
管理栄養士：小山洋史、佐藤友亮
リハビリ：梅崎大貴
医事課：西田美帆
MSW：三谷勇

3. 実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数	平均
がん患者指導管理料イ	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3	0.25
がん患者指導管理料ロ	0	1	4	5	2	7	8	8	13	9	14	3	75	6.25
がん患者指導管理料ハ	6	16	12	8	10	9	9	0	14	11	9	6	110	9.16
ケモ食	298	247	151	211	212	517	236	345	325	168	202	245	3157	263.08

《スクリーニング件数》

	総数	DR/NS	MSW	サービス	なし
化学療法	0	0	0	0	0
外来	8	1	5	1	0
放射線治療	114	2	3	3	0
合計	122	3	8	4	0

《がん地域連携パス件数》

	胃がんF	胃がんケモ	大腸がんF	大腸がんケモ	乳がん	肺がん	緩和パス
適応件数	28	2	59	1	0	6	0
実施件数	21	1	51	1	0	6	0

4. 今後の目標

新型コロナ感染症が５類となり日常が大きく変化した。これまで様々な研修が非対面での実施になっていたが､今年度からは緩和ケア研修会（PEACE 研修）も対面での実施再開となった。対面での開催となったことで意見交換も活発になるので、がんに携わる医療者が質の高い医療を提供できるように緩和ケア研修会等を継続し、更に活発に取り組めるように工夫をする。

がんサロンも再開され、患者様自身が自分の意思で情報を取り入れることが可能になった。

患者様が求める事に的確に対応し、疾患によって多くの事を諦めることなく、最期のその時まで自分らしく生ききることができる様に支援を行っていく。

55）地域医療支援病院運営委員会

病院長　原田　博雅

呼吸ケア　180
褥瘡対策　181
研修管理　182
栄養サポ　186
緩和ケア　188
がん暖和　190
地域医療　192

1. 概要

当院は 2023 年 4 月、大阪府より地域医療支援病院として承認を得ました。

徳洲会グループでは既に 6 施設が承認を得ております。

24 時間 365 日の救急医療の提供、より地域に根ざした最善の医療を提供し、大阪府中河内エリアの中核的な医療機関を目指しております。また、地域の医療従事者の資質の向上を図るため 2021 年 7 月より地域の医療従事者向け研修会を毎月開催しております。

2. メンバー構成

地域の委員：7 名

八尾医師会副会長、八尾市歯科医師会副会長、八尾市薬剤師会副会長、八尾市保健所保健所長、八尾市消防本部消防長、池田クリニック院長、八尾市民生委員児童委員協議会会長

病院の委員：6 名

病院長、顧問 2 名、副院長、看護部長、事務部長

事務局：3 名

3. 実績

1）地域医療支援病院運営委員会開催日（5 月、9 月、12 月、第 4 木曜日 15 時より）

2023 年

5 月 25 日（木）、9 月 28 日（木）、12 月 21 日（木）

2）医療従事者向け研修会

	開催日	担当部署	演　題
1月	1月13日（金）	治験センター	学術発表で求められる倫理審査について
2月	2月17日（金）	医療安全管理部	苦情等に対する対応手順（第二弾）
3月	3月10日（金）	臨床工学科	当院で取り扱っているME機器について
4月	4月14日（金）	検査部	心電図のおはなし
5月	5月12日（金）	看護部①	新型コロナウイルス感染症「5類」移行でどうなる?
6月	6月9日（金）	リハビリテーション科	脳卒中急性期における病態と離床リスク管理 ～リハビリ介入において～
7月	7月26日（金）	医局	小児科について
8月	8月18日（金）	放射線科	認知症の画像診断
9月	9月8日（金）	薬剤部	アミノ酸輸液について
10月	10月13日（金）	看護部②	急変を防ぐ呼吸の観察～危険な呼吸の見抜き方～
11月	11月10日（金）	栄養科	当院糖尿病ケアチームの紹介及び糖尿病療養指導の取り組み
12月	12月8日（金）	医局	腎臓病について

4. 今後の目標

地域医療支援病院として他の医療機関や介護施設との連携、関係機関との協力を強化し、地域のニーズに合わせた高度医療、救急医療を含めた医療の提供と地域全体の医療体制の向上を目指します。また感染症対策のための施設整備やプロトコルの改善に取り組みながら、地域の方々には引き続き感染症予防の啓発や教育を行ってまいります。

関　連　施　設

―― 2023年 ――

56）八尾徳洲会介護センター　196
57）よろこび訪問看護介護センター　200
58）よろこび訪問看護ステーション　201
59）介護老人保健施設 八尾徳洲苑　204
60）特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷　213

56）八尾徳洲会介護センター

介護セン 196
よろこび 訪問看護介護 200
よろこび 訪問看護ステ 201
徳洲苑 204
特養久宝寺 愛の郷 213

管理者　日髙　陽子

1. 概要

5月に新型コロナウイルスが5類感染症に移行し、世間ではウィルスを認識した頃と比較すると危機感が薄れています。季節を問わずに蔓延するインフルエンザなども高齢者にとって状態悪化のリスクに繋がるため､私たちが感染源にならないように1年を通して自身の体調管理、マスク装着、訪問前後のアルコール手指消毒などの対策は継続して実施しています。

ケアマネジャーは昨年と変わらず経験が10年以上の主任ケアマネジャーが5名、5月に待望の事務員を迎えての6名体制となりました。八尾徳洲会総合病院など急性期病院から退院するターミナル期、難病や多問題ケースから要支援の方など幅広く担当しています。2023年は特定事業所加算Ⅰを維持するため、算定要件のひとつである要介護度中重度率（要介護1～5のご利用者のうち要介護3～5の方の割合)40%以上を維持し､2024年3月にオープンするサービス付き高齢者向け住宅ラフィーネの郷の新規開設に向けた会議への参加、新たな人材確保に動きました。近年では多様化するニーズや感染、虐待、ハラスメントの指針作成やBCP作成などケアマネジャーの業務負担が増え続ける一方、国の方針ではケアマネジャーの処遇は改善されず、周辺地域でも人材確保に苦慮し、当センターでも同じく2024年も人員確保が必要となっています。団塊の世代が75歳を迎える2025年が迫り、『ケアマネ難民』という言葉も聞かれるようになりました。スタッフ一同できる限り地域の皆様にお応えできるように努めて参ります。

2. メンバー構成

管理者：日髙陽子
主任介護支援専門員：山﨑美保　井澤瞳　野宗かおり　矢竹千津栄
事務：阪口眞規子

3. 実績

1）業務実績

≪介護度別人数≫

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
要介護1	46	45	40	45	43	45	46	46	46	48	49	47	546
要介護2	40	39	41	45	40	40	42	47	45	46	44	40	509
要介護3	34	32	33	33	36	34	29	28	30	29	28	26	372
要介護4	27	29	30	28	28	29	31	28	28	28	28	29	343
要介護5	13	12	17	15	17	15	15	17	16	17	18	17	189
要支援1	7	8	6	4	4	4	4	3	3	3	3	4	53
要支援2	14	14	16	17	17	19	16	15	16	15	16	17	192
利用者合計	181	179	183	187	185	186	183	184	184	186	186	180	22,204

《加算》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
初回加算	3	4	13	14	8	6	6	4	2	8	4	4	76
入院時情報連携加算（Ⅰ）	6	4	5	10	5	3	9	8月	4	5	6	7	64
入院時情報連携加算（Ⅱ）	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3
退院・退所加算（Ⅰ1）	3	3	2	2	4	1	2	6	5	1	4	4	37
退院・退所加算（Ⅱ1）	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	3	0	8
退院・退所加算（Ⅰ2）	0	0	0	2	0	1	1	0	1	1	11月	0	6
退院・退所加算（Ⅱ2）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退院・退所加算（Ⅲ）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通院時情報連携加算	0	0	0	1	1	1	3	0	1	4	2	1	14
緊急時カンファレンス加算	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
ターミナルケアマネジメント加算	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
予防支援初回加算	1	2	0	0	1	2	0	0	1	0	1	2	10
予防支援委託連携加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
加算合計	15	13	21	30	20	14	22	10	16	20	22	18	221

《業務量》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
モニタリング訪問	173	172	181	185	181	194	180	180	179	178	182	179	2,164
サービス担当者会議	32	35	42	40	28	31	25	36	34	41	36	38	418
新規	3	5	9	11	7	8	3	5	7	7	7	7	79
終了	6	5	9	6	9	4	4	5	7	5	8	14	82

2）研修

・法定研修

（web研修）8/15

8/29、9/12、9/28、10/25、11/14、12/8、12/22　　主任介護支援専門員更新研修：（山﨑）

（web研修）8/15

9/5、9/21、10/6、11/6、11/20、12/14　　主任介護支援専門員更新研修：（野宗）

・大阪府各市町村主催の研修・連絡会

八尾市社会福祉協議会　権利擁護センター　ほっとネット　　：2/22（日髙）

意思決定支援研修　「認知症があっても障がいがあっても自分らしく暮らしたいをささえるために」～応用編～

八尾市　介護給付適正化事業「居宅介護支援事業者向け研修」第1回目　　：3/1（野宗）

「居宅サービス計画書様式改正に対応した記載方法　～課題分析に基づいた記載方法を演習を通じて理解する～」（Web研修）

介護セン 196
よろこび 訪問看護介護 200
よろこび 訪問看護ステ 201
徳洲苑 204
特養久宝寺 愛の郷 213

八尾市　介護給付適正化事業「居宅介護支援事業者向け研修」第2回目　：3/27（野宗）
「適切な福祉用具貸与の判断根拠について考える～自立支援・重度化防止の効果を評価できるケアプランへの転換～」（Web研修）
大阪府民間社会福祉事業従事者等資質向上研修「介護事業所内におけるハラスメント対策」：7/21（日髙）
八尾市健康福祉部高齢介護課　認知症勉強会（Web研修）　：8/21（井澤）
「地域精神科医療資源としての認知症支援～シニアデイケアでの取り組み～
大阪府民間社会福祉事業従事者等資質向上研修「メンタルヘルスケア（心と身体の健康管理）：9/27（日髙）
八尾市健康福祉部高齢介護課　認知症対応力向上研修　：10/24（井澤）
「レビー小体型認知症についての基礎的知識と支援のポイント」

・八尾市介護保険事業者連絡協議会
2022年度　第２回居宅介護支援事業者部会定例会　：2/10（日髙）
「次期介護報酬までにしなければならないこと」（動画視聴）
2022年度　八尾市介護保険事業者連絡協議会　総会・研修会　：3/17（井澤）
研修会：在宅で高齢者虐待を把握した際の対応について（八尾市　人権研修）
2023年度　八尾市事業者連絡協議会総会研修会　：6/15（山﨑）
「コロナ禍を乗り越えて～これからのコミュニケーション～」
2023年度　居宅介護支援事業者部会　地区ブロック別研修会　：6/30（野宗）
当事者理解を深める事例検討会～地域包括支援センターとの合同開催
「父親のための介護離職をした自己顕示欲の強い息子が介護しているケース」
2023年度 八尾市介護保険事業者連絡協議会 居宅介護支援事業者部会 第一回定例会
研修会：「相談援助における利用者支援の視点とは」　：10/11（井澤）
八尾市介護保険事業者連絡協議会施設サービス部会「介護施設の魅力発信2023」：10/14（井澤）

・大阪介護支援専門員協会
大阪介護支援専門員協会八尾支部、研修会（Web研修）　：1/25（山﨑）
「食べる喜びを暮らす喜びへ～在宅利用者の食を支える～
2022年度　大阪介護支援専門員協会八尾支部総会、研修会（Web研修）　：6/23（日髙、山﨑）
「次期介護保険制度改正に向けたケアマネジメントの取り組み」
大阪介護支援専門員協会八尾支部事例検討会　：9/12（井澤）
「施設入所か在宅継続か自身で判断が難しい認知症独居高齢者の事例」

・法人内
徳洲会介護事業部　居宅介護支援部門全体会議　（Web研修）　：5/25（日髙）
介護部門　居宅介護支援部門全体研修（対人援助技術）　：7/11（井澤）
八尾徳洲会総合病院　管理者向け研修　：7/15（日髙）
徳洲苑デイケア増強体制会議　：8/7（山﨑、井澤）
八尾徳洲会総合病院　第２回院内緩和ケア講習会　：12/7（井澤）

・事業所内

[必須研修会]　高齢者虐待防止、身体拘束についての勉強会　：1/12(山﨑)
個人情報保護法に関する勉強会　：2/9(井澤)
感染勉強会　：4/13(野宗)
個人情報保護に関する勉強会　：6/29(矢竹)
高齢者虐待防止勉強会　：7/20(山﨑)
身体拘束勉強会　：8/31(井澤)
プライバシー保護に関する勉強会　：10/19(野宗)
ハラスメント勉強会　：12/21(矢竹)

[症例検討]、[伝達研修・情報提供等]　週1回定例会議にて実施

・その他

しきの会（春）（web研修）　：3/15(日髙)
高齢者虐待防止の推進セミナー　～4月までにやるべきこと～　：6/21(山﨑)
主催：株式会社トーカイ　シルバー事業本部営業推進部企画課

4. 今後の目標

増員による事業拡大

57）よろこび訪問看護介護センター

管理者　関　美子

介護セン 196
よろこび 訪問看護介護 200
よろこび 訪問看護ステ 201
徳洲苑 204
特養久宝寺 愛の郷 213

1. 概要

7月後半より常勤が体調を崩し、8月から休職になり、職員数減少に伴い利用者数も減少しました。

事務担当の職員が現場を応援してくれたことで何とか乗り切りました。

ターミナル期の利用者のケアでは安楽に暮らしていただく為、介護職としてどのような関わりをしケアしていくかを、職員で話し合い他職種とも常に報告し合いながら良いケアができたと自負しています。また家族との信頼関係もケアしていく上で大切だと痛感しました。

今後も、心身状態の異常に早く気づき、適切なケアに繋げることができるように、全職員の技術向上を目指していきます。

2. メンバー構成

管理者：関　美子（介護福祉士、認知症実践者研修終了者）

サービス責任者：三島　麻美（介護福祉士）

訪問介護職員

管理者：関　美子（介護福祉士、認知症実践者研修終了者）　　中橋　照子（介護福祉士）

サービス責任提供者　：三島　麻美（介護福祉士）休職

訪問介護員（常　勤）：関　美子（兼務）　中橋　照子（兼務）　三島　麻美（休職）

（非常勤）：徳永　秀美、星川　順華、　中西　順子

3. 実績

《訪問介護》

項目＼月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
売り上げ	689,850	810,663	906,166	699,570	737,386	664,180	548,320	510,405	569,024	588,033	582,516	584,145	9,745,151	657,189
利用登録数	17	22	22	21	21	20	29	18	18	19	18	17	242	20.1
訪問件数	152	169	197	150	149	151	137	132	141	146	144	120	1,788	149.0
新規	0	5	0	0	0	0	9	0	0	1	0	0	15	1.3
終了者	0	0	0	1	0	1	0	11	0	0	1	1	15	1.3

4. 今後の目標

・介護の質の向上の為、積極的に研修に参加します。

・信頼してもらえる事業所、選ばれる事業所を目指します。

・発言できる職場環境を作ります。

58）よろこび訪問看護ステーション

管理者　須賀　明美

1. 概要

今年の目標として、①他事業所との連携や関係性の向上②人材育成と働きやすさの強化③収入、件数の安定を目標として運用した。

①では、ホームページやインスタグラムで事業所の存在をアピールや、書類物を郵送ではなく、他事業所へ手渡しで持って行き、利用者の情報を共有した。地域のクリニックの併設のステーションからの介入依頼や、ケアマネジャーからの依頼もあった。

②では､研修の参加を呼びかけ､スタッフ全員が研修には参加できた。支所との合同カンファレンスも１ヶ月に１回は継続でき、情報の共有の場にはなった。患者満足度調査を今年は行うことができた。利用者の思いがスタッフにも認識でき、やりがいとなった。ワークライフバランスの改善で平均月に 10 時間以内の時間外労働を目指していたが、支所と本所の業務量に大差があり、本所の時間外労働が多くなった。3 月に合併するので、業務量が平均になることを期待する。今年は楓モバイルの導入も行い、車での待機時間でも、記録が入力できるよう試みた。しかし、スタッフがモバイルに慣れておらず、うまく活用できていないように思えた。今後は積極的に活用するよう声掛けも行っていく。

③では目標は１人当たり 85 件であったが、平均１人あたり 73 件前後。11 月からは１人あたり 75 件に増えた。

11 月からは月あたり 800 件に到達することができた。退院時には、退院前カンファレンスを必ず出席し、加算を算定するよう行った。加算を取得している必要な研修会には参加した。在宅見取りを多数行えたため、2024 年 2 月から看護体制強化１を取得することができた。

2. メンバー構成

管理者：須賀　明美

看護師〈常勤〉　：須賀　明美・吉村　利恵・長谷川　由紀子・佐藤　晶代・
吉田　宝・見崎　加奈・中澤　陽子・山口　耕平（6月から入職）
阿部　純奈（5月から育児休暇明け復帰）

看護師〈非常勤〉：辻本　由加里

理学療法士〈常勤〉：松本　龍也

3. 実績

《訪問看護》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
利用者	128	124	118	110	107	113	116	117	116	122	119	120	1,410
訪問件数	691	657	767	672	674	740	752	795	710	794	810	807	8,869
新規導入者	12	6	6	10	10	13	10	8	12	18	16	13	134
終了者(その他)	9	10	6	12	13	7	6	7	13	12	19	14	128

介護セン 196
よろこび 訪問看護介護 200
よろこび 訪問看護ステ 201
徳洲苑 204
特養久宝寺 愛の郷 213

《研修及び行事》

1月12日	BCPの勉強会（須賀、松本）
1月20日	実地指導から運営指導へ　行政指導は何がかわったのか（須賀）
1月26日	八尾市介護保険事業連絡協議会　在宅におけるハラスメントの実際（須賀）
1月27日	在宅医療総合支援事業　在宅医療における災害対策研修
1月8・15日	奈良理学療法士協会　リハビリテーションコース（松本）
2月20日	厚生労働省主催　介護事業者のためのBCP作成セミナー（須賀）
3月17日	八尾市連絡協議会（須賀）
3月22日	八尾市訪問看護ステーション管理者会（須賀）
4月14日	死後24時間以降のご遺体変化＆最新詰め物事情（須賀）
4月25日	在宅における呼吸ケアと栄養管理（須賀）
5月 9日	BCP策定のための支援研修（須賀）
5月28日	ウエルカムストマの研修会（須賀）
6月12日	徳洲会グループによる認知症ケア研修会（須賀）
6月15日	八尾市連絡協議会研修（須賀）
6月21日	大阪府訪問看護ステーション協会主催巻間連携会議（須賀）
6月26日	大阪府訪問看護ステーション協会主催退院援助､社会参加支援に向けた相談員との連携
7月 8日	接遇マナーのナーシングスキル聴講（長谷川　中澤）
7月 6日	河内在宅緩和ケア研修会（長谷川）
7月15日	訪問看護ステーションブロック会議（須賀）
7月21日	徳洲会グループ管理者研修（須賀）
8月21日	病院の外来リハビリと訪問リハビリの違い　医療講座（松本）
8月22日	徳洲会グループ管理者研修（須賀）
9月3・9日	スーパーバイザー講座（須賀）
9月 2日	運動器リハビリテーションを考える会（松本）
9月23日	ACP支援実践人材育成研修（須賀）
9月29日	心臓リハビリテーションを考える会（須賀）
10月5・31日	帝人主催　ネーザルハイフロー勉強会 呼吸リハビリテーション研修（スタッフ全員）
10月17日	おしごとフェア参加（須賀）
10月20日	八尾市主催　認知症対応向上研修（スタッフ全員）
10月25日	大阪府ステーション協会管理者研修（須賀）
10月26日	第二警察病院主催　今更聞けない　アレルギーの話（長谷川）
10月28日	徳洲会グループ　ブロック会議（須賀）
10月29日	運動器リハビリテーションコース（松本）
11月 5日	身体運動学からとらえるバランス制御とPTアプローチ（松本）
11月13日	訪問看護ステーションの経営の特徴と課題（須賀）
11月16日	八尾市の地域医療を考える会（須賀、山口）
11月18日	地域共生社会の実現を目指して（見崎）
11月29日	BCP勉強会（須賀　松本）
11月10日	松本クリニック主催　呼吸器勉強会（スタッフ全員）
11月17日	松本クリニック主催　在宅用精密持続注入ポンプの勉強会（スタッフ全員）

《医療講座》
8月　訪問リハビリテーションについて　（松本）

《看護実習受け入れ》
太成学院大学　計9名
10月～受け入れ
八尾徳洲会総合病院より、看護師院内留学
主任副主任会の研修の受け入れ

4. 今後の目標

2024年3月からは、サービス付き高齢者住宅の1階に移転する予定である。また、支所と合併する。病院から事業所は移転するが、今後も病院と連携し、退院支援していく。利用者、家族の自宅で過ごしたいという意思を大切にして、今後も在宅支援を継続していく。地域の活動に参加し、地域に貢献していく。研修に積極的に参加し、看護の質を向上していく。

59）介護老人保健施設　八尾徳洲苑

施設長　森本　修

介護セン 196
よろこび 訪問看護介護 200
よろこび 訪問看護ステ 201
徳洲苑 204
特養久宝寺 愛の郷 213

1. 概要

令和5年12月1日より、八尾徳州苑の施設長として勤務しております森本　修でございます。

私は昭和28年に大阪市阿倍野区で生まれ、育ちました。高校は地元の府立天王寺高校です。20歳の時に現在の住居地、大阪市平野区出戸に転居致しました。

昭和52年に大阪市立大学（現在の大阪公立大学）医学部を卒業し、同医学部付属病院の外科医局に入局しました。研修医・研究医として約6年を過ごした後、医局の指示で当時大阪市東成区にありました大阪市立小児保健センター外科（現在の大阪市立総合医療センター小児外科）に移りました。

そこで1年4か月間勤務した時、医局人事で、大阪市浪速区にあります社会福祉法人石井記念愛染園附属　愛染橋病院で小児外科を標榜する事になったため、転勤する様通知がありました。

愛染橋病院での生活は、院内で発生した新生児・小児に対する外科的処理や比較的簡単な手術を私が受け持ちました。ただ難易度が高い手術では、小児保健センターの先輩医師からの指導をうけ手術を実施していました。週に1日小児保健センターのカンファレンス・回診に参加していました。

4年間、愛染橋病院で過ごした後、昭和63年秋に自宅で開業致しました。

開業医の生活で最も時間を費やしたのが、社会保険診療報酬支払基金の審査員の仕事でした。平成11年に医師会からの推薦を受け審査員となり、その後、主任審査員、運営委員を務め昨年5月に70歳で定年退任しました。

審査員の仕事では、月に11日出務しました。特に最近の10年程は月の内土曜日・日曜日の出務が2週あるようになって、かなり忙しい日々を送っていました。

一方自院では、15年前に総て買い替えたレントゲン透視台・エコー・自動現像機等の大型機器でメーカーの保守期間が終了、一部不良な箇所も発生していましたが部品等がなく今後の補修はできない状態でした。

何時使用できなくなるかと不安な事が続いていて、すべて買い替えるか閉院するかで悩んでいました所、ある人材紹介事業者から徳州苑の話があって、自院を閉院し着任する事になりました。

着任後、総師長武田さんから当園のスタッフの紹介をして戴きました。そこで感じた事は、皆さん覇気を持って仕事をされている姿勢でした。それに触発された事と亦、当園は施設基準も最高のランクを取得している事も聞いていましたので、微力ではありますが、現状を維持向上させるため犬馬の労をとろうと思料致しました。

八尾徳州会総合病院の先生方には、今後も引き続きご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

《利用者数実績》

1）入所療養介護（長期入所）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
利用者数	99	107	101	105	103	96	101	97	94	103	107	111	1,224	102	－0.1
延べ人数	2,812	2,703	2,906	2,870	2,746	2,451	2,913	2,817	2,653	2,775	2,909	2,927	33,482	2,790	6%

2）短期入所療養介護（ショートステイ）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
利用者数	8	5	4	5	6	5	4	5	3	3	6	6	60	5	17.8%
延べ人数	37	19	36	22	24	16	18	20	33	22	27	32	306	25.5	13%

3）通所リハビリテーション（デイケア）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
利用者数	57	51	51	51	53	51	52	55	53	51	56	57	638	53.1	11%
延べ人数	453	433	480	439	484	497	515	470	478	476	502	532	5,759	480	－9%

《入所経路と在宅復帰》（長期入所）

1）入所前場所

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年比
自宅	2	2	0	0	1	2	0	0	1	2	3	5	18	－10%
八尾徳洲会	6	11	6	8	8	8	7	8	4	14	9	5	94	－15%
他病院	1	4	1	3	4	1	3	0	2	4	5	3	31	14%
介護施設	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	4	40%
他施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計人数	9	17	8	12	13	11	11	8	7	20	17	14	147	－7%

介護セン 196
よろこび訪問看護介護 200
よろこび訪問看護ステ 201
徳洲苑 204
特養久宝寺愛の郷 213

2）退所先

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年比
自宅	1	5	4	3	9	3	1	3	2	3	5	10	49	245%
八尾徳洲会	5	4	6	6	1	4	4	9	4	4	3	2	52	－6%
他病院	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	200%
特養	1	2	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	7	－46%
老健	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
死亡(看取り)	0	0	1	0	1	0	0	1	1	2	0	3	9	128%
その他施設	2	2	0	4	4	2	0	2	1	3	3	2	25	－25%
合計人数	10	13	12	13	15	9	6	15	10	12	12	17	144	11%
在宅復帰率	30.0%	53.8%	36.4%	60%	62.5%	58.8%	63.8%	11.1%	54.5%	69.2%	63.6%	66.7%	57.2%	－%

一年間の在宅復帰率は、57.2%（前年64.3%）である。

《医療依存度》

1）重症度症例数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
平均要介護度	3.23	3.27	3.43	3.23	3.27	3.43	3.33	3.31	3.35	3.18	3.17	3.30	－	3.29
経管栄養	67	53	58	66	67	63	65	65	75	73	65	66	783	65.3
インシュリン	51	56	48	30	31	34	58	31	30	58	60	31	518	43.2
褥瘡処置	4	98	159	157	183	120	51	29	62	165	197	151	1376	115
酸素吸引	51	19	0	0	8	30	31	51	38	60	80	93	461	38.4
頻回吸引	2	6	21	0	34	5	2	7	27	30	22	24	180	15
点滴注射	41	39	119	66	65	46	62	103	80	27	25	2	675	56.3

稼働床に対する割合

2）看取り件数（過去 13 年）

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	合計	平均	前比
7件	10件	12件	2件	5件	3件	5件	3件	4件	1件	11件	7件	9件	79件	6.58件	28%

3）重症者搬送件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
八尾徳洲会総合病院	2	2	2	0	1	2	4	9	3	4	2	1	32	2.67	457%

【機能訓練室】　　理学療法士副室長　水島　知絵

1. 概要

今年も施設内の新型コロナウイルス感染症発生により様々な業務が制限され、個別リハ業務量は減少し、リハ専門職としてケアへの関わりを模索する年となりました。理学療法士１名が老健リスクマネジャーとして感染症発生時のBCP作成に携わり、委員会等で中心的役割を担いました。

部署理念を掲げ２年目となり、部署理念である『みんなのニーズに応えたい』、そして５つの行動指針に沿って部署メンバーが個人目標を設定し、目標達成に向けた実践及び事後評価を行う流れができました。

新たな取り組みとしては新人教育と実習受け入れがありました。どちらもカリキュラムを構築し、指導実施担当者のみならず、部署メンバー全員が役割を持ち、卒前・卒後教育を経験できたことは今までになかった価値を見出せました。また、部署理念にも通ずる認知症ケアについて研修や講演に積極的に参加することで、施設全体の認知症ケアの質向上に寄与できました。

2. メンバー構成

理学療法士　６名（内、１名非常勤）／作業療法士　１名／言語聴覚士　１名（非常勤）

3. 実績

1）通所・入所　個別リハビリテーション実施件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
実施延べ数	1,151	1,185	1,178	1,224	1,288	945	1,246	799	1,224	1,299	1,344	1,320	14,203	1,184
内、加算算定数	398	409	309	295	310	259	276	153	209	270	404	437	3,729	311

2）講演活動

PT水島：・大阪府認知症介護実践研修（実践者・実践リーダー）
・八尾市認知症対応力向上研修『認知症本人の伴走者としての支援方法について』

PT土井：・大阪府認知症介護実践研修（実践者・実践リーダー）
・大阪介護福祉士会『身体拘束・権利擁護を考える』
・大阪府社会福祉協議会『高齢者の虐待防止について考える～不適切ケアを防ぐために～』
・野田福祉会『身体拘束廃止研修前編』
・奈良リハビリテーション専門学校『失行・失認に対する理学療法』

3）学会・研修参加

ＰＴ土井：・大阪府理学療法士会学術大会座長

ＯＴ谷合：・大阪介護老人保健施設協会『認知症介護実践者研修』

介護セン 196
よろこび 訪問看護介護 200
よろこび 訪問看護ステ 201
徳洲苑 204
特養久宝寺 愛の郷 213

4）実習生受け入れ

大阪公立大学医学部リハビリテーション学科理学療法学専攻　地域理学療法臨床実習（通所リハ見学実習）

4. 今後の目標

感染症発生時のBCPに則り、迅速に各部署と連携できるよう努めます。部署理念達成に向けての仕組み作りや新人教育及び実習カリキュラムについて、今年の振り返りを基にブラッシュアップし、より良いものを構築します。また、施設全体の認知症ケアの質向上のため、研修参加や講演活動を継続します。

【栄養科】　管理栄養士主任　樋口　晶代

1. 概要

新新型コロナウイルス感染症の影響で今年も年間行事は制限されましたが、栄養科では毎月行事食と月2回の選択食を実施し、季節を感じていただける食事の工夫をしました。通所ではフロア職員と協力して新たなランチイベント食を試み、利用者様には普段と違った雰囲気を味わっていただけたと思います。嚥下調整食に関しても厨房職員の理解をより深め、形状や味の統一ができるよう取り組みを行いました。

また、個々の利用者様の栄養管理である「栄養マネジメント」では、感染拡大防止対策により、より他職種連携の必要性を感じる年でした。経口維持加算算定としては昨年より減少しましたが、低栄養リスクの利用者は増加しており、個々に応じた栄養管理の必要性が求められています。今年の低栄養リスク者の割合は、月平均で低栄養状態が低リスク者21%、中リスク者63%、高リスク者16%で、約8割が低栄養（Alb値3.5未満）となっています。

2. メンバー構成

管理栄養士　樋口　晶代

3. 実績

1）療養食加算　算定件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
算定件数	1,301	1,323	1,271	1,213	1,274	1,471	1,611	1,546	1,328	1,359	1,331	1,366	16,394	1,366

2）経口維持加算（Ⅰ）（Ⅱ）　件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
（Ⅰ）	13	13	11	11	12	12	10	9	10	9	9	9	128	11
（Ⅱ）	9	9	7	8	7	5	5	5	5	4	3	2	69	6

3）行事食・イベント食

1月　正月「おせち料理」、新年会「祝い弁当」、（通所）おでんバイキング
2月　節分「巻き寿司」、（通所）サンドイッチ・パンバイキング
3月　握り寿司バイキング、（通所）焼きたて餃子
4月　春の花見弁当、（通所）おばんざいバイキング
5月　端午の節句　弁当、（通所）揚げたて天ぷら
6月　お楽しみ寿司ランチ、（通所）おでんバイキング
7月　七夕「ちらし寿司と七夕そうめん」、土用の丑「うなぎ丼」、（通所）サンドイッチ・パンバイキング
8月　納涼「ちらし寿司とはもの湯引き」、（通所）中華バイキング
9月　敬老の日「祝い弁当」、（通所）揚げたて天ぷら
10月　お楽しみ寿司ランチ、ハロウィンランチ、（通所）焼きたて餃子
11月　秋の行楽弁当、（通所）総菜バイキング
12月　クリスマス「彩りちらし寿司」、（通所）ハンバーガーランチ

4）実習生受け入れ

・関西福祉科学大学健康福祉部福祉栄養学科　　臨床栄養臨地実習　実習生1名

4. 今後の目標

感染拡大防止対策により大きなイベント食は困難ではありますが、今後とも多職種との連携を行いながら、利用者様の状態に見合った栄養管理と安全で美味しい食事の提供を行えるように努めていきます。

【支援相談員】　　支援相談員副主任　北出　眞和

1. 概要

長期入所･短期入所･通所リハビリテーションを希望される方の窓口となり、ご利用にあたっての相談対応支援を中心に活動を行っています。

入所は100床あるベッドを運用し、入退所調整を行っています。100床中1床を短期入所用として活用しています。Covid-19の感染の影響は引き続き続いており、短期入所の利用を希望される方は今だに減少傾向です。当施設内でも感染対策に関しては各部署と連携をとり安心した利用の提供と、長期入所者への対応も検討しベットの利用を調整しています。

入所サービスは基本的に要介護認定を受けられ、介護を必要とする高齢者の自立を支援し、在宅への復帰を目指すために、各職種との協働の下、リハビリテーション・栄養管理・食事・入浴などの日常サービスまで併せて提供するサービスとして、相談対応させていただいております。在宅復帰が困難な方にも長期間入所できる施設等の情報提供は実施しており、安心して生活できる環境の提供を心がけ対応しています。

通所リハビリテーションに関しても感染対策に留意し、対応を行ないました。体験デイケアの再開実施し、利用に必要な診療情報提供書も簡素化し、スムーズにご利用いただけれる環境整備を行ないました。

老健施設基準でもある「在宅復帰超強化型」は維持できていますが、7月に起こったクラス

介護セン 196
よろこび 訪問看護介護 200
よろこび 訪問看護ステ 201
徳洲苑 204
特養久宝寺 愛の郷 213

ター後、入所者数の維持が難しい年になりました。今後も新たな取り組みを検討・構築し、各医療機関や地域でお困りの方に対して積極的に情報発信していき、医療機関の後方支援先・地域の相談窓口としての協力体制を整えていきたいと考えています。

2. メンバー構成

北出　眞和　　小茂田　加奈　　今野　あきの

3. 実績

150 名の方が退所されました。内在宅復帰 39 名（26%）病院搬送 57 名（38%）特養入所者 14 名（9.3%）有料老人ホーム入所者（有料･サービス付き高齢者向け住宅など含む）33 名（22%）となっております。Covid-19 による施設内クラスターの影響で、入院加療された方が例年より多くおられました。そんな中でも、年間在宅復帰率は 50.3%と、50%を上回りました。

4. 今後の目標

長期入所に関しては在宅復帰超強化型を可能限り維持し、安定した入所者数の確保目標にしていきたいと思います。

昨年からの継続目標としてあげている相談から対応までのスピードを迅速にしていきたいと思います。医療機関や地域からの相談に対して、地域の窓口とした開けた対応を実践していくと共に、施設運営の向上に繋がる支援体制を今後も構築していけるように努力していきたいと思います。

【介護・看護部】　　総看護師長　武田　郁子

1. 概要

2023 年 6 月と 8 月に新型コロナ感染症のクラスターが発生しました。新型コロナ感染症が 5 類に変更なりましたが、高齢者施設では引き続き注意が必要です。八尾徳洲会総合病院と連携し終息に尽力しました。利用者、そのご家族にはご迷惑とご心配をおかけしました。その後は大きな感染拡大はなく、少しずつ面会についても緩和してきています。2023 年 12 月 1 日から新しく施設長も就任し新体制で進んでいます。通所リハビリテーションの利用者も増加傾向です。今後も利用者、家族に安心してご利用していただけるように職員一同力を合わせていきます。

《年間行事》

施設全体での行事開催はせず、フロアごとの行事を行った。

2. 実績

1）看護介護目標と成果

2023 年度の八尾徳洲苑の施設目標として

1. 安全安心那施設

2. 第 2 の家となるような施設

を掲げました。

通所リハビリ：ヒヤリハット件数を増やし事故を未然に防ぐ

1 階入所フロア：業務マニュアルを見直しケアの統一と質の向上を目指す

2 階入所フロア：レクリエーションの充実で楽しみを増やす

など各部署の目標を掲げ取り組みました。少しづつ成果を上げています。

今後も引き続きケアの質の向上に取り組んでいきます。

2）教育人材育成

・介護福祉士受験　3名

3）身体拘束委員会　身体拘束ゼロの継続が実行出来ている、委員会でセンサーマット利用の評価分析を実施

4）事故防止委員会　毎月の事故報告書を分析し、重要事例などは臨時の会議を行い検討している

5）感染対策委員会　新型コロナ感染対策を徹底し、施設での感染発生を防止している
コロナ、インフルエンザ陽性者発生時は臨時感染対策会議を開催し感染防止対策を検討

6）施設内研修

今年度も集合型の研修は取りやめ、web 研修と資料配付・レポート提出形式にした一部実技を取り入れた研修も実施した

5月　介護職の医行為について
　　介護保険サービスと倫理及び法令遵守
6月　感染対策（実技）
　　身体拘束廃止・高齢者虐待防止
7月　接遇について、看取りについて
8月　摂食嚥下・排泄ケア
9月　褥瘡予防、看取り
　　中間管理者（副主任）研修
10月　身体拘束廃止・高齢者虐待防止2回目
11月　嘔吐対応実践型勉強会
11月　褥瘡予防について

12月　摂食嚥下、BLS研修
1月　防災研修
2月　プライバシー保護
3月　認知症

7）実習受け入れ

・大阪公立大学看護学部看護学科　早期体験実習　14名　9月13日14日
・大精協看護専門学校　准看護師実習生　60名　成人老年看護（8/8～12/8）
准看護師実習生　29名　追実習（補習及び再実習）
2023年1/16～2/16

介護セン 196
よろこび 訪問看護介護 200
よろこび 訪問看護ステ 201
徳洲苑 204
特養久宝寺 愛の郷 213

60）特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷

理事長　酒井　　敬
文責　木口　良章

1. 概要

2023 年は、今後の人材不足を考慮し、継続的な IT への設備投資を実施した。特に見守りシステムについては、この 3 年間検討した結果としてパナソニックの「ライフレンズ」を導入した。プライバシーに配慮しながら、夜間の見守りや利用者の安全管理に役立っている。感染症関連では、9 月に利用者 6 名、職員 4 名の新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、感染対策の難しさを痛感した。8 月ごろからインフルエンザも流行し始めたため、基本的な感染対策の徹底を行った。特養の面会については全て予約制とし、1 階の玄関での実施を継続した。ただ、看取りの利用者家族については、日時を問わず居室での面会をしていただいた。

経営面では、収益は計画通りになったが、電気・ガスの高騰が利益を圧迫した。また、人件費の増加により対収益比率が 70％を超える月もあった。職員の努力により、高稼働率が維持できたため、収益も利益もほぼ計画通りとなった。

社会福祉法人として､地域での公益的な取組が制度化されているが十分ではなかった。ただ、地域の災害訓練などには、情報収集もかねて参加した。地域は感染症分類が 5 類になったことから、各種地域行事が実施され始めており積極的に参加するよう心掛けてきた。法人としの行事は、感染症問題から実施が難しかったが、年末に地域の方の協力を得て餅つきを行った。また、職員の慰労を兼ねた忘年会も 4 年ぶりに実施した。

2. メンバー構成

職員数　　2023/7/1 現在

部門	職種	常勤	非常勤		人数計	換算計	事業別人数
			人数	換算			
管理部	管理者	2			3	3.0	3
特養	事務	2			2	2.0	
	生活相談員	1			1	1.0	
	介護支援専門員	1			1	1.0	
	医師		2	0.2	2	0.2	
	看護部	3	1	0.4	4	3.4	
	栄養部	5	4	1.5	9	6.5	
	介護職	20	9	6.8	29	26.8	48
ショート	生活相談員				0	0.0	
	介護職員	4	2	1.5	6	5.5	6
デイ	生活相談員				0	0.0	
	看護部		3	2.1	3	2,1	
	機能訓練	1			1	1	
	介護職員	4	3	2.9	7	6.9	
	運転手		2	1.9	2	1.9	13
地域包括	社福・ケアマネ・保健師	2			2	2.0	2
合計		46	26	17.3	72	63.3	72

介護セン 196
よろこび 訪問看護介護 200
よろこび 訪問看護ステ 201
徳洲苑 204
特養久宝寺 愛の郷 213

2年前から職員エンゲージメントの考え方を導入し啓蒙活動を実施してきた。退職する職員は少なくなったが人材不足は解消されないままである。日本人の介護士については、個別での雇用は難しく派遣に頼る状況となっている。若い介護人材の確保の観点から、特定技能1級の外国人（インドネシア）を2022年8月に2名雇用した。日本語も上達し10月から夜勤もできるようになっている。新たに本年9月から同じ特定技能1号のインドネシア人2名を採用した。今後も介護士のみならず、多くの分野の人手不足がより顕著になる。長期解決策として、特定技能の外国人や高齢労働者の採用を前向きに検討していきたい。

3. 実績

	特養				短期入所				通所介護			
	入所数	入所率	退所数	要介護度	利用者数	利用日数	稼働率	要介護度	利用者数	利用日数	稼働率	要介護度
1月	49.7	99.4%	2	4.5	39	328	105.8%	3.0	91	728	91.0%	1.7
2月	50.0	100.0%	0	4.5	38	267	95.4%	3.3	85	696	90.6%	1.7
3月	49.1	98.2%	0	4.5	38	307	99.0%	3.2	90	750	90.4%	1.7
4月	50.0	100.0%	1	4.5	40	304	101.3%	3.1	84	737	92.2%	1.7
5月	50.0	99.9%	1	4.5	42	298	96.1%	3.1	85	776	89.8%	1.7
6月	49.4	98.8%	2	4.5	41	260	86.7%	3.0	85	746	89.7%	1.7
7月	50.0	100.0%	0	4.5	35	266	85.8%	3.4	82	728	87.5%	1.8
8月	49.2	98.5%	1	4.5	32	290	93.5%	3.3	85	748	86.8%	1.8
9月	48.8	97.5%	1	4.5	36	319	106.3%	3.4	85	755	90.6%	1.8
10月	49.4	98.8%	0	4.5	32	309	99.7%	3.2	84	767	92.2%	1.8
11月	49.3	98.7%	0	4.5	35	282	92.3%	3.1	86	732	88.0%	1.7
12月	49.7	99.5%	0	4.5	39	276	89.0%	2.9	87	723	89.0%	1.7
平均	49.5	99.1%	0.8	4.5	36.9	289.3	94.5%	3.2	84.8	745.8	89.5%	1.7

・特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷（50床）

常に満床の状況であるが、以前より待機者は減少している。退所は8名で例年より少なかった。要介護度平均は4.5，平均年齢は男性81.3歳、女性88.5歳、全体は87.6歳だった。最高齢者は106歳となっている。50名中43名が女性だった。行事はユニット単位、フロア単位で実施。敬老会や節分、クリスマスなどの季節行事などは工夫をして実施した。居酒屋行事も2回実施できた。

・ショートステイ久宝寺愛の郷（10床）

平均稼働率は94.5％で、特養と同じように高い稼働率となっている。要介護度の平均は3.2、平均年齢は男性80.7歳、女性86.6歳、全体は85.6歳となっている。利用者家族の介護負担を少しでも減らし、できるだけ自宅で生活できるよう応援している。利用者の方によっては介護中の転倒もあり、常に目が離せない状況である。

・デイサービス久宝寺愛の郷（定員 35 名）

平均の稼働率は、89.5％で前年より 5％ほどよくなったが、コンスタントに 90％を超えることが出来ていない。登録者数は常に 90 人を超えているが､利用者数は 85 人前後となっている。要介護度は 1.7、利用時間は 6 時間、7 時間が多い。インフルエンザや新型コロナの感染症が蔓延する中、利用者からの発生は少なく、営業を止めることはなかった。

・八尾市地域包括支援センター（公益事業）

相談受付は、前年度より 942 件多く、年々増加傾向で、内容が困難で継続的に関わりを持っているケースが増えている。加えて、地域からの相談事に電話対応や訪問活動を実施し、総合相談窓口としての機能を果たしている。

要支援 1・2 の介護保険利用者を地域の介護支援専門員と協力して支援する原案委託業務を継続的に実施している。介護予防支援費とマネジメント費の件数は、前年度より 250 件多く、八尾市内でも上位の件数を維持している。要介護よりも単価が低い要支援を担当してくれる介護支援専門員を探すことに苦慮しており、今後も大きな課題となっている。支援内容の適正化とともに、支援困難である内容を一緒に考える包括的業務を実施している。

介護予防教室は、感染予防を継続しつつ、年間を通して実施できた。地域行事が再開される中、センターの周知活動の大切さを実感したと共に、改めて地域と共にあるセンターであることを確認した。

高齢者虐待や認知症の対応を中心に、権利擁護事業の支援を継続的に実施。実態把握は、前年度より 46 件多く、相談受付同様に年々増加傾向にある。相談内容は、介護相談や介護保険に関するものが多く、継続して質の高い相談支援を実施して、地域の介護相談窓口としての役割を遂行している。

内容	年月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	前年比較
相談受付	2022年	317	524	425	295	363	376	335	402	377	413	374	406	4,607	
	2023年	345	345	496	552	499	454	560	462	484	517	417	418	5,549	942
介護予防支援費 マネジメント費	2022年	246	247	247	253	262	255	256	260	259	256	254	255	3.050	
	2023年	261	256	260	271	269	278	271	283	259	282	283	288	3,300	250
介護予防教室 家族介護教室	2022年	1	0	1	2	2	1	2	2	1	2	2	2	18	
	2023年	2	3	1	2	2	1	2	2	1	2	2	1	21	3
地域行事	2022年	2	1	0	2	2	3	3	1	1	3	7	5	30	
	2023年	5	3	5	4	5	4	5	2	4	6	7	7	57	27
実態把握	2022年	23	23	2	20	25	25	20	18	29	30	14	18	247	
	2023年	15	19	12	29	34	25	26	32	30	29	25	17	293	46

4. 今後の目標

2024 年は、開設から 10 周年となる節目の年となる。介護部門は、開設以来の職員が退職することもあり世代交代が行われる。4 月からは介護保険の改定もあり、3 年間の中期計画も必要となる。今後の 10 年の歩みに向けて法人としての方向性も示す必要がある重要な時となっている。また、認定こども園の開設が和泉市で許可されたこともあり、2026 年の開設に向けての準備も必要となる。

何時でもその基本は、利用者やその家族に選んでいただける人づくりであり、組織や法人つくりである。徳洲会グループの一員であることを誇りとしながら、その理念を高齢者介護の場で実践していくことが重要である。

介護セン 196
よろこび 訪問看護介護 200
よろこび 訪問看護ステ 201
徳洲苑 204
特養久宝寺 愛の郷 213

学　術　業　績

―― 2023年 ――

61）学会発表　220
62）学術論文　225

61）学会発表

【糖尿病代謝内科】

・2023.8.22　2型糖尿病治療を考える～経口GLP-1受容体作動薬の可能性～（八尾プリズムホール）
石橋里江子　最新の2型糖尿病治療について　～経口GLP-1受容体作動薬の可能性とチーム連携～

・2023.10.14　第60回日本糖尿病学会近畿地方会（神戸国際会議場・神戸ポートピアホテル）
服部玄徳　石橋里江子　植田秀樹　髙原良典　酒井菜穂子　西村千恵　坂野千賀　栗野大輔　高津美乃里　奥村葵　船津和幸　中年期の肥満2型糖尿病患者における身体活動量と下肢骨格筋量の関連

・2023.10.21　第80回 Neyagawa Diabetes Forum（寝屋川市立市民会館3階　第7会議室）　石橋里江子　最新の2型糖尿病治療と経口GLP-1受容体作動薬の可能性

・2023.11.25　第21回関西糖尿病療養指導セミナー（梅田スカイビル　タワーウェスト　E会議室）
酒井菜穂子　患者さんの言葉から考える糖尿病の療養支援～看護の立場から～

・2023.11.30　第58回日本糖尿病学会近畿地方会（京都）　服部玄徳　世界糖尿病デーにおける当院の啓発活動

【透析】

・2023.9.3　第99回大阪透析研究会（大阪）　山谷和佳[1]，尾崎大輝[1]，西川由希子[1]，木元 廉[1]，皮智炫[1]，矢野友規[1]，藤村篤志[1]，申勝[2]（八尾徳洲会総合病院　臨床工学科[1]、同　血管透析内科[2]）　地域医療支援病院の腎不全治療における臨床工学技士の近年の業務状況

・2023.9.3　第99回大阪透析研究会（大阪）　藤田直大[1]，前田遼[1]，吉村有梨奈[1]，河野遙[1]，三原寿之[1]，田村真基[2]，寺川知良[3]，申勝[3]（八尾徳洲会総合病院　臨床工学科[1]、同　医事情報科[2]、同　血管透析内科[3]）　地域包括型急性期病院における腎不全合併症の治療状況 －2022－

・2023.11.29　第51回日本救急医学会（東京）　矢野友規[1]，藤田直大[1]，前田 遼[1]，西村宥哉[1]，東内耀平[1]，本間敦久[1]，三原寿之[1]，長谷川弘将[1]，中条誠[2]，田村真基[3]，申勝[4]（ 八尾徳洲会総合病院　臨床工学科[1]、同　救急診療課[2]、同　医事情報課[3]、同　血管透析内科[4] ）　地域支援急性期病院におけるCEの役割と腎不全合併症の治療状況 －2022－

【膠原病リウマチ内科】

・2023.4.25　第67回日本リウマチ学会総会・学術集会（福岡）　吉崎和幸、川上純、古賀智裕　疾患概念が不明であった希少難病のキャッスルマン病の病態解析　～免疫異常疾患であることを示唆～

・2023.5.19　第2回国際臨床免疫シンポジウム（鎌倉）　Kazuyuki Yoshizaki, Yoshikane Kikushige, Takuya Harada, kazuko Uno, Atsshi kawakami
Idiopathic multicentric Castleman disease (iMCD-Nos) has been known as an abnormal immunoregulatory disorder

・2023.10.1　第33回日本リウマチ学会北海道・東北支部学術集会（盛岡）　吉崎和幸　アクテムラ開発の秘話と温故創新

・2023.10.6　第51回日本臨床免疫学会総会（東京）
吉崎和幸、菊繁吉謙、原田卓也、川上純、古賀智裕　疾患概念が不明であった希少難病のキャッスルマン病の病態解析　～免疫異常疾患であることを示唆～

【心臓血管外科】

・2023.3.23-25　第53回日本血管外科学会学術総会（旭川）　春日健介，内田直里，薦岡成年，小島三郎　急性大動脈弁閉鎖不全症を伴うValsalva限局解離の一症例

・2023.3.23-25　第53回日本血管外科学会学術総会（旭川）　小島三郎，内田直里，薦岡成年，春日健介　Plaque richな大動脈を有する腹部大動脈

疾患に対する治療戦略の検討

・2023.5.6-9　103rd AATS annual meeting(Los Angeles)
The endo-vascular procedures of complete false lumen thrombosis and consequent aortic remodeling after PETTICOAT technique for aortic dissection.　薦岡成年，内田直里，小島三郎，春日健介

・2023.11.24-25
第36回日本冠疾患学会学術集会（金沢）　春日健介，薦岡成年，小島三郎　急性心筋梗塞後心室中隔穿孔に対する治療戦略

・2023.5.18　企業依頼口演 JLLサミット　薦岡成年　解離性腹部大動脈瘤のEndovascular Treatment

・2023.6.15　平野区医師会学術講演会　薦岡成年
心臓大血管手術の現在地

【形成外科】

・2023.2.11-12　第3回日本フットケア・足病医学会年次学術集会（奈良）　綾部忍、森川周至　遠隔連携による足の新時代の治療

・2023.4.26-28　第66回日本形成外科学会総会・学術集会（長崎）　森川周至、綾部忍、野村麻衣、塚原麻理奈、築山隆弘　ECMO離脱後の左下腿コンパートメント症候群により、広範な組織欠損を来したが、集学的治療により救肢しえた1例

・2023.4.26-28　第66回日本形成外科学会総会・学術集会（長崎）　野村麻衣、綾部忍、森川周至、塚原麻理奈、築山隆弘　下腿切断術後、39病日で義足歩行退院となった未治療の糖尿病足病変の1例

・2023.5.3-5　Europian Wound Management Association 2023 (Miran)
Shinobu Ayabe
Surgical Offloading for Charcot Foot in Japan

・2023.5.20　第23回形成外科集学的医療技術研究会（大阪）　塚原麻理奈、綾部忍、森川周至、野村麻衣、築山隆弘　Clinical Significance of the AID Classification in Diabetic Foot Ulcers: Awareness of Arteriopathy, Bacterial Infection, and Foot Deformity

・2023.5.29-31　The 15th Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (Fukuoka)
Shinobu Ayabe　Distal Bypass Surgery and Free Flaps in the Treatment of CLI

・2023.7.13-14　第15回日本創傷外科学会（東京）
森川周至、綾部忍、野村麻衣、塚原麻理奈、築山隆弘　左足ガス壊疽に対して、OASIS細胞外マトリックス、NPWTid、TCCを併用し歩行機能を維持しながら救肢した1例

・2023.7.13-14　第15回日本創傷外科学会総会・学術集会（東京）　綾部忍、森川周至、野村麻衣、塚原麻理奈、築山隆弘　Surgical offloading（外科的免荷）について

・2023.9.1-2　第25回日本褥瘡学会学術集会（神戸）　綾部忍、森川周至、野村麻衣、塚原麻理奈、築山隆弘　特定行為のアップデイト NPWT

・2023.9.1-2　第25回日本褥瘡学会学術集会（神戸）　綾部忍、森川周至、野村麻衣、塚原麻理奈、築山隆弘　治りにくい褥瘡や創傷をどのように処置していくか？　～実際の症例を用いて外科的治療・保存的治療について学ぶ～

・2023.10.12-14　The 41st Annual Meeting of the European Bone and Joint Infection Society (Basel, Switzerland)
Shinobu Ayabe, Chikashi Morikawa
Surgical Offloading for Charcot Foot in Japan
2023.10.12-14
The 41st Annual Meeting of the European Bone and Joint Infection Society(Basel, Switzerland)
Chikashi Morikawa, Shinobu Ayabe
Healing of a diabetic Charcot foot with osteomyelitis of the midfoot refractory to two years of Total Contact Cast(TCC) by application

of sub-talar arthrodesis - A case report
・2023.12.22-23　第4回日本フットケア・足病医学会年次学術集会（沖縄）　綾部忍、森川周至、野村麻衣、塚原麻理奈、築山隆弘　虚血・感染・足変形に着目したAID conceptに基づいた糖尿病性足潰瘍の治療について
・2023.12.22-23　第4回日本フットケア・足病医学会年次学術集会（沖縄）　野村麻衣、綾部忍、森川周至、塚原麻理奈、築山隆弘　アキレス腱黄色腫に対し、部分摘出を施行した1例）

【呼吸器外科】
・2023.7.13　第40回日本呼吸器外科学会学術集会　市橋良夫　診療看護師導入による呼吸器外科医師の働き方改革に対する取り組み

【救急】
・2023.7.29　第26回日本臨床救急医学会（東京）　藤本浩之、村尾佳則、阿部祐子、大田修平、村上修、　放射線治療後にPTP誤飲により発症した小腸穿孔の一例
・2023.11.17　第85回日本臨床外科学会　松岡信子、森本大樹、小池廣人、堤綾乃、大田修平、垣本佳士、豊田亮、遠藤幸丈、村上修、木村拓也、村尾佳則　右腎動脈瘤破裂による後腹膜血腫・結腸潰瘍を来した一例
・2023.11.30　第51回日本救急医学会、　松岡信子、阿部祐子、村尾佳則、濱口眞成、緒方嘉隆、木村拓也、　当院ERにおける診断エラー症例の検討

【脳神経外科】
・2023.2.4　第9回日本脊椎前方側方進入手術研究会　吉村政樹、内藤堅太郎、高見俊宏　ACDF術後の後弯変性による重度の関連痛：前方再建による解決策（症例報告）
・2023.4.8　第86回近畿脊髄外科研究会　小林和貴、吉村政樹　頚椎前方固定術（ACDF）後に後咽頭血腫により急性気導閉塞を来した1例
・2023.6.16　第38回日本脊髄外科学会　吉村政樹、小林和貴、西村泰彦　L5/S1椎間外狭窄（far-out syndrome）に対するFESS：症例報告
・2023.7.22　第13回日本低侵襲・内視鏡脊髄神経外科学会　吉村政樹、小林和貴、西村泰彦　腸腰筋膿瘍に対する横突起間筋経由での全内視鏡下デブリードメントおよびドレナージ術
・2023.7.22　第13回日本低侵襲・内視鏡脊髄神経外科学会　吉村政樹、小林和貴、西村泰彦　硬膜修復の工夫；フィブリン形成ゼラチンスポンジ法（FFG法）
・2023.9.15　第30回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会　吉村政樹、小林和貴、西村泰彦　硬膜修復の工夫；フィブリン形成ゼラチンスポンジ法（FFG法）
・2023.10.21　第87回近畿脊髄外科研究会　吉村政樹、小林和貴、高沙野、坂本竜司西村泰彦　遊離分離型ヘルニアに対する経椎間孔FESSの術中所見
・2023.10.21　第87回近畿脊髄外科研究会　小林和貴、吉村政樹、坂本竜司、高沙野　頚椎術後後弯変形による慢性疼痛に対する外科治療（症例報告）
・2023.10.27　第82回日本脳神経外科学会学術集会　吉村政樹、小林和貴、高沙野、坂本竜司、西村泰彦　全内視鏡下腰椎椎間孔形成術（FELF）初学者の経験
・2023.10.25-27　第82回日本脳神経外科学会学術集会　小林和貴、吉村政樹、坂本竜司、高沙野　当院慢性硬膜下血腫再発例に対する中硬膜動脈塞栓術5例の検討
・2023.10.25-27　第82回日本脳神経外科学会学術集会　坂本竜司、小林和貴、高沙野、吉村政樹　くも膜下出血発症の血豆状動脈瘤に対してFlow diverter stent留置を行った1例
・2023.11.16　第30回日本神経内視鏡学会　吉村政樹、小林和貴、高沙野、坂本竜司、西村泰彦　全

内視鏡下腰椎椎間孔形成術（FELF）初学者の経験

【病理診断科】

・2023.6.9～11　第64回日本臨床細胞学会総会（春期大会）（名古屋）　西川裕子、櫻井愛梨、松尾優希、室木魁人、岩崎由恵、南部尚子、久保勇記、寺田信行、中塚伸一　S状結腸癌の膀胱浸潤にて尿中に線毛を有する腺癌細胞を認めた1例.
・2023.11.4～5　第62回日本臨床細胞学会秋期大会（福岡）　室木魁人、坪佐朱莉、西川裕子、岩崎由恵、南部尚子、久保勇記、寺田信行、中塚伸一、瓜生恭章　胸水穿刺検体で診断に至ったSMARCA4 欠損未分化腫瘍の一例
・2023.11.9～11　第69回日本病理学会秋期特別総会（久留米）　南部 尚子、久保 勇記、寺田信行、遠藤幸丈、中塚伸一　虫垂を原発とした MALT リンパ腫の一例.

【集中治療科】

・第50回日本集中治療医学会学術集会、第45回日本呼吸療法医学会学術集会においてシンポジウム・パネルディスカッションなど発表・座長
・日本集中治療医学会第7回関西支部学術集会において一般演題発表

【臨床工学科】

消化管内視鏡

・2023.2.12　第80回近畿消化器内視鏡技師学会　東内技士　『マイクロスコープを用いた新しい挑戦』
・2023.2.12　第80回近畿消化器内視鏡技師学会　中西副技士長　『パネルディスカッション　世にも奇妙？なあるある物語～ERCP編～』
・2023.5.27　第90回日本消化器内視鏡技師学会　中西副技士長　『イレウス管挿入手技介助教育における動画資料の工夫』
・2023.6.18　第119回日本消化器病学会　四国支部例会　中西副技士長　『内視鏡治療介助動画作成への取組』
・2023.7.21　第33回日本臨床工学会　中西副技士長　『内視鏡治療介助業務におけるタスクシフト・シェアに関する外部ヒアリングを行って』
・2023.9.3　第99回大阪透析研究会　山谷技士　『地域医療支援病院の腎不全治療における臨床工学技士の近年の業務状況』
・2023.10.19　Complex　Cardiovascular Therapeutics　玉城副主任　『新規導入デバイスを経験して』
・2023.10.22　臨床工学部会関西大阪CEセミナー　尾﨑技士　『当院におけるinbodyの活用に関して』
・2023.11.4　第91回消化器内視鏡技師学会　中西副技士長　『下部消化管ステント留置手技介助における動画作成の取組』　循環器内科　Complex Cardiovascular Therapeutics2023に1演題発表

【臨床検査科】

・2023.6.11　第64回日本臨床細胞学会春季大会（名古屋国際会議場）　西川裕子　S状結腸癌の膀胱浸潤にて尿中に線毛を有する腺癌細胞を認めた1例
・2023.11.4　第62回日本臨床細胞学会秋期大会（福岡国際会議場）　室木魁人　胸水穿刺検体で診断に至ったSMARCA4欠損未分化腫瘍の1例
・203.6.11　第64回日本臨床細胞学会春期大会（名古屋国際会議場）　西川裕子　S状結腸癌の膀胱浸潤にて尿中に線毛を有する腺癌細胞を認めた1例
・2023.11.4　第62回日本臨床細胞学会秋期大会（福岡国際会議場）　室木魁人　胸水穿刺検体で診断に至ったSMARCA4欠損未分化腫瘍の1例

【臨床心理科】

・2023.9.15～17　第41回日本小児心身医学会学術集会　朴祐希　「心身症を呈した軽度知的障害児の

3症例について」　宮坂なつ花　「多彩な身体症状を訴えることで境界域知能が判明した1例」　髙橋恭子　「障害児支援への適応が難しかった男性の1例」　大会長賞受賞

【MSW】

・2023.10.14　第32回日本がんチーム医療研究会（大阪）　三谷勇一、門田翔太　治療同盟を結びづらい未婚男性の妊孕性を支える：失敗事例から考えるフィンクの危機モデルを活用したセルフネグレクトへの介入

【リハビリ】

・第3回　大阪府理学療法士協会　東支部新人症例発表会　村上隼　THA後術後早期から高強度筋力強化運動を実施し速やかな運動機能・QOL向上に結びついた1症例
・第62回　近畿理学療法学術大会　西田知哉　右視床出血後に重度の感覚障害を伴う左麻痺を呈した一例　～感覚フィードバック,側部柔軟性に着目して～
・第60回 日本糖尿病学会近畿地方会　服部玄徳　体成分分析に基づく運動指導が2型糖尿病患者の行動変容と体組成に与える影響
・第10回　地域理学療法学会学術集会　服部玄徳　訪問リハ紹介件数増加に向けた院内連携強化の取り組み　～アンケートによる現状と課題の分析～
・第4回日本フットケア足病医学会年次学術集会　久松寛　右膝OAを有した両側踵潰瘍を呈した症例～身体活動量の向上を目的として～

【感染制御部】

・2023.6.23～24　第25回日本医療マネジメント学会学術総会　澁谷豊克　A病院のCOVID-19罹患職員に対する早期発見のための症状分析とクラスター制御
・2023.6.23～24　第25回日本医療マネジメント学会学術総会　山下あすか　ワクチンプログラムのシステム化～残業時間0・人件費削減に向けた取り組み～
・2023.7.20～22　第38日本環境感染学会総会・学術集会　萩原美香　当院ICUにおける人工呼吸器離脱プロトコルの標準化に向けた取り組みとその成果

62）学術論文

【形成外科】

・Clinical Significance of the AID Classification in Diabetic Foot Ulcers: Awareness of Arteriopathy, Bacterial Infection, and Foot Deformity
Shinobu Ayabe, Osami Kawarada, Hisashi Motomura
Osaka City Medical Journal
69(1); 41-49　2023

・創傷外科医が「歩行」を診るために　Surgical offloading（外科的免荷）　綾部忍、森川周至、松井千明、中桐由貴、打越大登　雑誌形成外科　第66巻3号313-323　2023年

・在宅医療・訪問診療における形成外科医の役割と現状　急性期と慢性期のハイブリッド医療を目指して　綾部忍　雑誌形成外科　第66巻8号914-921　2023年

・形成外科未来予想図　Surgical offloadingの拡がり　綾部忍　雑誌形成外科　第66巻増刊号S138-141　2023年

【膠原病リウマチ内科】

・Peripheral helper-T-cell-derived CXCL13 is a crucial pathogenic factor in idiopathic multicentric Castleman disease.
Takuya Harada1, Yoshikane Kikushige,Toshihiro Miyamoto, Kazuko Uno, Hiroaki Niiro, Atsushi Kawakami, Tomohiro Koga, Koichi Akashi, and Kazuyuki Yoshizaki.
Nature Communications
volume 14, Article number: 6959 (2023)

【救急】

・放射性腸炎にPTP誤飲による消化管穿孔を合併した1例、　藤本浩之、阿部祐子、村尾佳則、大田修平、小池廣人、豊田亮、堤綾乃、松岡信子、垣本佳士、遠藤幸丈、村上修、津島寿一、　大阪救急、　107号, 18-20, 2023.

・Streptococcal Toxic Shock Syndrome Due to Invasive Coloproctitis Caused by Group G Streptococcus: A Case Report and Literature Review.
Matsuoka N, Kimura T, Endo Y, Hamaguchi M, Ogata Y, Uryu K, Murao Y, Amagai T
Cureus
15, e48589, 2023.

【歯科口腔外科】

・『胸鎖乳突筋の内部を進行し、内頚静脈血栓症を合併した壊死性軟部組織感染症の1例』　三ツ井諒、中川記世子、笠原　駿、占部一彦　日本口腔外科学会雑誌　第69巻　第11号　2023　P515－521

【病理診断科】

・Anaplastic Lymphoma Kinase (ALK)-rearranged lung cancer that showed exclusively scattered isolated cells devoid of mucin production in cytology. Okazaki T, Iwasaki Y, Kubo Y, Kodama K, Nakatsuka SI. Cureus
2023, 15: e46339.

八尾徳洲会総合病院年報

発行日：令和六年八月

発　行：八尾徳洲会総合病院　病院長　原田　博雅
〒581-0011 大阪府八尾市若草町1番17号
ＴＥＬ（072）９９３－８５０１（代）
ＦＡＸ（072）９９３－８５６７
http://www.yao.tokushukai.or.jp/

印　刷：寝屋川市高宮栄町２２番１８号
イセン印刷㈱
ＴＥＬ（072）８２４－０８０５
ＦＡＸ（072）８２５－０６５４

医療法人
徳洲会八尾徳洲会総合病院

〒581-0011 大阪府八尾市若草町1番17号
TEL（072）993-8501（代）
FAX（072）993-8567
https://www.yao.tokushukai.or.jp